

科目名	研究と倫理		英訳科目名	Ethics in Research			
科目区分			単位数	1	必選区分		
時間割コード	62200001	授業種別		履修年次	1～	開講期間	通年
授業方式			池	○	永国寺		
履修における 注意点	博士前期課程1年次で履修することが望ましい。		資格・区分等				
担当教員	2155321	杉原 俊二	所属	社会福祉学科			
ディプロマ・ポ リシーとの関連 性	共通 DP3 を修得するために特に重要な科目。共通 DP1,2 を修得するために重要な科目。						
授業教員							
授業の概要	研究倫理とは何かから始まり、自らの研究のための研究倫理を学ぶ。さらに、科学史の中から様々な研究倫理の問題を事例を通して学ぶ。それらを学ぶことによって、自分の研究計画書が書けるだけでなく、他者の研究計画（書）も研究倫理上の評価ができるようにする。						
達成目標 (達成水準)	(1) 調査研究のための研究倫理を理解して、正しい研究計画を立てることができる（必須）。 (2) 研究倫理上問題がないような研究方法を建てることできるように、自分が指導する学生に説明できる。 (3) 自分の領域だけでなく、様々な領域での研究倫理について説明できる。 (4) 他者の研究計画書を研究倫理上評価できる。						
授業計画	1:オリエンテーション：研究倫理とは何か（杉原） 2:『科学の健全な発展のために－誠実な科学者の心得－』の精読：杉原 3:科学史における研究倫理上の問題（1）杉原 4:科学史における研究倫理上の問題（2）杉原 5:科学史における研究倫理上の問題（3）杉原 6:社会科学から見た研究倫理（1）杉原 7:社会科学から見た研究倫理（2）杉原 8:自然科学から見た研究倫理（1）村上 9:自然科学から見た研究倫理（2）村上 10:自然科学から見た研究倫理（3）渡邊 11:自然科学から見た研究倫理（4）渡邊 12:社会科学から見た研究倫理（3）宮上 13:社会科学から見た研究倫理（4）宮上 14:英文資料から読み解く研究倫理（1）海外のサイトでの記述・説明例：五百蔵 15:英文資料から読み解く研究倫理（2）学術誌が研究者に求めていること：五百蔵 16:評価（試験 or レポート）						
成績評価 (基準と方法)	授業の参加・態度（40%） 試験 or レポート（60%）						
教科書	事前に指定します。						
授業外学習 課題 (予習・復習)	1～15:事前に指定されているテキスト・プリントを読んで受講すること。また、自分の受講後に自分の考えをまとめて、リアクションペーパーにまとめること。						
オフィスアワー	授業直後の1時間。後は学部学生と同じ（前期開始後に公表）。						
備考							

科目名	教育学特論		英訳科目名	Lectures on Pedagogy		
科目区分			単位数	1	必選区分	
時間割コード	62200002	授業種別	履修年次	1～	開講期間	通年
授業方式			池		永国寺	○
履修における 注意点	教育学や学校教育に関心を持っており、これに関する基本的知識を習得しておくことが望ましい。		資格・区分等	特になし		
担当教員	2156088	鈴木 康郎	所属	地域教育研究センター		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP4.5 を修得するために重要な科目。					
授業教員						
授業の概要	教育学に関する基本的理解を図った上で、学校教育の現場でどのような教育実践が行われており、どのような課題があるのかについて、理論的考察や実践の検討を行っていく。 なお、本講義において、将来、研究者や大学教員としての役割を果たすために、学生は、授業の設計、展開、および評価に必要な知識と技術について、実践形式で習得する。					
達成目標 (達成水準)	(1) 教育学分野に関する理論や方法に関して、基本的理解と課題の把握を行うことができる。 (2) 教育学の知見を、学校現場における実践を検討する手がかりとして、実際の、学際的に捉えることができる。					
授業計画	第1回:オリエンテーション 第2回:教育学の基本的理解(理論・方法) 第3回:教育哲学アプローチによる教育実践の検討 第4回:教育方法論アプローチによる教育実践の検討 第5回:教育課程論アプローチによる教育実践の検討 第6回:教育行政学アプローチによる教育実践の検討 第7回:教育評価論アプローチによる教育実践の検討 第8回:まとめ					
成績評価 (基準と方法)	発表(30%)、討論(30%)、課題(40%)から、総括的に評価する。計100%。					
教科書	教科書:なし。 参考書:適宜、資料を配付するとともに、文献を紹介する。					
授業外学習 課題 (予習・復習)	:新聞やニュースなどを通して、学校教育に関する現状を把握するよう心がけること。 :授業外に、課題の作成および提出を要する。					
オフィスアワー	:月曜日4限、教育研究棟5階A536、E-mailにより事前予約すること。					
備考						

科目名	ジェンダー論			英訳科目名	Gender Studies		
科目区分				単位数	1	必選区分	
時間割コード	62200004	授業種別		履修年次	1～	開講期間	通年
授業方式				池		永国寺	
履修における 注意点				資格・区分等			
担当教員	5157729	小島 優子		所属	非常勤講師		
ディプロマ・ポ リシーとの関連 性							
授業教員							
授業の概要	ジェンダー（社会的・文化的性）をめぐる現代的状況について、社会やミソジニー（女性嫌い）、セクシュアリティなど多様な観点から考察します。私たちが無意識のうちに持つジェンダーバイアス・偏見を理解し、社会構造の中にどのようにジェンダーが組み込まれているかについて、検討します。						
達成目標 (達成水準)	<ul style="list-style-type: none"> ジェンダーをめぐる社会的状況について理解し、自分の考えを述べることができる ジェンダー公正を実現するためにはどのような方途があるかについて、自分の考えを述べるができる 						
授業計画	第1回:ガイダンス ジェンダーをめぐる現代的状況 第2回:ジェンダーと社会 第3回:ミソジニー 第4回:ルッキズム 第5回:アンコンシャス・バイアス 第6回:ジェンダーとリーダーシップ 第7回:ジェンダー公正 第8回:セクシュアリティとジェンダー						
成績評価 (基準と方法)	レポート 80%、リアクションペーパー 20% の総合評価とします。 毎回、講義の最後にリアクションペーパーを提出してもらいます。 最終レポートは2000字程度で、授業で扱ったテーマの中から興味を持ったテーマを一つ選んでください。						
教科書	参考書:『理想』695号、2015年、男女共同参画特集号。						
授業外学習 課題 (予習・復習)	授業後:授業で紹介した文献や資料にあたってみる。						
オフィスアワー	非常勤講師のためオフィスアワーは設定しません。						
備考							

科目名	臨床倫理		英訳科目名	Clinical Ethics		
科目区分			単位数	1	必選区分	
時間割コード	62200005	授業種別	履修年次	1～	開講期間	前期
授業方式			池	永国寺		
履修における 注意点			資格・区分等			
担当教員	2155187	竹崎 久美子	所属	看護学科		
ディプロマ・ポ リシーとの関連 性	DP1,2,4 を修得するために重要な科目					
授業教員	R5.4.30.3 限,R5.6.4.1 限2 限,R5.7.9.1 限2 限,R5.7.17.3 限4 限					
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 倫理に関する原則的な理論を学び、実践における倫理課題について理解する。 2. 倫理に関する理論や概念を基に、実践において遭遇する倫理的問題や葛藤について、関係者それぞれの立場から検討し、倫理的感受性を高めると共に、解決における看護者の役割を探究する。 3. 看護研究における倫理的課題について学び、倫理的配慮が行える。 4. 実践における倫理的諸問題、関係者と協力して解決する方略について、看護の視点から探究する。 					
達成目標 (達成水準)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 倫理に関する基本的な知識、臨床倫理のコアとなる知識を習得する。 2. 実践において遭遇する倫理的問題や葛藤に気づき、看護の視点で分析することを通して、関係者と協力して解決する方略が立案できる。 3. 実践や研究等、看護のあらゆる場面において倫理的判断を行い、判断に基づいた態度と行動をとることができる。 					
授業計画	<p>第1回:Introduction 倫理的判断に必要な知識と倫理的課題の考え方(R5.4.30.3 限)</p> <p>第2～3回:医療・保健・教育現場における倫理的ジレンマと対応方法(R5.6.4.1 限2 限)</p> <p>第4～5回:組織・社会における倫理的課題への取り組み(R5.7.9.1 限2 限)</p> <p>第6～7回:研究をめぐる倫理的課題への取り組み(R5.7.17.3 限4 限)</p>					
成績評価 (基準と方法)	クラス討議への参加度および貢献度(40%)、プレゼンテーション(40%)、レポート(20%)などによって総合的に評価する。					
教科書	<p>①サラフライ著；片田範子・山本あい子 訳：看護実践の倫理 第2版、日本看護協会出版、2006 ②アンダービス他編；看護倫理を教える・学ぶ倫理教育の視点と方法、日本看護協会出版会、2008 ③ジョイス・E. トンプソン、ヘンリー・O. トンプソン著：看護倫理のための意思決定 10 のステップ、日本看護協会出版、2004 ④Albert R.Jonsen 他著；赤林朗他監訳：臨床倫理学 第5版 臨床医学における倫理的意志決定のための実践的なアプローチ、新興医学出版社、2006 ⑤石井トク・野口恭子編著：看護倫理の資料集 第2版、丸善株式会社、2007 ⑥勝原裕美子ほか：焦点 看護研究における倫理を再考する、看護研究、40(5)、2-60、2007 ⑦日本看護協会「看護研究における倫理指針」⑧尾藤誠司、福原俊一：いざ、倫理審査委員会へ、NPO 法人健康医療評価研究機構、2008 ⑨日本学術振興会「科学の健全な発展のために」編集委員会：科学の健全な発展のために 誠実な科学者の心得、丸善出版、2015。</p> <p>その他、講義の中で資料の配布および文献の紹介などを適宜行う。</p>					
授業外学習 課題 (予習・復習)	<p>第2・3回:事前に各自が実践現場で直面した対人的な関わりに関する倫理的課題についてまとめ、講義前日までに受講生・教員に共有しておく</p> <p>第4・5回:事前に各自が実践現場で直面した組織、制度、教育、等の観点から、課題を倫理的に分析し、講義前日までに受講生・教員に共有しておく</p> <p>第6・7回:事前に各自の研究課題・対象・方法論に対して、行うべき倫理的配慮についてまとめ、講義前日までに受講生・教員に共有しておく</p>					
オフィスアワー	原則として講義後、適宜時間調整を行う					
備考						

科目名	グローバルヘルス論			英訳科目名	Global Health		
科目区分				単位数	1	必選区分	
時間割コード	62200006	授業種別		履修年次	1～	開講期間	通年
授業方式				池		永国寺	
履修における 注意点				資格・区分等			
担当教員	2195010	木下 真里		所属	看護学科		
ディプロマ・ポ リシーとの関連 性	DP4,6 を修得するために重要な科目。						
授業教員	木下,外部講師						
授業の概要	前半は、健康課題の背景にあるグローバル化について、講師が自らの経験の中で得た豊富な資料を用いて学習し、異なる背景をもつ参加者と様々な視点から議論することで学びをふかめる。 後半は外部講師を招き、学びを深める。						
達成目標 (達成水準)	1) SDGs に至るグローバルヘルスアジェンダの変遷と現状を理解する。 2. グローバルな視点で国内外の人々の健康問題を考える事ができる。 3. 諸外国の社会・経済、教育や文化などに起因する健康問題とそれに対する様々な組織の活動について知る。						
授業計画	第1回:オリエンテーション グローバルヘルス概論 SDGs(木下) 第2回:貧困・格差・マイノリティと健康(木下) 第3回:身近なグローバル課題(木下) 第4回:まとめ(木下) 第5-8回:異なる視点からみるグローバルヘルス(外部講師)						
成績評価 (基準と方法)	授業コミットメント (50%)、レポート (50%) の総合評価とします。						
教科書	資料は別途提示します。						
授業外学習 課題 (予習・復習)	:最終レポート (詳細は前半授業で提示します)						
オフィスアワー	appointment by email						
備考							

科目名	ケア論			英訳科目名	Theories of Care		
科目区分				単位数	1	必選区分	
時間割コード	62200007	授業種別		履修年次	1～	開講期間	通年
授業方式				池	永国寺		
履修における 注意点	集中講義形式で開講します。			資格・区分等			
担当教員	2155722	内田 雅子		所属	看護学科		
ディプロマ・ポ リシーとの関連 性	DP3,4,5 を修得するために重要な科目						
授業教員	内田,池添						
授業の概要	ケアは、医療、福祉、教育など多分野で用いられ、多義的な含意をもち、倫理においても重要な意味をもつ。ケアに関する理論的背景やケアをめぐる問題を概観し、健康課題の解決に向けて関連学術分野とアイデアや理論、技術等を共有する。そして、ケアイノベーションを目指して、異分野融合研究によるケアの実現に求められること、多次的なケア開発のために必要なことを探求する。						
達成目標 (達成水準)	1.ケアの歴史を踏まえ、時代とともに変遷するケアの理論・概念と課題を説明できる。 2.多様な分野のケアサイエンスの現状と倫理的課題を説明できる。 3.自領域及び他領域におけるケアの概念・アプローチの共通点・相違点を説明できる。 4.異分野融合のケア開発に必要な視座とアプローチを説明できる。 5.多次的なケア開発に向けて自領域の課題・試案を説明できる。						
授業計画	第1回:コースオリエンテーション、ケアの歴史、ケアの用語法(内田) 第2回:ケアの理論・概念と実践的課題(池添) 第3回:ケアサイエンスと倫理的課題(池添) 第4回:多職種協働・連携におけるケアの概念・アプローチ①(池添) 第5回:多職種協働・連携におけるケアの概念・アプローチ②(池添) 第6回:異分野融合によるケアの視座・アプローチ①(内田) 第7回:異分野融合によるケアの視座・アプローチ②(内田) 第8回:多次的なケア開発に向けての自領域の課題・試案(院生プレゼンテーション)(内田)						
成績評価 (基準と方法)	クラス討議、プレゼンテーション、課題レポートにより総合的に評価する。						
教科書	適宜、講義の中で提示する。						
授業外学習 課題 (予習・復習)	課題(予習・復習:各クラスの事前課題については、別途、説明する。						
オフィスアワー	各教員の学部・研究科の講義時間、及びその前後の休憩時間以外。 上記時間においても、学生面談や会議、実習等に対応できない場合がありますので、メールでアポイントをとられることをお勧めします。						
備考	本科目は、人間生活学研究科と看護学研究科の両研究科学生の履修登録がない場合は、開講しません。						

科目名	看護マネジメント論		英訳科目名	Theories and Strategic Issues in Nursing Management		
科目区分			単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200008	授業種別	履修年次	1～	開講期間	前期
授業方式			池	永国寺		
履修における 注意点			資格・区分等			
担当教員	2155497	内川 洋子	所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP3,4を修得するために重要な科目					
授業教員	内川,久保田					
授業の概要	変化の激しい我が国の医療制度の影響を受けるヘルスケアシステムにおいて、看護の質と効率性のバランスを保ちながらヘルスケアサービスや看護サービスを提供していくための基盤となる理論と実践方略を学ぶ。					
達成目標 (達成水準)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国の医療制度の流れを踏まえながら、看護組織をヘルスケアシステム全体の視点から捉え、社会が看護に求めるヘルスケアサービスをミクロ的立場（自分自身が所属する組織の立場等）から創造することの必要性について理由を述べる。その際、マクロとミクロの視点の繋がりを関連付けることができる。 2. 行動科学に基づく諸理論を活用し、「ヒト・モノ・カネ・情報」を最適化し、成果を上げるためのシステム創りの方略について記述することができる。 3. より良い看護サービスを目指して、PDCAのサイクルを回し、質保証していくためのTQMの実践方略を計画することができる。 					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1:イントロダクション、集団を理解し、集団・組織を動かす：同調行動、規範、組織文化（ディスカッション、講義）（内川） 2:集団の成果を導く効果的な意思決定をする：集団の意思決定、ファシリテーション（、ディスカッション、講義）（内川） 3:チームを動かす：マネジメントとリーダーシップ、社会的影響力、チームワーク（プレゼン、ディスカッション、講義）（内川） 4:組織の問題を解決する：コンフリクトマネジメント、協調的交渉、アサーション（プレゼン、ディスカッション、講義）（内川） 5:ヘルスケアシステムにおける看護の価値創造：組織分析（講義）（内川） 6:組織を改革する：組織変革（プレゼン、ディスカッション、講義）（内川） 7:人的資源管理と組織の活性化、マネジメントの主要な概念（講義、ディスカッション）（久保田） 8:キャリア、キャリア発達とキャリア開発、専門職（講義、ディスカッション）（久保田） 9:医療の質の評価、サービス、PDCAサイクル（プレゼン、ディスカッション）（久保田） 10:ワークエンゲージメント、モチベーション、組織コミットメント（プレゼン、ディスカッション）（久保田） 11:多職種連携協働（IPW）における専門性と課題（プレゼン、ディスカッション）（久保田） 12:ヘルスケアサービスと看護サービスの組織化：診療報酬の仕組みと展望（久保田） 13:ヘルスケアシステムにおける看護サービスの価値創造：地域包括ケアシステムにおける看護サービスの組織化（プレゼン）（久保田） 14:組織の問題を解決する：コンフリクトマネジメント、協調的交渉、アサーション（プレゼン、ディスカッション、講義）（内川） 15:組織を改革する：組織変革（プレゼン、ディスカッション、講義）（内川） 					
成績評価 (基準と方法)	プレゼンテーション、ディスカッションへの取り組みと参加度（目標1～3）100%					
教科書	適宜資料を配布する 参考書 ・久保田聡美他著：うまくいくマネジメントの教科書、照林社、2022 ・小池智子他著：看護サービス管理 第5版、医学書院、2018 ・井部俊子他監：看護管理学習テキスト 第3版、日本看護協会出版会、2013 ・ジョン・コッター他著：ジョンコッターの企業変革ノート、日経BP社、2003					
授業外学習 課題 (予習・復習)	:1) 看護をマネジメントするとはどういうことか、看護の専門性とは何かについて考察する :2) 看護管理の主要な概念について、定義や実践方法、臨床実践への活用の視点でまとめ、当日にプレゼンテーションを行う :資料は講義の週の指定された日時までに事前に受講者全員に配布し、全員が資料を読んで講義に参加する。 :					
オフィスアワー	事前にメール等で連絡をお願いします。日程調整の上、対応します。					
備考	講義回はシラバスと異なる場合があります。					

科目名	看護理論と実践			英訳科目名	Nursing Theory and Practice		
科目区分				単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200009	授業種別		履修年次	1～	開講期間	前期
授業方式				池	永国寺		
履修における 注意点				資格・区分等			
担当教員	2159089	畦地 博子		所属	看護学科		
ディプロマ・ポ リシーとの関連 性	DP4.5 を修得するために重要な科目						
授業教員	畦地・池添						
授業の概要	看護現象を説明している理論の基本的な成り立ちや構造、理論を構成する概念について学習し、それぞれの理論や概念の特徴や限界を分析する。また、看護実践を支える哲学に関して概観し、哲学と科学と看護学との関係に関して洞察を深める。その上で、それぞれの理論や概念の実践の中での活用に関して、その現状を分析し、可能性を考察する。						
達成目標 (達成水準)	1. 看護現象を説明している理論の基本的な成り立ちや構造を学習し、それぞれの理論の特徴や限界を説明できる。 2. 看護実践を支える哲学に関して概観し、哲学と科学と看護学との関係に関しても洞察を深める。 3. それぞれの理論の実践の中での活用に関して、その現状を分析し、可能性を考察する。						
授業計画	第1回 :コースオリエンテーション 理論とは(畦地・池添) 第2回 :看護理論(池添) 第3回 :理論の分析と評価(池添) 第4回 :理論分析－文献の検討(畦地・池添) 第5回 :理論分析－理論の分析(畦地・池添) 第6回 :理論分析－理論の評価(畦地・池添) 第7回 :理論分析と評価 プレゼンテーション(畦地・池添) 第8回:看護理論の実践への応用(畦地・池添) 第9回:概念とは 理論と概念 看護現象と概念(畦地) 第10回:看護において重要な概念の分析とその方法(畦地) 第11回:看護において重要な概念の分析－文献の検討(畦地・池添) 第12回:看護において重要な概念の分析－概念の構成要素などの抽出(畦地・池添) 第13回:看護において重要な概念の分析－概念分析のまとめ(畦地・池添) 第14回:概念分析 プレゼンテーション(畦地・池添) 第15回:概念の実践への応用(畦地・池添)						
成績評価 (基準と方法)	理論分析(40%)、概念分析(40%)、講義への参加度・発言内容(20%)						
教科書	講義の中で、資料の配布および重要な文献の紹介を適宜行う。 【参考図書】 L.O.Walker and K.C.Avant 著、中木高夫、川崎修一訳：看護における理論構築の方法、医学書院、東京、2008 J.Fawcett 著、太田喜久子、筒井真優美監訳：看護理論の分析と評価、医学書院、東京、2008						
授業外学習 課題 (予習・復習)	事前課題:第2回3回、9回10回：提示した資料を読んで授業に参加する 個人ワーク:第4回5回6回：選択した理論の理論分析を行う 第11回12回13回：選択した概念の概念分析を行う *4回から6回、および、11回から13回の期間中に必ず畦地・池添にメールでアポを取り、最低1回コンサルテーションを受ける 講義後課題:第7回14回 プレゼンの内容について復習し、理論、概念の実践への応用について考えてくる						
オフィスアワー	適宜、学生と時間調整して対応する。						
備考							

科目名	看護学基盤論		英訳科目名	Foundational Theories and Issues in Nursing		
科目区分			単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200010	授業種別	履修年次	1～	開講期間	前期
授業方式			池	永国寺		
履修における 注意点			資格・区分等			
担当教員	2155140	池添 志乃	所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP4.5 を修得するために重要な科目					
授業教員						
授業の概要	看護現象・健康現象を説明する理論の基本的な成り立ちや構造を学習し、理論－実践－研究の関連性の中で、実践への活用について考察する。また、研究プロセス・研究方法に関する基本的な知識を基盤として、看護現象・健康現象を探求し、看護実践の質を向上させる研究を行う能力を修得する。					
達成目標 (達成水準)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護現象を説明している理論の基本的な成り立ちや構造を学習する。 2. 理論・概念を学び、実践における活用に関して、現状を分析し、可能性を考察する。 3. 研究の過程、研究デザイン、批判的思考について学び、研究を実践する基本的な能力を修得する。 4. 質的研究方法、量的研究方法について学び、研究を実践する基本的な能力を修得する。 					
授業計画	第1回:イントロダクション、理論－実践－研究の関連性と研究のデザイン 理論・概念、モデルとは、メタパラダイム、理論と実践 第2回:看護理論の概観 第3回:看護概念モデルと看護理論（1）：モデルとは、メタパラダイム 第4回:看護概念モデルと看護理論（2）：理論と実践 第5回:理論分析、理論評価、概念分析の方法 第6回:理論分析（プレゼンテーション）（1）：対人関係や生活に注目した看護理論等 第7回:理論分析（プレゼンテーション）（2）：現象学や実存的な考えを取り入れた看護理論等 第8回:理論と研究の関係、サブストラクション 第9回:人間の心理・行動に関する理論・概念の紹介と実践における活用に関する討議 第10回:他者への介入に関する理論・概念の紹介と実践における活用に関する討議 第11回:社会の事象に関する理論・概念の紹介と実践における活用に関する討議 第12回:量的研究方法デザイン 第13回:質問紙の作成、量的研究の評価 第14回:質的研究方法：総論、質的研究法の歴史的哲学的背景と看護研究における意義 第15回:質的研究方法：分析手法の実際。質的データ分析の考え方					
成績評価 (基準と方法)	課題レポートとプレゼンテーション（80%）、授業中の活動（ディスカッション）への取り組み（20%）により総合的に評価する。					
教科書	<ol style="list-style-type: none"> 1. Fawcett,J：小島操子監訳；看護モデルの理解 分析と評価、医学書院 2. Fawcett,J：太田喜久子、筒井真優美監訳；看護理論の分析と評価、廣川書店 3. Mariner-Tomey：都留信子監訳；看護理論家とその集積、医学書院 4. Riehi,J.P&Roy：看護モデル その解説と応用、日本看護協会出版会 5. George,B.J：看護理論集；日本看護協会出版会 6. ポーリット、D.F.&ハングレー、B.P.：看護研究－原理と方法－、医学書院 7. 野嶋佐由美：看護学の概念と理論的基盤、日本看護協会出版会 					
授業外学習 課題 (予習・復習)	:その他、各クラスの事前課題については、別途、説明する					
オフィスアワー	適宜、学生と時間調整して対応する					
備考						

科目名	看護研究と実践		英訳科目名	Research and Practice in Nursing		
科目区分			単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200011	授業種別	履修年次	1～	開講期間	前期
授業方式			池	永国寺		
履修における 注意点			資格・区分等	看護職に関する国家試験受験資格・資格取得に関連する		
担当教員	2159089	畦地 博子	所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP4 を修得するために重要な科目					
授業教員						
授業の概要	看護研究の研究過程、基本的な方法に関する知識を基盤にして、既存の研究を批判的に分析し、実践の場における研究活動を実施していく能力を修得する。研究と実践との関係を理解し、両者の関係を促進していくリーダーシップの役割がとれる能力を修得する。CNS としての研究能力、臨床看護研究のリーダーシップを育成する					
達成目標 (達成水準)	①看護研究の研究過程、基本的な分析方法に関する基礎知識を説明することができる。 ②既存の研究を批判的に分析することができる。 ③代表的な研究方法についての研究計画書を作成することができる。 ④研究と実践との関係を理解し、研究を実践に活用することができる。					
授業計画	第1回:Introduction 研究とは 研究デザインの理解 第2回:研究のプロセスの理解 第3回:概念とは/概念の操作化 第4回:質的研究方法 第5回:質的データ収集方法 第6回:質的データの分析方法 第7回:質的研究のクリティーク 第8回:量的研究 分析方法 第9回:量的記述研究デザイン 第10回:仮説検証型研究デザイン 第11回:因果関係探索型研究デザイン 第12回:システムティック・レビュー EBN 第13回:研究倫理・研究計画書 第14回:研究で遊ぼう！ 第15回:研究で遊ぼう！					
成績評価 (基準と方法)	ディスカッションへの貢献(15%)・クリティークレポート(25%)・3つの研究デザインによる研究計画書レポート(60%)により総合的に評価する。					
教科書	教科書：ポーリット, D. F. & ハングラー, B.P.; 『看護研究－原理と方法』医学書院, 1994. 参考図書： ①J.コービン, A.L.ストラウス, 南裕子監訳; 質的研究の基礎 グラウンデッド・セオリーの技法と手順, 医学書院, 1999. ②B.G.グレイサー, A.L.ストラウス; データ対話型理論の発見, 新曜社, 1996. ③ウヴェ・フリック著, 小田博志他訳; 質的研究入門春秋社, 2002. ④L.ホロウェイ, S.ウィラー, 野口美和子監訳, ナースのための質的研究入門, 医学書院, 2000. ⑤特集 「参加観察法トレーニング」 データの収集・分析の実践を通して, 看護研究, vol.38(1), 2005 ⑥ロバート・F.マーフィー, 辻信一訳, ボディ・サイレント病いと障害の人類学, 新宿書房, 1992. その他、資料の配布および国内外の重要文献の紹介などを適宜行う。					
授業外学習 課題 (予習・復習)	:各講義の前に教科書の指定されたページを読んでおく 第1回:□『看護研究－原理と方法』P3-13 □『看護研究－原理と方法』P13-25 □『看護研究－原理と方法』P65-68 第2回:□『看護研究－原理と方法』P46-62 □『看護研究－原理と方法』P89-114 □『看護研究－原理と方法』P327-350 第3回:□『看護研究－原理と方法』P115-139 第4回:□『看護研究－原理と方法』P250-279 第5回:□『看護研究－原理と方法』P351-386 (インタビュー) □『看護研究－原理と方法』PP387-410 (観察法) 第6回:□『看護研究－原理と方法』P582-614 第7回・第11回:□『看護研究－原理と方法』P673-689 第8回:□『看護研究－原理と方法』P427-443 第9回・第10回:□『看護研究－原理と方法』P165-249 (量的研究デザイン) □『看護研究－原理と方法』P298-326 (標本抽出のデザイン) □『看護研究－原理と方法』P327-350 (データ収集計画) □『看護研究－原理と方法』P465-581 (分析) 第12回:□『看護研究－原理と方法』P690-720 第13回:□『看護研究－原理と方法』P143-164 (研究倫理) □『看護研究－原理と方法』P647-669 (研究計画書) :追加の事前課題、および事後課題については各クラスで別途説明する。					
オフィスアワー	適宜、学生と時間調整して対応する。					
備考						

科目名	看護倫理		英訳科目名	Nursing Ethics			
科目区分			単位数	2	必選区分		
時間割コード	62200012	授業種別		履修年次	1～	開講期間	前期
授業方式			池		永国寺		
履修における 注意点			資格・区分等	高度実践看護師教育課程：共通科目認定科目			
担当教員	2155175	藤田 佐和	所属	看護学科			
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,DP2,DP4,DP5 を修得するために重要な科目						
授業教員	藤田・藤代,竹崎,竹崎・藤田・藤代						
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 倫理学に関する原則的な理論を学び、看護における倫理規範や看護の道徳的基盤を探究する。 2. 倫理学に関する理論や概念を基に、看護や医療を取り巻く最新のトピックスやその動向について概観し、生命に関する倫理的課題を看護の視点から分析し、考察する。 3. 臨床の現場で遭遇する倫理的葛藤について、問題点を分析し、関係者間の関係やそれぞれの立場を考慮して解決策を検討し、看護者としての役割を理解する。 4. 看護や医療現場における倫理的ジレンマや研究、教育に関する倫理的課題を分析し、倫理的課題への対応や倫理的コンサルテーションについて、看護の視点から考察する。 						
達成目標 (達成水準)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 倫理学に関する基本的な知識、看護倫理のコアとなる知識を修得する。 2. 臨床現場で遭遇する倫理的問題や葛藤について分析し、関係者間の倫理調整を行う計画を立案することができる。 3. 看護のあらゆる場面において高度実践看護師として倫理的判断を行い、判断に基づいた態度と行動をとることができる。 						
授業計画	<p>第1回:Introduction 倫理とは 生命倫理とは 看護倫理とは 学生が今までに遭遇してきた倫理的課題(藤田・藤代)</p> <p>第2回:科学の発達と倫理的課題 倫理が問われ始めた歴史的背景 知の追求と倫理的視点 科学技術が生んだ新たな倫理的課題 看護の発達と倫理的課題(竹崎)</p> <p>第3回:倫理的判断に必要な知識 看護倫理のコアの知識 倫理的判断に必要な知識、判断の規準 医療者の責任と義務 看護職の倫理綱領など (藤田・藤代)</p> <p>第4回:倫理的課題の考え方 看護や医療を取り巻く最新のトピックやその動向 倫理問題を考える過程 倫理的側面に関する看護者の役割 倫理的意思決定 倫理的課題への対応 (関係者間の調整) (藤田・藤代)</p> <p>第5～8回:医療現場における倫理的ジレンマ I～IV 看護実践における倫理的問(葛藤・ジレンマ)を取り上げ、学修した知識を活用して分析し、対応方法や高度実践看護師としての役割について検討する。 事例1、事例2、事例3、事例4(藤田・藤代)</p> <p>第9回:医療制度と倫理的課題 医療を受ける権利と社会的差別、医療の平等性と配分、医療経済と費用対効果など医療に関わる課題を倫理の視点から分析し、対応方法や高度実践看護師としての役割について検討する。(竹崎)</p> <p>第10回:組織と倫理的課題 医療施設における保障と権利、労働環境や雇用関係など看護者を取り巻く組織的な課題を倫理の視点から分析し、対応方法や高度実践看護師としての役割について検討する。(竹崎)</p> <p>第11回:研究に関わる倫理的課題(1) 看護実践における研究の倫理的課題について分析する。臨床家と研究者という2つの立場から研究に関わる場合の倫理的課題や、様々な研究協力者の自由意思を尊重する方法について討議し、これらの課題についての対応方法や高度実践看護師としての役割について検討する。(竹崎)</p> <p>第12回:研究に関わる倫理的課題(2) 研究の対象となる人々に対する倫理的配慮について課題を分析し、研究倫理審査の必要性やその方法、看護者としての権利擁護や高度実践看護師、看護管理者の役割について検討する。(竹崎)</p> <p>第13回:教育に関わる倫理的課題 看護基礎教育あるいは現任教育(新人教育等)の方法に関する倫理的課題について分析し、学生や看護者の自主性や能力育成を目指した教育を実践するための、教員や高度実践看護師、看護管理者の役割について検討する。(竹崎)</p> <p>第14回:倫理的コンサルテーション 倫理的コンサルテーションの考え方とその方法 コンサルテーションの原則、倫理的課題の取り上げ方 倫理的コンサルテーションと高度実践看護師の役割 看護者が行う倫理的コンサルテーションの意義と課題、倫理的課題への看護の視点からの働きかけ、組織に対する倫理的提言 (竹崎)</p> <p>第15回:授業のまとめ 高度実践看護師と倫理調整について (竹崎・藤田・藤代)</p>						
成績評価 (基準と方法)	<p>目標1、目標3：プレゼンテーション等 (30%)</p> <p>目標1、目標2：レポート (50%)</p> <p>目標1、目標2、目標3：クラス討議への参加度および貢献度 (20%)、によって総合的に評価する。</p>						

教科書	<p>参考図書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ サラフライ著；片田範子・山本あい子 訳：看護実践の倫理 第3版, 日本看護協会出版,2010 ・ アンダービス他編；看護倫理を教える・学ぶ倫理教育の視点と方法, 日本看護協会出版会, 2008 ・ 鶴若麻理,長瀬雅子編集：看護師の倫理調整力,日本看護協会出版会,2018 ・ 日本看護倫理学会臨床倫理ガイドライン検討委員会編集：看護倫理ガイドライン,看護の科学者,2018 ・ ジョイス・E. トンプソン、ヘンリー・O. トンプソン著：看護倫理のための意思決定 10のステップ,日本看護協会出版, 2004
授業外学習 課題 (予習・復習)	<p>5回～8回 :各回、3～4名のメンバーで、臨床で倫理的ジレンマを経験した事例について、ジレンマの背景や専門的知識を活用して多角的に理解を深める。そのうえで、事例を分析して、事例の倫理的問題や課題を倫理の専門的知識を活用して明確にし、問題や課題への対応（倫理調整）について看護の視点から考察し、クラス発表・討議をする。</p>
オフィスアワー	<p>随時対応します。メール等で連絡をしてアポイントメントを取ってください。</p>
備考	<p>藤田 佐和(高知県立大学大学院看護学研究科)、竹崎 久美子(高知県立大学大学院看護学研究科)、 藤代 知美(高知県立大学大学院看護学研究科)</p>

高知県立大学

科目名	看護サービス管理論		英訳科目名	Theories and Issues in Nursing Service Management		
科目区分			単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200013	授業種別	履修年次	1～	開講期間	前期
授業方式			池	永国寺		
履修における注意点			資格・区分等			
担当教員	2159041	久保田 聡美	所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP3,4 を修得するために重要な科目					
授業教員	久保田聡美					
授業の概要	専門看護師に必要な看護サービス管理を学び、多職種協働 (IPW) によるケアシステム開発のための知識、技術を習得する。看護管理者と看護サービスの質向上に向けて、目標を共有し、専門看護師としての役割を発展させていく能力を身につける					
達成目標 (達成水準)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 専門看護師として求められる役割、機能を多角的な視点で説明できる。 2. 専門看護師として、組織を理解し、変革していくために必要な理論や具体的な方略を説明できる。 3. システム思考を活用し、具体的なケアシステム開発の提案ができる。 4. 立場や職種を超えて目標を共有するシステム構築を通して、パイオニアとしての自己の役割と今後の課題を説明できる。 5. 看護サービス管理に必要な知識・技術を統合し、看護活動を創造的に変革する方略が提案できる。 					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1: イントロダクション、管理とは サービス、マネジメントとは 2: 組織デザインと看護管理システム (組織分析) 3: リーダーシップとチームワーク 4: コンフリクトマネジメント、協調的交渉 5: 組織変革 6: 経営理念と戦略 7: 自組織の振り返り～プレゼンとディスカッション～ 8: キャリア キャリアパス、キャリア開発 9: 品質管理と TQM: 質と品質とは、品質管理とは 10: システム思考 アウトカム志向のパス 11: リスクマネジメントシステム 12: 専門職連携 (IPW) 13: 専門職連携、多職種協働におけるコーディネート機能 14: 組織の質と医療の質 15: まとめ: ケアの質保証と改善活動 【ディベート】 (久保田聡美) 					
成績評価 (基準と方法)	討議への参加度や事前課題、事後演習 (リアクション) への取り組み (30%) 【目標 1、目標 2、目標 4】 ディベートへの取り組みと当日の参加度及び提出物 (70%) 【目標 3、目標 5】					
教科書	適宜、参考資料を配布する 【参考図書は以下に示す】 ・小池智子・松浦正子・中西睦子編集; 看護サービス管理 第 5 版 医学書院 2018 ・井部俊子 監修; 看護管理学習テキスト 第 3 版 日本看護協会出版会 ①ヘルスケアシステム論 ②看護サービスの質管理 ③人材管理論 ④組織管理論 ⑤経済資源管理論 別巻 看護管理基本資料集 ・細田満和子著: 「チーム医療」の理念と現実、日本看護協会出版会、2009 ・看護管理用語集第 2 版、日本看護管理学会学術活動推進委員会編、2016					
授業外学習 課題 (予習・復習)	<ol style="list-style-type: none"> 1: 医療、看護におけるサービス、管理、とは何か考察する 2: 組織デザインと看護管理システムについて考察する 3: 自分のめざすリーダーシップ、理想的なチームワークとは何か考察する 4: コンフリクトマネジメント、協調的交渉について、具体的な場面を振り返る 5: 組織変革の方略について考察する 6: 経営理念と戦略の意義について考察する 7: 自分が所属した組織分析を前半の学びを通して、分析する 8: 自分自身のキャリアデザインを考察する 9: 具体的な事例を通して品質管理手法の本質は何かを考察する 10: アウトカム志向のパスとシステム思考の関係性を考察する 11: ケアの質の管理とリスクマネジメントの関係性を考察する 12: 多職種協働と TQM の本質は何かを考察する 13: 専門看護師に求められるコーディネート機能とは? 14: 組織の質と医療の質を評価する視点について探求する 15: 看護サービスを管理して行く上での影響要因や経営資源を整理し、看護活動を創造的に変革する方略とパイオニアとしての自己の役割、今後の課題を考察する 					
オフィスアワー	授業終了後、研究室にて待機しています。					
備考						

科目名	看護コンサルテーション論		英訳科目名	Consultation Theory in Nursing		
科目区分			単位数	1	必選区分	
時間割コード	62200014	授業種別	履修年次	1~	開講期間	後期
授業方式			池	永国寺		
履修における 注意点			資格・区分等			
担当教員	2159089	畦地 博子	所属	看護学科		
ディプロマ・ポ リシーとの関連 性	DP1,2,3 を修得するために重要な科目					
授業教員						
授業の概要	専門看護師の重要な機能であるコンサルテーションに関して、理論や技術を学び、専門看護師の役割を発展させていくための基本的能力を修得する。コンサルテーションの概念および実践モデル、コンサルタントの役割、個人を対象としたコンサルテーションのプロセスを学習し、コンサルテーションの実際を、ロールプレイング・分析を通して学ぶ。組織やグループのコンサルテーションのプロセスを学び、組織の問題を解決していくための考え方や方法を学ぶ。					
達成目標 (達成水準)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 専門看護師のコンサルテーションに関する理論について説明することができる。 2. 個人を対象としたコンサルテーションのプロセスについて説明することができる。 3. コンサルテーションに必要な技術について説明し、ロールプレイを通してコンサルテーションにおける自己の課題について評価することができる。 4. 事例を読み解き、状況に応じたコンサルテーションを計画することができる。 					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1:コースオリエンテーション コンサルテーション概論 2:コンサルテーションのプロセス 3:コンサルテーションの実際 4:コンサルテーションの展開 事例の分析 5:コンサルテーションの展開 事例の展開 6:コンサルテーションで使える技術 7:コンサルテーションで使える技術： ロールプレイの実勢 8:コンサルテーションで使える技術：コンサルテーションの振り返り 					
成績評価 (基準と方法)	クラス討議への参加(30%)・演習への参加 (30%)・レポート(40%)により総合的に評価する。					
教科書	<p>資料の配布および国内外の重要文献の紹介などを適宜行う。</p> <p>【参考文献】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①野末聖香編著 (2004)；リエゾン精神看護，医歯薬出版株式会社 ②ドガー・H.シャイン (1988) / 稲葉元吉翻訳 (2002)；プロセス・コンサルテーション-援助関係を築くこと-，白桃書房 ③Underwood PA；組織の変化促進者としてのコンサルタント，インターナシングレビュー20(2)，31-37，1997 ④佐藤直子 (1999)；専門看護制度-理論と実践-，医学書院 ⑤Clara E. Hill；Helping Skills: Facilitating Exploration, Insight, and Action (2nd Ed)，藤生英行監訳 (2014)；ヘルピングスキル第二版-探求・洞察・行動のためのこころの援助方法，金子書房 ⑥Tracy M.F., O'Grady E.T.(2018)；Hamric and Hanson's Advanced Practice Nursing: An Integrative Approach (6th Ed)，中村美鈴・江川幸二監訳(2021)，高度実践看護-統合的アプローチ第2版，へるす出版 					
授業外学習 課題 (予習・復習)	<ol style="list-style-type: none"> 1-3 回:配布した資料を読んでくる 4・5 回 :グループワークでの検討を振り返り、コンサルテーションプロセスに沿った分析をレポートする。 7・8 回:ロールプレイやその後の振り返りを通して考えられた自己の課題と、今後の取り組みについてレポートする。 					
オフィスアワー	授業終了後、研究室にて待機しています。					
備考						

科目名	フィジカルアセスメント特論		英訳科目名	Advanced Physical Assessment		
科目区分			単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200015	授業種別	履修年次	1～	開講期間	前期
授業方式			池	永国寺		
履修における 注意点	診察と手技がみえる vol.1 (第2版) (メデックメディア) を準備しておく。		資格・区分等	CNS コース共通科目		
担当教員	2155310	池田光徳	所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP4.5 を修得するために重要な科目					
授業教員	池田光徳					
授業の概要	複雑な健康問題をもつ対象者に対して、高度なフィジカルアセスメントが実践できるように、診察および診断法を系統的かつ総合的に修得する。事例を用いて、複雑な健康問題をもつ対象者の身体状況の診断過程を具体的に学ぶ。					
達成目標 (達成水準)	高度実践看護師として、より高度なフィジカルアセスメントの実践ができることを到達目標とする。 本コースで学んだフィジカルアセスメントを臨床症例の診断に応用できることを評価の基準とする。					
授業計画	1:アセスメントの基礎技術：基本的技法、病歴聴取と身体診察の基礎、診察の基本、視診、触診、打診、聴診、血圧測定。(池田光徳) 2:頭頸部、鼻腔、口腔、咽喉頭、視覚、聴覚器のアセスメント：頭部・顔面の診察、眼・耳・鼻の診察、口腔・咽喉頭の診察、頭頸部リンパ節の触診、頸部の診察法。(池田光徳) 3:脳神経、四肢の感覚運動機能のアセスメント：体位と姿勢、歩行、四肢の視診、深部反射、病的反射、クロウンスの診察法。(池田光徳) 4:胸郭・肺呼吸器系のアセスメント：視診、触診、打診、肺の聴診、心臓の聴診。(池田光徳) 5:呼吸器のアセスメント：呼吸器と循環器の関係(問診、視診)、呼吸器のアセスメント(触診、打診)。(池田光徳) 6:循環器のアセスメント：血圧・脈拍測定、四肢の視診・触診、頸部の視診・触診・聴診、胸部の視診・触診・打診、心音の聴取。(池田光徳) 7:消化器系(腹部)のアセスメント：問診、腹部のアセスメントの留意点、腹部の視診・聴診・打診・触診、腹水の評価、女性患者の腹部の見方。(池田光徳) 8:肛門、直腸、泌尿器、男性性器のアセスメント：肛門・直腸の診察法、肛門部病変、泌尿器科学的診察法。(池田光徳) 9:女性性器および乳房のアセスメント：産婦人科診察法、乳房の診察法。(池田光徳) 10:急性損傷のアセスメントおよび対処。(池田光徳) 11:心電図の読み方。(池田光徳) 12:褥瘡・慢性潰瘍・陥入爪のアセスメント。(池田光徳) 13:臨床検査から分かる疾患(症例検討)。(池田光徳) 14:臨床検査から分かる疾患(症例検討)。(池田光徳) 15:臨床検査から分かる疾患(症例検討)。(池田光徳)					
成績評価 (基準と方法)	試験は実施しないが、看護学研究科 CP にあげた複数の観点から、講義中の質疑の状態にて評価する(100%)。					
教科書	教科書は診察と手技がみえる vol.1 (第2版) (メデックメディア) を使用するので早急に購入のこと。 推薦参考書として、ベイツ診察法(第2版) (メディカル・サイエンス・インターナショナル) もあるが、講義中に必要な資料は随時配布する。					
授業外学習 課題 (予習・復習)	1.診察と手技が見える①の当該部分を復習する。 2.診察と手技が見える①の当該部分を復習する。 3.診察と手技が見える①の当該部分を復習する。 4.診察と手技が見える①の当該部分を復習する。 5.診察と手技が見える①の当該部分を復習する。 6.診察と手技が見える①の当該部分を復習する。 7.診察と手技が見える①の当該部分を復習する。 8.診察と手技が見える①の当該部分を復習する。 9.診察と手技が見える①の当該部分を復習する。 10.診察と手技が見える①の当該部分を復習する。 11.診察と手技が見える①の当該部分を復習する。 12.診察と手技が見える①の当該部分を復習する。 13.診察と手技が見える①の当該部分を復習する。 14.診察と手技が見える①の当該部分を復習する。 15.診察と手技が見える①の当該部分を復習する。					
オフィスアワー	C104 へ何時でも来室は可能。					
備考	診察と手技がみえる vol.1 はできるだけ早く購入しておくこと。年度当初は博士前期課程2回生に交渉して借りても良い。					

科目名	病態生理学		英訳科目名	Advanced Pathophysiology		
科目区分			単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200016	授業種別	履修年次	1～	開講期間	前期
授業方式			池	永国寺		
履修における 注意点	診察と手技がみえる vol.1 (第2版) (メデックメディア) を準備しておく。		資格・区分等	CNS コース共通科目		
担当教員	2155310	池田光徳	所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP4.5 を修得するために重要な科目					
授業教員	池田光徳					
授業の概要	複雑な健康問題をもつ対象者に対して、高度なフィジカルアセスメントが実践できるように、診察および診断法を系統的かつ総合的に修得する。事例を用いて、複雑な健康問題をもつ対象者の身体状況の診断過程を具体的に学ぶ。					
達成目標 (達成水準)	高度実践看護師として、より高度なフィジカルアセスメントの実践ができることを到達目標とする。 本コースで学んだフィジカルアセスメントを臨床症例の診断に応用できることを評価の基準とする。					
授業計画	1:アセスメントの基礎技術：基本的技法、病歴聴取と身体診察の基礎、診察の基本、視診、触診、打診、聴診、血圧測定。(池田光徳) 2:頭頸部、鼻腔、口腔、咽喉頭、視覚、聴覚器のアセスメント：頭部・顔面の診察、眼・耳・鼻の診察、口腔・咽喉頭の診察、頭頸部リンパ節の触診、頸部の診察法。(池田光徳) 3:脳神経、四肢の感覚運動機能のアセスメント：体位と姿勢、歩行、四肢の視診、深部反射、病的反射、クロウンスの診察法。(池田光徳) 4:胸郭・肺呼吸器系のアセスメント：視診、触診、打診、肺の聴診、心臓の聴診。(池田光徳) 5:呼吸器のアセスメント：呼吸器と循環器の関係(問診、視診)、呼吸器のアセスメント(触診、打診)。(池田光徳) 6:循環器のアセスメント：血圧・脈拍測定、四肢の視診・触診、頸部の視診・触診・聴診、胸部の視診・触診・打診、心音の聴取。(池田光徳) 7:消化器系(腹部)のアセスメント：問診、腹部のアセスメントの留意点、腹部の視診・聴診・打診・触診、腹水の評価、女性患者の腹部の見方。(池田光徳) 8:肛門、直腸、泌尿器、男性性器のアセスメント：肛門・直腸の診察法、肛門部病変、泌尿器科学的診察法。(池田光徳) 9:女性性器および乳房のアセスメント：産婦人科診察法、乳房の診察法。(池田光徳) 10:急性損傷のアセスメントおよび対処。(池田光徳) 11:心電図の読み方。(池田光徳) 12:褥瘡・慢性潰瘍・陥入爪のアセスメント。(池田光徳) 13:臨床検査から分かる疾患(症例検討)。(池田光徳) 14:臨床検査から分かる疾患(症例検討)。(池田光徳) 15:臨床検査から分かる疾患(症例検討)。(池田光徳)					
成績評価 (基準と方法)	試験は実施しないが、看護学研究科 CP にあげた複数の観点から、講義中の質疑の状態にて評価する(100%)。					
教科書	教科書は診察と手技がみえる vol.1 (第2版) (メデックメディア) を使用するので早急に購入のこと。 推薦参考書として、ベイツ診察法(第2版) (メディカル・サイエンス・インターナショナル) もあるが、講義中に必要な資料は随時配布する。					
授業外学習 課題 (予習・復習)	1. 診察と手技が見える①の当該部分を復習する。 2. 診察と手技が見える①の当該部分を復習する。 3. 診察と手技が見える①の当該部分を復習する。 4. 診察と手技が見える①の当該部分を復習する。 5. 診察と手技が見える①の当該部分を復習する。 6. 診察と手技が見える①の当該部分を復習する。 7. 診察と手技が見える①の当該部分を復習する。 8. 診察と手技が見える①の当該部分を復習する。 9. 診察と手技が見える①の当該部分を復習する。 10. 診察と手技が見える①の当該部分を復習する。 11. 診察と手技が見える①の当該部分を復習する。 12. 診察と手技が見える①の当該部分を復習する。 13. 診察と手技が見える①の当該部分を復習する。 14. 診察と手技が見える①の当該部分を復習する。 15. 診察と手技が見える①の当該部分を復習する。					
オフィスアワー	CI04 へ何時でも来室は可能。					
備考	診察と手技がみえる vol.1 はできるだけ早く購入しておくこと。年度当初は博士前期課程2回生に交渉して借りても良い。					

科目名	臨床薬理学		英訳科目名	Clinical Pharmacology		
科目区分			単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200017	授業種別	履修年次	1～	開講期間	前期
授業方式			池	永国寺		
履修における 注意点			資格・区分等	専門看護師資格取得のための必修科目		
担当教員	5195019	常風 興平	所属	非常勤講師		
ディプロマ・ポ リシーとの関連 性	DP1,3 を修得するために重要な科目					
授業教員						
授業の概要	薬物療法が必要な対象者に対して、生活調整や回復力の促進、対象者自身の服薬管理能力向上のためのケア、薬剤使用に関わる判断、投与後のモニタリングなどを実践する能力を習得するために、臨床の場でよく用いられる薬剤（緊急応急処置、症状調整、慢性疾患管理のための薬剤など）を中心として、薬理学の基礎知識と看護技術を学ぶ。					
達成目標 (達成水準)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床薬理の基礎知識を説明できる。 2. 薬物の動態、作用・副作用・相互作用について説明できる。 3. 臨床でよく用いられる薬剤について、その投与方法や、投与後のモニタリングについて説明できる。 4. 薬物療法を受ける対象者への看護ケアの意義とその方法を考察できる。 					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1:臨床薬理学に関する基本的理解について 2:薬物の動態と作用・副作用・相互作用 3:対象者の特性（高齢者、妊婦、小児）に応じた薬物療法 4:緊急応急処置に用いられる薬剤とその管理,循環改善のために使用される薬剤,ステロイド剤,輸液製剤・血液製剤 5:疼痛緩和を目的として用いられる薬剤とその管理、がん性疼痛、頭痛、腹痛など 6:精神の安定をはかることを目的として用いられる薬剤とその管理 7:排泄のコントロールを目的として用いられる薬剤とその管理 8:呼吸器系疾患に対して用いられる薬剤とその管理 9:消化器系疾患に対して用いられる薬剤とその管理 10:循環器系疾患に対して用いられる薬剤とその管理 11:内分泌系疾患に対して用いられる薬剤とその管理 12:脳・中枢神経系疾患に対して用いられる薬剤とその管理 13:感染症に対して用いられる薬剤とその管理 14:薬剤の安全適正使用と問題点 15:薬理と看護の役割（総括） 					
成績評価 (基準と方法)	クラスにおける質疑応答（30%）、レポート（70%）により評価する					
教科書	<p>テキスト：臨床薬理学 第7版 メディカ出版 参考図書：臨床薬理学 第4版 医学書院 病気がみえる①～⑤ メディックメディア 薬が見える①～③ メディックメディア その他必要に応じ、提示します。</p>					
授業外学習 課題 (予習・復習)	:自分の専門領域で用いられる代表的薬物を選択し、薬理や臨床での適用についてまとめたうえで、看護ケアにおける留意点とケアの実際について考察する。					
オフィスアワー	メールで問い合わせてください。					
備考						

科目名	こころの発達		英訳科目名	Developmental Psychology		
科目区分			単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200018	授業種別	履修年次	1~	開講期間	前期
授業方式			池		永国寺	
履修における 注意点			資格・区分等	小児看護専攻教育課程 専攻分野専門科目		
担当教員	2159089	畦地 博子	所属	看護学科		
ディプロマ・ポ リシーとの関連 性	DP1,2 を修得するために重要な科目					
授業教員	畦地・高谷					
授業の概要	自我発達・認知発達・道徳観の発達など基本的な理論について学ぶとともに、これらの理論を活用して子どものこころの発達を包括的に査定する能力、発達を考慮した高度な実践能力を養う。発達障がいや思春期に問題となっている2つの精神疾患を取り上げ、発達理論に基づき病理性を理解し、対象者の状況を包括的に査定する能力、問題解決する能力を修得する。また、危機的な状況に陥った折に生じやすい精神状態について理解し、対象者の状況を包括的に査定する能力、問題解決する能力を修得する。					
達成目標 (達成水準)	1.自我発達理論・認知発達理論・道徳観の発達について理解し、各発達段階の事例を用いた査定、および発達を考慮したアプローチの提案ができる。 2.子どもの死の概念の発達について理解し、研究成果の看護実践への活用について提案できる。 3.危機的状況にある人のこころの状態、脳の反応や理論からアセスメントし、包括的に捉えることができる。 4.発達障がいのある子どものこころの発達を理解し、事例を用いて援助方法について検討できる。 5.思春期の子どもに見られる精神疾患について理解し、事例を用いて援助方法について検討できる。 6.闘病中の子ども・家族に見られるうつ状態を理解し、事例を用いて援助方法について検討できる。					
授業計画	第1回:イントロダクション/子どもの健康レベルと自我発達<乳児期>(畦地・高谷) 第2回:子どもの健康レベルと自我発達<幼児期>(畦地・高谷) 第3回:子どもの健康レベルと自我発達<学童期>(畦地・高谷) 第4回:子どもの健康レベルと自我発達<思春期>(畦地・高谷) 第5回:子どもの健康・病気の理解<乳児期・幼児期>(畦地・高谷) 第6回:子どもの健康・病気の理解<学童期・思春期>(畦地・高谷) 第7回:子どもの死の概念の発達(畦地・高谷) 第8回:子どもの道徳観の発達(畦地・高谷) 第9回:こころの発達と脳の発達(1)(畦地・高谷) 第10回:こころの発達と脳の発達(2)(畦地・高谷) 第11回:長期の経過をたどる健康問題を持つ子どものこころの発達の包括的査定(畦地・高谷) 第12回:発達障がいのある子どものこころの発達の包括的査定(畦地・高谷) 第13回:思春期に問題となる精神疾患-境界型人格障害-(畦地・高谷) 第14回:思春期に問題となる精神疾患-摂食障害-(畦地・高谷) 第15回:闘病中の子どもに生じる精神症状-うつ状態-(畦地・高谷) 第16回:闘病中の子どもの家族に生じる精神症状-うつ状態-(畦地・高谷)					
成績評価 (基準と方法)	クラス討議への参加度および貢献度 (30%)、プレゼンテーション (50%)、レポート (20%)					
教科書	■講義の中で資料の配布および国内外の重要文献の紹介などを適宜行う。 ①H・M・メイヤー著 (1965) /大西誠一郎監訳 (1986) : 児童心理学 3つ目の理論・エリクソン、ピアジェ、シアーズ,黎明書房、②ロバート・コールズ著 (1970) /鐘幹太郎監訳 (1980) : エリク・H・エリクソンの研究 (上),ベリかん社、③E・H・エリクソン (1950) /仁科弥生訳 (1984) : 幼児期と社会 I・II,みすず書房、④マーガレット・S・(1975) /高橋雅士他訳 (1990) : 乳幼児の心理的誕生,黎明書房 他					
授業外学習 課題 (予習・復習)	:各クラスの事前課題については、別途、説明する。					
オフィスアワー	適宜、学生と時間調整して対応する。					
備考	畦地 博子(高知県立大学大学院看護学研究科) 高谷 恭子 (高知県立大学大学院看護学研究科)					

科目名	看護教育論 I			英訳科目名	Theories and Principles in Nursing Education I		
科目区分				単位数	1	必選区分	
時間割コード	62200020	授業種別		履修年次	1～	開講期間	通年
授業方式				池	永国寺		
履修における注意点	集中講義			資格・区分等			
担当教員	9992758	柳林 信彦		所属	非常勤講師		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP2,4,5 を修得するために重要な科目						
授業教員							
授業の概要	めまぐるしく変化する現代社会の健康問題に対応する看護専門職の役割と教育体制について考え、将来に向けての看護基礎教育、卒後教育、継続教育のあるべき姿と、社会のニーズに適合した看護教育カリキュラムの構造と運営について学ぶ。						
達成目標 (達成水準)	教育理念にもとづき倫理的に教育内容を組み立てていく一連のプロセスであるカリキュラム開発の視点、鉄則、カリキュラム評価と運営について理解し、学習者のニーズに基盤をおくカリキュラム開発について考察し意見を述べることができる。						
授業計画	1:専門職の職能成長 教師と教員制度 2:保護者と教育 保護者の変化から教員が直面している課題 3:教育の現状 4:教員の仕事の実態 5:少子高齢化と学校 働き方改革と学校・教師 6:判例検討①② 7:専門職の職能成長 成長の場としての学校 8:まとめ						
成績評価 (基準と方法)	クラスへの参加度・貢献度、課題レポートから総合的に評価する。						
教科書	1) 山口透編 : 人生社会学、高文堂出版社、1992 2) 柴野昌山編 : 教育現実の社会的構成、高文堂出版社、1990 3) 田中統治著 : カリキュラムの社会学的研究、東洋出版社、1996 4) 安彦忠彦編 : 新版カリキュラム研究入門、頸草書房、1999 5) 佐藤 学 : 教育の方法、放送大学教育振興会、2004 6) 田中統治編 : カリキュラム評価の考え方・進め方、教育開発研究所、2006						
授業外学習 課題 (予習・復習)	1:専門職の職能成長のために必要なものは何かについて、講義の内容や自身の経験をもとに考察する。						
オフィスアワー	メールで問い合わせてください。						
備考							

科目名	看護教育論Ⅱ		英訳科目名	Theories and Principles in Nursing Education II			
科目区分			単位数	1	必選区分		
時間割コード	62200021	授業種別		履修年次	1～	開講期間	通年
授業方式				池		永国寺	
履修における注意点				資格・区分等			
担当教員	2155497	内川 洋子	所属	看護学科			
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP3,DP5,DP6 を修得するために重要な科目。						
授業教員							
授業の概要	めまぐるしく変化する現代社会の健康問題に対応する看護専門職の役割と教育体制について考え、将来に向けて看護の質を高めるために必要な看護基礎教育、卒後教育、継続教育のあるべき姿と、社会のニーズに適合した看護教育カリキュラムの構造と運営について学ぶ。						
達成目標 (達成水準)	<ol style="list-style-type: none"> 我が国の看護教育の歴史的変遷、教育制度、および看護教育に関連のある法律や施策の目的や主旨について学習し、今日の看護教育の問題点と課題を明らかにすることができる。 看護基礎教育および卒業後の教育を、専門職としての生涯教育体系の中に位置づけながら、現行の基礎教育と継続教育並びに卒後教育の問題点と課題を考察することができる。 人々の健康問題の多様化と目まぐるしく変化する保健医療制度改革に対応した看護専門職の役割について考察し、看護の質を高めるために必要な看護教育のあるべき方向性について探求することができる。 看護実践や看護学の発展に寄与する人材を生涯にわたりキャリアとして発展させていくための方策について考えを述べるができる。 						
授業計画	<p>第1回:看護の役割の変化と看護教育制度の歴史的変遷 第2回:看護教育に関連する教育制度と関連法規 第3回:看護教育制度と看護教育カリキュラムの変遷</p> <p>第4回:看護職の障害教育体系と今後の課題 第5回:人々の健康問題の多様化と保健医療制度改革の中でのわが国における専門看護職 第6回:人々の健康問題の多様化と保健医療制度改革の中でのわが国における専門看護職 第7回:看護専門職としてのキャリア発達と人的資本開発のための方策 第8回:看護専門職としてのキャリア発達と人的資本開発のための方策</p>						
成績評価 (基準と方法)	<ol style="list-style-type: none"> 事前学習課題のプレゼンテーションの内容とディスカッション結果(40%) 課題レポート(40%) クラスの参加度・貢献度より総合的に評価する。(20%) 						
教科書	<p><教科書> ①グレッグ美鈴,池西悦子 編集:看護教育学 看護を学ぶ自分と向き合う(改訂第2版),南江堂,2018.</p> <p><参考書> ①高橋みや子(監修),日本看護歴史学会(編集),川島みどり氏家幸子草刈淳子:日本の看護120年—歴史をつくるあなたへ,日本看護協会出版会,2008. ②田村やよひ 山田百合子 石井邦子 編集:看護教員必携資料集(第4版),メヂカルフレンド社,2020. その他の資料は、授業シラバスに掲載するほか、適宜、テーマに応じてクラスで提示する。</p>						
授業外学習 課題 (予習・復習)	<ol style="list-style-type: none"> 以下の課題についてそのテーマについての発展過程を踏まえた上で、現時点での看護教育に関する課題を明らかにする。 課題1:看護教育制度と関連法規 課題2:看護教育カリキュラムの変遷(平成24年度新カリキュラムの内容も含む) 課題3:現行の看護職の生涯教育体系を把握し、看護専門職としての教育体制のあるべき姿を探求する 課題4:我が国の専門看護師制度の成り立ちと発展と今後の課題について考える ・認定看護師 ・専門看護師(Certified Nurse Specialist) ・高度実践看護師(Advanced Practice Nurse) 課題5:特定行為に係る看護師の成り立ちと、今後の方向性と課題 人々の健康問題の多様化、少子超高齢化社会と保健医療制度改革が進む中での看護専門職としてのキャリア発達と人的資本開発のための方策を考える 						
オフィスアワー	メールまたは電話で問い合わせてください。						
備考							

科目名	疫学研究方法論		英訳科目名	Epidemiology		
科目区分			単位数	1	必選区分	
時間割コード	62200022	授業種別	履修年次	1～	開講期間	通年
授業方式			池		永国寺	
履修における 注意点	授業形式は、受講生の人数によって講義形式またゼミナール形式のどちらかを予定しています。また、開講前に講義に関する注意事項を含むガイダンスを予定しています。本講義では、主に疫学研究の方法について学びます。事前学習として疫学の基礎を復習しておいてください。		資格・区分等			
担当教員	2235020	立木 隆広	所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,2,4,5 を修得するために重要な科目					
授業教員						
授業の概要	人を対象とする研究の質を高めるためには、疫学的アプローチを用いることが有効となる。このため、研究を計画し遂行するためには、もちろん疫学の知識が必要であるが、疫学研究を実施するための方法を知識として持ち、これを活用できなくてはならない。本講義では、疫学研究を行うときに必要となる基本的な方法について学ぶ。					
達成目標 (達成水準)	①基本的な疫学の知識を身に着けるようにする。 ②基本的な研究デザインを説明できるようにする。 ③疫学研究の質を高めるときに必要な事項を述べられるようにする。 ④リサーチクエスションに対して適切な疫学研究の方法を立案できるようにする。					
授業計画	1:疫学研究の立ち位置/疫学研究の構造と機能/リサーチクエスション 2:研究デザインの種類/研究対象者の選定/測定方法の計画 3:サンプルサイズと統計学的パワー 4:研究をデザインする①(横断研究/コホート研究/ケースコントロール研究) 5:観察研究における因果推論を強めるために必要なこと 6:研究をデザインする②(盲検的ランダム化比較試験) 7:研究をデザインする③(ランダム化比較試験の変法/非ランダム化デザイン) 8:研究をデザインする④(診断検査に関する研究)/疫学研究と生物統計学/まとめ					
成績評価 (基準と方法)	参加(受講) 40%、発表・レポート 60%を基準として総合的に評価する。					
教科書	医学的研究のデザイン-研究の質を高める疫学的アプローチ-(著) Stephen B Hulley, et.al (訳) 木原雅子 他 メディカル・サイエンス・インターナショナル 疫学 医学的研究と実践のサイエンス(著) Leon Gordis (訳) 木原正博 他 メディカル・サイエンス・インターナショナル					
授業外学習 課題 (予習・復習)	・事前学習として疫学の復習をすること。 ・発表を行う場合は、資料作成をすること。 ・発表担当以外の単元も予習・復習をすること。 ・レポートが課せられた場合、作成し提出すること。					
オフィスアワー	基本的には C308 で対応。不在にしている場合もありますので、事前にメールにてアポイントメントをとってください。					
備考						

科目名	保健医療政策と経済 I			英訳科目名	Health Service Policy-making and Economy I		
科目区分				単位数	1	必選区分	
時間割コード	62200023	授業種別		履修年次	1~	開講期間	通年
授業方式				池		永国寺	
履修における注意点	集中講義			資格・区分等			
担当教員	9992760	尾形 裕也		所属	非常勤講師		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP2,3,6 を修得するために重要な科目						
授業教員							
授業の概要	<p>現行の保健医療政策について、我が国の保健医療経済の現状を踏まえて、保健医療財政に関する政策と保健医療施設・従事者等の保健医療供給政策の二面から概観し、我が国の保健医療システムの特徴や問題点を理解する。また、保健医療サービスの需要と供給の決定、保健医療支出の適切性、保健医療に関する公共政策の意義とその効果など、現在の保健医療が抱える課題と望ましいサービスのあり方と政策的改善の方向性を学ぶ。</p>						
達成目標 (達成水準)	<p>1. 我が国の保健医療システムの特徴や問題点について述べるができる。 2. 現在の保健医療が抱える課題と望ましいサービスのあり方と政策的改善の方向性について意見をまとめることができる。</p>						
授業計画	<p>1回:医療経営・経済入門：看護管理者と経営管理 2回:経営組織論概論 3回:医療経営組織論 4回:リーダーシップ論 医療提供体制改革の方向 医療計画について 2025 ビジョン 地域医療構想 診療報酬のあり方 5回:経営戦略論概論 6回:医療機関の経営戦略 7回:優れた医療機関経営の事例 8回:その他トピックス</p>						
成績評価 (基準と方法)	<p>クラス参加状況、プレゼンテーション (30%)、レポート(70%)によって総合的に評価する。</p>						
教科書	<p>1. 一般経済書：クルーグマン (1999)『よい経済学・悪い経済学』日経ビジネス人文庫 他 2. 医療経済学 (邦文)：漆博雄編著 (1998)『医療経済学』東京大学出版会 他 3. 医療経済学 (英文)：Folland, Goodma, Stano (2012) The Economics of Health and Health Care, seventh edition, Pearson 他 4. 医療制度改革論：尾形裕也、山崎泰彦編著 (2003)『医療制度改革と保険者機能』東京経済新報社 他 5. 尾形裕也 (2021)『看護管理者のための医療経営学：第3版』日本看護協会出版会 6. 尾形裕也 (2022)『この国の医療のかたち：医療政策の動向と課題』日本看護協会出版会</p>						
授業外学習 課題 (予習・復習)	<p>1:マグネットホスピタルの「磁力」に従って、自分が勤務している施設の状況を評価する。 2:あなたの勤務する機関 (病院など) の今後 10 年間を見通した基本的な経営戦略について考察するとともに、その中で看護師が果たす役割について焦点をあてて整理する。</p>						
オフィスアワー	<p>メールで問い合わせてください。</p>						
備考							

科目名	看護学の動向と展望			英訳科目名	Current Issues and Trends in Nursing Science		
科目区分				単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200025	授業種別		履修年次	1～	開講期間	通年
授業方式				池		永国寺	
履修における注意点	集中講義			資格・区分等			
担当教員	9992794	鈴木 志津枝		所属	非常勤講師		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP2,3,6 を修得するために重要な科目						
授業教員							
授業の概要	看護を取り巻く急激な変化の中で、看護は専門職としてどのような役割を担い、どのようなケアシステムを開発していくのか、また人々の多様化・複雑化する健康ニーズやそこに内在する問題にどう対処すればよいのかなど、看護にとって重要と思われる動向や課題に関して、わが国の文化的特性とケアに対する考え方や国際社会の動向をふまえて分析し、全体状況を把握する。						
達成目標 (達成水準)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会とともに変動する看護の動きやその変遷、専門職業団体としての活動、看護と政策のかかわりを分析できる。 2. 多様化する人々の健康ニーズに対して専門看護師のあり方と今後の方向性について検討できる。 3. 看護学の発展について、科学や医学の発展やその背景にある哲学的基盤をふまえて分析でき、看護現象を捉える方法について検討できる。 4. 看護の専門性について検討し、社会のニーズに対応した看護ケアの開発を追求する視点を養うことができる。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1:社会の動向と看護政策① 2:社会の動向と看護政策② 3:チーム医療と他職種との連携 4:高齢社会に求められる看護師の実践能力 5:看護現象と研究デザイン 6:新しい看護研究方法の開発 7:看護研究の動向への考察に基づく今後の課題 8:グローバル化と看護の展望 9:諸外国の保健医療福祉 10:看護の専門分化 11:専門分化の起点の背景、ICNの専門分化に関する活動 12:NP/ANPの定義と実践 13:日本における臨床分野の専門分化、日本におけるCNS制度を支える組織 14:日本における高度実践看護師制度への挑戦の背景、高度看護実践化への動き 15:専門看護師・高度実践看護師の役割、裁量権の拡大 						
成績評価 (基準と方法)	クラス参加状況(30%)、プレゼンテーション(35%)、レポート(35%)によって総合的に評価する。						
教科書	<p>*総特集 医療制度改革と看護 IV, 諸外国における医療制度, インターナショナルナースングレビュー, 30(3), 96-117, 2007.</p> <p>*その他、授業に応じて資料・参考文献を提示する。</p>						
授業外学習 課題 (予習・復習)	<p>配布された資料に目を通してから授業に臨むこと。</p> <p>また、授業の時に話題となったトピックスについての追加資料は、授業終了後、必要に応じて配信または配布するので、復習したり、自己学習を行うこと。</p>						
オフィスアワー	メールによる質問・連絡等は、適宜、受け付ける。						
備考							

科目名	最新専門看護実践講座 I			英訳科目名	Lectures on Current Professional Nursing Practices I		
科目区分				単位数	1	必選区分	
時間割コード	62200026	授業種別		履修年次	1～	開講期間	通年
授業方式				池		永国寺	
履修における 注意点				資格・区分等			
担当教員				所属			
ディプロマ・ポリシーとの関連性							
授業教員	勝原裕美子先生, 藤田冬子先生, 畠山卓也先生						
授業の概要	看護学において、先駆的な研究や実践に取り組んでいる高度実践看護師や研究者より、その実践や研究の成果、今後の展望などについて学び、社会のニーズの変化に対応した看護のあり方、卓越した看護ケアのあり方を検討する。今回は「看護ケアの新たな価値を探究する」というテーマから検討する。						
達成目標 (達成水準)	1. さまざまな学問領域において、社会のニーズに即した研究や実践がどのように展開されているか理解する。 2. さまざまな学問領域における研究や実践の成果を自らの高度実践看護師としての実践に生かす方略を検討する。						
授業計画	第1回:看護ケアの価値を創造する組織づくり1(勝原裕美子先生) 第2回:看護ケアの価値を創造する組織づくり2(勝原裕美子先生) 第3回:実践と研究の融合-老人看護専門看護師としての試み1(藤田冬子先生) 第4回:実践と研究の融合-老人看護専門看護師としての試み2(藤田冬子先生) 第5回:実践と研究の融合-老人看護専門看護師としての試み3(藤田冬子先生) 第6回:実践と研究の融合-精神看護専門看護師としての試み1(畠山卓也先生) 第7回:実践と研究の融合-精神看護専門看護師としての試み2(畠山卓也先生) 第8回:実践と研究の融合-精神看護専門看護師としての試み3(畠山卓也先生)						
成績評価 (基準と方法)	授業への貢献と参加、レポートなどで総合的に評価する						
教科書	適宜配布する						
授業外学習 課題 (予習・復習)	適宜進捗状況を鑑み、授業の補完的に、必要に応じ呈示する 講師の都合で講義の順番は変わる可能性がある						
オフィスアワー	メールなどで問い合わせてください。						
備考							

科目名	最新専門看護実践講座Ⅱ			英訳科目名	Lectures on Current Professional Nursing Practices II		
科目区分				単位数	1	必選区分	
時間割コード	62200027	授業種別		履修年次	1～	開講期間	通年
授業方式				池	永国寺		
履修における 注意点				資格・区分等			
担当教員	2235031	中井 寿雄		所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性							
授業教員	中井寿雄先生,宮野伊知郎先生,亀井智子先生						
授業の概要	看護学および近接の学問領域において、先駆的な研究や実践に取り組んでいる（高度実践看護職者や）研究者より、その実践や研究の成果、今後の展望などについて学び、社会のニーズの変化に対応した看護のあり方、卓越した看護ケアのあり方を検討する。今回は「デジタルトランスフォーメーションと看護の創出」というテーマから検討していく。						
達成目標 (達成水準)	1. さまざまな学問領域において、社会のニーズに即した研究や実践がどのように展開されているか理解する。 2. さまざまな学問領域における研究や実践の成果を自らの高度実践看護師としての実践に生かす方略を検討する。						
授業計画	第1回:デジタルトランスフォーメーションと看護の創出： 実践・看護学・研究における DX(中井寿雄先生) 第2回:デジタルトランスフォーメーションと看護の創出： DXによる看護の創出 災害看護マネジメントに関する研究(中井寿雄先生) 第3回:デジタルトランスフォーメーションと看護の創出： 災害時要支援者の課題解決に資するデジタルソリューションの開発 ディスカッション(中井寿雄先生) 第4回:健康社会強制拠点における医療・介護 ICT の取り組み①(宮野伊知郎先生) 第5回:健康社会強制拠点における医療・介護 ICT の取り組み②(宮野伊知郎先生) 第6回:健康社会強制拠点における医療・介護 ICT の取り組み③(宮野伊知郎先生) 第7回:地域包括ケアシステム構築におけるデジタルテクノロジー： 遠隔医療の変遷 国内外の実践例 テレナーシングの実践方法(亀井智子先生) 第8回:地域包括ケアシステム構築におけるデジタルテクノロジー： 事例演習 テレナーシングとエビデンス(亀井智子先生)						
成績評価 (基準と方法)	ディスカッションへの貢献、レポート等を総合的に評価する。						
教科書	適宜紹介する						
授業外学習 課題 (予習・復習)	適宜進捗状況を鑑み、授業の補完的に、必要に応じ提示する 講師の都合により講義の順番は変わる可能性がある						
オフィスアワー	個別アポイントにより実施する						
備考							

科目名	インディペンデントスタディ			英訳科目名	Independent Study		
科目区分				単位数	1	必選区分	
時間割コード	62200028	授業種別		履修年次	1～	開講期間	後期
授業方式				池		永国寺	
履修における 注意点				資格・区分等			
担当教員	2155473	長戸 和子		所属	看護学科		
ディプロマ・ポ リシーとの関連 性	DP3,6 を修得するために重要な科目						
授業教員							
授業の概要	学生が、自らの関心領域の看護現象に関して、文献検討、フィールドワーク等の方法を用いて情報を収集、分析することを通して、その領域について理解を深めるとともに、看護学の課題を見出すことを目的とする。						
達成目標 (達成水準)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 取りあげた自己の関心領域における既存の知識を系統的に探究することができる。 (文献検索、文献クリティークなど) 2. 取りあげた自己の関心領域における看護の現状と課題について、さまざまな方法を用いて情報収集を行い、それらを分析し統合することができる。 3. 自己の関心領域における看護の現状と課題を整理し、その中から看護学の課題を見出すことができる。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1回:教員と相談しながら、学生の関心領域を明らかにし、科目の展開方法を計画する 2回:取りあげた領域に関する情報収集 文献検討により、課題を明確にする 3回:課題に関する情報収集と分析のための方法論を検討し、今後の進め方についての計画を立案する 4回:計画に基づき、課題に関する情報収集を行う 5回:収集した情報の一次分析を行い、さらに情報収集が必要な内容を明らかにする 6回:課題に関連する文献等と比較検討しながら、収集した情報を分析する 7回:収集した情報について、分析を深め、まとめる 8回:まとめ 他の学生と共有し、ディスカッションする 事後の課題として、まとめのレポートを提出する <p>:* 探究する課題の設定、そのための方法論の検討について、教員と適宜ディスカッションしながら進めていく。 :* 4～7回の展開方法については、フィールドワークや課題に関連する専門職等へのインタビューなど、学生が自ら計画を立て、実施する。</p>						
成績評価 (基準と方法)	全過程における課題への取り組み (30%)、プレゼンテーション (40%)、レポートの内容 (30%) に基づき、総合的に評価する。						
教科書	文献の紹介、必要資料の配布は、適宜行う						
授業外学習 課題 (予習・復習)	:事前学習課題は、講義進行に合わせ、講義中に適宜提示する :事後の課題として、まとめのレポートを提出する						
オフィスアワー	随時。できるだけ事前にメールでアポイントメントを取ってください。						
備考							

科目名	看護理論と研究 I			英訳科目名	Theories and Research in Nursing I		
科目区分				単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200029	授業種別		履修年次	1～	開講期間	後期
授業方式				池	永国寺		
履修における 注意点				資格・区分等			
担当教員	2159089	畦地 博子		所属	看護学科		
ディプロマ・ポ リシーとの関連 性	DP5 を修得するために重要な科目						
授業教員	畦地・池添						
授業の概要	専門領域で行われている看護研究の基盤となる科学と哲学に関して概観する。専門分野の看護現象を説明している看護理論や中範囲理論の基本的な成り立ちや構造を学習し、それぞれの理論の特徴や限界を分析する。さらに、専門領域でよく用いられている学際的アプローチについて学び、広い視野で専門領域を学問として発展させていく力を育成する。						
達成目標 (達成水準)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護研究の基盤となる科学と哲学について説明することができる。 2. 取り上げた看護理論、概念について、特徴や限界を分析することができる。 3. 研究における理論的な一貫性について評価することができる。 4. 専門領域の研究を読みクリティークすることができる。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 回:コースオリエンテーション(畦地・池添) 2 回:看護理論の基本的な成り立ちや構造(池添) 3 回:概念と概念分析 1 (池添) 4 回:概念と概念分析 2 (池添) 5 回:概念の実践への適応(池添) 6 回:概念分析(池添) 7 回:概念分析の実際(池添) 8 回:研究計画書の作成と評価(畦地) 9 回:研究計画書の作成と評価: 質的記述研究デザイン(畦地) 10 回:研究計画書の作成と評価: 量的記述研究デザイン(畦地) 11 回:研究計画書の作成と評価: 因果関係探索型研究デザイン(畦地) 12 回:専門領域の研究論文のクリティーク 1 13 回:専門領域の研究論文のクリティーク 2 14 回:専門領域の研究論文のクリティーク 3 15 回:専門領域の研究論文のクリティーク 4 						
成績評価 (基準と方法)	ディスカッション (50%)、プレゼンテーション (50%)によって総合的に評価する。						
教科書	講義の中で、資料の配付および重要な文献の紹介を適宜行う。						
授業外学習 課題 (予習・復習)	別途資料を配付し説明する。						
オフィスアワー	適宜学生と時間調整して対応する。						
備考							

科目名	看護理論と研究Ⅱ			英訳科目名	Theories and Research in Nursing II		
科目区分				単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200030	授業種別		履修年次	2～	開講期間	前期
授業方式				池	永国寺		
履修における 注意点				資格・区分等			
担当教員	2159089	畦地 博子		所属	看護学科		
ディプロマ・ポ リシーとの関連 性	DP5 を修得するために重要な科目						
授業教員	畦地・池添						
授業の概要	専門領域の既存の研究を批判的に分析し、研究を実施していく能力を修得する。質的研究デザイン、量的研究デザインの特徴を踏まえ、演習を通してそれぞれの研究デザインについて修得し、専門領域の研究方法を発展させていく力を育成する。						
達成目標 (達成水準)	1. 質的研究デザイン、量的研究デザインを用いた既存の研究を取り上げ、批判的に分析することができる。 2. 質的研究デザイン、量的研究デザインの特徴を説明することができる。 3. 専門領域の研究方法を発展させていく方策について検討できる。						
授業計画	1 回:コースオリエンテーション(畦地・池添) 2 回:理論の研究への活用 1 (池添) 3 回:理論の研究への活用 2 (池添) 4 回:理論の実践への活用 1 (池添) 5 回:理論の実践への活用 2 (池添) 6 回:質的研究方法 (1) グラウンデッド・セオリー法(畦地) 7 回:グラウンデッドセオリー法の論文のクリティーク(畦地) 8 回:質的研究方法 (2) エスノグラフィー(畦地) 9 回:エスノグラフィー論文のクリティーク(畦地) 1 0 回:専門領域で用いられる研究方法 1 1 1 回:専門領域で用いられる研究方法 2 1 2 回:専門領域で用いられる研究方法 3 1 3 回:専門領域で用いられる研究方法 4 1 4 回:量的研究論文の解釈 1 1 5 回:量的研究論文の解釈 2						
成績評価 (基準と方法)	ディスカッション (50%)、プレゼンテーション (50%)によって総合的に評価する。						
教科書	講義の中で、資料の配布および重要な文献の紹介を適宜行う。						
授業外学習 課題 (予習・復習)	別途、資料を配布し、説明します。						
オフィスアワー	適宜、学生と時間調整して対応する。						
備考							

科目名	学際的研究方法			英訳科目名	Research Methodology for Nursing		
科目区分				単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200031	授業種別		履修年次	1～	開講期間	前期
授業方式				池		永国寺	
履修における 注意点	基本的には、前期木曜日2時限に開講。 学部外講師の都合で別の時間帯になる可能性がある。			資格・区分等	共創看護学前期1年生が受講。		
担当教員	2155310	池田 光徳		所属	看護学科		
ディプロマ・ポ リシーとの関連 性	DP4,6を修得するために重要な科目						
授業教員	畦地博子,池田光徳,飯高伸五,吉川孝,熊田孝恒						
授業の概要	学際的なさまざまな研究方法（実験研究法、フィールドワーク（文化人類学的研究法）、現象学的研究法、実験心理学的研究法、アクションリサーチなど）を、実際にこれらの方法を用いている研究者から学ぶ。						
達成目標 (達成水準)	<ul style="list-style-type: none"> よく用いられている学際的アプローチについて学ぶ 様々な研究方法を用いて行われている研究を読みクリティックする 学際的アプローチ方法の特徴と限界を分析する 						
授業計画	1:コースオリエンテーション(畦地博子) 2:実験研究の概要(池田光徳) 3:実験研究の実際1(池田光徳) 4:実験研究の実際2(池田光徳) 5:文化人類学的研究の概要(飯高伸五) 6:文化人類学的研究の実際1(飯高伸五) 7:文化人類学的研究の実際2(飯高伸五) 8:現象学的研究の概要(吉川孝) 9:現象学的研究の実際1(吉川孝) 10:現象学的研究の実際2(吉川孝) 11:学際的アプローチ方法の看護研究への応用(畦地博子) 12:学際的アプローチ方法の看護研究への応用(畦地博子) 13:実験心理学的研究の実際1(熊田孝恒) 14:実験心理学的研究の実際2(熊田孝恒) 15:実験心理学的研究の実際3(熊田孝恒)						
成績評価 (基準と方法)	試験は実施しないが、看護学研究科 CP にあげた複数の観点から、講義の中での課題の提出（50%）およびディスカッションへの参加（50%）によって評価する。						
教科書	講義の中で資料の配付及び重要な文献の紹介を適宜行う。UOKLMUS に参考文献や参考資料を提示する。						
授業外学習 課題 (予習・復習)	配布資料を復習する。						
オフィスアワー	教員が在室時は何時でも可。						
備考							

科目名	データ分析方法論Ⅱ		英訳科目名	Methodology in Data Analysis II		
科目区分			単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200032	授業種別	履修年次	1～	開講期間	後期
授業方式			池	永国寺		
履修における 注意点			資格・区分等	共創看護学1年生が対象。 木曜日2時限に開講。 講師の都合により別の時間帯に変更することがある。		
担当教員	2155310	池田光徳	所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP2,5を修得するために重要な科目					
授業教員	池田光徳					
授業の概要	生体から得られたデータを分析する方法を修得する。					
達成目標 (達成水準)	<ul style="list-style-type: none"> ・練習事例(例題)を分析できる ・看護学における研究者として、生体から得られたデータを分析できる ・データ分析に耐えうる実験系を構築できる 					
授業計画	1:コースオリエンテーション(池田光徳) 2:生体から得られるデータの特徴(池田光徳) 3:標本の測定値からの種々の統計量(一変量の場合)(池田光徳) 4:標本の測定値からの種々の統計量(二変量の場合)(池田光徳) 5:分布関数について(池田光徳) 6:平均値に関する検定(池田光徳) 7:分布に関する検定(池田光徳) 8:2つの母比率の検定(池田光徳) 9:相関係数に関する検定(池田光徳) 10:SPSSを用いたデータ分析演習1(池田光徳) 11:SPSSを用いたデータ分析演習2(池田光徳) 12:SPSSを用いたデータ分析演習3(池田光徳) 13:SPSSを用いたデータ分析演習4(池田光徳) 14:SPSSを用いたデータ分析演習5(池田光徳) 15:まとめ(池田光徳)					
成績評価 (基準と方法)	試験は実施しないが、看護学研究科CPにあげた複数の観点から、講義中の質疑の状態の評価する(100%)。					
教科書	コースの中で提示する。					
授業外学習 課題 (予習・復習)	:与えられた課題を解く。					
オフィスアワー	教員の在室時は何時でも可。					
備考						

科目名	看護学英语			英訳科目名	English for Nursing		
科目区分				単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200033	授業種別		履修年次	1～	開講期間	後期
授業方式				池	永国寺		
履修における 注意点				資格・区分等	共創看護学1年生が対象。 火曜日5時限に開講。 講師の都合により別の時間帯に変更することがある。		
担当教員	2155310	池田光徳		所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP5,6を修得するために重要な科目						
授業教員	畦地博子・池田光徳						
授業の概要	学際的なさまざまな研究方法（実験研究法、フィールドワーク（文化人類学的研究法）、現象学的研究法、実験心理学的研究法、アクションリサーチなど）を、実際にこれらの方法を用いている研究者から学ぶ。						
達成目標 (達成水準)	<ul style="list-style-type: none"> よく用いられている学際的アプローチについて学ぶ 様々な研究方法を用いて行われている研究を読みクリティックする 学際的アプローチ方法の特徴と限界を分析する 						
授業計画	1:コースオリエンテーション(畦地博子・池田光徳) 2:英語論文の基礎知識（構成と内容）(池田光徳) 3:実験看護学論文の選定(池田光徳) 4:実験看護学論文講読1(池田光徳) 5:実験看護学論文講読2(池田光徳) 6:実験看護学論文講読3(池田光徳) 7:実験看護学論文講読4(池田光徳) 8:実験看護学論文講読5(池田光徳) 9:理論看護学論文の選定(畦地博子) 10:理論看護学論文講読1(畦地博子) 11:理論看護学論文講読2(畦地博子) 12:理論看護学論文講読3(畦地博子) 13:理論看護学論文講読4(畦地博子) 14:理論看護学論文講読5(畦地博子) 15:まとめ(畦地博子)						
成績評価 (基準と方法)	試験は実施しないが、看護学研究科CPにあげた複数の観点から、講義中の質疑の状態で評価する（100%）。						
教科書	講義の中で資料の配付及び重要な文献の紹介を適宜行う						
授業外学習 課題 (予習・復習)	:配布資料を復習する :講義前に資料を読み込んでおく						
オフィスアワー	教員が在室時は何時でも可。						
備考							

科目名	共創看護学セミナー			英訳科目名	Co-Creation Nursing Seminar		
科目区分				単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200034	授業種別		履修年次	1～	開講期間	後期
授業方式				池	永国寺		
履修における 注意点				資格・区分等			
担当教員	2159089	畦地 博子		所属	看護学科		
ディプロマ・ポ リシーとの関連 性	DP5 を修得するために重要な科目						
授業教員	畦地						
授業の概要	学生が関心のある看護の現象について、学際的、国際的な既存の理論、および研究などを用いながら批判的に検討し、議論する。これらの議論を通して、探求しようとする現象を多角的に理解し、どのような共創がこの課題の解決をもたらすのか考察する。						
達成目標 (達成水準)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関心のある看護現象について、さまざまな視点から検討することができる ・ 関心ある看護現象を研究疑問につなげ、適した研究的アプローチを吟味することができる ・ 自身の研究課題を明確化できる 						
授業計画	1:コースオリエンテーション(畦地) 2:関心ある看護現象の抽出(畦地) 3:関心ある看護現象と研究疑問(畦地) 4:関連する理論 (1) (畦地) 5:関連する理論 (2) (畦地) 6:関連する理論 (3) (畦地) 7:関連する理論 (4) (畦地) 8:関連する理論 (5) (畦地) 9:関連する研究 (1) (畦地) 10:関連する研究 (2) (畦地) 11:関連する研究 (3) (畦地) 12:関連する研究 (4) (畦地) 13:関連する研究 (5) (畦地) 14:研究課題の明確化(畦地) 15:まとめ(畦地)						
成績評価 (基準と方法)	参加クラスへの参加度、プレゼンテーション(50%)、課題レポート(50%)によって総合的に評価する						
教科書	講義の中で、資料の配付および重要な文献の紹介を適宜行う。						
授業外学習 課題 (予習・復習)	別途資料を配付し説明						
オフィスアワー	適宜、学生と時間調整して対応する。						
備考							

科目名	バイオメトリクス看護学演習			英訳科目名	Field Practice of Nursing Biometrics		
科目区分				単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200035	授業種別		履修年次	1～	開講期間	後期
授業方式				池	永国寺		
履修における 注意点				資格・区分等	共創看護学1年生が対象。		
担当教員	2155310	池田光徳		所属	看護学科		
ディプロマ・ポ リシーとの関連 性	DP5を修得するために重要な科目						
授業教員	池田光徳						
授業の概要	実験研究の現場（医学系研究室）で実際の実験研究を見学する。 数日間は、実際に簡単な分子生物学実験を行う。						
達成目標 (達成水準)	<ul style="list-style-type: none"> 分子生物学実験で何が行われているか理解できる 簡単な分子生物学実験を補助できる 自身の研究に応用可能な研究方法かどうかを吟味できる 						
授業計画	1:コースオリエンテーション(池田光徳) 2:分子生物学実験1(池田光徳) 3:分子生物学実験2(池田光徳) 4:分子生物学実験3(池田光徳) 5:分子生物学実験4(池田光徳) 6:分子生物学実験5(池田光徳) 7:分子生物学実験6(池田光徳) 8:分子生物学実験7(池田光徳) 9:分子生物学実験8(池田光徳) 10:分子生物学実験9(池田光徳) 11:分子生物学実験10(池田光徳) 12:分子生物学実験11(池田光徳) 13:分子生物学実験12(池田光徳) 14:分子生物学実験13(池田光徳) 15:まとめ(池田光徳)						
成績評価 (基準と方法)	試験は実施しないが、看護学研究科CPにあげた複数の観点から、講義中の質疑の状態で評価する(100%)。						
教科書	コースの中で提示する。						
授業外学習 課題 (予習・復習)	-基本的な実験方法を実地に行う。 -医学研究の現場に参加する。						
オフィスアワー	教員の在室時は何時でも可。						
備考							

科目名	がん看護論		英訳科目名	Theories and Issues in Cancer Nursing		
科目区分			単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200036	授業種別	履修年次	1~	開講期間	前期
授業方式			池	永国寺		
履修における注意点			資格・区分等	がん高度実践看護師教育課程：専攻分野共通科目		
担当教員	2155175	藤田 佐和	所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,DP5,DP6 を修得するために重要な科目					
授業教員	藤田,藤田・武田					
授業の概要	がん看護に活用できるストレス・コーピング理論、危機理論、セルフケア理論、社会学習理論、ソーシャルサポート理論などの諸理論を学ぶとともに、がん患者の理解や看護介入など、それらの理論の臨床での適用について学ぶ。また、既存の研究結果や文献、個々の体験に基づいて、がん看護の現状の課題を分析し、今後の展望について洞察する。これらを踏まえて、高度実践看護師の役割を開拓していく能力を修得する。					
達成目標 (達成水準)	<ol style="list-style-type: none"> 1. がん看護実践において基盤となる主要理論ならびにその活用方法について説明することができる。 2. がん看護の現状と課題、今後の展望について説明することができる。 3. がん医療において看護の役割拡大の必要性を説明することができる。 					
授業計画	<p>第1回:1) がん看護に活用できる理論や概念の理解と実践への適用</p> <p>2) がん Survivorship の理解</p> <p>3) がん看護介入モデルの探求 (藤田)</p> <p>第2回:ストレス・コーピング理論の理解と実践への適用</p> <p>1) ストレスとは</p> <p>2) ストレス・コーピング理論の理解</p> <p>3) 研究成果のがん看護実践への活用</p> <p>4) 実践事例への適用 について討議する</p> <p>(藤田)</p> <p>第3回:危機理論の理解と実践への適用</p> <p>1) 危機とは</p> <p>2) Aguilera と Messic の問題解決モデル、Fink の危機モデルの理解</p> <p>3) 研究成果のがん看護実践への活用</p> <p>4) 実践事例への適用 について討議する</p> <p>(藤田)</p> <p>第4回:セルフケアの理解と実践への適用</p> <p>1) セルフケアの理解</p> <p>2) セルフケア理論の理解</p> <p>3) 研究成果のがん看護実践への活用</p> <p>4) 実践事例への適用 について討議する</p> <p>(藤田)</p> <p>第5回:エンパワメントの理解と実践への適用</p> <p>1) エンパワメントの理解</p> <p>2) 研究成果のがん看護実践への活用</p> <p>3) 実践事例への適用 について討議する</p> <p>(藤田)</p> <p>第6回:自己効力理論の理解と実践への適用</p> <p>1) 自己効力理論、自己効力感の理解</p> <p>2) 研究成果のがん看護実践への活用</p> <p>3) 実践事例への適用 について討議する</p> <p>(藤田)</p> <p>第7回:ケアリングの理解の理解と実践への適用</p> <p>1) ケアリングの考え方の理解</p> <p>2) ケアリング理論の理解</p> <p>3) 研究成果のがん看護実践への活用</p> <p>4) 実践事例への適用 について討議する</p> <p>(藤田)</p> <p>第8回:患者・家族を取り巻くソーシャルサポートの理解と実践への適用</p> <p>1) ソーシャルサポート論の理解</p> <p>2) ソーシャルネットワーク論の理解</p> <p>3) 研究成果のがん看護実践への活用</p> <p>4) 実践事例への適用 について討議する</p>			<p>(藤田)</p> <p>第9回:家族の悲嘆の心理過程の理解と実践への適用</p> <p>1) 悲嘆理論の理解</p> <p>2) 遺族ケアの考え方</p> <p>3) 研究成果のがん看護実践への活用</p> <p>4) 遺族ケアの実際 について討議する</p> <p>(藤田)</p> <p>第10回:がん予防・早期発見の考え方と取り組み</p> <p>1) がん患者とヘルスプロモーション</p> <p>2) ヘルスプロモーションの理解</p> <p>3) 研究成果の実践への活用</p> <p>4) 実践事例への適用 について討議する</p> <p>(藤田)</p> <p>第11回:がん高度実践看護師の歴史と役割</p> <p>1) がん看護専門看護師の歴史と役割</p> <p>2) 高度実践看護師について</p> <p>3) 高度実践看護師の役割拡大について</p> <p>(藤田)</p> <p>第12回:が看護の実践の場の理解：がん看護実践の場の変革力</p> <p>1) がん看護の実践の場(一般病院・がん専門病院・緩和ケア病棟・在宅)の現状と課題を理解する</p> <p>2) 組織やシステムを変化していくための理論や方略に関する文献を活用し、組織やシステムに働きかけていく方法について討議する(藤田)</p> <p>第13回:がん看護領域における倫理的課題</p> <p>1) 看護実践における倫理的課題</p> <p>2) 看護研究における倫理的課題</p> <p>3) がん医療の進歩に伴う新たな倫理的課題</p> <p>(藤田・武田)</p> <p>第14回:がん患者と遺伝I</p> <p>1) がんと遺伝子</p> <p>2) 遺伝/ゲノム医療の現状と課題</p> <p>3) 遺伝性腫瘍の特徴(武田)</p> <p>第15回:がん患者と遺伝II</p> <p>1) 遺伝子腫瘍診療と遺伝カウンセリング</p> <p>2) 遺伝/ゲノム医療における看護の役割</p> <p>(武田)</p> <p>第16回:がん患者と遺伝III</p> <p>1) 遺伝性腫瘍をもつ人への看護の実際</p> <p>2) 遺伝性腫瘍と倫理的課題について</p> <p>(武田)</p>		
成績評価 (基準と方法)	目標1,目標2,目標3について、クラス討議への参加度および貢献度 (20%)、プレゼンテーション (30%)、学修課題 (50%) などによって総合的に評価する。					
教科書	<p>テキスト：特になし。</p> <p>・講義の中で資料の配布および国内外の重要文献の紹介などを適宜行う。</p> <p>参考図書</p> <p>・筒井真優美編集：看護理論家の業績と理論評価 第2版,医学書院,2015</p> <p>・Cancer Nursing Principles and practice.6th ed. Yarbro, Connie Henke, Frogge,M.H;Goodman. M, Jones Bartlett Publishers Inc</p> <p>・小島操子, 佐藤禮子 (監訳), 日本がん看護学会教育研究活動委員会コアカリキュラムグループ委員 (訳)：がん看護コアカリキュラム, 医学書院, 2007</p> <p>・日本がん看護学会監修,近藤まゆみ,梅田恵編集：がん看護の日常にある倫理,医学書院,2015</p>					

授業外学習 課題 (予習・復習)	:各回のテーマについて事前学習した上で授業に出席すること :関心のある実践の場(第12回)を分析し、1つの課題に焦点を当て、変革するための具体的な方策について、学習した理論や考え方をういてまとめ、提言する。
オフィスアワー	随時対応します。メール等で連絡をしてアポイントメントを取ってください。
備考	集中講義 講師：武田祐子先生(慶應義塾大学看護医療学部教授) 日時：未定

高知県立大学

科目名	緩和ケア特論		英訳科目名	Advanced Palliative Care		
科目区分			単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200037	授業種別	履修年次	1～	開講期間	後期
授業方式			池		永国寺	
履修における 注意点			資格・区分等	がん高度実践看護師教育課程：専攻分野専門科目		
担当教員	2155175	藤田 佐和	所属	看護学科		
ディプロマ・ポ リシーとの関連 性	DP1,P2,DP3 を修得するために重要な科目					
授業教員	藤田,豊田					
授業の概要	がん患者に生ずる苦痛や苦悩を全人的に捉え、その人の生活を通して苦痛を癒していく方法や、QOLを考えたトータルケアをエビデンスに基づき提供できる高度な実践能力を修得する。がん看護におけるパリアティブケア、エンド・オブ・ライフケアについて、既存の研究成果や実践報告などに基づいて分析し、現状の課題と今後の展望を洞察する。これらを通して看護独自の緩和ケア技術や援助体系を創造するとともに、スタッフナースとの連携のもとに実践できる能力を修得する。					
達成目標 (達成水準)	<ol style="list-style-type: none"> 1. がんがもたらすあらゆる苦痛症状・苦悩について機序や原因・要因が説明できる。 2. 症状のアセスメントができ、エビデンスにもとづく薬物的介入・非薬物的介入方法を提案できる。 3. 終末期がん患者の全人的苦痛を緩和し、その人らしい最期を迎えられるように、患者・家族への援助を提案できる。 					
授業計画	<p>第1回:授業オリエンテーション 緩和ケアとは 緩和治療とは 全人的苦痛と全人的ケア がん患者の症状のアセスメントと看護援助(藤田)</p> <p>第2回:症状マネジメント 1)症状マネジメントモデルの理解と臨床応用 2)事例を用いた症状マネジメントモデルの展開(藤田)</p> <p>第3回:がん看護におけるパリアティブケア 疼痛 1)がん患者の疼痛と看護ケア ・疼痛のアセスメント ・疼痛のある患者への看護ケア(エビデンスレベルの明確化) 2)事例展開(豊田)</p> <p>第4回:がん看護におけるパリアティブケア 呼吸困難 1)がん患者の呼吸困難と看護ケア ・呼吸困難のアセスメント ・呼吸困難のある患者への看護ケア(エビデンスレベルの明確化) 2)事例展開(豊田)</p> <p>第5回:がん看護におけるパリアティブケア 倦怠感 1)がん患者の倦怠感と看護ケア ・倦怠感のアセスメント ・倦怠感のある患者への看護ケア(エビデンスレベルの明確化) 2)事例展開(豊田)</p> <p>第6回:がん看護におけるパリアティブケア 嘔気・嘔吐 1)がん患者の嘔気・嘔吐と看護ケア ・嘔気・嘔吐(栄養状態)のアセスメント ・嘔気・嘔吐のある患者への看護ケア(エビデンスレベルの明確化) 2)事例展開(豊田)</p> <p>第7回:がん看護におけるパリアティブケア 排泄障害(下痢など) 1)がん患者の下痢・便秘と看護ケア ・下痢・便秘のアセスメント ・下痢・便秘のある患者への看護ケア(エビデンスレベルの明確化) 2)事例展開(豊田)</p> <p>第8回:がん看護におけるパリアティブケア 皮膚障害 1)がん患者の皮膚障害と看護ケア ・皮膚障害のアセスメント ・皮膚障害のある患者への看護ケア(エビデンスレベルの明確化) 2)事例展開(豊田)</p> <p>第9回:がん看護におけるパリアティブケア 口腔内の問題 1)がん患者における口腔内の問題と看護ケア ・口腔内のアセスメント ・口腔内に問題のある患者への看護ケア(エビデンスレベルの明確化) 2)事例展開(豊田)</p> <p>第10回:がん看護におけるパリアティブケア 抑うつ(豊田)</p> <p>第11回:がん看護におけるパリアティブケア せん妄(豊田)</p> <p>第12回:がん患者のもつ社会的苦痛のアセスメントと看護援助(豊田)</p> <p>第13回:がん患者のもつ症状のアセスメントと看護援助(豊田)</p> <p>第14回:がん看護におけるパリアティブケア 鎮静(豊田)</p> <p>第15回:がん患者のエンド・オブ・ライフケア(豊田)</p>					
成績評価 (基準と方法)	目標1、目標2、目標3について、クラス討議への貢献(20%)、プレゼンテーション(30%)、学修課題(50%)などによって総合的に評価する。					

教科書	<p>教科書：特になし。</p> <p>参考図書：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東原正明, 近藤まゆみ (編集)：看護 QOL BOOKS 緩和ケア, 医学書院, 2000. ・日本緩和医療学会 (編集)：専門家をめざす人のための緩和医療学 (改訂第 2 版), 南江堂, 2019. ・近藤まゆみ, 久保五月 (編著)：がんサバイバーシップ がんとともに生きる人びとへの看護ケア第 2 版, 医歯薬出版株式会社, 2019. <p>その他：講義の中で、資料の配布および国内外の重要文献の紹介などを適宜行う。</p>
授業外学習 課題 (予習・復習)	<p>：各回のテーマについて事前学習した上で授業に出席すること</p> <p>：実習施設で行われる緩和ケアに関するセミナーやカンファレンスへの参加。</p> <p>：<課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族看護方法論Ⅱのクラスでは、がん患者の家族を具体例にして学修すること。 ・家族看護方法論Ⅱで学んだ考え方や理論をがん患者の家族の援助に適用して、レポートする。
オフィスアワー	随時対応します。メール等で連絡をしてアポイントメントを取ってください。
備考	

高知県立大学

科目名	がん看護方法論 I		英訳科目名	Theories and Interventions for Cancer Patients I		
科目区分			単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200038	授業種別	履修年次	1~	開講期間	後期
授業方式			池	永国寺		
履修における 注意点			資格・区分等	がん高度実践看護師教育課程：専攻分野専門科目		
担当教員	2155175	藤田 佐和	所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,DP2,DP4 を修得するために重要な科目					
授業教員	藤田					
授業の概要	緩和ケア対象のがん患者や家族の様々な状況を理解し、援助をする上での特徴的な考え方や理論を学び、看護援助方法について探求する。また緩和ケア対象のがん患者や家族がおかれている状況を研究的・教育的・倫理的な視点から分析し、がんや治療・症状が人間の生活に及ぼす影響を包括的に理解する。これらを通して緩和ケア対象の患者のつらい状態をアセスメントし、柔軟にケアを展開していける高度な実践能力を修得する。また、コンサルテーションや他職種との連携をはかり、患者に提供されるケアをコーディネートできる能力や既存の研究結果及び諸理論を活用し、倫理的判断のもと、実践の場をよりよい方向に変革できる高度実践看護師としての能力を修得する。					
達成目標 (達成水準)	1. 緩和ケア対象のがん患者・家族の理解や援助において基盤となる考え方や理論ならびにその活用方法について説明することができる。 2. 緩和ケア対象のがん患者・家族のおかれている状況を包括的にアセスメントし、専門的知識や研究成果を用いて援助方法を提案することができる。 3. 実践演習 I のケースを用いて高度実践看護師として、実践の場を変革する方策を提案することができる。					
授業計画	<p>第1回:がん患者のQOLの理解と看護ケア</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) がん患者・家族のQOLの意味 2) がん患者・家族のQOLのアセスメント 3) QOLを重視した看護ケア <p>(藤田)</p> <p>第2回:がん患者とリハビリテーション</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) がんのリハビリテーションの考え方の理解 2) 緩和ケアとリハビリテーション 3) 研究成果の検討 事例展開 <p>(藤田)</p> <p>第3回:がん患者のつらい状態の不確かさ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 不確かさの理解 2) がん患者の不確かさのアセスメントと看護ケア 3) 研究成果の検討 事例展開 <p>(藤田)</p> <p>第4回:がん患者の希望の理解と看護ケア</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 希望とは 2) 希望のアセスメントと希望を支える看護ケア 3) 研究成果の検討 事例展開 <p>(藤田)</p> <p>第5回:がん患者のセクシュアリティ(藤田)</p> <p>第6回:患者の意思決定支援</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) がん患者の意思決定における課題 2) 意思決定を支える看護ケア 3) 研究成果の検討 事例展開 <p>(藤田)</p> <p>第7回:がん患者・家族教育</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) がん患者教育・がん相談とは 2) 看護カウンセリング、ピアサポートなどの理解 3) 研究成果の検討 事例展開 <p>(藤田)</p> <p>第8回:がん患者・家族と補完・代替療法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 補完・代替療法の現状と課題 2) がんの補完・代替療法と看護ケア 3) 研究成果の検討 事例展開 <p>(藤田)</p>			<p>第9回:がん患者の家族ケア(家族のグリーフケア、遺族ケアを含む)</p> <p>家族看護援助論で学ぶ内容は、“家族”を“がん患者の家族”に適用して学習を行い、このクラスで統合する。(藤田)</p> <p>第10回:がん患者の就労支援</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) がん患者の就労に関わる現状と課題 2) がん患者の就労支援における高度実践看護師の役割 3) 研究成果の検討 事例展開 <p>(藤田)</p> <p>第11回:在宅移行支援</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 在宅移行するがん患者・家族のアセスメントと援助方法 2) 研究成果の検討 3) 事例展開 在宅移行支援の実践 <p>(藤田)</p> <p>第12回:がん医療におけるチームアプローチ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) チーム医療とは 専門職連携とは チームアプローチとは チーム医療における課題 リーダーシップ 2) チーム医療における高度実践看護師の果たす役割 <p>(藤田)</p> <p>第13回:コンサルテーション機能</p> <p>看護コンサルテーション論で学んだことを基盤とし、事例中心のコンサルテーションの展開を学ぶ。がん看護実践にコンサルテーションの考え方を活用し援助方法を検討する。(藤田)</p> <p>第14回:コーディネーション機能</p> <p>コーディネーションの必要な事例について分析し、どのようにコーディネーションしていくかを学ぶ。がん患者の在宅療養移行に課題のある事例を用いて考える。(藤田)</p> <p>第15回:倫理調整機能</p> <p>がん看護の臨床現場における倫理的課題を分析し、どのように倫理調整していくかを学ぶ。がん患者および家族について倫理的課題のある事例を用いて考える。(藤田)</p>		
成績評価 (基準と方法)	目標1、目標2、目標3について、クラス討議への貢献(20%)、プレゼンテーション(30%)、学修課題(50%)などによって総合的に評価する。					
教科書	<p>テキスト：特になし。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義の中で資料の配布および国内外の重要文献の紹介などを適宜行う。 ・日本がん看護学会教育・研究活動委員会コアカリキュラムワーキンググループ(著)：がん看護 コアカリキュラム，医学書院，2017 ・近藤まゆみ、嶺岸秀子(編著)：がんサバイバーシップ—がんとともに生きる人々への看護ケア—，医歯薬出版，2019，他 					

授業外学習 課題 (予習・復習)	:各回のテーマについて事前学習した上で授業に出席すること :がん看護学実践演習Ⅰで受け持ったケースを通して、実践上の課題を1つ取り上げて、実践の場を変革していくための方策を提案する
オフィスアワー	随時対応します。メール等で連絡をしてアポイントメントを取ってください。
備考	

高知県立大学

科目名	がん看護方法論Ⅱ		英訳科目名	Theories and Interventions for Cancer Patients II		
科目区分			単位数	1	必選区分	
時間割コード	62200039	授業種別	履修年次	2～	開講期間	前期
授業方式			池		永国寺	
履修における注意点			資格・区分等	がん高度実践看護師教育課程：専攻分野専門科目		
担当教員	2155175	藤田 佐和	所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,DP4,DP5 を修得するために重要な科目					
授業教員	藤田・豊田					
授業の概要	がん患者の緩和治療や緩和ケアに必要な看護介入技術についての理解を深め、事例を通して、がんの治療・療養に必要な看護介入が提供できる能力や、事例を通してエビデンス検索する能力を修得する。また、事例を通して、薬物療法による症状緩和が必要な患者に、ケア(care)とキュア(cure)を統合させた高度な知識と技術を用いて、疼痛マネジメントを図る看護介入モデルを開発する。					
達成目標(達成水準)	1. がん患者の緩和治療や緩和ケアに必要な看護介入技術が修得できる 2. 緩和治療やケアについて理解し、エビデンスに基づく症状緩和のための援助方法を考案できる					
授業計画	<p>第1・2回:がん患者教育・相談</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例を用いて、がん療養に関する援助技術（がん相談支援技術、がん患者教育方法、看護カウンセリング、意思決定支等）を演習する <p>(藤田・豊田)</p> <p>第3・4回:がん療養に伴う理学的介入方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リンパ浮腫のある患者の事例を用いて、リンパ浮腫に対する予防的介入方法から、リンパ浮腫のアセスメント、弾性包帯・複合的ドレナージの適用判断やドレナージ技術を演習する <p>(藤田・豊田)</p> <p>第5・6回:薬物療法による症状緩和</p> <ul style="list-style-type: none"> ・疼痛（症状は学生の関心のある症状を選択しても良い）マネジメントを行うに当たって、看護ケアに医療処置を統合して患者の疼痛緩和全体をマネジメントし、患者の疼痛緩和を図る看護介入モデルを考案する <p>(藤田・豊田)</p> <p>第7・8回:エビデンス検索演習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の関心領域（サブスペシャリティ領域）の看護実践（事例）を選択し、治療や看護介入についてエビデンス検索を行う <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例を活用して、看護学、看護学に関連する学問領域で既知のエビデンスを調べ、看護理論や看護モデルを活用して論理的に看護実践を組み立てる <p>(藤田・豊田)</p>					
成績評価(基準と方法)	目標1、目標2について、クラス討議への貢献（20%）、プレゼンテーション（30%）、学修課題（50%）などによって総合的に評価する。					
教科書	教科書：特になし。 参考図書：・日本がん看護学会教育・研究活動委員会コアカリキュラムワーキンググループ(著)：がん看護 コアカリキュラム、医学書院、2017。 その他：講義の中で、資料の配布および国内外の重要文献の紹介などを適宜行う。					
授業外学習課題(予習・復習)	:各援助方法について事前学習した上で授業に出席すること :関連する学会や研究会主催のセミナー等への参加 :レポート課題：エビデンス検索演習の<課題>を提出すること					
オフィスアワー	随時対応します。メール等で連絡をしてアポイントメントを取ってください。					
備考						

科目名	がん看護方法論III		英訳科目名	Theories and Interventions for Cancer Patients III		
科目区分			単位数	1	必選区分	
時間割コード	62200040	授業種別	履修年次	2~	開講期間	前期
授業方式			池		永国寺	
履修における 注意点			資格・区分等	がん高度実践看護師教育課程：専攻分野共通科目		
担当教員	2155175	藤田 佐和	所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,DP2,DP3 を修得するために重要な科目					
授業教員	藤田,藤田・ゲスズベ-カ,豊田					
授業の概要	手術療法・薬物療法・放射線療法・骨髄移植など様々ながん治療を受けている患者を、治療効果や患者を取り巻く保健医療システムを含めて包括的にアセスメントする知識や技術を修得する。その上で、事例を通して具体的なアセスメントの方法を学び、背景となる理論を適用して治療支援ができる能力を修得する。また、学生の関心領域において、がん治療を受けている患者に対して、ケア(care)とキュア(cure)の統合による高度な知識と技術を用いてがん患者の療養過程全般を管理し、ケア提供ができる看護介入モデルを開発する。					
達成目標 (達成水準)	1. 治療的介入の研究方法やエビデンスについて文献検討し、がん看護実践に適用することができる。 2. がんの診断・治療について理解し、治療期にある患者・家族への援助方法を考案することができる。 3. がん治療を行っている患者の有害事象のマネジメントに有用な看護介入モデルを考案する。					
授業計画	<p>第1回:治療期にあるがん患者や家族のもつ問題やニーズのアセスメントと看護援助 1) 診断期、治療期、維持期、再発期、終末期にある患者と家族の理解と看護援助 2) 治療期にある患者・家族への看護実践の課題(藤田)</p> <p>第2回:がん看護介入モデル ・ケア(care)とキュア(cure)を統合させた高度な知識と技術を用いてがん患者の療養過程全般を管理し、ケア提供ができる看護介入モデルの探求(藤田)</p> <p>第3回:がん薬物療法を受ける患者への援助 ・患者・家族のアセスメント(事例展開) ・患者の有害事象に対する援助の分析・評価 ・患者・家族のもつ心理・社会的問題への援助の分析・評価 *実践に関する事項はエビデンスを検索する *臨床判断過程がどのようになっているのかを理解する(藤田・ゲスズベ-カ)</p> <p>第4回:がん薬物療法中の有害事象のマネジメント ・がん化学療法の有害事象の的確なアセスメントと重症化の予防ならびに支持療法のための薬剤の選択・使用を通して、患者のQOL向上を図る看護介入モデルを考案する(豊田)</p> <p>第5回:がん放射線療法を受ける患者への援助 ・患者・家族のアセスメント(事例展開) ・患者の有害事象に対する援助の分析・評価 ・患者・家族のもつ心理・社会的問題への援助の分析・評価 *実践に関する事項はエビデンスを検索する *臨床判断過程がどのようになっているのかを理解する(藤田・ゲスズベ-カ)</p> <p>第6回:がん放射線療法中の有害事象のマネジメント ・放射線の量・照射方法などから起きてくる有害事象を予測し、有害事象を最小限に食い止め治療に伴う症状の予防と緩和を図って重症化を防ぎ、治療の完遂を支援する看護介入モデルを考案する(豊田)</p> <p>第7回:手術療法を受けるがん患者への援助 ・患者・家族のアセスメント(事例展開) ・患者の身体的援助の分析・評価 ・患者・家族の心理・社会的問題への援助の分析・評価 *実践に関する事項はエビデンスを検索する *臨床判断過程がどのようになっているのかを理解する(豊田)</p> <p>第8回:骨髄移植を受けるがん患者への援助 ・患者・家族のアセスメント(事例展開) ・患者の身体的援助の分析・評価 ・患者・家族の心理・社会的問題への援助の分析・評価 *実践に関する事項はエビデンスを検索する *臨床判断過程がどのようになっているのかを理解する(藤田・ゲスズベ-カ)</p>					
成績評価 (基準と方法)	目標1、目標2、目標3について、クラス討議への貢献(20%)、プレゼンテーション(30%)、学修課題(50%)などによって総合的に評価する。					
教科書	教科書：特になし。 参考図書：・日本がん看護学会教育・研究活動委員会コアカリキュラムワーキンググループ(著)：がん看護 コアカリキュラム、医学書院、2017。 ・佐藤禮子(監訳) 日本がん看護学会翻訳ワーキンググループ(訳)：がん化学療法・バイオセラピー看護実践ガイドライン、医学書院、2009。 ・佐藤隆美他：がん治療エッセンシャルガイド改訂第4版、南山堂、2019。 その他：講義の中で、資料の配布および国内外の重要文献の紹介などを適宜行う。					
授業外学習 課題 (予習・復習)	:各回のテーマについて事前学習した上で授業に出席すること :関連する学会や研究会主催のセミナー等への参加					
オフィスアワー	随時対応します。メール等で連絡をしてアポイントメントを取ってください。					
備考						

科目名	がん病態生理学		英訳科目名	Pathophysiology of Cancer Development		
科目区分			単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200041	授業種別	履修年次	1~	開講期間	後期
授業方式			池	永国寺		
履修における 注意点	がん看護学領域開講科目 図書の準備は不要!		資格・区分等	がん看護専門看護師必修科目		
担当教員	2155310	池田 光徳	所属	看護学科		
ディプロマ・ポ リシーとの関連 性	DP1,4,5 を修得するために重要な科目					
授業教員	池田光徳					
授業の概要	がんの病態生理学について、基礎から臨床までの広範な知見を最新の情報をもとに解説する。					
達成目標 (達成水準)	がん専門看護師として臨床の場で働くために必要な、遺伝子の病態である「がん」の生物学に関する基本的な知識の習得を達成目標とする。 本コースで学んだ知識をがん看護実践に応用できることを評価の基準とする。					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1:細胞および個体の生物学と遺伝学. 細胞生物学、分子生物学、遺伝学、遺伝子、転写、遺伝子クロニングなどについて理解する。(池田光徳) 2:がんの本性. 腫瘍と正常との違い、がんの発生、多段階発がん、がんの促進因子などについて理解する。(池田光徳) 3:腫瘍ウイルス. ウイルス発がんの研究史、形質転換のしくみ、レトロウイルス、原がん遺伝子などについて理解する。(池田光徳) 4:細胞性がん遺伝子. トランスフェクション、非ウイルス性がん遺伝子、レトロウイルス関連がん遺伝子、がん遺伝子とタンパク発現などについて理解する。(池田光徳) 5:増殖因子、増殖因子受容体とがん. 多細胞生物の増殖制御、チロシンキナーゼ、変異増殖因子受容体、インテグリン受容体、Gタンパクなどについて理解する。(池田光徳) 6:がん抑制遺伝子. がん抑制遺伝子の研究史、がん抑制遺伝子の意義、既知のがん抑制遺伝子、DNA のメチル化、NF1 タンパク、Apc、pVHL などについて理解する。(池田光徳) 7:永遠の生命:細胞の不死化と腫瘍形成. がん細胞における不死化の意義、染色体テロメア、テロメラーゼなどについて理解する。(池田光徳) 8:ゲノムの完全性の維持とがんの発達. 細胞ゲノム、薬物ポンプ、DNA 複製におけるエラー、DNA 修復酵素、ヌクレオチド除去修復などについて理解する。(池田光徳) 9:浸潤と転移. 浸潤・転移連鎖、E-カドヘリン、上皮間葉移行 (EMT)、EMT と胚発生などについて理解する。(池田光徳) 10:がんの合理的な治療. 腫瘍免疫と免疫療法、自然免疫と獲得免疫、免疫寛容、制御性 T リンパ球、新しいがんの薬物療法、EGF 受容体拮抗薬、遺伝子療法などについて最新情報を理解する。(池田光徳) 11:肺がんの病態生理. 肺がんの病態生理について理解する。(池田光徳) 12:胃がんの病態生理. 胃がんの病態生理について理解する。(池田光徳) 13:子宮がんの病態生理. 子宮がんの病態生理について理解する。(池田光徳) 14:大腸がんの病態生理. 大腸がんの病態生理について理解する。(池田光徳) 15:乳がんの病態生理. 乳がんの病態生理について理解する。(池田光徳) 					
成績評価 (基準と方法)	試験は実施しないが、看護学研究科 CP にあげた複数の観点から、講義中の質疑の状態の評価する (100%)。					
教科書	ベコリーノがんの分子生物学-メカニズム・分子標的・治療-(メディカルサイエンスインターナショナル)、デヴィータがんの分子生物学 (メディカルサイエンスインターナショナル)、ワインバーグがんの生物学 (南江堂)。 ベコリーノがんの分子生物学およびワインバーグがんの生物学は、講義期間に限り貸与する。					
授業外学習 課題 (予習・復習)	<ol style="list-style-type: none"> 1:講義時に配布した資料を復習する。 2:講義時に配布した資料を復習する。 3:講義時に配布した資料を復習する。 4:講義時に配布した資料を復習する。 5:講義時に配布した資料を復習する。 6:講義時に配布した資料を復習する。 7:講義時に配布した資料を復習する。 8:講義時に配布した資料を復習する。 9:講義時に配布した資料を復習する。 10:講義時に配布した資料を復習する。 11:講義時に配布した資料を復習する。 12:講義時に配布した資料を復習する。 13:講義時に配布した資料を復習する。 14:講義時に配布した資料を復習する。 15:講義時に配布した資料を復習する。 					
オフィスアワー	C104 へいつでも来室可能。					
備考	講義開始時に資料一式を配布する。 なお、教科書は、「ワインバーグがんの生物学」、「デヴィータがんの分子生物学」および「ベコリーノがんの分子生物学-メカニズム・分子標的・治療-」を使用する (事前購入は不要)。					

科目名	がん薬理学		英訳科目名	Cancer Pharmacology		
科目区分			単位数	1	必選区分	
時間割コード	62200043	授業種別	履修年次	1～	開講期間	後期
授業方式			池	永国寺		
履修における 注意点	9月に集中講義を行なう		資格・区分等	がん看護専門看護師必修科目		
担当教員	2155175	藤田 佐和	所属	看護学科		
ディプロマ・ポ リシーとの関連 性	DP1,2,4 を修得するために重要な科目					
授業教員	宮村充彦,北岡智子,掛田恭子,光岡妙子,藤田佐和					
授業の概要	がん医療において看護がマネージする頻度の高い薬剤を中心に、薬物の分子構造、薬効、適応、用法とその根拠、薬物動態・代謝、排泄など、臨床の場で使用される薬剤について深く知識を修得して、高度実践看護師として、薬物療法を行っている患者モニタリングや生活調整、回復力の促進、患者のセルフケア能力の向上など看護のアプローチを創造する能力を身につける。					
達成目標 (達成水準)	<ol style="list-style-type: none"> 1. がん治療や症状マネジメントに用いられる薬剤の分子構造、薬効、適応、用法とその根拠、薬物動態・代謝、排泄について説明できる。 2. がん治療や症状マネジメントに用いられる薬剤処方原則を説明できる。 3. がん薬物療法における看護の役割と患者にとっての意義を説明できる。 4. 事例を通して専門的な薬剤の知識と高度なケア技術を用いて、薬物療法を行っている患者の看護アプローチを考案する。 					
授業計画	<p>第1回:主な治療に用いられる薬剤 (がん治療薬) の薬物の分子構造,薬効,適応,用法とその根拠、薬物動態・代謝、排泄について ・抗悪性腫瘍薬 (抗がん剤と分子標的薬など) (宮村充彦)</p> <p>第2回:症状を緩和する薬剤を中心に薬物の分子構造、薬効、適応、用法とその根拠、薬物動態・代謝、排泄について ・緩和医療・支持療法に用いる薬剤 ・感染制御と抗生物質 (宮村充彦)</p> <p>第3回:疼痛マネジメントに用いる薬剤と処方 事例展開1 ・終末期がん患者の全身状態の悪化に伴う痛みの評価と状態に合わせた薬物の処方 (オピオイドスイッチング) (北岡智子)</p> <p>第4回:治療の有害事象の緩和に用いる薬剤と処方 事例展開2 ・外来化学療法中に痛みが生じたがん患者の有害事象のアセスメントと疼痛緩和のための薬物の選択と副作用対策 (北岡智子)</p> <p>第5回:がん患者の精神症状のマネジメントに用いる薬剤と処方 向精神薬 (抗精神病薬、抗うつ薬、抗けいれん薬、抗不安薬など) (掛田恭子)</p> <p>第6回:精神症状のマネジメントに用いる薬剤と処方 事例展開3 ・進行がん患者が外来化学療法中に発症したうつ病の診断と薬物の処方 (掛田恭子)</p> <p>第7回:緩和治療における薬物療法 緩和ケアにおける薬物的介入と緩和ケアチームの活動 (光岡妙子)</p> <p>第8回:がん薬物療法を行っている患者の看護アプローチ ・高度実践看護師の立場で、事例1、事例2、事例3のいずれかを選択して、ケアとキュアを統合した看護援助方法を検討する。 (藤田佐和)</p>					
成績評価 (基準と方法)	クラス討議 (50%)、提出物 (50%) によって総合的に評価。					
教科書	国内外の重要図書・文献の紹介などを行う。					
授業外学習 課題 (予習・復習)	:各回のテーマについて、事前学習した上で授業に出席すること :がん薬物療法に関する看護関連文献をレビューし、薬物療法に関わる看護のアプローチを考案する。					
オフィスアワー	随時対応します。メール等で連絡をしてアポイントメントを取ってください。					
備考	宮村充彦 (高知大学教育研究部 医療学系臨床部門 教授, 同医学部附属病院 薬剤部長) 北岡智子 (高知大学教育研究部 医療学系臨床医学部門 講師, 同医学部附属病院麻酔科蘇生科緩和ケアセンター長医師) 掛田恭子 (高知大学医学部神経精神科学講座 助教 緩和ケアチーム医師) 光岡妙子 (高知医療センター 緩和ケア内科科長) 関連する SDGs : 3					

科目名	がん看護学実践演習 I		英訳科目名	Advanced Practicum in Cancer Nursing I		
科目区分			単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200044	授業種別	履修年次	1～	開講期間	後期
授業方式			池		永国寺	
履修における 注意点			資格・区分等	がん高度実践看護師教育課程：実習科目		
担当教員	2155175	藤田 佐和	所属	看護学科		
ディプロマ・ポ リシーとの関連 性	DP1,DP2,DP3 を修得するために重要な科目					
授業教員	藤田・廣瀬・豊田					
授業の概要	1. さまざまな臨床問題を持つがん患者を受け持ち、直接ケアを通して、専門的な知識と技術を修得し、高度実践看護師としての基礎的な態度や判断能力、実践能力を修得する。 2. がん看護学領域の専任教員、がん看護専門看護師のスーパービジョンを受けながら、専門性を発達させ、高度実践看護師に必要な卓越した実践能力やケア開発能力を培う。 3. 実践演習 I を通して、実践研究課題を追求し研究につなげる。					
達成目標 (達成水準)	1. がん患者とその家族のおかれている状況を包括的にアセスメントする能力を修得する。 2. がん患者や家族が直面する問題を説明できる。 3. がん患者や家族に対して状況に応じてエビデンスに基づく卓越した看護援助を実践する。 4. 先行研究や諸理論を活用し、がん患者や家族への援助技術・援助体系を開発する。 5. がん患者や家族への看護の質向上を図るための教育活動を実施する。					
授業計画	実習要項：がん看護学実践演習 I を参照 (藤田・廣瀬・豊田)					
成績評価 (基準と方法)	達成目標と評価の基準に沿って、到達度の評価を行う。 実習内容 (実習記録、実習課題レポート、個人カンファレンスなど、(80%)) および、自己評価 (20%) を通して、総合的に評価を行う。					
教科書	実習の中で適宜、紹介する。 ・中村美鈴, 江川幸二監訳：高度実践看護統合的アプローチ第 5 版, へるす出版, 2017. ・井部俊子, 大生定義 (監修) 専門看護師の臨床推論研究会 (編集)：専門看護師の思考と実践, 医学書院, 2015. ・佐藤直子：専門看護師制度・理論と実践, 医学書院, 1999.					
授業外学習 課題 (予習・復習)	実習オリエンテーション時に説明。実習要項に記載 実習施設で行われるがん関連のセミナーやカンファレンスへの参加					
オフィスアワー	随時対応します。メール等で連絡をしてアポイントメントを取ってください。					
備考	*実習施設は、学生の臨床経験をふまえ、相談のうえ高知県内のがん診療連携拠点病院で行う。 実習担当者 高知医療センターで実習する場合 がん看護専門看護師：池田久乃、北添可奈子 高知大学医学部附属病院で実習する場合 がん看護専門看護師他：弘末美佐、門田麻里、三本芳 高知赤十字病院で実習する場合 がん看護専門看護師他：古郡夏子、山本恵里					

科目名	がん看護学実践演習 II			英訳科目名	Advanced Practicum in Cancer Nursing II		
科目区分				単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200045	授業種別		履修年次	2～	開講期間	前期
授業方式				池		永国寺	
履修における 注意点				資格・区分等	がん高度実践看護師教育課程：実習科目		
担当教員	2155175	藤田 佐和		所属	看護学科		
ディプロマ・ポ リシーとの関連 性	DP3,DP4,DP6 を修得するために重要な科目						
授業教員	藤田・廣瀬・豊田						
授業の概要	がん看護専門看護師の指導のもとに、実際のがん看護専門看護師の活動を体験し、高度実践看護師としての役割（実践、コンサルテーション、調整、倫理調整、教育、研究）を探究する。						
達成目標 (達成水準)	<ol style="list-style-type: none"> 1. がん看護専門看護師のもつ高度な専門的知識と技術が、実際の場面でどのように実践されているかを説明できる。 2. がん看護専門看護師の実践、および活動の体験を通して、高度実践看護師としての役割について洞察を深める。 3. 高度実践看護師としての役割開発やその戦略について学ぶ。 4. がん看護の質向上のために、組織の中でどのような活動を行ってきたか、行っているかについて学ぶ。 						
授業計画	実習要項：がん看護学実践演習 II を参照 (藤田・廣瀬・豊田)						
成績評価 (基準と方法)	目標 1、目標 2、目標 3、目標 4 について、 ・達成目標と評価の基準に沿って、到達度の評価を行う。 ・実習内容（実習記録、実習課題レポート、個人カンファレンスなど、(80%)）および自己評価（20%）を通して、総合的に評価を行う。						
教科書	実習の中で適宜、紹介する。 ・中村美鈴、江川幸二監訳：高度実践看護統合的アプローチ第 6 版、へるす出版、2020。 ・井部俊子、大生定義（監修）専門看護師の臨床推論研究会（編集）：専門看護師の思考と実践、医学書院、2015。 ・佐藤直子：専門看護師制度-理論と実践、医学書院、1999。						
授業外学習 課題 (予習・復習)	実習オリエンテーション時に説明。実習要項に記載						
オフィスアワー	随時対応します。メール等で連絡をしてアポイントメントを取ってください。						
備考	＊実習施設（北里大学病院、四国がんセンター、倉敷中央病院）は学生の臨床経験、関心領域をふまえ、相談のうえ決定する。 ＊実習担当者 北里大学病院で実習する場合：がん看護専門看護師 近藤まゆみ 四国がんセンターで実習する場合：がん看護専門看護師 宮脇聡子 倉敷中央病院で実習する場合：がん看護専門看護師 平田佳子						

科目名	がん看護学実践演習Ⅲ		英訳科目名	Advanced Practicum in Cancer Nursing III		
科目区分			単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200046	授業種別	履修年次	2～	開講期間	前期
授業方式			池	永国寺		
履修における注意点			資格・区分等	がん高度実践看護師教育課程：実習科目		
担当教員	2155175	藤田 佐和	所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP2,DP3,DP4 を修得するために重要な科目					
授業教員	藤田・廣瀬・豊田					
授業の概要	1. 複雑で対応困難な問題をもつがん患者や家族に対して、高度な専門知識や技術を用いて、エビデンスに基づく個別的なケア計画を立て看護を実践する。 2. がん看護学領域の専任教員、がん看護専門看護師のスーパービジョンを受けながら、コンサルテーション、他職種との調整、倫理的問題の調整、院内教育や病棟看護師への教育、臨床研究の指導について、介入計画を立案し、実施、評価する。 3. がん医療における地域連携について、実習施設における具体的な支援内容や看護職の活動について学ぶ。					
達成目標 (達成水準)	1. がん患者とその家族のおかれている状況を包括的にアセスメントし、患者や家族に対して卓越した看護を実践する。 2. がん患者や家族に関わる看護職者を含む医療者に対してコンサルテーションを行う。 3. がん患者や家族に必要なケアが円滑に提供されるために、地域連携を含めた他職種との調整をはかり、ケアをコーディネートする。 4. がん患者や家族特有の倫理的問題や葛藤について、関係する人々の間での倫理的調整を行う。 5. がん患者や家族への看護の質向上を図るための教育活動を実施する。 6. がん看護領域において、専門的知識や技術の向上を目指して実践の場における研究支援を行う。					
授業計画	実習要項：がん看護学実践演習Ⅲを参照（藤田・廣瀬・豊田）					
成績評価 (基準と方法)	達成目標と評価の基準に沿って、到達度の評価を行う。 目標 1,目標 2, 目標 3 について、実習内容（実記録、実習課題レポート、個人カンファレンスなど、(80%)）および自己評価（20%）を通して、総合的に評価を行う。					
教科書	実習の中で適宜、紹介する。 ・中村美鈴、江川幸二監訳：高度実践看護統合的アプローチ第5版、へるす出版、2017。 ・井部俊子、大生定義（監修）専門看護師の臨床推論研究会（編集）：専門看護師の思考と実践、医学書院、2015。 ・佐藤直子：専門看護師制度-理論と実践、医学書院、1999。					
授業外学習 課題 (予習・復習)	実習オリエンテーション時に説明。実習要項に記載 実習施設で行われるがん関連のセミナーやカンファレンスへの参加					
オフィスアワー	随時対応します。メール等で連絡をしてアポイントメントを取ってください。					
備考	*実習施設は学生の臨床経験をふまえ、相談のうえ高知県内のがん診療連携拠点病院で行う。 実習場所：高知医療センター、高知大学医学部附属病院、高知赤十字病院 病棟、外来化学療法室、外科外来、セカンドオピニオン相談外来、がん相談窓口、緩和ケア内科、緩和ケアチーム、地域医療連携室、がん患者サロンほか関連する部署 *実習担当者 高知医療センター（がん看護専門看護師：池田久乃、北添可奈子） 高知大学医学部附属病院（がん看護専門看護師他：弘末美佐、門田麻里、三本芳、小笠原美和） 高知赤十字病院（がん看護専門看護師他：古郡夏子、山本恵里）					

科目名	がん看護学実践演習Ⅳ		英訳科目名	Advanced Practicum in Cancer Nursing Ⅳ			
科目区分			単位数	2	必選区分		
時間割コード	62200047	授業種別		履修年次	2～	開講期間	通年
授業方式			池		永国寺		
履修における注意点			資格・区分等	がん高度実践看護師教育課程：実習科目			
担当教員	2155175	藤田 佐和	所属	看護学科			
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,DP3,DP4 を修得するために重要な科目						
授業教員	藤田・廣瀬・豊田						
授業の概要	<p>1. がんの診断・治療過程を理解し、がん薬物療法に関わる身体管理と治療の遂行に必要な看護援助を行うために卓越した判断能力や直接ケアを行う能力を修得する。また、緩和目的の薬物療法を受けている患者の治療・療養過程全般を管理し、卓越したケアを行う能力を修得する。</p> <p>2. 臨床実習指導医のもとで、がん薬物療法を受ける患者の身体管理方法や有害事象のアセスメント能力を修得し、医師と協働して患者に必要な緩和治療・緩和ケアを高度実践看護師として実施する。</p>						
達成目標 (達成水準)	<p>1. アドバンスドなフィジカルアセスメント、がん病態生理学、がん診断治療学、がん薬理学を学び、看護の視点からがん薬物療法を受ける患者の身体管理と治療遂行支援に必要な臨床判断過程を学ぶ。</p> <p>2. 緩和目的で薬物療法を受ける患者の身体管理と症状緩和に必要な技術を臨床実習指導医の指導のもと実施する。</p> <p>3. 患者の包括的アセスメントに基づきケア(care)とキュア(cure)を統合させた症状緩和のためのケアをエビデンスに基づき立案し、患者の治療・療養過程全般を管理し、卓越したケアを提供する。</p> <p>4. 身体管理と治療・療養支援に有用なプロトコルの開発を行うことができる。</p> <p>5. ケア(care)とキュア(cure)の統合による卓越した看護実践を行う専門職者としての役割を開発する。</p>						
授業計画	実習要項：がん看護学実践演習Ⅳを参照(藤田・廣瀬・豊田)						
成績評価 (基準と方法)	<ul style="list-style-type: none"> ・達成目標と評価基準に沿って、到達度の評価を行う。 ・実習内容(実習記録、実習課題レポート、個人カンファレンスなど、(80%)) および自己評価(20%)を通して、総合的に評価を行う。 						
教科書	<p>〈参考図書〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本がん看護学会教育・研究活動委員会コアカリキュラムワーキンググループ(著)：がん看護 コアカリキュラム，医学書院，2017. ・佐藤禮子(監訳) 日本がん看護学会翻訳ワーキンググループ(訳)：がん化学療法・バイオセラピー看護実践ガイドライン，医学書院，2009. ・日本がん看護学会(監修)：がん看護実践ガイド がん患者へのシームレスな療養支援，医学書院，2015. ・佐藤隆美他：がん治療エッセンシャルガイド改訂第4版，南山堂，2019. 						
授業外学習 課題 (予習・復習)	<p>実習オリエンテーション時に説明。実習要項に記載</p> <p>実習施設で行われるがん関連のセミナーやカンファレンスへの参加</p>						
オフィスアワー	随時対応します。メール等で連絡をしてアポイントメントを取ってください。						
備考	<p>実習日時：臨床実習指導医と相談のうえ、実習期間内に90時間の実習を組み立てる。</p> <p>実習場所：高知医療センター</p> <p>臨床実習指導医：根来裕二(腫瘍内科科長)、島田安博(腫瘍内科)、光岡妙子(緩和ケア内科科長)</p> <p>がん看護専門看護師：池田久乃、北添可奈子</p>						

科目名	がん看護学実践演習 V		英訳科目名	Advanced Practicum in Cancer Nursing V			
科目区分			単位数	2	必選区分		
時間割コード	62200048	授業種別		履修年次	2～	開講期間	後期
授業方式			池		永国寺		
履修における 注意点			資格・区分等	がん高度実践看護師教育課程：実習科目			
担当教員	2155175	藤田 佐和	所属	看護学科			
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,DP3,DP4 を修得するために重要な科目						
授業教員	藤田・廣瀬・豊田						
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. がんの診断・治療過程を理解し、がん放射線療法に関わる身体管理と治療の遂行に必要な看護援助を行うために、卓越した判断能力や直接ケアを行う能力を修得する。また、緩和目的の放射線療法を受けている患者の治療・療養過程全般を管理し、卓越したケアを行う能力を修得する。 2. 臨床実習指導医のもとで、放射線療法を受ける患者の身体管理方法や有害事象のアセスメント能力を身につけ、医師と協働して患者に必要な緩和治療・緩和ケアを高度実践看護師として実施する。 3. 在宅療養支援診療所および連携している訪問看護ステーションでの実習を通して、がん患者の在宅での身体管理や緩和ケアについて学ぶ。 						
達成目標 (達成水準)	<ol style="list-style-type: none"> 1. アドバンスドなフィジカルアセスメント、がん病態生理学、がん診断治療学、がん薬理学を学び、看護の視点からがん放射線療法を受ける患者の身体管理と治療遂行支援に必要な臨床判断過程を学ぶ。 2. 緩和目的でがん放射線療法を受ける患者の身体管理と治療遂行に必要な技術を臨床実習指導医の指導のもと実施する。 3. 在宅療養支援診療所および連携している訪問看護ステーションでの実習を通して、がん患者の在宅での身体管理や緩和ケアの実際を学ぶ。 4. 患者の包括的アセスメントに基づきケア(care)とキュア(cure)を統合させた症状緩和のためのケアをエビデンスに基づき立案し、患者の治療・療養過程全般を管理し、卓越したケアを提供する。 5. 身体管理と治療・療養支援に有用なプロトコルの開発を行うことができる。 6. ケア(care)とキュア(cure)の統合による卓越した看護実践を行う専門職者としての役割を開発する。 						
授業計画	実習要項：がん看護学実践演習Vを参照(藤田・廣瀬・豊田)						
成績評価 (基準と方法)	<ul style="list-style-type: none"> ・達成目標と評価の基準に沿って、到達度の評価を行う。 ・実習内容(実習記録、実習課題レポート、個人カンファレンスなど)(80%)および自己評価(20%)を通して、総合的に行う。 						
教科書	(参考図書) <ul style="list-style-type: none"> ・日本がん看護学会教育・研究活動委員会コアカリキュラムワーキンググループ(著)：がん看護 コアカリキュラム，医学書院，2017. ・唐澤久美子、藤本美生(編集)：がん放射線治療 パーフェクトブック，学研メディカル秀潤社，2016 ・東原正明、近藤まゆみ(編集)：看護 QOL BOOKS 緩和ケア，医学書院，2000. ・日本緩和医療学会(編集)：専門家をめざす人のための緩和医療学(改訂第2版)，南江堂，2019. ・日本がん看護学会(監修)：がん看護実践ガイド がん患者へのシームレスな療養支援，医学書院，2015. 						
授業外学習 課題 (予習・復習)	実習オリエンテーション時に説明。実習要項に記載 実習施設で行われるがん関連のセミナーやカンファレンスへの参加						
オフィスアワー	随時対応します。メール等で連絡をしてアポイントメントを取ってください。						
備考	実習日時：実習指導医・CNSと相談のうえ、実習期間内に90時間の実習を組み立てる。 実習場所：高知医療センター、在宅療養支援診療所(あおぞら診療所高知潮江・かもだの診療所のいずれか)、訪問看護ステーション(高知中央訪問看護ステーション・こうち看護協会訪問看護ステーションのいずれか) 臨床実習指導医：西岡明人(がんセンター長) がん看護専門看護師：池田久乃、北添可奈子 在宅実習指導医：松本務(あおぞら診療所高知潮江・所長)、市川英明(かもだの診療所・院長) 訪問看護ステーション：安岡しずか(高知中央訪問看護ステーション・管理者・在宅看護専門看護師)、山本明子(こうち看護協会訪問看護ステーション・管理者)						

科目名	女性健康看護論		英訳科目名	Theories and Issues in Women's Health Nursing		
科目区分			単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200073	授業種別	履修年次	1～	開講期間	前期
授業方式			池		永国寺	
履修における 注意点			資格・区分等			
担当教員	2175009	渡邊 聡子	所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1 を修得するために重要な科目					
授業教員						
授業の概要	女性の生き方は多様化し、高学歴化・有職化は女性の価値志向や発達課題の変化を引き起こしている。一方で、固定的な性別役割分担意識は依然として残存し、家事や育児の負担が女性側に偏り、負担の多くを女性が担っている。現代社会において次世代を育てるには、地域や社会単位で子育てすることや、性別という概念を超えた子育てが求められている。この授業では、母性・親性、役割・移行、愛着形成などの諸理論や諸概念を学習することを通じて、親になる発達課題を多角的な視点から検討するとともに、現代社会を生きる女性/母親における母性の概念や、親になることへの支援について検討する。					
達成目標 (達成水準)	1. 移行の概念から、生殖年齢にある女性とその家族が新しい家族を形成する過程について説明できる。 2. 役割獲得および愛着の観点から親になる過程を理解するとともに、親になることに伴って生じる生活や健康課題の変化について説明できる。 3. 社会・文化的背景を踏まえ、現代社会を生きる女性/母親における母性の概念および親になることへの支援について考察できる。					
授業計画	第1回:オリエンテーション 「母性」概念の変遷 第2回:移行理論① 第3回:移行理論② 第4回:移行理論の母性看護への活用① 第5回:移行理論の母性看護への活用② 第6回:親になる/母親役割獲得とは① 第7回:親になる/母親役割獲得とは② 第8回:親になる/父親役割獲得とは① 第9回:親になる/父親役割獲得とは② 第10回:親になる/親役割獲得のための支援① 第11回:親になる/親役割獲得のための支援② 第12回:母子関係-愛着形成 第13回:母子関係-情緒的絆/ボンディング 第14回:母子関係-愛着形成不全・ボンディング障害 第15回:まとめ					
成績評価 (基準と方法)	レポート 50% プレゼンテーション 40% 授業への参加度 10%					
教科書	資料の配布、文献の紹介を適宜行う					
授業外学習 課題 (予習・復習)	事前学習:課題に対して主体的な文献学習を行い、討議できるよう授業に臨むこと					
オフィスアワー	開講期間中は随時可能。原則として要予約。					
備考	順番が入れ替わることもあります。 関連する SDGs : 3・5					

科目名	女性健康支援論		英訳科目名	Theories and Issues in Women's Health Promotion		
科目区分			単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200074	授業種別	履修年次	1~	開講期間	後期
授業方式			池	永国寺		
履修における 注意点			資格・区分等			
担当教員	2175009	渡邊 聡子	所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1 を修得するために重要な科目					
授業教員						
授業の概要	女性の心身の状態は各ライフステージに応じて大きく変化するという特性があり、また、生き方やライフスタイルの多様化に伴い女性の健康に関わる問題が変化することから、生涯を通じた女性の健康という視点をもった支援が必要である。ここでは、セクシュアリティ、リプロダクティブ・ヘルス/ライツに影響する現象や社会的背景から、対象を理解する能力を高めるための、主要な概念や理論を学ぶとともに、これらを活用して健康問題/課題を捉え、広範囲な要因から女性の健康に対するヘルスプロモーションを検討する。女性の健康を維持・増進する、正常からの逸脱を予防するため、また、女性が自らの健康を適切に維持・管理するために有用な支援の方法を探索する。また、保健医療サービスと施策、関係法規の現状と課題をふまえ、より良い支援のあり方を洞察する。さらに、倫理的問題などを取り上げ、女性やその家族の健康支援に関する看護の役割を考察する。					
達成目標 (達成水準)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新しい家族を形成する過程にある母子やその家族を含む女性の健康問題に関する最新の知識およびガイドラインに基づく支援を説明できる。 2. EBM/EBN に基づく有用な支援のあり方について考察できる。 3. 女性が自己の健康を適切に維持・管理するための支援方法について考察できる。 4. 母子や女性の健康に関する我が国の保健医療サービスや施策について、他国との比較や事例を通して、その現状と課題を考察できる。 5. 母子や女性の健康に関する倫理的問題について、現状を説明できる。 					
授業計画	第1回:女性の健康とリプロダクティブ・ヘルス/ライツ セクシュアル・ヘルス/ライツ 第2回:セクシュアリティの発達 第3回:思春期の健康課題に関する看護研究の動向と課題 (1) 第4回:思春期の健康課題に関する看護研究の動向と課題 (2) 第5回:思春期の健康課題に関する看護研究の動向と課題 (3) 第6回:成人期・マタニティサイクルにおける健康課題に関する看護研究の動向と課題 (1) 第7回:成人期・マタニティサイクルにおける健康課題に関する看護研究の動向と課題 (2) 第8回:成人期・マタニティサイクルにおける健康課題に関する看護研究の動向と課題 (3) 第9回:成人期・マタニティサイクルにおける健康課題に関する看護研究の動向と課題 (4) 第10回:成人期・マタニティサイクルにおける健康課題に関する看護研究の動向と課題 (5) 第11回:更年期・老年期の健康課題に関する看護研究の動向と課題 (1) 第12回:更年期・老年期の健康課題に関する看護研究の動向と課題 (2) 第13回:更年期・老年期の健康課題に関する看護研究の動向と課題 (3) 第14回:母性・助産看護実践における看護倫理 第15回:女性の健康に関連する政策					
成績評価 (基準と方法)	レポート 60% プレゼンテーション 40%					
教科書	資料の配布および文献の紹介を適宜行う。					
授業外学習 課題 (予習・復習)	課題に対して主体的に文献学習を行い、討議できるよう準備して授業に臨むこと					
オフィスアワー	開講期間中は随時可能。原則として要予約。					
備考						

科目名	子育て包括ケアシステム論		英訳科目名	Theories and Issues in Comprehensive Parentig Care Systems		
科目区分			単位数	1	必選区分	
時間割コード	62200075	授業種別	履修年次	1～	開講期間	後期
授業方式			池	永国寺		
履修における 注意点			資格・区分等			
担当教員	2175009	渡邊 聡子	所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,3 を修得するために重要な科目					
授業教員						
授業の概要	近年、家族規模の縮小化、離婚の増加など妊娠・育児を支える家族機能は弱体化しつつあり、育児不安、社会的ハイリスク妊婦および子どもの虐待などをめぐる問題が深刻化している。また、地域の互助や共助の力にも大きなばらつきがあり、子育て期の親の負担は高まりやすい状況にある。これらを背景に、妊娠期から育児期を通じて質の高いケアが切れ目なく提供される体制の構築や整備が進められてきている。本科目では、個人のニーズに対する直接的で包括的なアプローチに加え、チームアプローチに必要な保健・医療・福祉・教育等の連携のあり方やサービス提供のシステム、福祉サービスの活用方法等について、各分野の専門家を招き最新の知識を得るとともに、複雑な健康課題をもつ子どもと家族を支えるために看護領域で探求すべき課題を明らかにする。さらに、母子保健医療政策、サポートの構築のプロセスを学び、サポートシステムやマネジメントのあり方について洞察する。					
達成目標 (達成水準)	1.子育て包括ケアシステムの現状を説明できる 2.子育て包括ケアシステムを必要とする対象および健康問題を説明できる 3.健全な親子・家族関係を築けるようにするための看護における課題について自分の考えを述べることができる。					
授業計画	第1回:子育て期の母子の健康に関する臨床上の疑問に関する討議 第2回:地域包括ケアシステムの概念、母性看護と地域包括 第3回:医療・保健・福祉の連携の実際と課題 (1) 第4回:医療・保健・福祉の連携の実際と課題 (2) 第5回:子育て包括ケアの実際と課題 (1) 第6回:子育て包括ケアの実際と課題 (2) 第7回:多職種連携と協働の現状と課題 第8回:まとめ 子育て包括ケアの現状と課題について作成したレポートに基づく討議					
成績評価 (基準と方法)	レポート 60% プレゼンテーション 40%					
教科書	資料の配布および文献の紹介を適宜行う。					
授業外学習 課題 (予習・復習)	課題に対して主体的に文献学習を行い、討議できるよう準備して授業に臨むこと。					
オフィスアワー	開講期間中は随時可能。原則として要予約。					
備考						

科目名	女性の健康危機マネジメント論			英訳科目名	Theories and Issues in Women's Health Crisis Management		
科目区分				単位数	1	必選区分	
時間割コード	62200076	授業種別		履修年次	1～	開講期間	後期
授業方式				池	永国寺		
履修における 注意点				資格・区分等			
担当教員	2175009	渡邊 聡子		所属	看護学科		
ディプロマ・ポ リシーとの関連 性	DP1,4 を修得するために重要な科目						
授業教員							
授業の概要	性と生殖に関する健康を享受できること、また、これに関する情報と手段を得ることが認められている。しかしながら、現実には、望まない妊娠、性感染症、性暴力・虐待などが起きている。また、災害などの危機的状況下では、生物学的特性のみならず、社会的要因により弱い立場におかれがちな女性が、妊娠・出産を含む性と生殖に関する健康が脅かされることもある。さらに、グローバル化が進むなか、人々がこれまで以上に国境を越えて移動するようになり、異文化圏における出産や育児を含めて、リプロダクティブ・ヘルス/ライツの享受等に関する問題も生じている。本科目では、健康危機の観点から、リプロダクティブ・ヘルスに関するマネジメントのあり方について洞察する。						
達成目標 (達成水準)	1.リプロダクティブ・ヘルス/ライツに関連する健康危機の状況を説明できる 2.健康危機状況への対応に関する現状を説明できる 3.健康危機状況へのマネジメントにおける看護の課題について自分の考えを述べることができる						
授業計画	第1回:オリエンテーション/母性看護領域における健康の危機状況 第2回:女性と災害 第3回:周産期における災害医療体制と看護活動 第4回:災害後中長期における看護活動 第5回:母子に関わる健康危機の状況に関する臨床上の疑問に関する討議 第6回:フィールドワーク 第7回:健康の危機的状況に対するマネジメントの実際 第8回:健康の危機的状況に対するマネジメントの課題						
成績評価 (基準と方法)	レポート 60% プレゼンテーション 40%						
教科書	資料の配布および文献の紹介を適宜行う。						
授業外学習 課題 (予習・復習)	課題に対して主体的に文献学習を行い、討議できるよう準備して授業に臨むこと。						
オフィスアワー	開講期間中は随時可能。原則として要予約。						
備考							

科目名	母性看護フィールド演習 I			英訳科目名	Maternity Health Nursing Fieldwork I		
科目区分				単位数	1	必選区分	
時間割コード	62200077	授業種別		履修年次	1～	開講期間	後期
授業方式				池		永国寺	
履修における 注意点				資格・区分等			
担当教員	2175009	渡邊 聡子		所属	看護学科		
ディプロマ・ポ リシーとの関連 性	DP5 を修得するために重要な科目						
授業教員							
授業の概要	学生自身の研究課題を明確し、研究デザインの理解を深めるために、文献クリティークならびにフィールドワークを行い、研究課題の明確化に活用する。						
達成目標 (達成水準)	フィールドワークを通して、自己の研究課題を発見し明確化できる能力を養う。						
授業計画	第1回:オリエンテーション リサーチエッセンスと研究デザイン 第2回:質的研究の国内文献クリティーク 第3回:質的研究の海外文献クリティーク 第4回:量的研究の国内文献クリティーク 第5回:量的研究の海外文献クリティーク 第6回:フィールドワーク (1) 第7回:フィールドワーク (2) 第8回:全体を通しての討議・まとめ						
成績評価 (基準と方法)	レポート 60% プレゼンテーション 40%						
教科書	資料の配布および文献の紹介を適宜行う。						
授業外学習 課題 (予習・復習)	課題に対して主体的に文献学習を行い、討議できるよう準備して授業に臨むこと。						
オフィスアワー	開講期間中は随時可能。原則として要予約。						
備考							

科目名	母性看護フィールド演習 II			英訳科目名	Maternity Health Nursing Fieldwork II		
科目区分				単位数	1	必選区分	
時間割コード	62200078	授業種別		履修年次	2～	開講期間	前期
授業方式				池		永国寺	
履修における 注意点				資格・区分等			
担当教員	2175009	渡邊 聡子		所属	看護学科		
ディプロマ・ポ リシーとの関連 性	DP5 を修得するために重要な科目						
授業教員							
授業の概要	母性看護学領域における研究手法の理解を深めるために、文献クリティークならびにデータ収集方法の演習を行う。						
達成目標 (達成水準)	自己の研究課題・目的にそった研究方法ならびに研究手法を明確にし、研究を遂行する能力を養う。						
授業計画	第1回:オリエンテーション 第2回:研究手法の演習/質的研究の文献クリティーク 第3回:面接方法の演習 第4回:参加観察方法の演習 第5回:研究手法の演習/量的研究の文献クリティーク 第6回:質的データ収集方法と分析の演習 第7回:量的データ収集方法と分析の演習 第8回:全体を通しての討議・まとめ						
成績評価 (基準と方法)	レポート 60% プレゼンテーション 40%						
教科書	資料の配布および文献の紹介を適宜行う。						
授業外学習 課題 (予習・復習)	課題に対して主体的に文献学習を行い、討議できるよう準備して授業に臨むこと。						
オフィスアワー	開講期間中は随時可能。原則として要予約。						
備考							

科目名	小児看護論		英訳科目名	Theories and Issues in Child Health Nursing			
科目区分			単位数	2	必選区分		
時間割コード	62200079	授業種別		履修年次	1～	開講期間	前期
授業方式			池		永国寺		
履修における 注意点			資格・区分等	小児看護専攻教育課程 専攻分野専門科目			
担当教員	2155072	中野 綾美	所属	看護学科			
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,5,6 を修得するために重要な科目						
授業教員	中野,高谷,高谷、中野						
授業の概要	小児看護学において基盤となる理論や概念（セルフケア看護論、ストレス・コーピング理論、ファミリーセンタードケア、親子関係論）を学ぶ。小児を取り巻く社会・保健・福祉に関する政策や機構・小児看護の今日的課題を理解し、今後の取組の方向性や政策提言につなぐための方略を検討する。これらを踏まえて、高度実践看護師の役割を開拓していく能力を養う。						
達成目標 (達成水準)	1.小児看護実践において基盤となる主要な理論・概念、および活用方法について理解する。 2.子どもの権利擁護の視点から小児看護の現状を分析し、小児看護の倫理的課題について自らの考えを述べることができる。 3.小児を取り巻く社会・医療を分析し、小児看護の今日的課題および今後の展望について説明することかできる。 4.高度実践看護師として、現状を変革するための政策提言につなぐための方略や方向性について提案する。						
授業計画	第1回:セルフケア看護論の小児看護への活用(1):乳児期・幼児期の子どもの看護への活用(中野) 第2回:セルフケア看護論の小児看護への活用(2):学童期・思春期の子どもの看護への活用(中野) 第3回:子どものストレス・コーピング(1):乳児期・幼児期の子どもの看護への活用(高谷) 第4回:子どものストレス・コーピング(2):学童期・思春期の子どもの看護への活用(高谷) 第5回:ファミリーセンタードケアの小児看護への活用(中野) 第6回:親子関係の発達過程(1):ポルビオの愛着理論(高谷) 第7回:親子関係の発達過程(2):鯨岡の関係発達理論(高谷) 第8回:小児看護学領域の倫理的課題(高谷) 第9回:小児の健康とヘルスプロモーション(中野) 第10回:小児看護の今日的課題(1):児童虐待に関する課題(中野) 第11回:小児看護の今日的課題(2):慢性的な健康障害のある子どもの看護に関する課題(中野) 第12回:小児看護の今日的課題(3):医療的ケアを必要とする子どもの看護に関する課題(中野) 第13回:小児看護の今日的課題(4):子どもの臓器移植に関する課題(高谷) 第14回:小児看護の今日的課題(5):エンドオブライフ期にある子どもと家族に関する課題(中野) 第15回:小児看護の政策提言につなぐための方略(1):子どもに関わる施策や知見の分析と課題の明確化(高谷、中野) 第16回:小児看護の政策提言につなぐための方略(2):チームアプローチや高度実践看護師の役割(高谷、中野)						
成績評価 (基準と方法)	クラス討議への参加度および貢献度(30%)、プレゼンテーション(50%)、レポート(20%)						
教科書	■講義の中で資料の配布および国内外の重要文献の紹介などを適宜行う。 ①ドロセアE.オレム(1991)著/小野寺杜紀(2002):オレム看護論,医学書院、②片田範子編集(2019):こどもセルフケア看護理論,医学書院、③George,BJ(4thEd)/南裕子監訳(2013):看護理論集,日本看護協会出版会、④林峻一郎、R.S.ラザルス著(1999):ストレスとコーピング-ラザルス理論への招待,星和書店、⑤小嶋謙四郎(1984):乳児期の母子関係 アタッチメントの発達第2版,医学書院、⑥J・ボウルビイ著(1979)/作田勉(1981):ボウルビイ母子関係入門,星和書店、⑦鯨岡峻(1999):関係発達論の展開、ミネルヴァ書房、⑧unicef(2019)/世界子ども白書 特別版2010「子どもの権利条約」採択20周年記念、⑨玉井真理子他(2012):子どもの医療と生命倫理、⑩小児保健協会(2011)/小児保健研究第70巻記念号、⑪船戸正久編集(2010)/小児在宅医療の現状と将来 医療従事者と家族のための小児在宅支援マニュアル、メディカ出版、⑫国民衛生の動向(2020)/(財団法人)厚生統計協会、⑬日本看護協会/小児慢疾患患者の退院調整に関する指針、⑭日本小児看護学会(2013):改正臓器移植法の施行に向けた日本小児看護学会の見解、⑮日本救急医学会(2011):臓器提供時の家族対応の在り方、へるす出版、⑯松下正明(2008):チームで行う退院支援、中央法規、⑰井部俊子(2015):専門看護師の思考と実践,医学書院、⑱長江弘子(2018):看護実践にいかすエンド・オブ・ライフケア,日本看護協会出版会、⑲日本小児看護学会(2015):子どもを対象とする看護研究に関する倫理指針、⑳日本小児看護学会(2019):子どものエンドオブライフケア指針その他						
授業外学習 課題 (予習・復習)	:各クラスの事前課題については、別途、説明する。						
オフィスアワー	適宜、学生と時間調整して対応する。						
備考	中野 綾美(高知県立大学大学院看護学研究科) 高谷 恭子(高知県立大学大学院看護学研究科)						

科目名	小児看護対象論		英訳科目名	Perspectives on Comprehensive Nursing Assessments for Children		
科目区分			単位数	2	必修区分	
時間割コード	62200080	授業種別	履修年次	1~	開講期間	前期
授業方式			池	永国寺		
履修における 注意点			資格・区分等	小児看護専攻教育課程 専攻分野専門科目		
担当教員	2155072	中野 綾美	所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,2を修得するために重要な科目					
授業教員	佐東,高谷,中野					
授業の概要	高度実践看護師として必要な子どもに特徴的な身体アセスメント、発達アセスメントの知識・技術を修得する。さらに、子どもを育む家族をアセスメントする知識と技術を修得する。健康問題のある子どもと家族の特徴を理解し、最新の知見を活用して、包括的にアセスメントする知識と技術を強化する。					
達成目標 (達成水準)	1.子どもの身体アセスメントの知識と技術を修得する。 2.子どもの発達アセスメントの知識と技術を修得する。 3.子どものセルフケア能力をアセスメントする知識と技術を修得する。 4.子どもを育む家族をアセスメントする知識と技術を修得する。 5.健康問題のある子どもと家族の特徴を理解し、最新の知見を活用して、包括的にアセスメントする知識と技術を修得する。					
授業計画	第1回:イントロダクション:子どもの身体・発達のアセスメント(佐東) 第2回:臓器のアセスメント(1):頭部・頸部・鼻腔・口腔・視聴覚のアセスメント(佐東) 第3回:臓器のアセスメント(2):循環器系のアセスメント(高谷) 第4回:臓器のアセスメント(3):胸郭・肺・呼吸器系のアセスメント(佐東) 第5回:臓器のアセスメント(4):消化器系(腹部)、栄養のアセスメント(佐東) 第6回:臓器のアセスメント(5):神経、皮膚のアセスメント(佐東) 第7回:子どものフィジカルアセスメントの実際(1):乳児期・幼児期(佐東) 第8回:子どものフィジカルアセスメントの実際(2):学童期・思春期(高谷) 第9回:子どもの発達・セルフケア能力のアセスメント(乳児期・幼児期)(佐東) 第10回:子どもの発達・セルフケア能力のアセスメント(学童期・思春期)(高谷) 第11回:家族アセスメント(1):家族理論の活用(中野) 第12回:家族アセスメント(2):家族看護エンパワーメントモデルの活用(中野) 第13回:事例を用いた包括的アセスメント(1):循環器系(高谷) 第14回:事例を用いた包括的アセスメント(2):呼吸器系(佐東) 第15回:事例を用いた包括的アセスメント(3):消化器系(佐東)					
成績評価 (基準と方法)	クラス討議への参加度および貢献度(50%)、プレゼンテーション(30%)、レポート(20%)					
教科書	■講義の中で資料の配布および国内外の重要文献の紹介などを適宜行う。 ①Karen G.Duderstadt(2018):Pediatric Physical Examination, Mosby Inc. ②Karen G.Duderstadt 著/松島崇浩他翻訳(2020):健康診も深まる!小児の身体診察と情報収集、東京医学社、③小野田千枝子他(2004):こどものフィジカルアセスメント、金原出版、④及川郁子監修(2014):フィジカルアセスメントと救急対応、中山書店、⑤森川昭廣(2013):標準小児科学第8版、医学書院、⑥高松英夫著(2017):標準小児外科学第7版、医学書院、⑦五十嵐隆他(2019):小児科診療ガイドライン-最新の診療指針-第4版、総合医学社、⑧藤義勝監修(2015):ネルソン小児科学原著第19版、エルゼビア・ジャパン、⑨片田範子他(2012):小児医療における病院/在宅/地域をつなぐ高度実践看護師クリニックの構築平成20~23年度科学研究費補助金作成、DVD vol1~10、⑩桃井真里子他編集(2017):ベッドサイドの小児神経・発達の診かた改訂4版、南山堂、⑪藤井克則編集(2020):動画でわかる小児神経の診かた、羊土社、⑫野嶋佐由美:家族の合意形成を支えるケアガイドライン、⑬野嶋佐由美監修:家族エンパワーメントをもたらす看護実践(2005)、へるす出版、⑭日本小児循環器学会編集(2018):小児・成育循環器学、診断と治療社、⑮山岸敬幸他(2021):新先天性心疾患を理解するための臨床心臓発生学、メジカルビュー社、その他					
授業外学習 課題 (予習・復習)	1:DVDによる事前学習 2:DVDによる事前学習 3:DVDによる事前学習 4:DVDによる事前学習 5:DVDによる事前学習 6:DVDによる事前学習 7:DVDによる事前学習 8:DVDによる事前学習 9:事例を用いたアセスメント 10:事例を用いたアセスメント 11:事例を用いた家族アセスメント 12:事例を用いた家族アセスメント 13:第1回~第12回のクラスを統合して、包括的なアセスメントを行う 14:第1回~第12回のクラスを統合して、包括的なアセスメントを行う 15:第1回~第12回のクラスを統合して、包括的なアセスメントを行う					
オフィスアワー	適宜、学生と時間調整して対応する。					
備考	中野 綾美(高知県立大学大学院看護学研究科) 佐東 美緒(高知県立大学大学院看護学研究科) 高谷 恭子(高知県立大学大学院看護学研究科)					

科目名	小児看護方法論 I		英訳科目名	Theories and Interventions in Child Health Nursing I		
科目区分			単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200081	授業種別	履修年次	1~	開講期間	後期
授業方式			池	永国寺		
履修における 注意点			資格・区分等	小児看護専攻教育課程 専攻分野専門科目		
担当教員	2155072	中野 綾美	所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,3,4 を修得するために重要な科目					
授業教員	中野,高谷,佐東,有田					
授業の概要	既存の理論や研究成果を活用して、複雑な健康問題を持つ子どもや家族を包括的にアセスメントするとともに、倫理的な視点から分析し、倫理的判断に基づいて、子どもおよび家族に適した援助方法について探求する。小児医療における高度実践看護師の役割を理解するとともに、チームアプローチを展開することができる能力を修得する。高度実践看護師の6つの機能を駆使して、チェンジエージェントとして貢献することができる基礎的能力を修得する。					
達成目標 (達成水準)	1.理論や先行研究によるエビデンスを活用して、様々な健康レベルの子どもと家族をアセスメントする方法について説明できる。 2.臨床判断と倫理的判断に基づいて専門的知識や研究成果を活用して、看護援助方法を提案できる。 3.高度実践看護師の役割を理解し、どのようにチームアプローチを行うかについて説明できる。 4.高度実践看護師の6つの機能を理解し、チェンジエージェントとして現状を変革する方策を検討することができる。					
授業計画	第1回:イントロダクション/高度実践看護師の役割と必要な能力(中野) 第2回:実践機能(1):急性期の子どものセルフケアの発達を支援する看護介入(高谷) 第3回:実践機能(2):慢性期の子どものセルフケアの発達を支援する看護介入(高谷) 第4回:実践機能(3):子どもとの援助関係を形成するアプローチ(佐東) 第5回:実践機能(4):子どもの対処能力を高める看護介入(高谷) 第6回:実践機能(5):子どもの意思決定を支援する看護介入(有田) 第7回:実践機能(6):子どもの家族をエンパワメントする看護介入(中野) 第8回:相談機能(1):子どもの事例中心のコンサルテーション(有田) 第9回:相談機能(2):小児看護師のコンサルティ中心のコンサルテーション(有田) 第10回:調整機能(佐東) 第11回:小児看護におけるチームアプローチ(有田) 第12回:倫理調整機能(1):日常的な倫理的課題(佐東) 第13回:倫理調整機能(2):救命限界にある子どもの深刻な倫理的課題(有田) 第14回:教育機能(中野) 第15回:研究機能(高谷)					
成績評価 (基準と方法)	クラス討議への参加度および貢献度(40%)、プレゼンテーション(40%)、レポート(20%)					
教科書	■資料の配布および国内外の重要文献の紹介などを適宜行う。 ①日本看護系大学協議会(2008)/看護学教育III 看護実践能力の育成、日本看護協会出版会、②太田喜久子他(2009)/医師と看護師との役割分担と連携の推進に関する研究 平成20年度総括研究報告書、厚生労働科学特別研究事業、③日本学術会議(2011) 高度実践看護師制度の確立に向けてーグローバルスタンダードからの提言ー、④アイリーン・T.オグラディ/中村美鈴他翻訳(2021):高度実践看護師-統合的アプローチ,へるす出版、⑤ドロセアE.オレム(1991)著/小野寺杜紀(2002):オレム看護論,医学書院、⑥片田範子編集(2019):こどもセルフケア看護理論,医学書院、⑦野嶋佐由美:家族の合意形成を支えるケアガイドライン、⑧野嶋佐由美監修:家族エンパワメントをもたらす看護実践(2005)、へるす出版、⑨日本小児看護学会(2010)/小児看護の日常的な臨床場面での倫理的課題に関する指針、⑩細谷亮太他(2008):小児がん チーム医療とトータルケア、中央公論社、⑪水本清久他(2011):実践チーム医療論-実際と教育プログラム、医歯薬出版、⑫及川郁子他(2008):気管切開を行って在宅療養する子どもと家族のケアマニュアル、日本小児看護学会ホームページ、⑬奈良間美保他(2011)/「親子の相互作用に着目した家族主体の小児在宅ケアガイドラインの有用性の検証と活用」小児在宅ケアガイドライン(初版)、平成22~24年度科学研究費基盤研究(B)報告書、⑭及川郁子他(2005):小児慢性疾患患者の退院調整に関する指針、日本看護協会、⑮工藤充子他(2003):看護職のための子どもの虐待予防&ケアハンドブック、日本看護協会、⑯井部俊子(2015):専門看護師の思考と実践,医学書院、⑰井部俊子他(2019):現象学でよみとく専門看護師のコンピテンシー、医学書院、⑱日本小児看護学会(2015)/子どもを対象とする看護研究に関する倫理指針、⑲日本小児看護学会(2019)/子どものエンドオブライフケア指針、その他					
授業外学習 課題 (予習・復習)	:各クラスの事前課題については、別途、説明する。					
オフィスアワー	適宜、学生と時間調整して対応する。					
備考	中野綾美(高知県立大学大学院看護学研究科) 佐東美緒(高知県立大学大学院看護学研究科) 高谷恭子(高知県立大学大学院看護学研究科) 有田直子(高知県立大学大学院看護学研究科)					

科目名	小児看護方法論Ⅱ		英訳科目名	Theories and Interventions in Child Health Nursing II			
科目区分			単位数	2	必選区分		
時間割コード	62200082	授業種別		履修年次	2~	開講期間	前期
授業方式			池		永国寺		
履修における注意点			資格・区分等	小児看護専攻教育課程 専攻分野専門科目			
担当教員	2155072	中野 綾美	所属	看護学科			
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP3,4,5 を修得するために重要な科目						
授業教員	有田,高谷,佐東,中野						
授業の概要	小児の診断治療過程を理解し、ケア (care) とキュア(cure)を統合させた症状マネジメントの統合的アプローチを検討し、展開する能力を養う。 高度実践看護師 (小児看護専門看護師) が、チェンジエージェントとしてシステムを変革し、エビデンスに基づく新たな看護方法を導入して、ケアの質の向上をはかる方法論を修得する。実践と研究のリンケージにより、エビデンスに基づく新たな看護ケア方法を開発する方法論を修得する。						
達成目標 (達成水準)	1.診断治療のプロセスを理解し、症状マネジメントモデルを活用して事例を分析することができる。 2.倫理的判断・臨床判断に基づきケア (care) とキュア(cure)を統合させた症状マネジメントの統合的アプローチを検討し、提案する。 3.チェンジエージェントとしてシステムを変革し、エビデンスに基づく新たな看護方法を導入して、ケアの質の向上をはかる高度実践看護師 (小児看護専門看護師) の方法論を修得する。 4.高度実践看護師による看護外来活動の開設・運営と活動の実際について理解する。 5.実践と研究のリンケージにより、エビデンスに基づく新たな看護ケア方法を開発する方法論を修得する。						
授業計画	第1回:慢性疾患の子どもの症状マネジメントの統合的アプローチ(1)(有田) 第2回:慢性疾患の子どもの症状マネジメントの統合的アプローチ(2)(高谷) 第3回:慢性疾患の子どもの症状マネジメントの統合的アプローチ(3)(佐東) 第4回:小児がんの子どもの症状マネジメントの統合的アプローチ(4)(有田) 第5回:重症心身障がいの子どもの症状マネジメントの統合的アプローチ(5)(有田) 第6回:NICUを退院する子どもの症状マネジメントの統合的アプローチ(6)(佐東) 第7回:手術を受けている子どもの症状マネジメントの統合的アプローチ(7)(高谷) 第8回:集中治療を受けている子どもの症状マネジメントの統合的アプローチ(8)(佐東) 第9回:高度実践看護師(小児看護 CNS)としてシステムを変革するアプローチ(有田) 第10回:子どもの生活を支援する高度実践看護師による外来看護活動(高谷) 第11回:子どものトランジションを支援する高度実践看護師の看護介入(高谷) 第12回:医療的ケアが必要な在宅療養中の子どもと家族の QOL を高める看護介入(佐東) 第13回:実践と看護研究のリンケージによる新たな小児看護方法論の開発(高谷) 第14回:新たな小児看護ケア方法の抽出・開発(1):子どものエンドオブライフケア(中野) 第15回:新たな小児看護ケア方法の抽出・開発(2):小児看護ケア方法(中野) 第16回:新たな小児看護ケア方法の抽出・開発(3):学生が関心を持っている小児看護実践(中野)						
成績評価 (基準と方法)	クラス討議への参加度および貢献度(30%)、プレゼンテーション(50%)、レポート(20%)						
教科書	■講義の中で資料の配布および国内外の重要文献の紹介などを適宜行う。 ①グラディス・L.ハステッド著/藤村龍子他翻訳(2009):臨床実践のための看護倫理-倫理的意思決定のためのアプローチ、医学書院、②ドロセア E.オレム(1999):専門看護制度-理論と実践-医学書院著/小野寺杜紀(2002):オレム看護論、医学書院、片田範子編集(2019):こどもセルフケア看護理論、医学書院、③片田範子他:Translational researchとしての小児の疼痛緩和法の開発、看護研究 Vol.42(6)、2009、医学書院、④片田範子他:研究成果を実践に根付かせるための専門看護師を活用した臨床-研究連携システムの構築、平成17~19年度科学研究費補助金報告書、⑤太田喜久子他:医師と看護師との役割分担と連携の推進に関する研究、厚生労働科学研究費補助金平成20年度総括研究報告書、⑥高井真優美他(2010):アクションリサーチ入門-看護研究の新たなステージへ、ライフサポート社、⑦片田範子他(2012):小児医療における病院/在宅/地域をつなぐ高度実践看護師クリニックの構築平成20~23年度科学研究費補助金報告、資料、⑧外来看護が診療報酬で評価される項目(平成22年)、平成22年日本看護協会業務委員会報告、⑨仁木武他(1995):新版小児の発達栄養行動-摂食から排泄まで/生理・心理・臨床、医歯薬出版、⑩東口高司(2010):JINスペシャル「治る力」を引き出す実践!臨床栄養、医学書院、安立雄一監修(2020):小児気管支喘息治療・管理ガイドライン2020、協和企画、海老澤元宏監修(2018):食物アレルギー診療ガイドライン2016(2018年改訂版)、協和企画、日本アレルギー学会(2019):アレルギー総合ガイドライン2019、協和企画、高増哲也(2012):チームで実践!!小児臨床栄養マニュアル、文光堂、横谷進編集(2016):専門医による新小児内分泌疾患の治療改訂第2版、診断と治療社、日本小児内分泌学会(2018):小児内分泌学会ガイドライン、中山書店、⑪高橋長裕(2011):図解先天性心疾患 血行動態の理解と外科治療、医学書院、⑫日本小児がん学会(2016):小児がん診療ガイドライン2016年版、金原出版、日本小児血液・がん学会(2016):小児白血病・リンパ腫診療ガイドライン2016年版、金原出版、⑬田村正徳他(2004):重篤な疾患を持つ新生児の医療をめぐる話し合いのガイドライン、重症障害新生児医療のガイドライン及びハイリスク新生児の診断システムに関する総合的研究、厚生労働省・成育医療研究委託事業資料、アファフ・イブラヒム・メレイス監修/片田範子監訳(2019):移行理論と看護学研メダイカル秀潤社、井部俊子(2015):専門看護師の思考と実践、医学書院、長江弘子(2018):看護実践にかすエンド・オブ・ライフケア、日本看護協会出版会、日本小児看護学会(2019):子どものエンドオブライフケア指針、数間恵子(2017):The 外来看護-時代を超えて求められる患者支援、日本看護協会出版会、アイリーン T.オグラディ他(2021):高度実践看護師-統合的アプローチ、へるす出版						
授業外学習課題	:各クラスの事前課題については、別途、説明する。						
オフィスアワー	適宜、学生と時間調整して対応する。						
備考	中野綾美(高知県立大学大学院看護学研究科) 佐東美緒(高知県立大学大学院看護学研究科) 高谷恭子(高知県立大学大学院看護学研究科) 有田直子(高知県立大学大学院看護学研究科)						

科目名	小児診断治療学Ⅱ		英訳科目名	Infant Diagnosis and Treatment II		
科目区分			単位数	1	必選区分	
時間割コード	62200084	授業種別	履修年次	1～	開講期間	後期
授業方式			池	永国寺		
履修における 注意点			資格・区分等	小児看護専攻教育課程 専攻分野専門科目		
担当教員	2155310	池田 光徳	所属	看護学科		
ディプロマ・ポ リシーとの関連 性	DP1,2 を修得するために重要な科目					
授業教員	金澤,中田,土本,宮澤,西内,所谷,佐々木,池田					
授業の概要	小児によく見られる代表的な疾患(遺伝疾患・腎疾患・リウマチ・膠原病・小児救急・不慮の事故・アレルギー疾患・超低出生体重児・血液疾患・皮膚疾患など)と治療を理解する。病態生理、症状と徴候を診断して確定する検査・診断のプロセス、治療(薬物療法・栄養療法等)、症状マネジメントについて学ぶ。高度実践看護師として、エビデンスに基づいてケア (care) とキュア(cure)を統合して、看護を実践する能力を修得する。					
達成目標 (達成水準)	1.小児に見られる代表的な疾患について病態を理解し、診断法・治療法を理解する。 2.小児によく見られる症状と徴候について理解し、診断法・治療法・症状マネジメントを理解する。 3.小児に対する薬物療法の原則を修得する。 4.本科目で学習した知識を、小児看護実践に応用できる。					
授業計画	第1回:小児期にみられる代表的な疾患の診断治療のプロセス(1)遺伝疾患(金澤) 第2回:小児期にみられる代表的な疾患の診断治療のプロセス(2)新生児・低出生体重児(中田) 第3回:小児期にみられる代表的な疾患の診断治療のプロセス(3)アレルギー疾患(土本) 第4回:小児期にみられる代表的な疾患の診断治療のプロセス(4)腎疾患(宮澤) 第5回:小児期にみられる代表的な疾患の診断治療のプロセス(5)血液疾患(西内) 第6回:小児期にみられる代表的な疾患の診断治療のプロセス(6)リウマチ・膠原病(所谷) 第7回:小児期にみられる代表的な疾患の診断治療のプロセス(7)小児救急・不慮の事故・外傷(佐々木) 第8回:小児期にみられる代表的な疾患の診断治療のプロセス(8)皮膚疾患(池田)					
成績評価 (基準と方法)	講義中の質疑応答 (70%)、レポート (30%)					
教科書	①福嶋義光他 (2017) : トンプソン&トンプソン遺伝医学第2版、メディカルサイエンスインターナショナル②新川詔夫他 (2020) : 遺伝医学への招待改訂第6版、南江堂③南学正臣編集(2020) : プロフェッショナル腎臓病学、中外医学社④松尾清一他 (2015) : ネフローゼ症候群診療ガイド Q&A 改訂第2版(進行性腎障害診療指針シリーズ)、診断と治療社⑤谷口茂夫 (2011) : 考える腎臓病学、メディカルサイエンスインターナショナル⑥American Heart Association (2016) : BLSヘルスケアプロバイダー受講者マニュアル AHAガイドライン2015準拠、シナジー⑦市川光太郎他 (2019) : 内科医・小児科研修医のための小児救急治療ガイドライン改訂第4版、診断と治療社⑧一般社団法人日本小児アレルギー学会 (2019) : アレルギー総合ガイドライン2019、協和企画⑨日本小児アレルギー学会食物アレルギー委員会経口負荷試験標準化ワーキンググループ (2009) : 食物アレルギー経口負荷試験ガイドライン (2009)、協和企画⑩仁志田博司他 (2018) : 新生児学入門第5版⑪猪谷泰史他 (2015) : 新生児診療マニュアル第6版、東京医学社⑫中村友彦他 (2019) : 長野県立こども病院方式超低出生体重児の管理マニュアル、メジカルビュー社⑬中尾真二他 (2019) : 血液疾患最新の治療 (2020・2022)、南江堂⑭神田善伸他 (2019) : 血液レジデントマニュアル第3版、医学書院⑮押味和夫他 (2011) : 専門医のための薬物療法 Q&A 血液改訂2版、中外医学社⑯清水宏 (2015) : あたらしい皮膚病アトラス、中山書店⑰山崎雄一郎他 (2010) : 全ての診療科で役立つ皮膚診療のコツ-これだけは知っておきたい症例60、羊土社⑱横田俊平他 (2020) : 小児の薬の選び方・使い方改訂第5版小児科医の手の内を公開!、南山堂⑲末廣豊他 (2008) : 小児の皮膚トラブル FAQ、診断と治療社 その他					
授業外学習 課題 (予習・復習)	第1回～8回:※各講義の事前課題として、小児期に見られる疾患別に関する書籍や専門雑誌を各自で検索して読み、講義中のディスカッションに活かすことができるように整理しておく。					
オフィスアワー	池田光徳 (C104研究室) 学生と適宜相談の上、調整する。					
備考	池田光徳(高知県立大学大学院看護学研究科) 西内律雄(高知医療センター)・中田裕生(高知医療センター)・佐々木潔 (高知医療センター) 宮澤真理(高知医療センター)・金澤亜錦(高知医療センター)・土本啓嗣(高知医療センター) 所谷知穂(高知医療センター)					

科目名	小児看護学実践演習 I			英訳科目名	Advanced Practicum in Child Health Nursing I		
科目区分				単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200085	授業種別		履修年次	1~	開講期間	後期
授業方式				池		永国寺	
履修における 注意点				資格・区分等	小児看護専攻教育課程 専攻分野専門科目		
担当教員	2155072	中野 綾美		所属	看護学科		
ディプロマ・ポ リシーとの関連 性	DP1,2,3 を修得するために重要な科目						
授業教員							
授業の概要	<p>実践演習 I では、高度な看護実践の基礎となる子ども、家族、および集団に対する直接ケアを実践する能力の向上に焦点をあてる。</p> <p>様々な健康問題を持つ子どもを受け持ち、子ども、および家族、臨床状況を統合的にアセスメントし、適切な看護介入を実践することにより、高度実践看護師としての基礎的な態度や判断能力、実践能力を修得する。コンサルテーション、教育、倫理調整、調整、研究機能に関しては、ニーズを把握し、倫理的側面に関しては、常に含まれる。実践演習は、小児看護学領域の専任教員のスーパービジョンを受けながら行い、高度実践看護師に必要な卓越した実践能力やケア開発能力を培う。実践演習 I を通して、実践研究課題を追求し、研究につなげる。</p>						
達成目標 (達成水準)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 様々な健康問題を持つ子どもを受け持ち、小児看護の基盤となる理論やエビデンスに基づき、子ども、家族、臨床状況を包括的にアセスメントする能力を修得する。 2. 診断治療過程を理解し、子どもの病状をアセスメントする能力を養う。 3. 子どもや家族が直面する問題を理解する。 4. 子どもや家族に対して、エビデンスに基づく卓越した看護援助方法を実践する。 5. ケアを提供する場（病棟や外来、在宅等）を捉え、組織分析を行い組織の特徴を把握する。 6. 教育、研究、調整、コンサルテーション等の側面については、どのようなニーズがあるのかを把握する。 7. 看護者の倫理的ジレンマについて把握し、共に考える能力を養う。 						
授業計画	小児看護学実践演習 I 要項 参照						
成績評価 (基準と方法)	<p>達成目標と評価の基準に沿って、到達度の評価を行う。</p> <p>実習内容・実習記録・個人カンファレンス・自己評価等（85%）、実習課題レポート（15%）</p>						
教科書	実践演習の中で適宜、紹介する。						
授業外学習 課題 (予習・復習)	別途、説明する。						
オフィスアワー	適宜、学生と時間調整して、対応する。						
備考	<p>中野 綾美(高知県立大学大学院看護学研究科) 有田 直子(高知県立大学大学院看護学研究科) 高谷 恭子(高知県立大学大学院看護学研究科)</p> <p>* 実習病院は学生の臨床経験をふまえ、相談のうえ決定する。</p>						

科目名	小児看護学実践演習 II			英訳科目名	Advanced Practicum in Child Health Nursing II		
科目区分				単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200086	授業種別		履修年次	2~	開講期間	前期
授業方式				池		永国寺	
履修における注意点				資格・区分等	小児看護専攻教育課程 専攻分野科目		
担当教員	2155072	中野 綾美		所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP2,3,4 を修得するために重要な科目						
授業教員							
授業の概要	実践演習 II では、高度実践看護師（小児看護専門看護師）に必要な高度な実践能力、ケア開発能力、調整能力、倫理調整能力、教育能力、相談能力、研究能力の向上に焦点をあてる。 高度実践看護師（小児看護専門看護師）の指導のもとに、実際の高度実践看護師（小児看護専門看護師）の活動を体験し、高度実践看護師としての役割（実践、コンサルテーション、調整、倫理調整、教育、研究）を探究する。						
達成目標（達成水準）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習施設における高度実践看護師(小児看護専門看護師)の位置づけを理解する。 2. 高度実践看護師(小児看護専門看護師)のもつ高度な専門的知識と技術が、実際の場面でのどのように実践されているかを理解する。 3. 高度実践看護師(小児看護専門看護師)の実際の活動の体験を通して、6つの役割機能（実践、コンサルテーション、調整、倫理調整、教育、研究）について洞察を深める。 4. ケアチームの活動を体験し、チームの中で高度実践看護師(小児看護専門看護師)が果たす役割について学ぶ。 5. 小児看護の質向上のために組織の中で取り組んでいる活動について、高度実践看護師(小児看護専門看護師)がどのように展開してきたのか、判断・戦略・具体的な展開方法について学ぶ。 6. 看護師の教育ニーズを分析し、高度実践看護師(小児看護専門看護師)の指導のもとに、教育計画を企画・実施する能力を養う。 						
授業計画	小児看護学実践演習 II 要項 参照						
成績評価（基準と方法）	達成目標と評価の基準に沿って、到達度の評価を行う。 実習内容・実習記録・個人カンファレンス・自己評価等（85%）、実習課題レポート（15%）						
教科書	実践演習の中で適宜、紹介する。						
授業外学習課題（予習・復習）	別途、説明する。						
オフィスアワー	適宜、学生と時間調整して対応する。						
備考	<p>中野 綾美(高知県立大学大学院看護学研究科) 有田 直子(高知県立大学大学院看護学研究科)</p> <p>*実習病院は学生の臨床経験をふまえ、相談のうえ決定する。 *高度実践看護師（小児看護専門看護師）のシャドー実習により学んだ役割機能については、各機能別にレポートを提出する。</p>						

科目名	小児看護学実践演習Ⅲ			英訳科目名	Advanced Practicum in Child Health Nursing III		
科目区分				単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200087	授業種別		履修年次	2～	開講期間	前期
授業方式				池	永国寺		
履修における 注意点				資格・区分等	小児看護専攻教育課程 専攻分野専門科目		
担当教員	2155072	中野 綾美		所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP3,4,5 を修得するために重要な科目						
授業教員							
授業の概要	実践演習Ⅲでは、複雑で対応困難な問題をもつ子どもや家族に対して、専門知識や技術を用いてエビデンスに基づく個別的な看護計画を立案し、看護を実践する。院内教育や病棟看護師への教育、相談、調整、臨床研究の指導、倫理的問題の調整について、介入計画を立案し、実施、評価する。						
達成目標 (達成水準)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 複雑で対応困難な問題をもつ子どもの診断治療過程を理解し、症状マネジメントの方略を検討する。 2. 上記1.を含めて、子どもとその家族のおかれている状況をセルフケア理論や家族看護エンパワーメントモデルを活用し包括的にアセスメントし、子どもとその家族に対して卓越した看護を実践する。 3. 子ども・家族の倫理的問題や倫理的葛藤について、倫理的判断に基づいて調整し、ケアの質の向上を図る。 4. 先行研究や諸理論を活用し、小児や家族への援助技術・援助体系を提案する。 5. 他職種との調整をはかり、ケアのコーディネートをする。 6. 子どもや家族に関わる医療者に対してコンサルテーションを行う。 7. 小児看護領域の専門的知識や技術の向上を目指して実践の場における研究支援を行う。 8. 子どもや家族への看護の質の向上を図るための教育活動を実施する。 						
授業計画	小児看護学実践演習Ⅲ要項 参照						
成績評価 (基準と方法)	達成目標と評価の基準に沿って、到達度の評価を行う。 実習内容・実習記録・個人カンファレンス・自己評価等 (85%)、実習課題レポート (15%) を通して、総合的に評価を行う。						
教科書	実践演習の中で適宜、紹介する。						
授業外学習 課題 (予習・復習)	別途、説明する。						
オフィスアワー	適宜、学生と時間調整して対応する。						
備考	中野 綾美(高知県立大学大学院看護学研究科) 有田 直子(高知県立大学大学院看護学研究科) *実習病院は学生の臨床経験、関心領域をふまえ、相談のうえ決定する。						

科目名	小児看護学実践演習IV			英訳科目名	Advanced Practicum in Child Health Nursing IV		
科目区分				単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200088	授業種別		履修年次	1～	開講期間	後期
授業方式				池		永国寺	
履修における 注意点				資格・区分等	小児看護専攻教育課程 専攻分野専門科目		
担当教員	2155072	中野 綾美		所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,3 を修得するために重要な科目						
授業教員							
授業の概要	実践演習IVでは、子どもによく見られる疾患の理解、および診断・治療の判断過程の理解に基づき、子どもの治療・療養過程全般を管理し、卓越したケアを提供する能力を修得する。小児科医の指導のもとに、病気の子どものアドバンスドな身体症状を査定する能力を修得し、身体管理の方法、および治療による有害事象のアセスメント能力を修得し、医師と協働して、ケア (care) とキュア(cure)を統合させて、症状マネジメントの統合的アプローチを検討し、展開する能力を養う。						
達成目標 (達成水準)	1.子どもによく見られる代表的な疾患や症状について、専門的なケアを提供するために、病態生理、検査およびその結果の解釈をする能力を養う。 2.小児科専門医の指導のもとに、病気の子どものアドバンスドな身体症状の査定を行う。 3.必要な治療法 (薬物療法・栄養療法など) について理解する。 4.介入事例の包括的なアセスメントに基づき、ケア (care) とキュア(cure)を統合させ症状マネジメントの方法を提案し、実践・評価する。						
授業計画	:小児看護学実践演習IV要項 参照						
成績評価 (基準と方法)	達成目標と評価の基準に沿って、到達度の評価を行う。 実習内容・実習記録・個人カンファレンス・自己評価等 (85%)、実習課題レポート (15%) を通して、総合的に評価を行う。						
教科書	必要に応じて、適宜紹介する。						
授業外学習 課題 (予習・復習)	:別途、説明する。						
オフィスアワー	適宜、学生と時間調整して対応する。						
備考	中野綾美(高知県立大学大学院看護学研究科) 有田直子(高知県立大学大学院看護学研究科) * 高知医療センターで開催される、小児科ドクターカンファレンスに、在学期間継続して参加する。(水曜日開催)。						

科目名	小児看護学実践演習 V			英訳科目名	Advanced Practicum in Child Health Nursing V		
科目区分				単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200089	授業種別		履修年次	2～	開講期間	後期
授業方式				池		永国寺	
履修における注意点				資格・区分等	小児看護専攻教育課程 専攻分野専門科目		
担当教員	2155072	中野 綾美		所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP2,4,5 を修得するために重要な科目						
授業教員							
授業の概要	実践演習 V では、実践演習 I から IV の内容を踏まえて、高度実践看護師（小児看護専門看護師）に必要とされる実践能力の統合を目指す。特定の健康問題を選択し、小児外来・病棟のニーズを査定し、実践、調整、相談、倫理調整、教育、研究機能を有機的に駆使して、ケアの質の向上を図る。多職種で協働して、ケア（care）とキュア（cure）を統合させた症状マネジメントの統合的アプローチを実践する。						
達成目標（達成水準）	1. 特定の健康問題に焦点をあて、小児外来・病棟のニーズを査定し、優先順位を判断して、6つの機能（実践・調整・相談・倫理調整・教育・研究）を駆使して、介入計画を立て、実践、評価する。 2. ケア（care）とキュア（cure）を統合させた高度な知識と技術を用いて、子どもと家族が症状マネジメントをしながら生活できるように、症状マネジメントの統合的アプローチを実践する。						
授業計画	小児看護学実践演習 V 要項 参照						
成績評価（基準と方法）	達成目標と評価の基準に沿って、到達度の評価を行う。 実習内容・実習記録・個人カンファレンス・自己評価等（85%）、実習課題レポート（15%）						
教科書	必要に応じて、適宜紹介する。						
授業外学習課題（予習・復習）	別途、説明する。						
オフィスアワー	適宜、学生と時間調整して対応する。						
備考	中野 綾美(高知県立大学大学院看護学研究科) 有田 直子(高知県立大学大学院看護学研究科) *実習病院は学生の臨床経験、関心領域をふまえ、相談のうえ決定する。						

科目名	老人看護論		英訳科目名	Theories and Issues in Gerontological Nursing		
科目区分			単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200090	授業種別	履修年次	1～	開講期間	前期
授業方式			池		永国寺	
履修における 注意点			資格・区分等	老人看護専門看護師必修科目		
担当教員	2155187	竹崎 久美子	所属	看護学科		
ディプロマ・ポ リシーとの関連 性	DP1,5,6 を修得するために重要な科目					
授業教員						
授業の概要	<p>老年学や加齢、老人看護学にまつわる諸理論や概念に関して知識を深め、老人看護学の基盤となる諸理論について、学際的に学ぶ。また、老人看護学における倫理的思考の意義と実際について知識を深め、専門看護師として、倫理的課題への取り組みとケアの質向上に貢献する基盤をつくる。</p> <p>老人看護専門看護師について学び、臨床における諸課題、国内外の社会の動向、教育や研究の現状などを分析・考察することを通して、老人看護専門看護師としての役割について洞察する。</p>					
達成目標 (達成水準)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年観をはじめとした老年学・老人看護学に関する諸理論や概念について、説明できる。 2. 高齢者に起こる諸現象を、人間の成長発達に関する理論や概念、加齢変化に関する理論や概念を用いて説明できる。 3. 幸福観、満足感、QOL や生きがいにに関する理論や概念について説明できる。 4. セルフケア理論、ケアリング理論など、老人にまつわる看護介入に関する概念や諸理論を用いて看護援助を考えることができる。 5. 老人看護学における倫理的思考の意義と実際について説明できる。 6. 老人看護における倫理的諸課題について、当事者のジレンマ、課題の社会的背景などが分析できる。 7. 老人看護の動向と臨床における諸問題、研究の現状を分析し、今後の方向性と老人看護専門看護師としての役割について、自らの考えを述べることができる。 					
授業計画	<p>第1回:老年学と老人看護学に関する諸理論 第2回:幸福観、満足感、QOL や生きがいにに関する理論や概念 第3・4回:人間の成長発達に関する理論や概念(1)(2) 第5・6回:老人ケアにまつわる諸理論 第7・8回:老人に対する看護介入に関する諸理論 第9・10回:老人ケアにおける倫理的思考の意義と実際 第11・12回:老人ケアにまつわる倫理的課題へのアプローチ 第13回:高度実践看護師の役割と社会的使命 第14・15回:老人看護学教育・研究・実践の課題と老人看護高度実践看護師の役割</p>					
成績評価 (基準と方法)	クラス討議への参加度および貢献度(40%)、プレゼンテーション(30%)、レポート(30%)などによって総合的に評価する。					
教科書	Erik H. Erikson, Helen Q. Kivnick, Joan M. Erikson 原著, (朝長 正徳, 朝長 梨枝子 翻訳): 老年期—生き生きしたかかわりあい, みずぎ書房, 新装版版(1997). 他、適宜、提示する。					
授業外学習 課題 (予習・復習)	<p>第3・4回:『老年期』抄読 高齢者へのインタビュー 第5～8回:各自が関心ある現象を表す概念・理論を見だし、精査・分析してくる 第9回以後:各自の実践経験をふり返り、自身の課題について分析する</p>					
オフィスアワー	原則として、講義後。適宜時間調整を行う。					
備考						

科目名	老人看護対象論		英訳科目名	Perspectives on Comprehensive Assessments for Elderly People		
科目区分			単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200091	授業種別	履修年次	1～	開講期間	後期
授業方式			池	永国寺		
履修における 注意点			資格・区分等	老人看護専門看護師必修科目		
担当教員	2155187	竹崎 久美子	所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,2,6 を修得するために重要な科目					
授業教員						
授業の概要	加齢に伴う老人の身体的・精神的・社会的側面の包括的アセスメントや、病的な老いである健康障害とその特徴、高齢者の力を引き出すケアについて、理論や研究結果を活用し知識と技術を深める。また、日常生活や社会生活、身体機能や精神・心理機能、社会的環境や生活環境について、その評価方法を習得し評価結果を看護援助に反映する方法を学ぶ。					
達成目標 (達成水準)	1. 健康障害を有する高齢者の包括的アセスメントを行うと共にケアニーズを明らかにし、理論や研究結果を活用し健康状態を維持・改善するための看護援助方法について修得する。 2. 高齢者の健康障害とその特徴についての知識を深め、環境や個人の機能を評価する方法や、高齢者の力を引き出す看護援助について修得する。					
授業計画	1:Introduction 2-3:高齢者の健康生活評価とアセスメント : 2. 高齢者の健康生活評価及びアセスメントと看護への適用 : 3. 事例検討 4-5:高齢者の心理的機能及びスピリチュアルのアセスメント : 4. 高齢者の心理的機能及びスピリチュアルをアセスメントと看護への適用 : 5. 事例検討 6-7:高齢者の社会的機能とアセスメント : 6. 高齢者の社会的機能のアセスメントと看護への適用 : 7. 事例検討 8-9:高齢者の健康生活を支える環境の構築 10-11:高齢者の健康障害と看護援助 12-13:複雑な健康障害を持つ高齢者への包括的アセスメントと看護援助 14:複雑な健康障害を持つ老人へのチーム医療と専門看護師 15:まとめ					
成績評価 (基準と方法)	クラス討議への参加度および貢献度(40%)、プレゼンテーション(30%)、レポート(30%)などによって総合的に評価する。					
教科書	メアリー・A. マテソン, エリアノール S. マコーネル (小野寺杜紀, 原礼子 翻訳): 看護診断に基づく老人看護学, 1-5, 医学書院 (1992). 他、適宜、提示する。					
授業外学習 課題 (予習・復習)	:本科目は、老人看護実践演習Ⅰにおける実践を踏まえて受講すること。 :各回事前に、該当する健康課題を有したケースについて検討し、ケースの背景とアセスメントについて記載した後、ディスカッションポイントをまとめ、パスワードをかけて教員・受講生全員に配信すること。 :講義後は、実践演習Ⅰで受け持った事例の総合的機能評価を再考すると共に、独自の『高齢者総合的機能評価』の指標が持てるようふりかえって、まとめておくこと。					
オフィスアワー	講義前後で、適宜学生と時間調整する。					
備考						

科目名	老人看護方法論		英訳科目名	Theory-directed Nursing Practices for Elderly People and Family Care-givers		
科目区分			単位数	1	必選区分	
時間割コード	62200092	授業種別	履修年次	2～	開講期間	前期
授業方式			池		永国寺	
履修における 注意点			資格・区分等	老人看護専門看護師必修科目		
担当教員	2155187	竹崎 久美子	所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,5 を修得するために重要な科目					
授業教員						
授業の概要	高齢者の健康障害に伴うケアニーズに対し、高齢者と家族が生活を再構築するための看護援助として、ケアとキュアを統合した高度な専門的看護実践を行うための能力を習得する。また、高齢者と家族への倫理的な判断を考慮した看護実践を行うために、病気に直面した家族や介護を担う家族の状況についても、老人看護の実践・倫理的視点や研究・教育的視点から分析し、多職種と協働するなかでケアマネジメントができる能力を習得する。					
達成目標 (達成水準)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高度実践看護師の基盤となる諸理論および老人看護の専門的なケアとキュアの知識をもとに、複雑な健康障害を持つ高齢者の身体・精神・生活をアセスメントし、高齢者が陥りやすい健康問題への対応あるいは高度な看護判断とケアについて提案することができる。 2. 健康問題を持つ老人を介護する家族について、理論や研究による知見にもとづく方法論を学び、看護実践・倫理的な側面を考慮した看護援助を提案することができる。 					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1: Introduction <ul style="list-style-type: none"> : 高齢者の健康障害に伴い発生しやすいケアニーズについて概観し、老人看護専門看護師が行う高齢者の持つ力を引き出し支える : 高度看護実践の検討。 2: 老人の生活アセスメント 3~4: 老人の健康問題と看護ケア <ul style="list-style-type: none"> : 1) 健康問題を抱える高齢者の生活調整へのアセスメントと看護実践、効果的な看護援助 : 2) 事例検討 5: 老人の健康問題を重症化させる病態への看護ケア 6~7: 老人をケアする家族への看護ケア <ul style="list-style-type: none"> : 1) 健康障害を持つ高齢者をケアする家族への理解と家族の力を高める看護援助 : 2) 事例検討 8: まとめ <ul style="list-style-type: none"> : 健康障害をもつ老人と家族への援助について、学生の関心のある事例について分析し、理論や研究結果を活用し援助計画を立案 					
成績評価 (基準と方法)	クラス討議への参加度および貢献度(40%)、プレゼンテーション(30%)、レポート(30%)などによって総合的に評価する。					
教科書	メアリー A. マテソン, エレアノール S. マコーネル (著), 小野寺杜紀, 原礼子他(訳): 看護診断にもとづく老人看護学 1~5, 医学書院 (1992). 他、適宜提示する。					
授業外学習 課題 (予習・復習)	・本科目は、老人看護実践演習Ⅰ・Ⅱにおける実践を踏まえて受講すること。 ・各回事前に、該当する健康課題を有したケースについて検討し、ケースの背景とアセスメントについて記載した後、ディスカッションポイントをまとめ、パスワードをかけて教員・受講生全員に配信すること。 ・講義後は、実践演習で受け持ったケースについて、ケアの評価を再考し、まとめておくこと。					
オフィスアワー	講義前後で、適宜学生と時間調整する。					
備考						

科目名	老人ケアシステム論		英訳科目名	Theories and Issues in Health Care System for Elderly People		
科目区分			単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200093	授業種別	履修年次	2～	開講期間	前期
授業方式			池		永国寺	
履修における注意点			資格・区分等	老人看護専門看護師必修科目		
担当教員	2155187	竹崎 久美子	所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP2,3,4 を修得するために重要な科目					
授業教員						
授業の概要	国内外における老人にまつわる保健医療福祉制度や政策について学び、個々のケースや臨床現象から、現代社会における施策の現状と課題を分析し、政策提言できる能力を身につけることを目指す。急性期から在宅に至るまで、専門職集団が互いの専門職性を高め、質の高い医療を提供できるようなチーム医療を推進する能力、また必要な医療・ケアが円滑に提供され、高齢者の尊厳を守る倫理的意思決定を行う職種間の協働と、ケアの質保証をはかることができる能力を養う。ケアシステムの構成要素と構築のプロセスについて理解を深め、老人に対するサポートシステムやその他の社会資源を開発・活性化させる能力を養う。					
達成目標(達成水準)	1. 老人に纏わる日本の保健医療福祉制度の変遷と現状について、諸外国の影響を含めて説明する。2. 政策や看護制度の改革が全体の社会政策の中でどのように進められているか、そこでの問題点や課題を文献を通して分析し、説明する。3. 老人ケアに関する保健医療福祉政策の現状と課題を分析し、老人ケアにおける看護の役割と発展の方向性について見解を述べる。4. 様々なチーム医療のとりくみについて分析し、チーム医療における専門看護師の役割について述べる。5. 実践演習を通して行ったチーム医療に関するアプローチについて分析し、評価する。6. 地域または施設内の資源の開発・活性化、ケアシステムの創造・組織化、地域や組織のケアシステムを有機的に連携するためのアセスメントを行う。7. 高齢者及びその家族に対するセルフケアグループやソーシャルサポート、制度や社会資源を活用した関連職種や住民との連携・協働活動を推進する方略について述べる。8. ケアシステムに関する問題点や課題を国内外の文献を通して分析し、探究する。					
授業計画	第1回:老人に関わる社会制度 第2・3回:老人に関わる社会制度の策定と社会の変化 第4・5回:医療制度の変化と看護の役割 第6・7回:「チーム医療」に関する課題分析 第8・9回:「チーム医療」に関する課題分析の実際 第10・11回:老人に関わる社会資源の特徴と現状 第12・13回:システムの評価と開発 第14・15回:システム開発の実際					
成績評価(基準と方法)	クラス討議への参加度および貢献度(40%)、プレゼンテーション(30%)、レポート(30%)などによって総合的に評価する。					
教科書	金川克子・野口美和子編：地域・在宅における高齢者の看護（最新高齢者看護ガイドブック），中央法規，2005。 他、資料の配布および文献の紹介などは適宜行う。					
授業外学習課題(予習・復習)	:本科目は、老人看護実践演習Ⅱ・Ⅲ・Ⅳにおける実践を踏まえて受講すること。 :各回事前に、担当箇所について文献や社会統計など、関連資料を検討した内容とディスカッションポイントについてまとめ、レポートは事前に、パスワードをかけて教員・受講生全員に配信すること。 :講義後は、実践演習で受け持ったケースやフィールドに関する、関連する制度について再考し、まとめておくこと。					
オフィスアワー	講義前後で、適宜学生と時間調整する。					
備考						

科目名	老人看護展開論 I		英訳科目名	Theories and Interventions in Gerontological Nursing I		
科目区分			単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200094	授業種別	履修年次	1~	開講期間	後期
授業方式			池		永国寺	
履修における注意点			資格・区分等	老人看護専門看護師必修科目		
担当教員	2155187	竹崎 久美子	所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1 を修得するために重要な科目					
授業教員						
授業の概要	『老年病診断治療学』で学ぶ、認知症をはじめとした諸疾患の病態や症状、原因による症状の違い、治療法に関する知識を踏まえ、実践演習を通じた自己の介入を振り返りながら、認知症高齢者に対する高度な看護実践が展開できるアセスメント力、看護実践力、ケアの質向上に寄与できる能力を養う。 認知症高齢者の諸症状のアセスメントと、中核症状・周辺症状に対する治療的介入、直接ケアに留まらず、身体的にも複合的な健康障害を持つ認知症高齢者への看護援助や、認知症に類似した症状を呈する他の疾患・症状を見極め、対応する能力を養う。 また介護家族への支援、生活活動や生活環境に関連した社会資源の活用、認知症に纏わる職種間の協働を推進し、ケアの質向上を図れる能力を養う。さらに認知症の早期発見から進行防止に関するセルフケアの指導に至るまで、認知症に纏わる様々な課題と看護援助について推進できる能力を養う。					
達成目標 (達成水準)	1. 認知症に関する病態、諸症状、治療の概要について説明できる。 2. 心理的・身体的・社会的に複雑な状況にある認知症高齢者の健康に纏わる諸症状についてアセスメントできる。(類似疾患との判別、痛み・脱水・低体温・便秘・感染症の兆候、など) 3. 認知症高齢者に対する看護援助について、理論を用いて実際の方法論を述べることができる。 4. 認知症高齢者を介護する家族のケアについて説明できる。 5. 様々な社会資源と職種間連携について、倫理的思考、調整機能、ケアの質改善などの観点から解決する方略について述べるができる。 6. 認知症高齢者の看護の動向と倫理的課題、研究の現状を分析し、現状の課題と今後の方向性について老人看護専門看護師としての自らの考えを述べるができる。					
授業計画	第1回:高齢者と認知機能障害に関する理解 第2回:認知機能障害と評価 第3回:認知症高齢者と看護(1) 第4回:認知症高齢者と看護(2) 第5・6回:認知症高齢者の看護援助の実際 第7・8回:認知症高齢者のセルフケア 第9・10回:認知症高齢者の家族に対する看護援助の実際 第11・12回:認知症高齢者のサポートチームとの協働と看護の役割 第13・14回:老人看護の課題と専門看護師の役割 第15回:まとめ					
成績評価 (基準と方法)	クラス討議への参加度および貢献度(40%)、プレゼンテーション(30%)、レポート(30%)などによって総合的に評価する。					
教科書	日本神経学会 監修：認知症疾患診療ガイドライン 2017、医学書院、2017。 日本精神神経学会認知症委員会 編・著：日本精神神経学会 認知症診療医テキスト、新興医学出版社、2019。 大塚俊男・本間昭 監修：高齢者のための知的機能検査の手引き、ワールドラング、1992。 博野信次：臨床地方学入門—正しい診療正しいリレーション、金芳堂、1991。 室伏君士：老年期痴呆の医療と看護、金剛出版、1996。 他、適宜提示する。他、適宜、提示する。					
授業外学習 課題 (予習・復習)	:本科目は、老人看護実践演習IIにおける実践を踏まえて受講すること。 :各回事前に、担当箇所について文献検討した内容とディスカッションポイントについてまとめ、レポートは事前に、バスワードをかけて教員・受講生全員に配信すること。 :講義後は、実践演習で受け持ったケースについて、ケアの評価を再考し、まとめておくこと。					
オフィスアワー	講義前後で、適宜学生と時間調整する。					
備考						

科目名	老人看護展開論Ⅱ		英訳科目名	Theories and Interventions in Gerontological Nursing II		
科目区分			単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200095	授業種別	履修年次	1～	開講期間	後期
授業方式			池	永国寺		
履修における 注意点			資格・区分等	老人看護専門看護師必修科目		
担当教員	2155187	竹崎 久美子	所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1 を修得するために重要な科目					
授業教員						
授業の概要	健康障害をもつ老人の急性期に生じるさまざまな病態とその影響について包括的アセスメントをおこない、ケアとケアの融合を導くケアについて学ぶ。エビデンスや研究成果を活用し、倫理的な判断を踏まえて、高度な実践活動が展開できる専門的な能力を養う。					
達成目標 (達成水準)	1. 急性期にある高齢者に特徴的な身体・心理社会的状態及び必要な治療や効果・影響について包括的アセスメントをおこない、QOL を維持・向上させるうえでの課題やケアの方法について提案できる。 2. 急性期にある高齢者がその人らしく生きられることを保証するうえでの倫理的課題やケアの方法について提案できる。					
授業計画	1:急性期にある高齢者に生じやすい病態とケアの特徴 2～3:急性期における高齢者へのケア（栄養障害・便秘・下痢を中心に）と事例検討 4～5:急性期における高齢者へのケア（摂食嚥下障害） ： 4. 摂食・嚥下障害をきたす高齢者アセスメントとケア ： 5. 摂食嚥下障害および口腔機能の臨床判断とトレーニング 6～7:急性期における高齢者へのケア（せん妄）と事例検討 8:急性期における高齢者へのケア（意欲低下及び高齢者うつ） 9～10:運動機能障害を起こす高齢者へのアセスメントとケア 11～12:再入院の予防と退院調整のためのアセスメントとケア 13:急性期における高齢者の家族へのアセスメントとケア 14:終末期を迎える高齢者と家族のアセスメントとケア 15:まとめ					
成績評価 (基準と方法)	クラス討議への参加度および貢献度(40%)、プレゼンテーション(30%)、レポート(30%)などによって総合的に評価する。					
教科書	メアリー・A. マテソン, エリアノール S. マコーネル (小野寺杜紀, 原礼子 他訳) : 看護診断に基づく老人看護学 1-5, 医学書院 (1992). 他、適宜提示する。					
授業外学習 課題 (予習・復習)	:本科目は、老人看護実践演習Ⅰ・Ⅱにおける実践を踏まえて受講すること。 :各回事前に、担当箇所について文献検討した内容とディスカッションポイントについてまとめ、レポートは事前に、パスワードをかけて教員・受講生全員に配信すること。 :講義後は、実践演習で受け持ったケースについて、ケアの評価を再考し、まとめておくこと。					
オフィスアワー	講義前後で、適宜学生と時間調整する。					
備考						

科目名	老年病診断治療学Ⅱ		英訳科目名	Diagnosis and Treatment of Geriatric Illness II		
科目区分			単位数	1	必選区分	
時間割コード	62200097	授業種別	履修年次	1～	開講期間	前期
授業方式			池	永国寺		
履修における 注意点			資格・区分等	老人看護専門看護師必修科目		
担当教員	2155187	竹崎 久美子	所属	看護学科		
ディプロマ・ポ リシーとの関連 性	DP1,4を修得するために重要な科目					
授業教員	宮本寛,池田光徳,谷村正信					
授業の概要	高齢者に多い疾患や徴候、症状について、診断治療学的見地から学ぶことを通して、より高度で専門的な看護介入が行えることを目指す。主要な疾患・徴候・症状に関する診断基準や診察方法、諸検査の読み方、あるいは薬物療法について薬理学的見地から学び、標準治療計画や治療中の身体管理に関する留意点などについて学ぶ。また予後に関するリスク管理の知識を学ぶと共に、疾患や徴候・症状の生活行為への影響について知り、スムーズな生活維持を支援することと様々な場面で適切な薬物使用について判断できる能力を養うことを通して、より高度で専門的な看護介入が行えることを目指す。					
達成目標 (達成水準)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者に多く見られる疾患についてその病態・診断法、並びに主要な治療法について修得する。 2. 高齢者に多い徴候、症状について、その病態・診断法、並びに主な治療法と、対処における留意点について修得する。 3. 高齢者に多く見られる疾患や徴候・症状について、急性増悪の予兆や対処法について修得する。 4. 高齢者に対する薬物療法の原則を修得する。 5. 様々な精神神経症状に関する病態・診断法・薬物療法の実際を修得する。 6. 様々な身体疾患とその症状に関する診断・薬物療法の実際を修得する。 					
授業計画	<p>第1・2回:脳血管疾患における診断と薬物療法1(宮本寛) : 運動機能障害、嚥下機能障害の診断(検査)と栄養障害の診断と治療</p> <p>第3・4回:脳血管疾患における診断と薬物療法2(宮本寛) : 高次脳機能障害に伴う諸症状とリハビリ、排泄障害に関する診断と治療</p> <p>第5・6回:スキン・トラブルに関する診断と薬物療法(池田光徳)</p> <p>第7・8回:直腸・膀胱障害に関する診断と薬物療法(谷村正信)</p> <p>※以上の講義内容については、各実践演習における直接ケアの実践において活用し、ケアとキュアを統合すると共に、学内講義を通じたケース検討を通して、さらに理解を深める。 ※『老年病診断治療学Ⅰ・Ⅱ』が終了した後、これらの科目で学んだキュアの知識、並びに各実践演習において担当したケースへのケアとキュアの実際、その他の講義科目を総括して、老人領域の高度実践看護におけるケアとキュアの融合についてクラスで意見交換を行い、各自の考察と自分なりの方略についてレポートにまとめる。</p>					
成績評価 (基準と方法)	クラス討議への参加度および貢献度(40%)、プレゼンテーション(30%)、レポート(30%)などによって総合的に評価する。					
教科書	適宜、提示する。					
授業外学習 課題 (予習・復習)	<p>本科目は、老人看護実践演習における実践を踏まえて受講すること。 各担当教員の単元が終了した後、『老人看護における現状と課題』をまとめ指導教員に提出すること。 また、実践演習で受け持ったケースについて、病態とケアの評価を再考し、まとめておくこと。</p>					
オフィスアワー	講義前後で、適宜学生と時間調整する。					
備考	老人看護学領域の他、慢性看護学、在宅看護学領域学生が受講関連する SDGs : 3					

科目名	老人看護学実践演習 I		英訳科目名	Advanced Practicum in Gerontological Nursing I		
科目区分			単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200098	授業種別	履修年次	1~	開講期間	前期
授業方式			池		永国寺	
履修における 注意点			資格・区分等	老人看護専門看護師必須科目		
担当教員	2155187	竹崎 久美子	所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1 を修得するために重要な科目					
授業教員						
授業の概要	老人看護専門看護師に必要な高度な実践能力とケア開発能力、倫理的判断能力、教育、相談、管理能力、他職種・他組織との連携・調整に関する能力を高めるための基礎として、急性期病院において、複雑で対応困難なケースを受け持ち、老人看護専門看護師である専任教員のスーパーバイズを受けながら、自らのダイレクトケアの課題を整理する。また、自らの実践を臨床に報告（フィードバック）することを通して、ケアの継続やスタッフとの協働・連携に関する能力を養う。					
達成目標 (達成水準)	急性期病院において、下記の実践能力を修得する。 1. 複雑で対応困難な高齢者を受け持ち、ダイレクトケアを通じて加齢に伴う反応と疾病からくる反応を総合的にとらえ、エビデンスに基づく専門的知識と技術もちいて、高齢者に対する効果的な看護ケアの計画立案と実施により問題解決を図る。 2. 複雑で対応困難な高齢者と家族の健康問題及び健康生活をアセスメントし、看護ケアの有効性と課題の分析を行うことができる。 3. 受け持った高齢者のとらえ方、ケア課題、解決のポイントなどについて、スタッフを対象に報告会を行い、ケア課題に関する共有とケアの継続及び教育活動を実施する。					
授業計画	:老人看護学実践演習 I 要項参照					
成績評価 (基準と方法)	実践演習内容(30%)、カンファレンス(20%)、提出物(30%)、その他実習施設における指導者からの評価(10%)、学生自身の自己評価(10%)から総合的に行う。					
教科書	必要に応じて資料を提示する。					
授業外学習 課題 (予習・復習)	:『老人看護論』等を通して、自身の実践経験についてふりかえり、まとめた課題に応じてフィールドを決定する。 :実習後のふり返りは、後期の『老人看護対象論』、M2前期の『老人看護方法論』『老人看護展開論II』においても行う。					
オフィスアワー	講義前後で、適宜学生と時間調整する。					
備考						

科目名	老人看護学実践演習 II			英訳科目名	Advanced Practicum in Gerontological Nursing II		
科目区分				単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200099	授業種別		履修年次	1~	開講期間	後期
授業方式				池		永国寺	
履修における 注意点				資格・区分等	老人看護専門看護師必須科目		
担当教員	2155187	竹崎 久美子		所属	看護学科		
ディプロマ・ポ リシーとの関連 性	DP1,4 を修得するために重要な科目						
授業教員							
授業の概要	老人看護専門看護師に必要な能力の基礎として、認知症高齢者を受け持ち、BPSD を軽減するケア、苦痛緩和や安心できる環境調整、症状コントロールと身体管理、人権擁護の配慮などについて、ダイレクトケアを行う。また同時に、これらの実践を、病棟スタッフと共有することを通してケアの継続やスタッフとの協働・教育的役割が果たせる能力、変革者としての課題を見出す能力を養う。教員のスーパービジョンを受けながら専門性を発展させ、高度看護実践の能力を養う。						
達成目標 (達成水準)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 複雑で対応困難な認知症高齢者を受け持ち、BPSD を軽減するケア、苦痛緩和や安心できる環境調整、症状コントロールと身体管理、人権擁護の配慮といったダイレクトケアを行い、問題解決を図る。 2. ケースのケアを通して、病棟スタッフのニーズを分析し、ケア能力向上に向けた教育プログラムを企画する。 3. 病棟スタッフとともにケアを実践することを通して、スタッフとともにケアの質向上を図る。 						
授業計画	:老人看護学実践演習 II 要項参照						
成績評価 (基準と方法)	実践演習内容(30%)、カンファレンス(20%)、提出物(30%)、その他実習施設における指導者からの評価(10%)、学生自身の自己評価(10%)から総合的に行う。						
教科書	必要に応じて資料を提示する。						
授業外学習 課題 (予習・復習)	:『老人看護展開論 I』等を通して、自身の実践経験についてふりかえり、課題に応じてフィールドを決定する。 :実習後のふり返りは、後期の『老人看護対象論』、『老人看護展開論 I』、M2前期の『老人ケアシステム論』、『老人看護方法論』、『老年病診断治療学 I』後のレポートにおいても行う。						
オフィスアワー	講義前後で、適宜学生と時間調整する。						
備考							

科目名	老人看護学実践演習Ⅲ			英訳科目名	Advanced Practicum in Gerontological Nursing III		
科目区分				単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200100	授業種別		履修年次	2～	開講期間	前期
授業方式				池		永国寺	
履修における注意点				資格・区分等	老人看護専門看護師必修科目		
担当教員	2155187	竹崎 久美子		所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,2を修得するために重要な科目						
授業教員							
授業の概要	老人看護専門看護師に必要な高度な実践能力とケア開発能力、倫理的判断能力、教育、相談、管理能力、他職種・他組織との連携・調整に関する能力を高めるため、老人看護専門看護師の活動の実際を見学し、高度実践看護師について探求する。また、老人看護におけるケアの継続性について理解を深めるために、在宅療養を支援する活動として、訪問看護ステーションにおける看護活動の実際を見学し、急性期病院から施設内において在宅への移行を見据えたケアが展開できる能力を修得する。						
達成目標(達成水準)	老人看護専門看護師の果たす役割機能について、下記の実践能力の習得をめざす。 1. 老人看護専門看護師のシャドー実習を通して、専門看護師が行う6つの役割機能(実践、倫理調整、教育、相談、研究、調整)の実際について理解する。2. 高齢医療およびケアの向上のために、老人看護専門看護師が組織内で行う役割開発及び組織展開及び戦略について学ぶ。3. 老人看護専門看護師として、6つの役割機能を担う上での、自らの課題と解決方法について説明できる。4. 在宅療養を支援する看護活動(訪問看護ステーション)の実際について、急性期病院から退院し医療依存のある高齢者の生活状況、家族の介護負担の状況、在宅支援サービスの実際などの観点から、高齢者の健康状態の維持回復に必要とされる高度看護実践につながるケアについて説明できる。						
授業計画	:老人看護学実践演習Ⅲ要項参照						
成績評価(基準と方法)	実践演習内容(30%)、カンファレンス(20%)、提出物(30%)、その他実習施設における指導者からの評価(10%)、学生自身の自己評価(10%)から総合的に行う。						
教科書	必要に応じて資料を提示する。						
授業外学習課題(予習・復習)	:『老人看護論』等を通して、自身の実践経験についてふりかえり、まとめた課題に応じてフィールドを決定する。 :実習後のふり返りは、M2前期の『老人ケアシステム論』、『老人看護方法論』、『老年病診断治療学Ⅰ・Ⅱ』後のレポートにおいても行う。						
オフィスアワー	講義前後で、適宜学生と時間調整する。						
備考							

科目名	老人看護学実践演習IV			英訳科目名	Advanced Practicum in Gerontological Nursing IV		
科目区分				単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200101	授業種別		履修年次	2~	開講期間	前期
授業方式				池		永国寺	
履修における 注意点				資格・区分等	老人看護専門看護師必須科目		
担当教員	2155187	竹崎 久美子		所属	看護学科		
ディプロマ・ポ リシーとの関連 性	DP1,2,3,4 を修得するために重要な科目						
授業教員							
授業の概要	1. BPSD や新たな健康障害により身体管理が必要となった、複雑で解決困難な問題を持つ認知症高齢者に対して、症状をコントロールしながらその人らしい生活を送れるための看護実践能力を獲得する。 2. 病院や施設およびその看護単位で働く看護職が提供するケア上の課題を明らかにし、コンサルテーション、教育、倫理的問題の調整、チーム医療の中で、多職種との協働及び調整について実施する。						
達成目標 (達成水準)	BPSD や新たな健康障害により複雑な健康問題を持つ認知症高齢者について、包括的アセスメントを行い、適切な看護ケアを、高齢者認知症高齢者および家族に実施し評価できる。また、看護および医学の幅広い先行研究および知見、諸理論に基づき、看護を提案し実践するとともに、医師との協働・連携を行い、治療とケアが連動しケアとキュアの効果がより一層発揮されるように関わる。さらに、認知症高齢者や家族にチーム医療を推進しケアを提供する保健医療福祉職に対し、チーム医療を推進するとともに、コンサルテーション、調整、教育を実施し、連携を図ることができる。これらのなかで、認知症高齢者の尊厳を守るために、高齢者認知症高齢者の意思が反映された倫理的意思決定が行われているか査定するとともに、必要な倫理調整について提案し実施することができる。						
授業計画	:老人看護学実践演習IV要項参照 :						
成績評価 (基準と方法)	実践演習内容(30%)、カンファレンス(20%)、提出物(30%)、その他実習施設における指導者からの評価(10%)、学生自身の自己評価(10%)から総合的に行う。						
教科書	必要に応じて、適宜紹介する。						
授業外学習 課題 (予習・復習)	:『老人看護展開論Ⅰ』等を通して、自身の実践経験についてふりかえり、課題に応じてフィールドを決定する。 :実習後のふり返りは、後期の『老人看護対象論』、『老人看護展開論Ⅰ』、M2前期の『老人ケアシステム論』、『老人看護方法論』、『老年病診断治療学Ⅰ』後のレポートにおいても行う。						
オフィスアワー	講義前後で、適宜学生と時間調整する。						
備考							

科目名	老人看護学実践演習 V			英訳科目名	Advanced Practicum in Gerontological Nursing V		
科目区分				単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200102	授業種別		履修年次	2～	開講期間	後期
授業方式				池		永国寺	
履修における 注意点				資格・区分等	老人看護専門看護師必修科目		
担当教員	2155187	竹崎 久美子		所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,3,4 を修得するために重要な科目						
授業教員							
授業の概要	臨床指導医・老人看護専門看護師・言語聴覚士の指導のもとに、高齢者がおこしやすい疾患や症状についての診断・治療過程を理解し、病状の経過についてのモニタリング、判断、治療の実施における判断について習得する。						
達成目標 (達成水準)	1.高齢者が発症しやすい代表的な疾患や症状について専門的なケアを提供するために、病態生理、検査およびその結果の解釈から診断および病態について推論し、必要な治療方法と回復を導くケアについて理解する。 2.キュアとケアの融合の効果という視点で、高齢者の身体管理と治療上必要となる医療処置を医師の包括的指示または個別指示に基づき実施する。 3.高齢者が発症しやすい代表的な疾患や症状に対して行われる治療を支援し回復を促進するための、ケアプロトコルを開発する。						
授業計画	:老人看護学実践演習 V 要項参照						
成績評価 (基準と方法)	実践演習内容(30%)、カンファレンス(20%)、提出物(30%)、その他実習施設における指導者からの評価(10%)、学生自身の自己評価(10%)から総合的に行う。						
教科書	必要に応じて、適宜紹介する。						
授業外学習 課題 (予習・復習)	:『老人看護展開論Ⅱ』等を通して、自身の実践経験についてふりかえり、課題に応じてフィールドを決定する。 :実習後のふりかえりは、2年間に学んだすべての講義、実践演習を統合して行う。						
オフィスアワー	講義前後で、適宜学生と時間調整する。						
備考							

科目名	精神看護論		英訳科目名	Theories and Issues in Psychiatric Mental Health Nursing			
科目区分			単位数	2	必選区分		
時間割コード	62200103	授業種別		履修年次	1～	開講期間	後期
授業方式			池		永国寺		
履修における 注意点			資格・区分等	精神看護専攻教育課程 専攻分野専門科目			
担当教員	2155278	田井 雅子	所属	看護学科			
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,3,4 を修得するために重要な科目						
授業教員							
授業の概要	<p>第1回～第7回では、精神看護学の動向、精神看護学における理論や研究の動向、精神看護の動向について倫理的配慮をふまえて分析し洞察を深める。精神障害者と社会との関わり、医療との関わりを歴史的に展望し、現代の課題を明らかにする。精神保健福祉の制度や体制に関する基本的な知識を習得し、社会の動向をふまえてそのニーズの変化に対応できる精神看護領域における専門看護師としての能力を高める。</p> <p>第8回～第15回では、多様な対象者に対して、様々な場において精神の健康を促進するための方略や視点について学習し、精神看護の機能や役割を開発していく能力を修得する。また、精神保健福祉システムの中で看護が担うべき役割及び、精神看護 CNS の6つの機能・役割について学び、CNS としての精神看護援助方法を開発する能力を養う。さらに精神医療の直面している課題を解決するための精神看護 CNS の役割・機能や援助方法を学ぶ。</p>						
達成目標 (達成水準)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護学の中での精神看護学の位置づけや、精神看護学の基礎となる理論や概念に対する理解を深め、精神看護学の将来の方向性を考案する。 2. 精神看護学の研究の動向と課題を明らかにし、更なる精神看護の研究が発展するための方策を考案する。 3. 精神障害者と社会のかかわり、精神障害者と医療のかかわりを歴史的に展望し、現在の課題を明らかにする。 4. 精神医療体制の動向（過去－現在－将来）を展望し、現在の課題を明らかにする。 5. 精神看護 CNS の6つの役割・機能について学び、CNS としての具体的な活動を計画する。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1:精神看護学の基盤となる理論や概念 2:精神看護に影響を与えた臨床家・理論①：欧米諸国編 3:精神看護に影響を与えた臨床家・理論②日本編 4:精神看護学領域での研究の動向と課題 5:精神看護学を構成する概念の抽出 6:精神科医療体制と法的な変遷 7:精神科医療制度・政策の課題－政策提言などの看護師の役割 8:精神保健福祉システムの中での精神看護 CNS の役割 9:精神保健福祉システムの中での CNS の役割：卓越した実践と直接ケアの提供 10:精神保健福祉システムの中での CNS の役割：連携を支える調整の方略 11:精神保健福祉システムの中での CNS の役割：チーム医療を支える調整の方略 12:精神保健福祉システムの中での CNS の役割：コンサルテーション機能を果たすための方略 13:精神保健福祉システムの中での CNS の役割：倫理的調整を行うための方略 14:精神保健福祉システムの中での CNS の役割：教育的機能を果たすための方略 15:精神保健福祉システムの中での CNS の役割：Change Agency 						
成績評価 (基準と方法)	プレゼンテーションの内容 (50%)、レポート (30%)、クラス討議への貢献度 (20%) などによって、総合的に評価する。						
教科書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小俣和一郎：近代精神医学の成立－「鎖解放」からナチズムへ、人文書院 2. 八木剛平、田辺英：日本精神病治療史、金原出版 3. 岡田靖雄：日本精神科医療史、医学書院 4. 浦野シマ：日本精神科看護史、牧野出版 5. 浅井邦彦：日本の精神科医療－国際的視点から、ライフサイエンス 6. Winifred Z. Kennedy, Karen A. Ballard, Patricia G. O'Brien: Psychiatric Nursing: An Integration of Theory and Practice (Mcgraw-Hill Nursing Core Series), Mcgraw-Hill (Tx) 7. Patricia G. O'Brien, Winifred Z. Kennedy, Karen A. Ballard: Psychiatric Mental Health Nursing: An Introduction to Theory and Practice, Jones & Bartlett Pub: 1版 8. 宇佐美しおり、野末聖香：精神看護スペシャリストに必要な理論と技法、日本看護協会出版会 						
授業外学習 課題 (予習・復習)	<p>:各講義内容に関する文献検討およびプレゼンテーション資料作成</p> <p>:全講義終了後、CNS の役割に関するレポート作成</p>						
オフィスアワー	学生と時間調整し適宜対応する						
備考							

科目名	精神看護対象論		英訳科目名	Perspectives on Comprehensive Nursing Assessments for Psychiatric Patients		
科目区分			単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200104	授業種別	履修年次	1~	開講期間	前期
授業方式			池		永国寺	
履修における 注意点			資格・区分等	精神看護専攻教育課程 専攻分野専門科目		
担当教員	2155278	田井 雅子	所属	看護学科		
ディプロマ・ポ リシーとの関連 性	DP1,5 を修得するために重要な科目					
授業教員						
授業の概要	<p>精神の健康の評価を身体（脳）と精神という視点から包括的に査定するために必要な理論等を学び、対象者の精神の健康や生活を包括的に査定する能力を高め、その査定に基づいた看護援助方法を修得する。査定に関しては、第1～3・8～12回において、精神分析理論、ストレス・適応理論など精神看護の分野で用いられている理論を理解し、その理論に基づいて実際のケースを分析していくことによって、対象者の精神機能や生活機能を査定する能力を養う。また、脳機能の障害としての精神疾患の捉えや、ストレスによって生じる身体の変調、精神疾患と併存する身体疾患について学び、身体（脳）と精神という視点から包括的にアセスメントを行う能力を養う。さらに、DSM-5やICD-10などの診断基準やMental Status Examinationなどを用いて疾患や精神症状を査定する能力を育成する。援助方法に関しては、第4～5・6～7・13～15回において、セルフケア理論を理解し、対象者の自我機能を保護し強化していく看護援助方法やセルフケア能力を維持し強化する看護援助方法、身体状態や精神症状の状態を考慮した看護援助方法など、対象者に即した援助方法について事例を用いて検討・計画し、アセスメントに基づいた適切な看護援助方法を提供する能力を高める。</p>					
達成目標 (達成水準)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神看護で活用される理論を用いて、対象を査定し、査定に基づいた看護介入について計画できる。 2. 精神機能を脳機能の視点から説明し、脳研究の知見をふまえた看護介入を計画できる。 3. 診断基準およびアセスメントツールを用いて、精神機能、生活機能、社会的機能を統合的に査定できる。 4. 心身の相関関係について説明でき、心身相関をふまえた看護介入について検討できる。 5. 対象の理解や支援に関する他領域の理論と比較し、精神看護における理論基盤について説明できる。 					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1:精神力動に関する理論の理解 2:精神力動に関する理論の精神科看護での活用 3:ストレス・適応理論の理解と活用 4:発達理論の理解と活用 5:セルフケア理論の理解とアセスメント 6:セルフケア理論に基づく看護介入方法 7:対人関係理論の理解と活用 8:脳の機能に関する知見と理解 9:ストレスによる身体の変調に関する理解と活用 10:精神疾患に併存する可能性のある身体疾患 11:Mental-status-examination・診断基準についての理解とアセスメント① 12:Mental-status-examination・診断基準を使ったアセスメントの演習② 13:Mental-status-examination・診断基準を使ったアセスメントの演習③ 14:他の専門領域で用いられている理論の理解と看護の独自性 15:事例の査定と看護展開計画の演習 					
成績評価 (基準と方法)	プレゼンテーションの内容（40%）、レポート（30%）、クラス討議への貢献度（20%）、演習の参加状況（10%）などによって、総合的に評価する。					
教科書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 粕田孝行：セルフケア概念と看護実践-Dr. P. R. Underwoodの視点から、へるす出版 2. 野嶋佐由美、粕田孝行、宇佐美しおり：セルフケア看護アプローチ-理論と実践-そして創造、日総研出版 3. 南裕子：実践オレム-アンダーウッド理論 ころを癒す、講談社 4. 古川壽亮、神庭重信：精神科診察診断学-エビデンスからナラティブへ、医学書院 5. ベンジャミン・J. サドック、バージニア・A. サドック（編著）、井上合一、四宮滋子、田宮 聡（訳）：カプラン臨床精神医学テキスト DSM-5 診断基準の臨床への展開第3版、メディカルサイエンスインターナショナル 6. American Psychiatric Association（著）、高橋三郎、大野裕、染矢俊幸、他（翻訳）：DSM-5 精神疾患の分類と診断の手引、医学書院 7. 融道男、小見山実、大久保善朗、中根允文、岡崎祐士（翻訳）：ICD-10 精神および行動の障害-臨床記述と診断ガイドライン、医学書院 8. Cプレナー 山根常男他（訳）：精神分析の基礎理論、誠信書房 9. サリバン 中井久夫他（訳）：精神医学は対人関係論である、みすず書房 10. Hスィーガル 山崎徹也他（訳）：メラニー・クライン入門、実務教育出版 11. 土居健郎：精神分析と精神病理 第2版、医学書院 12. リタ・カーター（著） 藤井留美（訳）：脳と心の地形図-思考・感情・意識の深淵に向かって-、原書房 13. リタ・カーター（著） 藤井留美（訳）：脳と意識の地形図、原書房 14. 池谷裕二（監修）：大人のための図鑑ジュエル版 脳と心のしくみ、新星出版社 15. 姫井照男：精神科の薬がわかる本第4版、医学書院 16. 長嶺敬彦：抗精神病薬の「身体副作用」がわかる、医学書院 17. 長嶺敬彦：予測して防ぐ抗精神病薬の「身体副作用」、医学書院 18. ホーカン・ヨアソン：ストレスと筋疼痛障害、名古屋大学出版会 					
授業外学習 課題 (予習・復習)	各講義内容に関する文献検討およびプレゼンテーション資料作成 資料は講義前日までに教員および講義参加者に配布のこと :レポート（全講義終了後）					
オフィスアワー	講義日の18時まで					
備考						

科目名	精神看護方法論 I		英訳科目名	Theories and Interventions in Psychiatric Mental Health Nursing I		
科目区分			単位数	1	必選区分	
時間割コード	62200105	授業種別	履修年次	1~	開講期間	後期
授業方式			池		永国寺	
履修における 注意点			資格・区分等	精神看護専攻教育課程 専攻分野専門科目		
担当教員	2155278	田井 雅子	所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,3 を修得するために重要な科目					
授業教員						
授業の概要	精神看護高度実践看護師としての独自の精神看護援助方法を確立し、発展させていく能力を養うために、エビデンスに基づいた有効な治療、看護介入の技法を学ぶ。個人と集団、療養環境に焦点を当て、精神看護の介入方法を修得していく。既存の研究を活用し、その有効性を評価する。特に、このクラスでは行動療法とリラクゼーション技法、心理教育、認知行動療法、支持的精神療法などのケアの技法に関する知識と技術を学ぶ。					
達成目標 (達成水準)	1. 行動療法とリラクゼーション技法、心理教育、認知行動療法、支持的精神療法などのケアの技法に関する知識と技術を修得する。 2. 行動療法とリラクゼーション技法、心理教育、認知行動療法、支持的精神療法などの治療、ケアの技法の目的、適応対象、技術、評価方法を説明できる。 3. 行動療法とリラクゼーション技法、心理教育、認知行動療法、支持的精神療法を、事例や看護場面へ適用する計画を立案し、実習で活用できるようになる。					
授業計画	1:精神領域で用いられる看護介入技法の分類と構造 2:行動療法 3:リラクゼーション法 4:心理教育 5:認知行動療法 6:支持的精神療法 7:環境療法 8:精神領域で用いられる看護介入技法の事例への適用					
成績評価 (基準と方法)	演習の参加状況 (50%)、クラス討議への貢献度 (30%)、プレゼンテーションの内容 (20%) などによって、総合的に評価する。					
教科書	1. 坂田三允総編集：精神看護エキスパート 13 精神看護と関連技法、中山書店 2. 土居健郎：方法としての面接—臨床家のために、医学書院 3. 神田橋條治：精神療法面接のコツ、岩崎学術出版社 4. ジュディス・S.ベック(著)、伊藤絵美、神村栄一、藤沢大介(翻訳)： 認知療法実践ガイド基礎から応用まで—ジュディス・ベックの認知療法テキスト、星和書店 5. 大野裕：認知療法・認知行動療法 治療者用マニュアルガイド、星和書店 6. Matthew McKay, Jeffrey C.Wood, Jeffrey Brantley(著)、遊佐安一郎、荒井まゆみ(翻訳)： 弁証法的行動療法 実践トレーニングブック-自分の感情とよりうまくつきあってゆくために、星和書店 7. 松田光信：看護師版統合失調症患者心理教育プログラムの基礎・実践・理論、金芳堂 8. 後藤雅博：家族心理教育から地域精神保健福祉まで、金剛出版 9. 大野裕：動画で学ぶ 支持的精神療法入門、医学書院 10. Jon Kabat-Zinn (著)、春木豊(翻訳)：マインドフルネスストレス低減法、北大路書房 11. ヤーコ・セイッコラ、トム・エーリク・アーンキル (著)、高木俊介、岡田愛 (翻訳)：オープンダイアログ、日本評論社 12. 堀越勝、野村俊明 (著)：精神療法の基本 支持から認知行動療法まで、医学書院 ※他適宜紹介する。					
授業外学習 課題 (予習・復習)	:各講義内容に関する文献検討およびプレゼンテーション資料作成 当該内容に関する文献等を事前学習し、学習を振り返り整理する。 :資料は講義前日までに教員および講義参加者に配布のこと。					
オフィスアワー	講義後 18 時まで					
備考						

科目名	精神看護方法論Ⅱ		英訳科目名	Theories and Interventions in Psychiatric Mental Health Nursing II		
科目区分			単位数	1	必選区分	
時間割コード	62200106	授業種別	履修年次	2～	開講期間	前期
授業方式			池	永国寺		
履修における 注意点			資格・区分等	精神看護専門看護師必修科目		
担当教員	2155278	田井 雅子	所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,2,3 を修得するために重要な科目					
授業教員						
授業の概要	個人と療養環境に焦点を当て、精神看護の介入方法、ケアのマネジメント方法、チーム医療促進方法について学ぶ。入院から退院まで、さらに退院後、地域においても必要な精神科のケースマネジメントやそのなかでのチーム医療の展開について学ぶ。事例を通して、その知識・技術の臨床への適応を具体的に考察することを通して、個人およびグループに対する精神看護の高度な実践能力を養う。					
達成目標 (達成水準)	1.診断治療のプロセスを理解し、臨床判断に基づきケアとキュアを融合し、ケアの質の向上をはかることについて説明できる。 2.ケアマネジメント、ケースマネジメント、チーム医療を促進する能力を修得する。					
授業計画	1:症状マネジメント：診断・治療のプロセスとケアの融合① 2:生活支援：セルフケア、生活モデルによる看護支援と精神治療の融合② 3:自我、対人関係支援：精神力動による看護支援と精神治療の融合③ 4:ケアマネジメント 5:ケースマネジメント 6:チーム医療促進方法 7:地域-病院への移行、地域生活支援 8:新たな精神看護ケア方法の開発					
成績評価 (基準と方法)	プレゼンテーションの内容 (70%)、クラス討議への貢献度 (30%) などによって、総合的に評価する。					
教科書	1. 坂田三允総編集：精神看護エキスパート13 精神看護と関連技法、中山書店 2. 宇佐美しおり、野末聖香：精神看護スペシャリストに必要な理論と技法、日本看護協会出版会 3. 坂田三允他：精神看護エキスパート9 ケアの評価とナースサポート、中山書店 4. チャールズ・A・ラップ (著)、江畑敬介 (監訳)：精神障害者のためのケースマネジメント、金剛出版 5. U・トレンクマン他：早期症状マネジメント精神分裂病再発予防のために 治療者用ハンドブック、星和書店 6. 山本賢司：精神科領域のチーム医療実践マニュアル、新興医学出版社 7. 井上新平、安西信雄、池淵恵美：精神科退院支援ハンドブック ガイドラインと実践的アプローチ、医学書院 8. 小林 (清重) 知子 (著)：WRAP(元気回復プラン)のプログラム評価研究 リカバリーを促進するセルフヘルプツールの包括的検証 ※他適宜紹介する。					
授業外学習 課題 (予習・復習)	:各講義内容に関する文献検討および資料作成-資料は講義前日までに教員および講義参加者に配布のこと :レポート (全講義終了後)					
オフィスアワー	学生と時間調整し適宜対応する					
備考						

科目名	精神看護展開論 I		英訳科目名	Nursing Assessments and Interventions for Psychiatric Patients I		
科目区分			単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200107	授業種別	履修年次	2~	開講期間	前期
授業方式			池	永国寺		
履修における 注意点			資格・区分等	精神看護専攻教育課程 専攻分野専門科目		
担当教員	2155278	田井 雅子	所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,3,4 を修得するために重要な科目					
授業教員						
授業の概要	精神看護専門看護師の専攻分野専門科目として、救急・急性期精神看護領域における高度な看護実践の能力を育成する。救急・急性期精神看護領域における理論と、エビデンスに基づいた看護実践、アセスメント、看護介入について学ぶ。そのうえで、救急・急性期精神看護領域での、相談、調整、倫理調整、教育の機能を果たすために必要となる理論と技術を学ぶ。この領域の問題解決に向けた看護援助を展開する能力を修得する。					
達成目標 (達成水準)	1.救急・急性期精神看護専門看護師としての役割・機能を社会的文脈の中で捉えるとともに、現状と将来のあるべき方向性を論じることができる。 2.救急・急性期精神看護領域での主要な治療等を選び、臨床的推論を学び、具体の事例に活用できる。 3.救急・急性期精神看護専門看護師として、対象のアセスメント及び看護介入、援助技術を学び、事例・状況に適切に対応することができる。 4.救急・急性期精神看護専門看護師として、相談、調整、倫理調整、教育機能を担うことのできる知識と技術を学び、事例・状況に適切に対応することができる。					
授業計画	1:救急・急性期精神看護領域の発展の歴史と現状 2:救急・急性期精神看護における法の運用 3:救急・急性期精神看護の機能と役割 4:救急・急性期精神看護で遭遇する状態像の査定と対応 5:救急・急性期精神看護で遭遇する状態像の査定と対応 6:救急・急性期精神看護におけるフィジカルアセスメント 7:救急・急性期精神看護領域での援助関係の構築の課題と対応 8:救急・急性期精神看護における対応困難事例の看護介入 9:救急・急性期精神看護における対応困難事例の看護介入 10:救急・急性期精神看護における対応困難事例の看護介入 11:救急・急性期精神看護で生じる倫理的葛藤とその対応 12:救急・急性期精神看護における調整 13:救急・急性期精神看護における家族への看護介入 14:ケアプロトコルの作成 15:ケアプロトコルの作成					
成績評価 (基準と方法)	演習の参加状況 (50%)、クラス討議への貢献度 (30%)、プレゼンテーション (20%) などによって、総合的に評価する。					
教科書	1. 阿保順子：回復のプロセスに沿った精神科救急・急性期ケア、精神看護出版 2. 「精神科治療学」編集委員会編：精神科救急ガイドライン、星和書店 3. 精神科救急医療ガイドライン 2015 年版、へるす出版 4. 田中美恵子（編著）：自殺の看護、えびか書房 5. David A. Jobes（著）、高橋祥友（訳）：CAMS 自殺の危険のマネジメント 治療者と患者の協働、金鋼出版 6. 岡田実：暴力と攻撃への対処—精神科看護の経験と実践知、すびか書房 7. 坂田三允総編集：精神看護エキスパート 6 救急・急性期 I 統合失調症、中山書店 8. 坂田三允総編集：精神看護エキスパート 7 救急・急性期 II 気分障害・神経症性障害・PTSD・せん妄、中山書店 9. 坂田三允総編集：精神看護エキスパート 11 精神看護と家族ケア、中山書店 10. 坂田三允総編集：精神看護エキスパート 17 精神看護と法・倫理、中山書店 11. 坂田三允総編集：精神看護エキスパート 19 患者の安全を守る看護技術、中山書店 ※他適宜紹介する。					
授業外学習 課題 (予習・復習)	課題文献に関する事前学習、プレゼンテーションの資料の作成 :レポート (全講義終了後)					
オフィスアワー	学生と時間調整し適宜対応する					
備考	・第 13 回は、「家族看護方法論 II」のクラスで家族アセスメント・援助計画の立案を行った救急・急性期精神看護の実践で介入する家族の事例について、ロールプレイなどを行う。					

科目名	精神看護展開論Ⅱ		英訳科目名	Nursing Assessments and Interventions for Psychiatric Patients II		
科目区分			単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200108	授業種別	履修年次	2～	開講期間	前期
授業方式			池	永国寺		
履修における 注意点			資格・区分等	精神看護専攻教育課程 専攻分野専門科目		
担当教員	2155278	田井 雅子	所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,3,4 を修得するために重要な科目					
授業教員						
授業の概要	精神看護専門看護師の専攻分野専門科目として、慢性期精神看護領域における高度な看護実践の能力を育成する。慢性期看護領域における理論と、エビデンスに基づいた看護実践、アセスメント、看護介入について学ぶ。そのうえで、慢性期看護領域での、相談、調整、倫理調整、教育の機能を果たすために必要となる理論と技術を学ぶ。この領域の問題解決に向けた看護援助を展開する能力を修得する。					
達成目標 (達成水準)	<ol style="list-style-type: none"> 慢性期精神看護領域における精神看護専門看護師としての役割・機能を社会的文脈の中で捉えるとともに、現状と将来のあるべき方向性を論じることができる。 慢性期精神看護領域での主要な治療等を学び、臨床的推論を学び、具体の事例に活用できる。 慢性期精神看護領域における精神看護専門看護師として、対象のアセスメント及び看護介入、援助技術を学び、事例・状況に適用することができる。 慢性期精神看護領域における精神看護専門看護師として、相談、調整、倫理調整、教育機能を担うことのできる知識と技術を学び、事例・状況に適用することができる。 					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 慢性期精神看護領域の発展の歴史と現状 慢性期精神看護の機能と役割 慢性期精神看護における対応困難な事例についての査定とその対応 慢性期精神看護における対応困難な事例についての査定とその対応 慢性期精神看護における対応困難な事例についての査定とその対応 慢性期精神看護領域での援助関係の構築の課題と対応 慢性期精神看護で必要な援助技術 慢性期精神看護で必要な援助技術 慢性期精神看護で必要な援助技術 慢性期精神看護に関連する施策や取り組み 慢性期精神看護の実践で生じる倫理的葛藤とその対応 慢性期精神看護での調整 慢性期精神看護における家族への看護介入 ケアプロトコルの作成 ケアプロトコルの作成 					
成績評価 (基準と方法)	演習の参加状況 (50%)、クラス討議への貢献度 (30%)、プレゼンテーション (20%) などによって、総合的に評価する。					
教科書	<ol style="list-style-type: none"> 坂田三允総編集：精神看護エキスパート 4 長期入院患者の社会参加とアセスメントツール、中山書店 坂田三允総編集：精神看護エキスパート 5 精神リハビリテーション看護、中山書店 坂田三允総編集：精神看護エキスパート 11 精神看護と家族ケア、中山書店 坂田三允総編集：精神看護エキスパート 17 精神看護と法・倫理、中山書店 カタナ・ブラウン他 (著)、坂本明子 (訳)：リカバリー 希望をもたらすエンパワーメントモデル、金剛出版 野中猛：精神障害リハビリテーション論、岩崎学術出版社 池淵恵美：精神障害リハビリテーション こころの回復を支える、医学書院 ※他適宜紹介する。					
授業外学習 課題 (予習・復習)	<p>課題文献に関する事前学習、プレゼンテーションの資料の作成</p> <p>:レポート (全講義終了後)</p>					
オフィスアワー	学生と時間調整し適宜対応する					
備考	・第 13 回は、「家族看護方法論Ⅱ」のクラスで家族アセスメント・援助計画の立案を行った慢性期精神看護の実践で介入する家族の事例について、ロールプレイなどを行う。					

科目名	精神看護展開論Ⅲ		英訳科目名	Nursing Assessments and Interventions for Psychiatric Patients III		
科目区分			単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200109	授業種別	履修年次	2～	開講期間	前期
授業方式			池	永国寺		
履修における 注意点			資格・区分等	精神看護専攻教育課程 専攻分野専門科目		
担当教員	2155278	田井 雅子	所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,3,4 を修得するために重要な科目					
授業教員						
授業の概要	精神看護高度実践看護師の専攻分野専門科目として、地域精神看護領域における高度な看護実践の能力を育成する。地域精神看護領域における理論と、エビデンスに基づいた看護実践、アセスメント、看護介入について学ぶ。そのうえで、地域精神看護領域での、相談、調整、倫理調整、教育の機能を果たすために必要となる理論と技術を学ぶ。この領域の問題解決に向けた看護援助を展開する能力を修得する。					
達成目標 (達成水準)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域精神看護領域における精神看護専門看護師としての役割・機能を社会的文脈の中で捉えるとともに、現状と将来のあるべき方向性を論じることができる。 2. 地域精神看護領域での主要な治療等を学び、臨床的推論を学び、具体の事例に活用できる。 3. 地域精神看護領域における精神看護専門看護師として、対象のアセスメント及び看護介入、援助技術を学び、事例・状況に適切に対応することができる。 4. 地域精神看護領域における精神看護専門看護師として、相談、調整、倫理調整、教育機能を担うことのできる知識と技術を学び、事例・状況に適切に対応することができる。 					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1:地域精神看護領域の発展の歴史と現状 2:地域精神看護の機能と役割 3:地域精神看護における対応困難な事例についての査定とその対応 4:地域精神看護における対応困難な事例についての査定とその対応 5:地域精神看護における対応困難な事例についての査定とその対応 6:地域精神看護領域での援助関係の構築の課題と対応 7:地域精神看護で必要な援助技術 8:地域精神看護で必要な援助技術 9:地域精神看護で必要な援助技術 10:地域精神看護の実践で生じる倫理的葛藤とその対応 11:地域精神看護での調整 12:地域精神看護に関連する施策や取り組み 13:地域精神看護における家族への看護介入 14:ケアプロトコルの作成 15:ケアプロトコルの作成 					
成績評価 (基準と方法)	演習の参加状況 (50%)、クラス討議への貢献度 (30%)、プレゼンテーション (20%) などによって、総合的に評価する。					
教科書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 田中美恵子：精神障害者の地域支援ネットワークと看護援助—退院計画から地域支援まで、医歯薬出版 2. 大島巖：ACT ケアマネジメントホームヘルプサービス—精神障害者地域生活支援の新デザイン、精神看護出版 3. 谷中輝雄、松田正己、宮本真巳、岩田泰夫：障害者・精神保健地域看護活動(地域看護学講座)、医学書院 4. チャールズ・A・ラップ、リチャード・J・ゴスチャ、田中英樹（監訳）：ストレングスモデル—精神障害者のためのケアスマネジメント第2版、金剛出版 5. 田中英樹：精神障害者の地域生活支援—統合的生活モデルとコミュニティソーシャルワーク、中央法規出版 6. 坂田三允総編集：精神看護エクスペール 11 精神看護と家族ケア、中山書店 7. 坂田三允総編集：精神看護エクスペール 17 精神看護と法・倫理、中山書店 ※他適宜紹介する。					
授業外学習 課題 (予習・復習)	<p>:専攻分野専門科目 (サブスペシャリティ) 領域における文献等の検討 プレゼンテーション資料の作成</p> <p>:レポート (全講義終了後)</p>					
オフィスアワー	学生と時間調整し適宜対応する					
備考	・第13回は、「家族看護方法論Ⅱ」のクラスで家族アセスメント・援助計画の立案を行った地域精神看護の実践で介入する家族の事例について、ロールプレイなどを行う。					

科目名	精神看護展開論Ⅳ		英訳科目名	Nursing Assessments and Interventions for Psychiatric Patients IV		
科目区分			単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200110	授業種別	履修年次	2～	開講期間	前期
授業方式			池	永国寺		
履修における 注意点			資格・区分等	精神看護専攻教育課程 専攻分野専門科目		
担当教員	2155278	田井 雅子	所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,3,4 を修得するために重要な科目					
授業教員						
授業の概要	精神看護専門看護師の専攻分野専門科目として、リエゾン精神看護領域における高度な看護実践の能力を育成する。リエゾン精神看護領域における理論と、エビデンスに基づいた看護実践、アセスメント、看護介入について学ぶ。そのうえで、リエゾン精神看護領域での、相談、調整、倫理調整、教育の機能を果たすために必要となる理論と技術を学ぶ。この領域の問題解決に向けた看護援助を展開する能力を修得する。					
達成目標 (達成水準)	<ol style="list-style-type: none"> 1. リエゾン精神看護領域における精神看護専門看護師としての役割・機能を社会的文脈の中で捉えるとともに、現状と将来のあるべき方向性を論じることができる。 2. リエゾン精神看護領域での主要な治療等を学び、臨床的推論を学び、具体の事例に活用できる。 3. リエゾン精神看護領域における精神看護専門看護師として、対象のアセスメント及び看護介入、援助技術を学び、事例・状況に適切することができる。 4. リエゾン精神看護領域における精神看護専門看護師として、相談、調整、倫理調整、教育機能を担うことのできる知識と技術を学び、事例・状況に適切することができる。 					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1:リエゾン精神看護領域の発展の歴史と現状 2:リエゾン精神看護の機能と役割 3:リエゾン精神看護領域でよく見る精神症状の査定とその対応 4:リエゾン精神看護領域でよく見る精神症状の査定とその対応 5:リエゾン精神看護領域でよく見る精神症状の査定とその対応 6:リエゾン精神看護領域での援助関係の構築の課題と対応 7:リエゾン精神看護領域での看護介入 8:リエゾン精神看護領域での看護介入 9:リエゾン精神看護におけるコンサルテーションの課題と対応 10:リエゾン精神看護におけるチーム医療の課題と対応 11:リエゾン精神看護における倫理調整の課題と対応 12:リエゾンカンファレンス 13:リエゾン精神看護における家族への看護介入 14:ケアプロトコルの作成 15:ケアプロトコルの作成 					
成績評価 (基準と方法)	演習の参加状況 (50%)、クラス討議への貢献度 (30%)、プレゼンテーション (20%) などによって、総合的に評価する。					
教科書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 野末聖香、片平好重、住吉亜矢子、樋山光教、早川昌子、宇佐美しおり：リエゾン精神看護-患者ケアとナース支援のために、医歯薬出版 2. James R. Rundell, Michael G. Wise(著)、松浦雅人、松島英介(翻訳)：コンサルテーション・リエゾン精神医学ガイド、メディカルサイエンスインターナショナル 3. 精神科リエゾンチーム活動指針、星和書店 4. 坂田三允総編集：精神看護エキスパート 16 リエゾン精神看護、中山書店 5. 坂田三允総編集：精神看護エキスパート 11 精神看護と家族ケア、中山書店 6. 坂田三允総編集：精神看護エキスパート 17 精神看護と法・倫理、中山書店 7. 日本総合病院精神医学会治療指針 1：せん妄の臨床指針-せん妄の治療指針第2版、星和書店 8. DELTA プログラムによるせん妄対策:多職種で取り組む予防,対応,情報共有、医学書院 ※他適宜指定する。					
授業外学習 課題 (予習・復習)	課題文献に関する事前学習、プレゼンテーション資料の作成 :レポート (全講義終了後)					
オフィスアワー	学生と時間調整し適宜対応する					
備考	・第13回は、「家族看護方法論Ⅱ」のクラスで家族アセスメント・援助計画の立案を行ったリエゾン精神看護の実践で介入する家族の事例について、ロールプレイなどを行う。					

科目名	精神診断治療学 I		英訳科目名	Psychiatric Diagnosis and Treatment I		
科目区分			単位数	1	必選区分	
時間割コード	62200111	授業種別	履修年次	1~	開講期間	後期
授業方式			池	永国寺		
履修における 注意点			資格・区分等			
担当教員	2155278	田井 雅子	所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,2 を修得するために重要な科目					
授業教員						
授業の概要	精神科領域で行われる精神分析的診断および治療のプロセスと、臨床検査および診断基準などに基づいた診断・治療のプロセスを学び、臨床的推論能力を高める。すなわち、精神病理、症状と徴候を診断して確定する診断のプロセスについて学ぶ。精神科領域の薬物療法、精神療法、社会療法、心理療法、生活療法等から、病態に応じた適切な治療法を選択するプロセスを学ぶ。高度実践看護師として、エビデンスに基づいてケアとキュアを統合して、看護を実践する能力を身につける。					
達成目標 (達成水準)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神状態像や症状、および身体の状態をアセスメントし、患者の病態について把握できる。 2. 診断を行うための面接の技法について説明できる。 3. 診断に必要な事柄を理解し、病気の種類が診断できる。 4. 精神科領域の薬物療法、社会療法、心理療法等の療法から、病態に応じた適切な治療法を選択するプロセスについて説明できる。 5. 治療後の効果を判定する方法について説明できる。 6. 診断治療のプロセスを理解した上で、高度実践看護師としてケアとキュアを融合した看護を実践するための課題を述べることができる。 					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1:精神医療における診断論 2:精神分析学の活用：診断と治療 3:診断と治療のプロセス：統合失調症 4:診断と治療のプロセス：気分障害 5:診断と治療のプロセス：パーソナリティ障害 6:診断と治療のプロセス：発達障害 7:診断と治療のプロセス：認知症・てんかん 8:ケアとキュアを融合した看護を実践するための課題 					
成績評価 (基準と方法)	クラス・演習への参加 70%、提出物 30%					
教科書	<ol style="list-style-type: none"> 1. ベンジャミン・J.サドック、バー吉ニア・A.サドック(編著)、岩脇淳、仙波純一(監訳)：カプラン臨床精神医学ハンドブック DSM-5 診断基準による診療の手引、メディカルサイエンスインターナショナル 2. 古川壽亮、神庭重信：精神科診察診断学-エビデンスからナラティブへ、医学書院 3. American Psychiatric Association(著)、高橋三郎、大野裕、染矢俊幸、他(翻訳)：DSM-5 精神疾患の分類と診断の手引、医学書院 4. ベンジャミン・J.サドック、バー吉ニア・A.サドック(編著)、井上令一、四宮滋子、田宮 聡(訳)：カプラン臨床精神医学テキスト DSM-5 診断基準の臨床への展開第3版、メディカルサイエンスインターナショナル 					
授業外学習 課題 (予習・復習)	:各講義内容に関する文献に目を通しておくこと。					
オフィスアワー	メールで問い合わせること。					
備考						

科目名	精神看護学実践演習 I		英訳科目名	Advanced Practicum in Psychiatric Mental Health Nursing I		
科目区分			単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200113	授業種別	履修年次	1~	開講期間	後期
授業方式			池	永国寺		
履修における 注意点			資格・区分等	精神看護専攻教育課程 実習科目		
担当教員	2155278	田井 雅子	所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,2,4 を修得するために重要な科目					
授業教員						
授業の概要	精神看護学実践演習は、精神看護高度実践看護師に必要とされる、実践、教育、相談、調整、研究、倫理調整の実践能力の基礎を修得することを目的とする。実践演習 I では、特に、高度な看護実践の基礎となる対象者、家族及び集団に対する直接看護ケアを実践する能力の向上に焦点を当てる。精神科病棟に入院している、さまざまな臨床問題をもつ精神疾患患者（2~4名）を受け持ち、対象者および臨床状況を統合的にアセスメントし、適切な介入技法を用いて対象者の直接ケアを実施することを目指す。					
達成目標 (達成水準)	<p>実践演習 I では、精神看護高度実践看護師に必要とされる、直接ケアの実践能力の基礎を修得することを目的とする。</p> <p>1. 対応困難な精神疾患患者（2~4名）を受け持ち、精神看護高度実践看護師の基盤となる能力として、以下の2点について修得できる。</p> <p>1) Mental Status Examination およびオレム-アンダーウッド理論、精神力動的視点をを用いて対象者及び家族のアセスメントができる。</p> <p>2) 精神力動的な視点から集団の特性をアセスメントすることができる。</p> <p>2.2. 対応困難な精神疾患患者（2~4名）を受け持ち、精神看護高度実践看護師に必要な能力のうち、「対象者、家族及び集団に対する直接看護ケアを実践する（直接ケア）」について、対象者、家族及び集団に対するアセスメントに基づいてケアプランを作成し、それを実践できる。</p>					
授業計画	<p>第1週:1.実習施設の特定の病棟に身を置き、スタッフとともにケアに参加しながら、実習ノートに記載し、その病棟（集団）の特性を精神力動的な視点から理解する。</p> <p>第1週~4週:2.ケアに参加しながら、実習記録やケース記録を作成し、専任教員のスーパーバイズを受けながら分析し、理解を深める（第1週~第4週のすべてにおいて）。</p> <p>第2週:1.第1週目に実習した精神科病棟に入院中の精神疾患患者について、病棟管理者および実習指導者と相談しながら、受け持ち患者を選定する（1~2名）。</p> <p>2.受け持ち患者について、Mental Status Examination およびオレム-アンダーウッド理論を用いてアセスメントを行う。</p> <p>第3週:1.第2週目より受け持っている患者についてケアプランを作成し、それを実践できる（1~2名）。</p> <p>2.病棟管理者および実習指導者と相談しながら、受け持ち患者を追加選定する（1名）。新たに受け持ちとなった患者について、Mental Status Examination およびオレム-アンダーウッド理論を用いてアセスメントを行う。</p> <p>第4週:1.受け持ち患者（2~3名）について、ケアプランに基づいて直接ケアを実践し、それを評価・修正できる。</p> <p>2)学習深度に応じて、病棟管理者および実習指導者と相談しながら、受け持ち患者を追加選定する（1名）。新たに受け持ちとなった患者について、Mental Status Examination およびオレム-アンダーウッド理論を用いてアセスメントを行う。</p>					
成績評価 (基準と方法)	<p>☑実習目的に沿って、到達度の評価を行う。</p> <p>☑実習内容（実習記録、ケース記録、ケースレポートなど）（80%）および自己評価（20%）を通して、総合的に評価を行う。</p>					
教科書	<p>1. 日本専門看護師協議会監修、宇佐美しおり・野末聖香編集（2009）：精神看護スペシャリストに必要な理論と技法、日本看護協会出版会</p> <p>2. 南裕子・稲岡文昭監修、粕田孝行編集（1987）：セルフケア概念と看護実践、へるす出版</p> <p>3. 南裕子編著（2005）：アクティヴ・ナーシング 実践オレム-アンダーウッド理論 ところを癒やす、講談社</p> <p>4. G.O.ギャバード著、奥寺崇ら監訳（2019）：精神力動的な精神医学 第5版 その臨床実践、岩崎学術出版</p> <p>5. E. H.シャイン著、稲葉元吉・尾川丈一訳（2002）：プロセス・コンサルテーション-援助関係を築くこと、白桃書房</p> <p>6. サラT.フライ、メガン・ジェーン・ジョンストン著、片田範子・山本あい子訳（2010）：看護実践の倫理 倫理的意志決定のためのガイド（第3版）、日本看護協会出版会</p> <p>※実習深度に応じて、適宜参考文献は紹介する。</p>					
授業外学習 課題 (予習・復習)	<p>週に1回以上、実習内容に関する記録を提出し、指導を受ける。</p> <p>実習記録は 実践内容、分析、評価、課題等に関して記録する</p> <p>実践演習 I 終了後、受け持ち患者のケースレポートを作成する</p>					
オフィスアワー	実習の進行に応じその都度設定する					
備考	実習施設および実習病棟の選択については、学生の臨床経験・学習状況をふまえ、統合的に判断して決定する。					

科目名	精神看護学実践演習 II		英訳科目名	Advanced Practicum in Psychiatric Mental Health Nursing II			
科目区分			単位数	2	必選区分		
時間割コード	62200114	授業種別		履修年次	1～	開講期間	後期
授業方式			池		永国寺		
履修における 注意点			資格・区分等	精神看護専攻教育課程 実習科目			
担当教員	2155278	田井 雅子	所属	看護学科			
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,2,4 を修得するために重要な科目						
授業教員							
授業の概要	精神看護学実践演習は、精神看護高度実践看護師に必要とされる、実践、教育、相談、調整、研究、倫理調整の実践能力の基礎を修得することを目的とする。 実践演習 II では、直接ケアを実施した対象者（受け持ち患者 2～4 名）のケアの向上のために必要な高度看護実践内容（調整、倫理調整）を特定し、実施することを目指す。また、実習の場のニーズをアセスメントしたうえで、教育と相談に関する役割を遂行する。						
達成目標 (達成水準)	実践演習 II では、精神看護高度実践看護師に必要とされる、直接ケア、教育、相談、調整、倫理調整の実践能力の基礎を修得することを目的とする。 1. 実践演習 I で直接ケアを実施した対象者（受け持ち患者 2～4 名）を、引き続き受け持ち、対象者や家族、集団のアセスメントを深めることができる。 2. 実践演習 I で直接ケアを実施した対象者（受け持ち患者 2～4 名）のケアの向上のために必要な調整、倫理調整を計画、実施することができる。 3. 実習病棟のニーズに即した方法で、専門職者を対象とする教育・相談を計画、実施することができる。						
授業計画	第 1 週:1. 実践演習 I で受け持った対象者や新たに受け持った対象者に対して、アセスメントを深めながら、看護介入を計画し、総合的な視点から直接ケアを提供する（実習期間中）。 2. ケアに参加しながら、実施および分析記録を作成し、専任教員のスーパーバイズを受けながら実習を行う。 第 2 週～4 週:1. 対象者のアセスメントやケアの結果を統合的に分析して、対象者に必要な調整、倫理調整を計画し、実施する。 2. 病棟等の実習の場で、ケアの向上のために必要な教育やコンサルテーションを実施する。病棟や相談相手の状況、潜在的ニーズ、能力をアセスメントし、統合的に分析して実施する。 3. 受け持ちケースに対しては、継続的な介入が必要な場合は、その都度介入の方略を修正して、実施する。 第 5 週:1. 実践した高度実践内容（直接ケア、教育、相談、調整、倫理調整）をまとめ、学内・病棟においてその成果を報告（実践報告の形式）し、フィードバックを受ける。						
成績評価 (基準と方法)	☑実習目的に沿って、到達度の評価を行う。 ・実習内容（実習記録、ケース記録、ケースレポートなど）（80%）および自己評価（20%）を通して、総合的に評価を行う。						
教科書	1. 日本専門看護師協議会監修、宇佐美しおり・野末聖香編集（2009）：精神看護スペシャリストに必要な理論と技法、日本看護協会出版会 2. 南裕子・稲岡文昭監修、粕田孝行編集（1987）：セルフケア概念と看護実践、へるす出版 3. 南裕子編著（2005）：アクティヴ・ナーシング 実践オレム-アンダーウッド理論 ところを癒やす、講談社 4. G.O.ギャバード著、奥寺崇ら監訳（2019）：精神力動的精神医学 第 5 版 その臨床実践、岩崎学術出版 5. E. H.シャイン著、稲葉元吉・尾川丈一訳（2002）：プロセス・コンサルテーション-援助関係を築くこと、白桃書房 6. サラ T.フライ、メガン・ジェーン・ジョンストン著、片田範子・山本あい子訳（2010）：看護実践の倫理 倫理的意志決定のためのガイド（第 3 版）、日本看護協会出版会 ※実習深度に応じて、適宜参考文献を紹介する。						
授業外学習 課題 (予習・復習)	週に 1 回以上、実習内容に関する記録を提出し、指導を受ける。 実習最終日の成果報告に際し、実践した高度実践内容（教育、相談、調整、倫理調整）をまとめて資料を作成する						
オフィスアワー	実習の進行に応じ適宜決める						
備考	実習施設および実習病棟の選択については、学生の臨床経験・学習状況を踏まえ、統合的に判断して決定する（実践演習 I と同施設で行う）。						

科目名	精神看護学実践演習Ⅲ			英訳科目名	Advanced Practicum in Psychiatric Mental Health Nursing III		
科目区分				単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200115	授業種別		履修年次	2～	開講期間	前期
授業方式				池		永国寺	
履修における 注意点				資格・区分等	精神看護専門看護師必修科目		
担当教員	2155278	田井 雅子		所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,3,4 を修得するために重要な科目						
授業教員							
授業の概要	<p>実践演習Ⅲでは、専攻分野専門科目（サブスペシャリティ）領域における直接ケア、およびケースマネージメントを実践する能力の向上に重点をおく。まず、専攻分野専門科目（サブスペシャリティ）領域（救急・急性期精神看護、慢性期精神看護、地域精神看護、リエゾン精神看護のいずれか）における精神看護専門看護師の活動の実際を体験することを通して、精神看護高度実践看護師としての役割（実践、教育、相談、調整、研究、倫理調整）を学ぶ。そして、選択する専攻分野専門科目（サブスペシャリティ）領域に特有の臨床上的問題をもつ対応困難な患者を受け持ち、直接ケア、およびケースマネージメントを実施することを通して、アセスメント能力・介入技法の向上・開発を目指す。同時に、ケースのケアのために必要な教育、相談、調整、倫理調整を実施していく。</p> <p>学生の専攻に応じて、4つのサブスペシャリティ領域（救急・急性期精神看護、慢性期精神看護、地域精神看護、リエゾン精神看護）から1領域を選択し履修する。</p>						
達成目標 (達成水準)	<p>精神看護学実践演習Ⅲは、実習を通して、精神看護高度実践看護師に必要とされる、専攻分野専門科目（サブスペシャリティ）領域における、直接ケア、およびケースマネージメントを実践する能力の基礎を修得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 専攻分野専門科目（サブスペシャリティ）領域における精神看護専門看護師の活動の体験を通して、専門看護師の組織における位置付け・役割について理解したことを説明できる。 2. 専攻分野専門科目（サブスペシャリティ）領域に特有の臨床上的問題をもつ対応困難な患者とその家族に対する包括的なアセスメントができる。 3. 包括的なアセスメントを踏まえて、対応困難な患者とその家族に対する直接ケア、ケースマネージメントを実践できる。 4. 受け持ったケースのケアのために必要な教育、相談、調整、倫理調整を実践できる。 						
授業計画	<p>第1週:1) 専攻分野専門科目（サブスペシャリティ）領域における精神看護高度実践看護師の位置づけや活動内容について理解する。 2) 実際の精神看護専門看護師の活動の体験を通して、精神看護高度実践看護師としての役割を学ぶ。 3) 実習の振り返りを通して、精神看護専門看護師からの助言を得る。</p> <p>第2週:1) 専攻分野専門科目（サブスペシャリティ）領域における直接ケアに焦点をあて、実際の精神看護専門看護師の活動を体験し、高度実践看護師としての介入方法を学ぶとともに、精神看護 CNS の指導のもと直接ケアを実践する。 2) 実践した直接ケアについて振り返り、精神看護 CNS からの助言を得る。</p> <p>第3週～4週:1) 学生は対応困難な患者、およびケースマネージメントの必要な患者を受け持ち、を受け持ち、アセスメントを行い、介入を計画する。受け持ち患者に対して、スタッフと連携をもちながら、直接ケア、ケースマネージメントを展開する。 2) 学生は精神看護 CNS および教員のスーパーバイズを受けて、ケースの分析・精神療法的介入等を行う。 3) 学生は受け持ったケースの必要に応じて、教育、相談、調整、倫理調整を実施す</p>						
成績評価 (基準と方法)	実習内容（実習記録、ケース記録、ケースレポートなど）（80%）および自己評価（20%）を通して、総合的に評価を行う。						
教科書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本専門看護師協議会監修、宇佐美しおり・野末聖香編集（2009）：精神看護スペシャリストに必要な理論と技法、日本看護協会出版会 2. 南裕子・稲岡文昭監修、粕田孝行編集（1987）：セルフケア概念と看護実践、へるす出版 3. 南裕子編著（2005）：アクティヴ・ナーシング 実践オレム-アンダーウッド理論 こころを癒やす、講談社 4. G.O.ギャバード著、奥寺崇ら監訳（2019）：精神力動的な精神医学 第5版 その臨床実践、岩崎学術出版 5. E. H.シャイン著、稲葉元吉・尾川丈一訳（2002）：プロセス・コンサルテーション-援助関係を築くこと、白桃書房 6. サラT.フライ、メガン・ジェーン・ジョンストン著、片田範子・山本あい子訳（2010）：看護実践の倫理 倫理的意志決定のためのガイド（第3版）、日本看護協会出版会 <p>※実習深度に応じて、適宜参考文献は紹介する。</p>						
授業外学習 課題 (予習・復習)	定期的実習内容の記録を提出し、指導を受ける。最低でも週1回は提出を行う						
オフィスアワー	実習の進行に応じて適宜決める						
備考							

科目名	精神看護学実践演習Ⅳ		英訳科目名	Advanced Practicum in Psychiatric Mental Health Nursing IV			
科目区分			単位数	2	必選区分		
時間割コード	62200116	授業種別		履修年次	2～	開講期間	後期
授業方式			池		永国寺		
履修における 注意点			資格・区分等	精神看護専攻教育課程 実習科目			
担当教員	2155278	田井 雅子	所属	看護学科			
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,2,3を修得するために重要な科目						
授業教員							
授業の概要	精神科専門医、精神看護専門看護師の指導のもとに、精神疾患の診断・治療過程を理解し、アドバンストな精神状態を査定する能力、ケア(care)とキュア(cure)を統合させた高度な知識と技術を用いて、精神疾患を有する人とその家族が症状をコントロールしながら生活できるように支援する能力を修得する。 精神看護学領域の専任教員のスーパービジョンのみならず、精神科専門医の指導をうけて、精神疾患の診断・治療過程を理解し、臨床的推論能力を修得する。精神疾患を有する人とその家族が症状をコントロールしながら生活できるように、疾患管理・症状マネージメントに関する能力を修得する。						
達成目標 (達成水準)	1.精神科によくみられる代表的な疾患をもつ患者に専門的なケアを提供するために、病態生理、検査とその解釈、治療法(薬物療法・栄養療法など)、症状マネージメントなどを含む治療過程を学び、理解したことを説明できる。 2.看護の視点から精神疾患の治療遂行支援に必要な医療処置を精神科医の包括的指示に基づいて実践する。 3.精神疾患を有する人とその家族が症状をコントロールしながら生活できるように、疾患管理・症状マネージメントについて具体的な方策を提案できる。 4.治療遂行支援に有用なプロトコルの開発を行うことができる。 5.ケア(care)とキュア(cure)を統合させた高度な実践を行う精神看護高度実践看護師としての役割を開発する。						
授業計画	第1週～2週:1)精神科によくみられる代表的な疾患をもつ患者の診察場面に立ち会い、精神科専門医の指導の基に、精神疾患の診断・治療過程を理解し、アドバンストなアセスメントを学ぶ。 2)精神疾患の症状緩和において必要な専門的知識を理解する。 3)精神疾患の治療遂行支援に必要な包括的指示について理解する。 4)精神疾患の包括的アセスメントに基づきケア(care)とキュア(cure)を融合させたケア内容を立案し、実施、評価できる。 5)介入事例についての記録・討議を通して、臨床判断能力を高めることができる。 6)実習の振り返りを通して、精神科専門医、精神看護専門看護師からの助言を得る。 第3週～4週:1)介入事例が、症状をコントロールしながら生活できるように、疾患管理・症状マネージメントについて、事例、もしくはその家族に具体的な方策を提案する。 2)介入事例から、高度実践看護師が活用できるプロトコルを作成する。 3)実習の振り返りを通して、精神科専門医、精神看護専門看護師からの助言を得る。 4)精神看護実践演習Ⅳの評価会を開催し、精神科専門医、精神看護専門看護師、教員の評価、学生の自己評価をもとに、目標の到達度についてカンファレンスを行う。 5)高度な実践を行う精神看護専門看護師としての自己の課題を明確にし、精神看護実践演習Ⅴに反映させる。						
成績評価 (基準と方法)	実習内容(実習記録、ケース記録、ケースレポートなど)(80%)および自己評価(20%)を通して、総合的に評価を行う						
教科書	1.ベンジャミン・J.サドック、バージニア・A.サドック(編著)、岩脇淳、仙波純一(監訳):カブラン臨床精神医学ハンドブック DSM-5診断基準による診療の手引、メディカルサイエンスインターナショナル 2.融道男、小見山美、大久保善朗、中根允文、岡崎祐士(翻訳):ICD-10精神および行動の障害-臨床記述と診断ガイドライン、医学書院 3.臨床精神医学 特集/精神科臨床評価検査法マニュアル、アークメディア 4.尾崎紀夫三村将、水野雅文村井俊哉(編集):標準精神医学 第8版、医学書院 5.山田和男、黒木俊秀、神庭重信(翻訳):カブラン精神科薬物ハンドブック 第45版、メディカルサイエンスインターナショナル 6.姫井照男:精神科の薬がわかる本 第4版、医学書院 ※実践の深度に応じて適宜参考文献は紹介する。						
授業外学習 課題 (予習・復習)	:介入事例について記録をまとめる :介入事例から、高度実践看護師が活用できるプロトコルを作成する						
オフィスアワー	実習の進行に応じて適宜決める						
備考							

科目名	精神看護学実践演習 V		英訳科目名	Advanced Practicum in Psychiatric Mental Health Nursing V			
科目区分			単位数	2	必選区分		
時間割コード	62200117	授業種別		履修年次	2~	開講期間	後期
授業方式				池		永国寺	
履修における 注意点			資格・区分等	精神看護専攻教育課程 実習科目			
担当教員	2155278	田井 雅子	所属	看護学科			
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,4,6 を修得するために重要な科目						
授業教員							
授業の概要	<p>実践演習Vでは、実践演習I~IVまでの内容をふまえ、精神看護高度実践看護師に必要とされる実践能力の統合を目指す。特にチーム医療の中での、コンサルテーション・コーディネーションに関する能力を修得する。具体的には、精神看護高度実践看護師として実習施設のニーズを査定し、ケアとキュアの統合に基づいた高度実践の内容（直接ケア・相談・調整・教育・研究・倫理調整）を用いて、実習施設のケアの質の向上を意識した活動を実践し、高度実践看護師としての役割の開発を行う（1単位分）。特に、受け持ち患者のケア提供者に対するコンサルテーションと、受け持ち患者のケアに携わる人々の間のコーディネーションを行い、相談・調整に関する能力を修得する（1単位分）。</p>						
達成目標 (達成水準)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対応困難な患者とその家族について、包括的アセスメントを行い、治療とケアを統合した高度な看護ケアの実践ができる（直接ケア） 2. 実習施設の看護の質を向上する上での課題を把握し、看護職者に対してケアを向上させるための教育を行うことができる（教育） 3. 看護職者を含むケア提供者が抱えている課題を把握し、コンサルテーションを行うことができる（相談） 4. 必要なケアが円滑に提供されるよう、保健医療福祉に携わる人々の間のコーディネーションを行うことができる（調整） 5. 実践の場の研究活動を把握し、専門知識・技術の向上や開発を図るための研究活動を支援することができる（研究） 6. 倫理的葛藤が生じた場合に、関係者間での倫理的調整を行うことができる（倫理調整） 7. 高度実践看護師としての役割開発や戦略について意見を述べるができる 						
授業計画	<p>第1週:1) これまでの実践演習をふまえ、Mental Status Examination およびオレム-アンダーウッド理論、精神力動的視点などを用いて受け持ち患者についてアセスメントを行ないながら、直接ケアを提供する。 2) ケアに参加しながら、実習ノートを作成し、専任教員のスーパーバイズを受けながら分析し、理解を深める。 3) 対象者のアセスメントやケアの結果、及び実習ノートの内容を統合的に分析して、対象者の入院する病棟のニーズに応じた高度実践内容（直接ケア、教育、相談、調整、研究、倫理調整）を用いて介入するための方略を特定する。特に、チーム医療の中での、コンサルテーション・コーディネーションについては、必ず実施する。 第2週~第4週:1) チーム医療の中での、コンサルテーション・コーディネーションに焦点をあてて、具体的な方略を立て、精神看護 CNS と相談しながら介入を行う。 2) 第1週で特定した相談、調整以外の高度実践内容について1つ以上あげ、具体的な方略を立て、精神看護 CNS と相談しながら介入を行う。 第4週:1) 実施した高度実践の内容の振り返りを通して、精神看護 CNS と役割開発について意見交換する。 2) 実践した高度実践内容（直接ケア、教育、相談、調整、研究、倫理調整）をまとめ、学内においてその成果を報告（実践報告の形式）し、フィードバックを受ける。</p>						
成績評価 (基準と方法)	実習内容（実習記録、ケース記録、ケースレポートなど）(80%) および自己評価（20%）を通して、総合的に評価を行う。						
教科書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本専門看護師協議会監修、宇佐美しおり・野末聖香編集（2009）：精神看護スペシャリストに必要な理論と技法、日本看護協会出版会 2. 南裕子・稲岡文昭監修、粕田孝行編集（1987）：セルフケア概念と看護実践、へるす出版 3. 南裕子編著（2005）：アクティヴ・ナーシング 実践オレム-アンダーウッド理論 ところを癒やす、講談社 4. G.O. キャバード著、奥寺崇ら監訳（2019）：精神力動的精神医学 第5版 その臨床実践、岩崎学術出版 5. E. H. シャイン著、稲葉元吉・尾川丈一訳（2002）：プロセス・コンサルテーション-援助関係を築くこと、白桃書房 6. サラT. フライ、メガン・ジェーン・ジョンストン著、片田範子・山本あい子訳（2010）：看護実践の倫理 倫理的意志決定のためのガイド（第3版）、日本看護協会出版会 <p>※実習深度に応じて、適宜参考文献は紹介する。</p>						
授業外学習 課題 (予習・復習)	<p>週に1回以上、実習内容に関する記録を提出し、指導を受ける。 :実践した高度実践内容（教育、相談、調整、倫理調整）を資料としてまとめる</p>						
オフィスアワー	実習の進行に応じて適宜決める						
備考	実習施設および実習病棟の選択については、学生の臨床経験・学習状況の他、学生のサブスペシャリティを考慮して、統合的に判断して決定する						

科目名	家族看護論		英訳科目名	Theories and Issues in Family Health Nursing			
科目区分			単位数	2	必選区分		
時間割コード	62200118	授業種別		履修年次	1～	開講期間	前期
授業方式			池		永国寺		
履修における注意点			資格・区分等	家族支援専門看護師必修科目			
担当教員	2155473	長戸 和子	所属	看護学科			
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,3,6 を修得するために重要な科目						
授業教員							
授業の概要	家族を取り巻く社会や地域の変化および保健医療福祉制度の変遷、現代家族の特徴、家族看護学の発展過程と近年の動向、家族支援専門看護師の動向について理解し、わが国の保健医療福祉制度の中での家族看護および家族支援専門看護師の役割、位置づけについて分析する。また、家族看護の実践の場における課題や家族ケアにかかわる倫理的な課題について、わが国の文化的特性や価値観の特徴もふまえて分析し、考察する。これらをふまえて、家族支援専門看護師として、看護の対象である家族を取り巻く課題を多角的視点から分析し、地域、社会、保健医療福祉制度、保健医療福祉専門職チームの調整や変革に取り組み能力、役割開発する能力を修得する。						
達成目標(達成水準)	<ol style="list-style-type: none"> 1) 家族を取り巻く社会や地域の変化と保健医療福祉制度の変遷、現代家族の特徴について説明できる。 2) 家族看護学の発展過程とその背景、近年の動向と課題について説明できる。 3) わが国の保健医療福祉制度および保健医療福祉専門職チームの中で家族看護および家族支援専門看護師が果たすべき役割、位置づけ、課題について述べるができる。 4) 家族看護が対象とする家族をめぐる諸問題を多角的視点から分析し、説明できる。 						
授業計画	<p>第1回:家族と社会①; 家族を取り巻く社会や地域の変化と現代家族の特徴、日本の文化的特性や価値観の特徴</p> <p>第2回:家族と社会②; 保健医療福祉制度の変遷と家族、家族看護学の発展過程と保健医療福祉制度の中での位置づけ、家族支援専門看護師の動向</p> <p>第3回:家族看護学の動向①; 家族看護に関する研究および家族を対象とした研究の動向と課題</p> <p>第4回:家族看護学の動向②; 家族看護実践における現状と課題、家族看護実践を可視化する方略</p> <p>第5回:在宅医療における家族看護①; 在宅医療にかかわる保健医療福祉制度の変遷と社会の変化、地域コミュニティの変化、位置づけ、課題について述べるができる</p> <p>第6回:在宅医療における家族看護②; 在宅医療の特徴、在宅医療を支える体制・システム、近年の在宅医療における家族を取り巻く諸問題</p> <p>第7回:在宅医療における家族看護③; 在宅医療における家族看護の焦点、家族看護が担う役割</p> <p>第8回:急性期医療における家族看護①; 急性期医療にかかわる保健医療福祉制度の変遷と医療技術の進歩、およびそれらの変化が急性期医療を受ける患者とその家族に及ぼす影響</p> <p>第9回:急性期医療における家族看護②; 病気の急性発症・急性増悪から亜急性期における医療の特徴、急性期医療を支える体制・システム、近年の急性期医療における家族を取り巻く諸問題</p> <p>第10回:急性期医療における家族看護③; 急性期医療における家族看護の焦点、家族看護が担う役割</p> <p>第11回:終末期医療における家族看護①; 終末期医療にかかわる保健医療福祉制度の変遷、終末期医療のあり方の変化、およびそれらの変化が終末期医療を受ける患者とその家族に及ぼす影響</p> <p>第12回:終末期医療における家族看護②; 終末期医療の特徴、終末期医療を支える体制・システム、近年の終末期医療における家族を取り巻く諸問題</p> <p>第13回:終末期医療における家族看護③; 終末期医療における家族看護の焦点、家族看護が担う役割</p> <p>第14回:保健医療福祉制度および保健医療福祉専門職チームの中での家族支援専門看護師の役割と課題、今後の展望</p> <p>第15回:保健医療福祉の場における家族ケアにかかわる倫理的課題とその背景、その解決における家族支援専門看護師の役割</p>						
成績評価(基準と方法)	課題への取り組み (40%)、プレゼンテーション (40%)、ディスカッションへの貢献度 (20%) から総合的に評価する。						
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・ M.M.Friedman, V.R.Bowden, E.G.Jones; Family Nursing Research, Theory, and Practice, 5th ed., Pearson Education, 2003. ・ James M. White, David M. Klein, Todd F. Martin; Family Theories 4th ed, Sage Pubns, 2015. ・ Joanna Rowe Kaakinen, Deborah Padgett Coehlo; Family Health Care Nursing Theory, Practice, and Research, 5th ed., F.A.Davis, 2014. ・ 森岡清美, 望月高著; 新しい家族社会学, 培風館, 1997. ・ 中西睦子 監修; TACS シリーズ 13 家族看護学, 建帛社, 2005. ・ 野嶋佐由美・中野綾美編; 家族エンパワメントをもたらす看護実践, へるす出版, 2005. ・ Bengtso Vern L., Acock Alan C, Klein David M, et al; Sourcebook of Family Theory and Research, Sage Pubns, 2005. ・ 昌中宗一; 家族支援論, 世界思想社, 2003. ・ 本間道子; 集団行動の心理学 ダイナミックな社会関係のなかで, サイエンス社, 2011. ・ 稲葉昭英, 保田時男, 田淵六郎, 田中重人(編); 日本の家族 1999-2009 全国家族調査[NFR]による計量社会学, 東京大学出版会, 2016. ・ 医療情報科学研究所 (編); 公衆衛生がみえる 2016-2017, MEDIC MEDIA, 2016. ・ 河原加代子, 関根光枝, 平原優美(編); 家族看護 24 在宅での看取りにおける看護ケア, 日本看護協会出版会, 2014. ・ 野嶋佐由美, 渡辺裕子; 家族看護 2 終末期患者の家族への看護, 日本看護協会出版会, 2003. ・ 野嶋佐由美, 渡辺裕子; 家族看護 6 生命の危機状態にある患者の家族への看護, 日本看護協会出版会, 2005. ・ 野嶋佐由美, 渡辺裕子; 家族看護選書 第5巻 終末期の家族看護・グリーフケア, 日本看護協会出版会, 2012. ・ 野嶋佐由美, 渡辺裕子; 家族看護選書 第4巻 在宅での家族への看護, 日本看護協会出版会, 2012. ・ 野嶋佐由美, 渡辺裕子; 家族看護選書 第6巻 家族に向きあう看護師のジレンマとパートナーシップ形成, 日本看護協会出版会, 2012. ・ 国際生活機能分類-国際障害分類改訂版一; 中央法規, 2002. ・ 国民衛生の動向, 厚生労働統計協会. ・ 国民の福祉と介護の動向, 厚生労働統計協会. <p>その他必要に応じて提示する。</p>						
授業外学習(予習・復習)	第5～13回:各回のテーマに関して、事前に関連資料を探索し、自分なりの考えや疑問点を明確にした上で授業に参加すること						
オフィスアワー	随時						
備考	長戸と瓜生の2名で担当する。瓜生 連絡先: 088-847-8748、uryu@cc.u-kochi.ac.jp						

科目名	家族看護対象論		英訳科目名	Perspectives on Comprehensive Assessments on Family Health Nursing			
科目区分			単位数	2	必選区分		
時間割コード	62200119	授業種別		履修年次	1~	開講期間	後期
授業方式			池		永国寺		
履修における注意点			資格・区分等	家族支援専門看護師必修科目			
担当教員	2155151	瓜生 浩子	所属	看護学科			
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,2を修得するために重要な科目						
授業教員							
授業の概要	家族員の病気が家族の健康や生活に及ぼす影響を理解するための考え方や理論を学び、家族の病気体験を理解し、家族を包括的にアセスメントする能力、アセスメントに基づいて看護ケア計画を立案する能力を修得する。また、いくつかの特徴的な健康問題を取り上げ、その疾病や障害の病態・診断・治療・経過に関する理解を深め、家族員の健康レベルを査定する能力、ケア (care) とキュア (cure) の統合を図りながら治療に参画する能力を養う。これらを通して、家族員の健康問題に対応した高度看護実践を提供するための能力を修得する。						
達成目標 (達成水準)	<p>1) 病気の家族員を抱える家族について、理論を活用しながらアセスメントできる。</p> <p>2) 特定の健康問題をもつ家族を取り上げ、家族員の健康レベルを査定するとともに、その健康問題の病態や治療について説明できる。</p> <p>3) 家族員の病気が家族に及ぼす影響について包括的にアセスメントを行い、形成した家族像に基づいて、ケア (care) とキュア (cure) を統合した家族看護の展開方法を考案できる。</p>						
授業計画	<p>第1回:病気の家族員を内包する家族の理解①:家族員の病気が家族の健康や生活に及ぼす影響を理解する、家族の健康とは何かを検討する</p> <p>第2回:病気の家族員を内包する家族の理解②:家族システムの視点から家族員の病気が家族に及ぼす影響を理解する</p> <p>第3回:病気の家族員を内包する家族の理解③:家族員の病気が家族に及ぼす影響を家族発達の視点から理解する</p> <p>第4回:病気の家族員を内包する家族の理解④:家族員の病気が家族に及ぼす影響を家族役割の視点から理解する</p> <p>第5回:病気の家族員を内包する家族の理解⑤:家族員の病気が家族に及ぼす影響を家族のストレスと対処行動の視点から理解する</p> <p>第6回:病気の家族員を内包する家族の理解⑥:家族員の病気が家族に及ぼす影響を家族のセルフケアの視点から理解する</p> <p>第7回:生命危機状態をもたらす健康問題の理解:生命危機状態をもたらす健康問題の病態と症状、原因、診断、治療法、経過・予後について理解する</p> <p>第8回:生命危機状態にある人とその家族の病気体験の理解:第1回~第6回で学んだ知識を活用して、生命危機状態にある人とその家族の病気体験を理解する</p> <p>第9回:生命危機状態にある人とその家族のアセスメントとケア計画の立案:第7回で学んだ知識を活用して、生命危機状態にある人の治療の方向性をふまえた上で、家族システム全体へケア計画を検討する</p> <p>第10回:長期にわたる治療を要する健康問題の理解:長期にわたる治療を要する健康問題の病態と症状、原因、診断、治療法、経過・予後について理解する</p> <p>第11回:長期にわたる治療を要する健康問題をもつ人とその家族の病気体験の理解:第1回~第6回で学んだ知識を活用して、長期にわたる治療を要する健康問題をもつ人とその家族の病気体験を理解する</p> <p>第12回:長期にわたる治療を要する健康問題をもつ人とその家族のアセスメントとケア計画の立案:第10回で学んだ知識を活用して、長期にわたる治療を要する健康問題に対する治療の方向性をふまえた上で、家族システム全体へのケア計画を検討する</p> <p>第13回:難病の理解:難病の病態と症状、原因、診断、治療、経過・予後</p> <p>第14回:難病をもつ人とその家族の病気体験:第1回~第6回で学んだ知識を活用して、難病をもつ人とその家族の病気体験を理解する</p> <p>第15回:難病をもつ人とその家族のアセスメントとケア計画の立案:第13回で学んだ知識を活用して、難病をもつ人への治療の方向性をふまえた上で、家族システム全体へのケア計画を検討する</p>						
成績評価 (基準と方法)	クラス討議への参加 (40%)、プレゼンテーション (40%)、事後課題・レポート (20%) から総合的に評価する。						
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・江川幸二,山勢博彰;看護のためのクリティカルケア場面の問題解決ガイド—基礎からわかる臨床に生かす倫理調整,三輪書店,2013. ・畠中宗一;家族支援論,世界思想社,2003. ・井部俊子,大生定義(監修);専門看護師の思考と実践,医学書院,2015. ・池添志乃,安武綾,小玉幸佳(編);家族看護21,認知症の人と家族へのケア,日本看護協会出版会,2013. ・石原邦雄;家族生活とストレス,垣内出版株式会社,1985. ・家族ケア研究会(編);家族生活力量モデル—アセスメントスケールの活用法,医学書院,2002. ・小島操子,佐藤礼子;危機の分析と看護介入事例集,金芳堂,2011. ・小島操子;看護における危機理論・危機介入 フィンク/コーン/アグィレラ/ムース/家族の危機モデルから学ぶ,金芳堂,2013. ・M.M.Friedman, V.R.Bowden, E.G.Jones; Family Nursing Research, Theory, and Practice, 5th ed., Pearson Education, 2003. ・M・マクゴールドリック, R・ガーソン, S・シェレンバーガー(著), 石川元, 佐野祐華, 劉イーリン; ジェノグラム(家系図)の臨床 家族関係の歴史に基づくアセスメントと介入, ミネルヴァ書房, 2009. ・森岡清美, 望月高著; 新しい家族社会学, 培風館, 1997. ・岡堂哲雄(編); 家族心理学入門 補訂版; 家族心理学入門, 培風館, 1999. ・Pierre Woog(著/編), 黒江ゆり子(訳); 慢性疾患の病みの軌跡—コービンとストラウスによる看護モデル, 医学書院, 1995. ・渡辺裕子; 渡辺式家族アセスメントモデルで事例を解く(家族ケアの技を学ぶ), 医学書院, 2007. ・山勢博彰(編); 救急・重症患者と家族のための心のケア, メディカ出版, 2010. ・柳原清子; 渡辺式家族アセスメント/支援モデルによる困った場面課題解決シート, 医学書院, 2012. ・国際生活機能分類—国際障害分類改訂版—; 中央法規, 2002. <p>その他必要に応じて提示する。</p>						
授業外学習 課題 (予習・復習)	第8,9回:生命危機状態にある人とその家族の事例を用いて、家族看護過程を各自展開する。 第11,12回:長期にわたる治療を要する健康問題をもつ人とその家族の事例を用いて、家族看護過程を各自展開する。 第14,15回:難病をもつ人とその家族の事例を用いて、家族看護過程を各自展開する。						
オフィスアワー	随時						
備考	長戸と瓜生 (088-847-8748、uryu@cc.u-kochi.ac.jp) のほか、第7・10・13回は医師が担当する。						

科目名	家族看護方法論 I		英訳科目名	Theories and Interventions for Family Health Nursing I		
科目区分			単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200120	授業種別	履修年次	1~	開講期間	前期
授業方式			池		永国寺	
履修における 注意点			資格・区分等	家族支援専門看護師必修科目		
担当教員	2155473	長戸 和子	所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,5 を修得するために重要な科目					
授業教員						
授業の概要	家族看護学の基本的な考え方を学び、家族ケアの動向と課題を分析する。また、家族看護実践の基盤となる理論や概念、看護モデルを理解し、それらを家族看護に適用する際の有用性と限界について検討する。それらを踏まえ、理論や概念、看護モデルを用いて、それぞれの専門領域における高度実践看護師として、健康問題が個々の家族員や家族全体に及ぼす影響についてアセスメントする能力を修得する。また、高度実践看護師として果たすべき役割、機能について、さまざまな状況にある病者とその家族の現象を通して分析し、洞察する。 家族看護学領域の CNS コースを専攻する学生は、さらに家族支援専門看護師の役割、機能に関する演習を行う。					
達成目標 (達成水準)	1) 家族看護学の基盤となる理論や概念、それらを家族看護に適用する際の有用性と限界について理解する。 2) 健康問題が家族に及ぼす影響について、家族看護学の基盤となる理論や概念を用いてアセスメントする能力を修得する。 3) いくつかの家族看護モデルについて、それぞれの成り立ちや特徴を理解し、実践への適用について検討する。 4) 各専門領域における家族看護に関する現状と課題を明らかにする。					
授業計画	第1回:オリエンテーション クラスの進め方について 家族看護学の考え方、家族看護学の動向、家族看護学における理論や研究の動向、家族ケアの動向 第2回:システム理論:理論の成り立ちと構造を理解し、家族看護への適用について、その有用性と限界について検討する 第3回:構造機能理論:理論の成り立ちと構造を理解し、家族看護への適用について、その有用性と限界について検討する 第4回:家族周期論:理論の成り立ちと構造を理解し、家族看護への適用について、その有用性と限界について検討する 第5回:役割理論:理論の成り立ちと構造を理解し、家族看護への適用について、その有用性と限界について検討する 第6回:象徴的相互作用理論:理論の成り立ちと構造を理解し、家族看護への適用について、その有用性と限界について検討する 第7回:危機理論:理論の成り立ちと構造を理解し、家族看護への適用について、その有用性と限界について検討する 第8回:ストレス対処理論:理論の成り立ちと構造を理解し、家族看護への適用について、その有用性と限界について検討する 第9回:セルフケア理論:理論の成り立ちと構造を理解し、家族看護への適用について、その有用性と限界について検討する 第10回:家族看護モデル①:家族看護エンパワーメントモデルの特徴を理解した上で家族アセスメント、家族看護介入への適用について、その有用性と限界を検討する 第11回:家族看護モデル②:カルガリー式家族アセスメント/介入モデルの特徴を理解した上で家族アセスメント、家族看護介入への適用について、その有用性と限界を検討する 第12回:家族看護モデル③:渡辺式家族看護モデル、家族生活力量モデルなどの特徴を理解した上で家族アセスメント、家族看護介入への適用について、その有用性と限界を検討する 第13回:課題の発表とディスカッション①:各学生が取り上げた事例について、これまでに学んだ理論やモデルを用いて、家族看護の視点から分析したものを題材として、ディスカッションを行う 第14回:課題の発表とディスカッション②:前回に引き続いて、取り上げた事例について、アセスメントに基づき、専門看護師として解決に向けた方略を提案し、ディスカッションを行う 第15回:各専門領域における家族看護の現状と課題:各学生の専門領域における家族看護の現状を分析し、課題を明確化するとともに、それぞれが専門看護師としてどのように解決に向けて取り組むか、検討する					
成績評価 (基準と方法)	プレゼンテーションへの取り組み (40%)、課題レポート (30%)、ディスカッションへの参加度・貢献度 (30%) などから総合的に評価する。					
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・フォン・ベルタランフィ(著),長野敬,太田邦昌(訳):一般システム理論 その基礎・発展・応用,みすず書房,1973. ・法橋尚宏:家族機能のアセスメント法—FFFS 日本語版1の手引き,EDITEX,2008. ・石原邦雄:家族生活とストレス,垣内出版株式会社,1985. ・家族ケア研究会:家族生活力量モデルアセスメントスケールの活用法,医学書院,2002. ・小林奈美:グループワークで学ぶ家族看護論第2版カルガリー式家族看護モデル実践へのファーストステップ,医歯薬出版株式会社,2011. ・小島操子,佐藤礼子:危機の分析と看護介入事例集,金芳堂,2011. ・小島操子:看護における危機理論・危機介入 フィンク/コーン/アグレイラ/ムース/家族の危機モデルから学ぶ,金芳堂,2013. ・M. M. Friedman, V. R. Bowden, E. G. Jones: Family Nursing Research, Theory, and Practice, 5th ed., Pearson Education, 2003. ・森岡清美,望月嵩著:新しい家族社会学,培風館,1997. ・森山美知子:家族看護モデルアセスメントと援助の手引き,医学書院,1995. ・野嶋佐由美・中野綾美(編):家族エンパワーメントをもたらす看護実践,へるす出版,2005. ・野嶋佐由美,渡辺裕子(編):家族看護 04 家族アセスメントに基づいた家族像の形成,日本看護協会出版会,2004. ・岡堂哲雄(編):家族心理学入門 補訂版:家族心理学入門,培風館,1999. ・佐藤悦子:家族内コミュニケーション,勁草書房,1986. ・鈴木和子・渡辺裕子:家族看護学理論と実践 第4版,日本看護協会出版会,2012. ・渡辺裕子:渡辺式家族アセスメントモデルで事例を解く(家族ケアの技を学ぶ),医学書院,2007. ・柳原清子:渡辺式家族アセスメント/支援モデルによる困った場面課題解決シート,医学書院,2012. その他必要に応じて提示する。					
授業外学習 課題 (予習・復習)	第2~9回:家族看護学の基盤となる理論や概念について、一人が1つを取り上げ、プレゼンテーションを行う。 第13,14回:「対応困難だった家族」について、自己の臨床経験の中からまとめ、プレゼンテーションとディスカッションを行う。 第15回:各学生は、課題1で取り上げた理論の中から5つを用いて、それぞれの専門領域の患者・家族(入院中の患者、在宅療養者、病気の子ども、高齢の患者、慢性疾患患者、がん患者、緩和ケアの必要な患者、終末期患者、周産期にある女性とその家族など)についてのアセスメントと、高度実践看護師として果たすべき役割、機能についての分析・洞察を行い、レポートとして提出する。					
オフィスアワー	随時					
備考	長戸と瓜生の2名で担当する。瓜生:088-847-8748、uryu@cc.u-kochi.ac.jp					

科目名	家族看護方法論Ⅱ		英訳科目名	Theories and Interventions for Family Health Nursing II			
科目区分			単位数	2	必選区分		
時間割コード	62200121	授業種別		履修年次	1～	開講期間	後期
授業方式				池		永国寺	
履修における注意点			資格・区分等	家族支援専門看護師必修科目			
担当教員	2155151	瓜生 浩子	所属	看護学科			
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,2 を修得するために重要な科目						
授業教員							
授業の概要	<p>家族の理解を基盤に、さまざまな場や状況にある家族を対象として、健康問題によって家族システムに生じる課題を理解し、家族看護学の知識を活用してアセスメントを行い、それに基づく具体的な家族への看護介入方法を修得する。すなわち、さまざまな状況にある家族を事例として用い、既習の理論等を活用しながら、家族との援助関係の形成、家族像の形成を行い、家族カウンセリングや家族教育、問題解決能力や対処能力の育成・強化、家族関係の調整、役割調整、ソーシャルサポートの活用、発達課題達成への働きかけ、危機への働きかけ、意思決定支援、家族のセルフケア強化などの看護介入方法を用い、家族の個性に合わせた具体的な家族への看護援助を修得する。また、これらの状況にある家族への看護に関する現状を分析し、既存の研究結果などを活用して家族への看護援助方法のあり方を検討する。さらに、家族への看護過程の展開、家族との援助関係形成の方法、看護介入の基盤となる看護者としての姿勢、CNS に求められるコンサルテーション技術について実践事例を通して修得する。</p>						
達成目標(達成水準)	<p>1) 個人・家族・地域・保健医療福祉制度の力動的な関係をふまえて、家族の経験を理解し、家族ケアの視点を抽出することができる。 2) 個人と家族のダイナミズムを理解し、家族との援助関係形成のための方略を提示することができる。 3) 各専門領域において、家族の健康を促進するためのアプローチ方法を提案することができる。</p>						
授業計画	<p>第1回:家族の病気体験の理解、家族アセスメント(事例1) 第2回:家族像の形成、家族看護介入の検討(事例1) 第3回:事例の分析と看護介入の検討(事例2)① 家族の病気体験の理解、家族アセスメント、その結果を踏まえた家族像の形成 第4回:事例の分析と看護介入の検討(事例2)② 家族の役割調整への働きかけ、家族のコミュニケーション活性化への働きかけ 第5回:事例の分析と看護介入の検討(事例3)① 家族の病気体験の理解、家族アセスメント、その結果を踏まえた家族像の形成 第6回:事例の分析と看護介入の検討(事例3)② 家族教育、家族関係の調整への働きかけ 第7回:事例の分析と看護介入の検討(事例4)① 家族の病気体験の理解、家族アセスメント、その結果を踏まえた家族像の形成 第8回:事例の分析と看護介入の検討(事例4)② 家族のセルフケア強化、家族の発達課題達成への働きかけ 第9回:事例の分析と看護介入の検討(事例5)① 家族の病気体験の理解、家族アセスメント、その結果を踏まえた家族像の形成 第10回:事例の分析と看護介入の検討(事例5)② ソーシャルサポート活用への働きかけ、家族対処能力の育成・強化、家族危機への働きかけ 第11回:事例の分析と看護介入の検討(事例6)① 家族の病気体験の理解、家族アセスメント、その結果を踏まえた家族像の形成 第12回:事例の分析と看護介入の検討(事例6)② 家族の意思決定支援(合意形成) 第13回:家族看護実践の実際 実践事例を用いた検討① 家族との援助関係の形成:家族との間に協働関係、パートナーシップに基づいた援助関係を形成する方法について、実践事例を用いて検討する 第14回:家族看護実践の実際 実践事例を用いた検討② 家族看護介入方法の検討:家族像に基づいて、その家族にとって効果的な家族看護介入を選択する方法について、実践事例を用いて検討する 第15回:家族看護実践における課題と高度実践看護師としての役割 実践事例を振り返り、臨床において家族看護を実践する上での課題、高度実践看護師に期待される役割について検討する</p>						
成績評価(基準と方法)	<p>クラス討議への参加度(40%)、各回の課題(30%)、事後課題・レポート(30%)から総合的に評価する。</p>						
教科書	<ul style="list-style-type: none"> 野嶋佐由美、中野綾美編; 家族エンパワーメントをもたらす看護実践、へるす出版、2005. 野嶋佐由美、渡辺裕子(編); 家族看護 04 家族アセスメントに基づいた家族像の形成、日本看護協会出版会、2004. M.M.Friedman, V.R.Bowden, E.G.Jones; Family Nursing Research, Theory, and Practice, 5th ed., Pearson Education, 2002. Joanna Rowe kaakinen, Deborah Padgett Coelho; Family Health Care Nursing Theory:Practice, and Research, 5th ed., F.A.Davis, 2015. Bengtso Vern L, Acock Alan C, Klein David M, et al; Sourcebook of Family Theory and Research, Sage Pubns, 2005. 畠中宗一; 家族支援論, 世界思想社, 2003. 上野千鶴子他(編); ケアその思想と実践 4 家族のケア 家族へのケア, 岩波書店, 2008. 奥川幸子; 身体知と言語 対人援助技術を鍛える, 中央法規, 2007. Raymond G.Miltenberger(著), 園山繁樹, 野呂文行, 渡部匡隆, 大石幸二(訳), 行動変容法入門, 二瓶社, 2006. 佐藤悦子; 家族内コミュニケーション, 朝草書房, 1986. ドナルド・ショーン(著), 佐藤学, 秋田喜代美(訳); 専門家の知恵 反省的実践家は行為しながら考える, ゆみる出版, 2001. 井部俊子, 大生定義(監修); 専門看護師の思考と実践, 医学書院, 2015. <p>その他必要に応じて提示する。</p>						
授業外学習課題(予習・復習)	<p>第1～12回:検討する事例は事前に目を通し、各回の事前課題として、家族の病気体験、家族アセスメント、家族看護介入について自分なりに考えてくる 第1～12回:家族の病気体験の理解、家族アセスメント、家族像の検討を行った回は、事後課題として、自分なりに家族像をまとめ、提出する 第15回:臨床において家族看護を実践する上での課題、専門看護師に期待される役割について、自分の考えをまとめてくる 事後課題:「家族看護エンパワーメントモデル」を用いて、これまでに出会った患者・家族のアセスメントを行い、家族像を形成し、家族への看護介入方法を提案する。</p>						
オフィスアワー	<p>随時</p>						
備考	<p>* クラスは長戸と瓜生の2名で担当する。 長戸: 088-847-8708, nagato-k@cc.u-kochi.ac.jp 瓜生: 088-847-8748, uryu@cc.u-kochi.ac.jp * 学生は、それぞれの専門領域に関する家族について、家族アセスメント、家族像の形成、家族への看護介入方法を考案し、プレゼンテーションとディスカッションを行う。 * さらに、がん看護学領域の学生は、緩和ケア特論のクラスでレポートを作成すること。</p>						

科目名	家族看護実践論 I		英訳科目名	Practical Theories on Family Health Nursing I			
科目区分			単位数	2	必選区分		
時間割コード	62200122	授業種別		履修年次	2~	開講期間	前期
授業方式			池		永国寺		
履修における注意点			資格・区分等	家族支援専門看護師選択科目			
担当教員	2155151	瓜生 浩子	所属	看護学科			
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,2 を修得するために重要な科目						
授業教員							
授業の概要	診断・治療に関する既習の科目および家族看護対象論で学んだ知識体系を用いて、複雑な健康問題や多重課題を抱えた脆弱な状態にある家族に対して、ケアとキューアの統合に基づく看護介入を行うためのアセスメントの方法と看護介入方法を探求する。脆弱な状態にある家族を統合的にアセスメントし、家族の情緒的支援、家族カウンセリング、家族の合意形成、家族内の倫理調整、家族と医療者間の倫理調整などを実践する方略と技術を修得する。						
達成目標(達成水準)	1) 複雑な健康問題や多重課題を抱えた脆弱な状態にある家族の特徴、家族の脆弱性をもたらす要因とその関連性について説明できる。 2) 複雑な健康問題や多重課題を抱えた家族のアセスメント、家族の構造・機能的脆弱性の診断、家族の脆弱性をもたらしている健康問題の診断・治療に関するアセスメントの視点を提示できる。 3) 脆弱な状態にある家族への支援における課題を理解し、具体的な支援方法や介入の方略を修得する。						
授業計画	第1回:家族の脆弱性とは、家族の脆弱性をもたらす要因、複雑な健康問題や多重課題を抱えた家族の特徴 第2回:脆弱な家族の理解・支援に関する概念・理論；エンパワーメント、レジリエンス、ストレングスモデル 第3回:脆弱な家族への支援方法と支援における課題 第4回:家族の脆弱性の診断；複数の家族員が健康問題をもつ家族 ※家族の脆弱性の診断では、家族の構造・機能的脆弱性に関するアセスメントと、それをもたらしている健康問題の診断・治療に関するアセスメントの両方を含む 第5回:家族のアセスメント；複数の家族員が健康問題をもち脆弱な状態にある家族 第6回:家族への支援方法・介入技術；複数の家族員が健康問題をもち脆弱な状態にある家族 第7回:家族の脆弱性の診断；マンパワーが少くない家族 第8回:家族のアセスメント；マンパワーが少なく脆弱な状態にある家族 第9回:家族への支援方法・介入技術；マンパワーが少なく脆弱な状態にある家族 第10回:家族の脆弱性の診断；家族員の健康問題に巻き込まれている家族 第11回:家族のアセスメント；家族員の健康問題に巻き込まれ脆弱な状態にある家族 第12回:家族への支援方法・介入技術；家族員の健康問題に巻き込まれ脆弱な状態にある家族 第13回:家族の脆弱性の診断；被災した家族 第14回:家族のアセスメント；被災により脆弱な状態にある家族 第15回:家族への支援方法・介入技術；被災により脆弱な状態にある家族						
成績評価(基準と方法)	課題への取り組み (40%)、プレゼンテーション (30%)、ディスカッションへの参加度・貢献度(30%)などから総合的に評価する。						
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・ Dorothy S.Becvar(ed); Handbook of Family Resilience, Springer, 2013. ・ Froma Walsh, Strengthening Family Resilience, 3rd ed., Guilford, 2016. ・ 法橋尚宏; 家族機能のアセスメント法—FFFS 日本語版 1 の手引き, EDITEX, 2008. ・ 石原邦雄; 家族生活とストレス, 垣内出版株式会社, 1985. ・ Laurie N. Gottlieb; Strengths-Based Nursing Care Health and Healing for Person and Family, Springer, 2013. ・ M.M.Friedman, V.R.Bowden, E.G.Jones; Family Nursing Research, Theory, and Practice, 5th ed., Pearson Education, 2003. ・ M・マクゴールドリック, R・ガーンソン, S・シェレンバーガー(著), 石川元, 佐野祐華, 劉イーリン; ジェノグラム(家系図)の臨床家族関係の歴史に基づくアセスメントと介入, ミネルヴァ書房, 2009. ・ 中釜洋子, 野末武義他; 家族心理学, 有斐閣ブックス, 2008 ・ 佐藤悦子; 家族内コミュニケーション, 劉草書房, 1986. ・ 渡辺裕子; 渡辺式家族アセスメントモデルで事例を解く(家族ケアの技を学ぶ), 医学書院, 2007. ・ 奥川幸子; 身体知と言語 対人援助技術を鍛える, 中央法規, 2007. ・ Raymond G.Miltenberger(著), 園山繁樹, 野呂文行, 渡部匡隆, 大石幸二(訳), 行動変容法入門, 二瓶社, 2006. ・ 井部俊子, 大生定義(監修); 専門看護師の思考と実践, 医学書院, 2015. ・ Laurie N. Gottlieb, Nancy Feely, Cindy Dalton(著), 吉本照子(監修/訳), 酒井郁子, 杉田由加里(訳); 協働的パートナーシップによるケア援助関係によるバランス, エルゼビア・ジャパン, 2007. ・ ドナルド・ショーン(著), 佐藤学, 秋田喜代美(訳); 専門家の知恵 反省的実践家は行為しながら考える, ゆみる出版, 2001. その他必要に応じて提示する。						
授業外学習課題(予習・復習)	第 5,6 回:複数の家族員が健康問題をもつ家族の事例について、各自アセスメントを行い、家族へのケア計画を立案した上で臨むこと 第 8,9 回:マンパワーが少なく脆弱な状態にある家族の事例について、各自アセスメントを行い、家族へのケア計画を立案した上で臨むこと 第 11,12 回:家族員の健康問題に巻き込まれ脆弱な状態にある家族の事例について、各自アセスメントを行い、家族へのケア計画を立案した上で臨むこと 第 14,15 回:被災により脆弱な状態にある家族の事例について、各自アセスメントを行い、家族へのケア計画を立案した上で臨むこと						
オフィスアワー	随時						
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 長戸と瓜生の 2 名で担当する。瓜生：088-847-8748、uryu@cc.u-kochi.ac.jp ・ 第 6・9・12・15 回については、シミュレーション演習により、介入方法を実践的に学ぶとともに、その振り返りを通して、効果的な介入のための方略や介入の技術を明確化し、実践における課題や留意点について考察する。 						

科目名	家族看護実践論Ⅱ		英訳科目名	Practical Theories on Family Health Nursing II		
科目区分			単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200123	授業種別	履修年次	2～	開講期間	前期
授業方式			池		永国寺	
履修における 注意点			資格・区分等	家族支援専門看護師必修科目		
担当教員	2155473	長戸 和子	所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,2を修得するために重要な科目					
授業教員						
授業の概要	診断・治療に関する既習の科目および家族看護対象論で学んだ知識体系を用いて、クリティカルな状況にある人とその家族に対して、ケアとキューアの統合に基づく看護介入を行うためのアセスメントの方法と看護介入方法を探求する。クリティカルな状況にある人とその家族を統合的にアセスメントし、家族の情緒的支援、家族カウンセリング、家族の合意形成、家族内の倫理調整、家族と医療者間の倫理調整などを実践する方略と技術を修得する。					
達成目標 (達成水準)	1. クリティカルな状況にある人とその家族の回復や状態の安定に向けて看護過程を展開することができる。 2. クリティカルな状況にある人と家族に合わせた治療環境の管理と調整ができる。 3. クリティカルな状況における家族看護の展開について、家族アセスメントに基づく家族への援助方法を修得する。					
授業計画	<p>第1回:クリティカルケア看護における臨床判断と問題解決 ；ケアとキューアの統合に必要な臨床判断の内容とその手がかり、臨床判断への影響要因、クリティカルケア看護における問題解決のプロセスと必要な能力</p> <p>第2回:クリティカルケア看護における援助の人間関係とその形成プロセス ；クリティカルな状況にある患者および家族との援助の人間関係の特徴、その形成プロセス、関係形成の重要性と困難性、援助者に必要な姿勢</p> <p>第3回:クリティカルケア看護におけるコミュニケーションの特徴とその技術 ；クリティカルな状況における患者・家族・医療者間のコミュニケーションの特徴、その中で生じやすい問題とその背景、効果的なコミュニケーション技法</p> <p>第4回:クリティカルな状況での家族看護エンパワメントモデルの活用(1) ；クリティカルな状況にある患者と家族の事例について、家族看護エンパワメントモデルを活用し、家族の病気体験の理解、家族アセスメント、家族像の形成</p> <p>第5回:クリティカルな状況での家族看護エンパワメントモデルの活用(2) ；クリティカルな状況にある患者と家族の事例について、家族看護エンパワメントモデルを活用し、家族看護介入の検討</p> <p>第6回:クリティカルな状況での家族への看護介入ー家族の合意形成 ；クリティカルな状況における意思決定の特徴、家族の意思決定・代理意思決定のプロセス、その中で生じやすい倫理的課題、家族の合意形成を支える看護介入</p> <p>第7回:クリティカルな状況での家族の分析と看護介入(1) ；治療に関する代理意思決定を求められている家族のアセスメントと看護介入の検討</p> <p>第8回:クリティカルな状況にある家族の分析と看護介入(2) ；「救う医療」から「看取る医療」への転換過程にある家族のアセスメントと看護介入の検討</p> <p>第9回:クリティカルな状況にある人と家族に対する看護援助(1) ；呼吸に問題を持つ患者と家族のアセスメントと看護介入</p> <p>第10回:クリティカルな状況にある人と家族に対する看護援助(2) ；循環に問題を持つ患者と家族のアセスメントと看護介入</p> <p>第11回:クリティカルな状況にある人と家族に対する看護援助(3) ；中枢神経系に問題を持つ患者と家族のアセスメントと看護介入</p> <p>第12回:クリティカルな状況にある人と家族に対する看護援助(4) ；多発外傷患者と家族のアセスメントと看護介入</p> <p>第13回:クリティカルな状況にある人と家族に対する看護援助(5) ；敗血症患者と家族のアセスメントと看護介入</p> <p>第14回:クリティカルな状況にある人と家族の心理社会的側面に対する看護援助 ；生命の危機的状況に突然直面した患者と家族の心理社会的側面のアセスメントと看護介入</p> <p>第15回:まとめ ；第14回までの学習内容をふまえて、クリティカルな状況にある人と家族に対する看護のポイントと課題、専門看護師の役割について検討</p>					
成績評価 (基準と方法)	課題への取り組み(40%)、プレゼンテーション(30%)、ディスカッションへの参加度・貢献度(30%)などから総合的に評価する。					
教科書	<p>講義の中で資料の配布、及び国内外の重要文献の紹介などを適宜行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野嶋佐由美監修：家族エンパワメントをもたらす看護実践，へるす出版，2005. ・日本クリティカルケア看護学会監修：看護のためのクリティカルケア場面の問題解決ガイド 基礎からわかる臨床に活かす倫理調整，三輪書店，2013. ・ポップ・ライト著/若林正訳：突然の死 そのとき医療スタッフは，医歯薬出版，2002. ・ポーリン・ボス著/南山浩二訳：「さよなら」のない別れ 別れのない「さよなら」-あいまいな喪失-，学文社，2005. ・A・デーケン，柳田邦男編：〈突然の死〉とグリーフケア，春秋社，1997. ・小島操子著：看護における危機理論・危機介入 改訂第2版 フィンク/コーン/アグィレラ/ムース/家族の危機モデルから学ぶ，金芳堂，2008. ・野嶋佐由美，渡辺裕子編集：生命の危機状態にある患者の家族への看護，家族看護，3(2)，2005. ・山勢博彰，藤野崇，能芝範子編集：クリティカルケア領域での家族看護，家族看護，10(2)，2012. ・Carlson KK: AACN Advanced Critical Care Nursing, Saunders, 2008 					
授業外学習 課題 (予習・復習)	第9～14回:各回で取り上げる状況にある人と家族の事例について、各自アセスメントを行い、家族へのケア計画を立案した上で授業に参加すること					
オフィスアワー	随時					
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・長戸と大川が担当する。大川：088-847-3102、okawa@ccu-kochi.ac.jp ・第9回～第14回については、シミュレーション演習により、介入方法を実践的に学ぶとともに、その振り返りを通して、効果的な介入のための方略や介入の技術を明確化し、実践における課題や留意点について考察する。 					

科目名	家族看護学実践演習 I			英訳科目名	Advanced Practicum in Family Health Nursing I		
科目区分				単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200126	授業種別		履修年次	1～	開講期間	後期
授業方式				池		永国寺	
履修における 注意点				資格・区分等	家族支援専門看護師必修科目		
担当教員	2155473	長戸 和子		所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,3 を修得するために重要な科目						
授業教員							
授業の概要	高度な看護実践の基礎となる家族支援専門看護師の役割の理解と、家族アセスメントおよび家族に対する直接ケアを実践する能力の修得に焦点をあてる。家族支援専門看護師の指導のもとに、その活動を見学・体験し、高度実践看護師（家族支援専門看護師）としての役割について学ぶ。また、病気の家族員を抱える家族を受け持ち（2例程度）、専門的な知識を用いて健康障害および家族を統合的にアセスメントし、適切な看護介入を実践することにより、高度実践看護師としての基礎的な態度や判断能力、実践能力を修得する。						
達成目標 (達成水準)	<ol style="list-style-type: none"> 1) 実習施設における家族支援専門看護師の位置づけを理解する。 2) 家族支援専門看護師のもつ高度な専門的知識と技術が、実践の場でどのように実践されているのかを理解する。 3) 家族支援専門看護師の実際の活動の見学・体験を通して、6つの役割機能（実践、コンサルテーション、調整、倫理調整、教育、研究）について洞察を深める。 4) 健康障害をもつ家族員と家族を包括的にアセスメントする能力を身につける。 5) 健康障害をもつ家族員と家族が抱える問題を理解する。 6) 健康障害をもつ家族員と家族に対して、健康障害や家族の状況に応じて必要な看護援助を実践する。 						
授業計画	:実習要項参照のこと						
成績評価 (基準と方法)	達成目標と評価の基準に沿って、到達度の評価を行う。 実践演習内容、記録、個人カンファレンス、報告書を通して、総合的に評価を行う。						
教科書	必要に応じて適宜提示する。						
授業外学習 課題 (予習・復習)	:必要に応じて適宜提示する						
オフィスアワー	随時						
備考	* 実習病院および実習部署は、学生の関心や臨床経験をふまえ、相談の上決定する。 * 瓜生と長戸が担当する。長戸：088-847-8708、nagato-k@cc.u-kochi.ac.jp						

科目名	家族看護学実践演習 II			英訳科目名	Advanced Practicum in Family Health Nursing II		
科目区分				単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200127	授業種別		履修年次	1～	開講期間	後期
授業方式				池		永国寺	
履修における 注意点				資格・区分等	家族支援専門看護師必修科目		
担当教員	2155151	瓜生 浩子		所属	看護学科		
ディプロマ・ポ リシーとの関連 性	DP1,4 を修得するために重要な科目						
授業教員							
授業の概要	家族支援専門看護師に必要な高度な実践能力、教育能力の修得に焦点をあてる。様々な健康問題をもつ患者と家族を受け持ち（3例程度）、実習の場の看護師と協働しながら、専門的知識や技術を用いて個別的な看護計画を立案し、看護を実践する。また、実習の場における家族看護の現状とニーズをアセスメントした上で、ケアを向上させるために教育的機能を果たす。家族看護学領域の専任教員、専門看護師のスーパービジョンを受けながら専門性を発展させ、高度実践看護師としての役割を探究する。						
達成目標 (達成水準)	<ol style="list-style-type: none"> 1) 家族看護の基盤となる理論に基づき、健康障害を抱える家族員と家族を包括的にアセスメントする能力を身につける。 2) 健康障害をもつ家族員と家族に対して、エビデンスに基づく個別的な看護を計画し、実践する。 3) チーム活動を通して、チームの中で家族支援専門看護師が果たす役割について学ぶ。 4) 実習病棟の家族看護に関する課題や教育ニーズを把握し、家族看護実践の質の向上を図るため、看護職者を対象とする教育を計画、実施できる。 5) 家族看護実践の質の向上を目指して、実践の場において研究成果を活用できる。 						
授業計画	:家族看護学実践演習 II 実習要項参照						
成績評価 (基準と方法)	達成目標と評価の基準に沿って、到達度の評価を行う。 実践演習内容、記録、個人カンファレンス、報告書を通して、総合的に評価を行う。						
教科書	必要に応じて適宜提示する						
授業外学習 課題 (予習・復習)	:実践演習の進行に合わせ、随時提示する						
オフィスアワー	随時						
備考	実習病院および実習部署は、学生の関心や臨床経験をふまえ、相談の上決定する。						

科目名	在宅看護論		英訳科目名	Theories and Issues in Home Care Nursing			
科目区分			単位数	1	必選区分		
時間割コード	62200131	授業種別		履修年次	1～	開講期間	前期
授業方式			池		永国寺		
履修における 注意点			資格・区分等	在宅看護専門看護師必修科目			
担当教員	2155096	川上 理子	所属	看護学科			
ディプロマ・ポリシーとの関連性							
授業教員							
授業の概要	様々な疾病や障害を持ちながら在宅へ移行するあるいは在宅で生活する療養者とその家族を対象とした在宅看護の視点と概念について学ぶ。また、理論やモデルを活用して在宅療養者のフィジカルアセスメント、セルフケア、生活環境、介護状況などの視点から療養者および家族のヘルスニーズやケアニーズを包括的にアセスメントできる能力を修得する。在宅看護学における生活、健康、家族、QOL等の理論や研究の動向についても分析し、今後の方向性と在宅看護専門看護師としての役割を探究する。						
達成目標 (達成水準)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 様々な疾病や障害を持ちながら在宅へ移行するあるいは在宅で生活する療養者とその家族を対象とした在宅看護の視点と概念について説明できる。 2. 理論やモデルを活用して在宅療養者のフィジカルアセスメント、セルフケア、生活環境、介護状況などの視点から療養者および家族のヘルスニーズのケアニーズを包括的にアセスメントする方法、評価する方法を提案できる。 3. 在宅看護学における生活、健康、家族、QOL等の理論や研究の動向についても分析し、今後の方向性と在宅看護専門看護師としての役割について説明できる。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1:在宅看護学で基盤となる理論・概念(1) 2:在宅看護学で基盤となる理論・概念(2) 3:在宅療養者の包括的アセスメントについて(1)日常生活活動 4:在宅療養者の包括的アセスメントについて(2):生活環境 5:在宅療養者の包括的アセスメントについて(3):家族 6:在宅療養者の包括的アセスメント:まとめ 7:今後の在宅看護の展望と課題 8:まとめ:在宅看護 CNS の役割と機能 						
成績評価 (基準と方法)	クラス討議への参加および貢献度、プレゼンテーション、レポートなどによって総合的に評価する。						
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ☒ ロビン・ライズ編著他:在宅看護論、医学書院 MYW、1997 ☒ 園田恭一・川田智恵子編:健康観の転換-新しい健康理論の展開、東京大学出版会、1995 ☒ ドロセア E オレム著、小野寺杜紀訳:オレム看護論 看護実践における基本概念 第4版、医学書院、2005 ☒ 野嶋佐由美監修、粕田孝行、宇佐美しおり著者代表:セルフケア看護アプローチ、日総研出版、2000. ☒ 土屋弘吉編:日常生活活動(動作):一評価と訓練の実際一、医歯薬出版、1992 ☒ 木村哲彦監修、安梅勅江他著:生活環境論 第2版、医歯薬出版、1995 *その他、資料の資料配布および国内外の重要文献の紹介などを適宜行う。 						
授業外学習 課題 (予習・復習)	<ul style="list-style-type: none"> :各講義内容に関する文献検討、及びプレゼンテーション資料作成。 :レポート(全講義終了後) :その他、必要に応じ提示する。 						
オフィスアワー	適宜、学生と時間調整して対応する。						
備考							

科目名	在宅看護方法論 I		英訳科目名	Theories and Interventions in Home Care Nursing I		
科目区分			単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200132	授業種別	履修年次	1~	開講期間	後期
授業方式			池		永国寺	
履修における 注意点			資格・区分等	在宅看護専門看護師必修科目		
担当教員	2155096	川上 理子	所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,2を修得するために重要な科目					
授業教員	川上 理子,中井 ,森下 幸子,川上 幸子,川上・森下					
授業の概要	療養上複雑で多様な問題を持つ在宅療養者・家族の健康課題の解決、改善・現状維持、安らかなターミナル、QOLの実現にむけ、包括的なアセスメントを基盤として、倫理的判断・臨床判断に基づき、在宅看護計画の立案、実施、評価する在宅看護過程を展開し、複雑で多様な問題を解決していく必要な専門的能力を修得する。また、在宅ケア関連施設や多職種と協働しながらチームでケアを推進していく専門的能力を修得する。さらに既存の理論や研究成果を活用し、高度な看護実践方法について探求し、倫理調整を行う能力を養う。さらに、感染管理、事故予防を含んだ在宅における安全管理・リスクマネジメントの特性について理解し、完全管理、リスクマネジメントに関する看護実践力を修得する。					
達成目標 (達成水準)	1. 療養上複雑で多様な問題を持つ在宅療養者・家族に対する在宅看護課程の特徴と展開方法について説明できる。 2. 在宅看護課程を展開する上で、必要な在宅ケア関連施設や多職種と協働し、チームケアを推進する方策を提案できる。既存の理論や研究成果を活用し、高度な看護実践方法について提案するとともに、倫理調整の方法について説明できる。 3. 感染管理、事故予防を含んだ在宅における安全管理・リスクマネジメントの特性について説明でき、安全管理、リスクマネジメントを踏まえた、計画を立案できる。					
授業計画	1:在宅における看護過程の特徴(川上 理子) 2:在宅移行期における看護過程の特徴(川上 理子) 3:在宅ケアにおけるチームケア①(中井) 4:在宅ケアにおけるチームケア②(中井) 5:在宅ケア領域における倫理的課題①(森下 幸子) 6:在宅ケア領域における倫理的課題②(川上 幸子) 7:在宅ケアにおけるリスクマネジメント①(川上 理子) 8:在宅ケアにおけるリスクマネジメント②(川上 理子) 9:在宅看護過程の展開：独居高齢者事例のアセスメント(川上・森下) 10:在宅看護過程の展開：独居高齢者事例の看護計画(川上・森下) 11:在宅看護過程の展開：四肢麻痺のある壮年期事例のアセスメント(川上・森下) 12:在宅看護過程の展開：四肢麻痺のある壮年期の在宅療養者の看護計画(川上・森下) 13:在宅への移行期(訪問看護導入期)における看護過程：がん患者事例のアセスメント(川上・森下) 14:在宅への移行期(訪問看護導入期)における看護過程：がん患者事例の退院支援計画(川上・森下) 15:まとめ：在宅看護 CNS の役割と機能(川上・森下)					
成績評価 (基準と方法)	クラス討議への参加(40%)、プレゼンテーション(30%)、事後課題・レポート(30%)					
教科書	<input checked="" type="checkbox"/> Marilyn D.Harris：Handbook of Home Health Care Administration sixth Edition、Jones And Bartlett Publishers、2015 <input checked="" type="checkbox"/> 島内節：現場で使える在宅ケアのアウトカム評価-ケアの質を高めるために、ミネルヴァ書房、2018 <input checked="" type="checkbox"/> 木下由美子：エッセンシャル地域看護学第2版、医歯薬出版株式会社、2009 <input checked="" type="checkbox"/> 畑田みゆき：多職種連携・地域連携をふまえた看護記録パーフェクトガイド、学研メディカル秀潤社、2021 <input checked="" type="checkbox"/> 井部俊子ら：看護アウトカムの測定-患者満足とケアの質指標(看護学名著シリーズ)、エルゼビア・ジャパン、2006 <input checked="" type="checkbox"/> 河野あゆみ：強みと弱みからみた在宅看護過程+総合的機能関連図、医学書院、2018 <input checked="" type="checkbox"/> 山内豊昭監修他：訪問看護アセスメント・プロトコル改訂版、中央法規出版、2015 <input checked="" type="checkbox"/> 篠田道子：ナースのための退院支援・調整-院内チームと地域連携のシステムづくり第2版、日本看護協会出版会、2017 <input checked="" type="checkbox"/> 宇都宮宏子：看護がつながる在宅療養移行支援、日本看護協会出版会、2014 <input checked="" type="checkbox"/> 宇都宮宏子：入退院支援パーフェクトガイド、メディカ出版、2019 <input checked="" type="checkbox"/> 野中猛、野中ケアマネジメント研究会：多職種連携の技術、中央法規出版、2014 <input checked="" type="checkbox"/> 丸山マサ美：バイオエシックス-その継承と発展、川島書店、2018 <input checked="" type="checkbox"/> 川崎優子：看護者が行う意思決定支援の技法 30-患者の真のニーズ・価値観を引き出すかわり、医学書院、2017 <input checked="" type="checkbox"/> 森岡広美ら：意思決定をする人・その支援をするすべての人に向けた参考書 人生を自分らしく生き抜くための意思決定-ACP・QOL・OOD・人生デザインシミュレーション、金芳堂、2021 <input checked="" type="checkbox"/> 野嶋佐由美監修、中野綾美編集：家族エンパワーメントをもたらす看護実践、へるす出版、2005 <input checked="" type="checkbox"/> NPO 法人 HAICS 研究会 PICS プロジェクト：オールカラー改訂2版訪問看護師のための在宅感染予防テキスト：「アセスメントツール」と「そのまま使える説明シート」がダウンロードできる!、メディカ出版、2020 <input checked="" type="checkbox"/> ベ谷直人ら：在宅医療・介護における感染管理ハンドブック、株式会社宇宙堂八木書店、2018 <input checked="" type="checkbox"/> 全国訪問看護事業協会：訪問看護の安全対策-マニュアルの作成とヒヤリハット報告書の活用-第3版、日本看護協会出版会、2018 *その他、資料の資料配布および国内外の重要文献の紹介などを適宜行う。					
授業外学習 課題 (予習・復習)	第1~15回：課題に対するプレゼンテーションの準備 第9,10,11,12,14回の事例検討：終了後、修正した看護計画を提出すること 第15回終了後：CNSの役割についてレポート提出					
オフィスアワー	適宜、学生と時間調整して対応する。					
備考						

科目名	在宅看護方法論Ⅱ		英訳科目名	Theories and Interventions in Home Care Nursing II		
科目区分			単位数	1	必選区分	
時間割コード	62200133	授業種別	履修年次	1～	開講期間	前期
授業方式			池	永国寺		
履修における 注意点			資格・区分等	在宅看護専門看護師必修科目 家族支援看護専門看護師必修科目		
担当教員	2155096	川上 理子	所属	看護学科		
ディプロマ・ポ リシーとの関連 性	DP1,2,3 を修得するために重要な科目					
授業教員	中井,森下,川上					
授業の概要	在宅生活への移行、及び継続、QOLの向上を目的としたケアマネジメントの一連の過程について理解を深め、ケアマネジメントを行う専門的能力を修得する。また、地域の社会資源の活用、改善、開発方法について理解し、多機関、多組織、多職種とのネットワークを構築するなど連携調整を行う能力や、ケアスタッフの教育、相談を行う能力を養い、在宅ケアを推進していく専門的能力を修得する。					
達成目標 (達成水準)	1. 在宅生活への移行、及び継続、QOLの向上を目的としたケアマネジメントの一連の過程について事例を用いて展開できる。 2. 地域の社会資源の活用、改善、開発方法について提案できる。 3. 多職種、多分野のケアメンバーの専門性をいかした連携調整のあり方、多機関、多組織、多職種とのネットワークの構築のあり方を提案できる。 4. 事例を用いて、ケアスタッフの教育内容、相談の展開について提案できる。					
授業計画	1:ケアマネジメントとそのプロセス(中井) 2:ケアマネジメントにおいて求められる能力(連携、協働、ネットワーク形成)(中井) 3:ケアマネジメントにおいて求められる能力(合意形成)(中井) 4:ケアマネジメントのプロセス展開1(医療的ケアが必要な事例)(森下) 5:ケアマネジメントのプロセス展開2(医療的ケアが必要な事例)(森下) 6:ケアマネジメントのプロセス展開3(在宅移行期の事例)(森下) 7:社会資源の開発、改善方法(川上) 8:ケアマネジメントと専門看護師の役割(川上)					
成績評価 (基準と方法)	クラス討議への参加(40%)、プレゼンテーション(30%)、事後課題・レポート(30%)					
教科書	<input checked="" type="checkbox"/> デイビッド P. マクスリー著他：ケースマネジメント入門、中央法規、1994 <input checked="" type="checkbox"/> 野中猛：図説ケアマネジメント、中央法規出版、1997 <input checked="" type="checkbox"/> Overtveit, J.、三友雅夫、茶谷滋訳：コミュニティケアの戦略—学際的チームとケアマネジメント、恒星社厚生閣、1999 <input checked="" type="checkbox"/> 野中猛著：図説ケアチーム、中央法規出版株式会社、2007 <input checked="" type="checkbox"/> 細田満知子：「チーム医療の理念と現実」—看護に生かす医療社会学からのアプローチ、日本看護協会出版会、2003 *その他、資料の資料配布および国内外の重要文献の紹介などを適宜行う。					
授業外学習 課題 (予習・復習)	:各講義内容に関する文献検討、及びプレゼンテーション資料作成。 :レポート(全講義終了後) :その他、必要に応じ提示する。					
オフィスアワー	適宜、学生と時間調整して対応する。					
備考	関連する SDGs : 3・17					

科目名	在宅看護方法論Ⅲ		英訳科目名	Theories and Interventions in Home Care Nursing III		
科目区分			単位数	1	必選区分	
時間割コード	62200134	授業種別	履修年次	2～	開講期間	前期
授業方式			池	永国寺		
履修における 注意点			資格・区分等	在宅看護専門看護師必修科目		
担当教員	2155096	川上 理子	所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性						
授業教員	川上,森下					
授業の概要	既存の理論や研究の分析を通して、根拠に基づいたケア効果やケアの質評価の方法、ケアスタッフの人材育成、新たな在宅看護におけるケアの質の評価、質の改善方法について探求する。また、ケアの質管理、経営管理などに関する、卓越した看護実践や相談、教育などの活動を含めた在宅看護領域における専門看護師の役割について検討する。					
達成目標 (達成水準)	1. 既存の理論や研究的手法を用いて、根拠に基づいたケアの効果やケアの質を分析する方法を説明できる。 2. 在宅ケアスタッフの人材育成の課題について分析、説明し、既存の理論や研究成果を用いて新たなケアの質改善の方法について提案できる。 3. ケアの質管理、経営管理などに関する、卓越した看護実践や相談、教育などの活動を含めた在宅看護領域における専門看護師の役割とその活動について説明できる。					
授業計画	1:在宅看護に関するケアの効果と質の評価方法1：既存の理論や研究等の文献整理(川上) 2:在宅看護に関するケアの効果と質の評価方法2：訪問看護のケアを1つ取り上げてケアの効果や質評価指標の考案(川上) 3:在宅看護における質改善の方法1：理論や研究等の文献から現状や課題の整理(川上) 4:在宅看護における質改善の方法2：課題解決に向けた方略や方法の考案(川上) 5:在宅看護における人材育成の方法1：既存の理論や研究等の文献整理(森下) 6:在宅看護における人材育成の方法2：スタッフの資質向上に向けたケアスタッフの人材育成プログラムの考案(森下) 7:在宅看護における質管理に向けた CNS の役割と機能(森下) 8:在宅看護における経営管理に関する CNS の役割と機能(森下)					
成績評価 (基準と方法)	クラス討議への参加、貢献度、プレゼンテーション、レポート等により総合的に評価する。					
教科書	<input checked="" type="checkbox"/> 島内節編集他：在宅ケアアウトカム評価と質改善の方法、医学書院、2002 <input checked="" type="checkbox"/> 山本則子、石垣和子著：高齢者訪問看護の質指標、日本看護協会出版会、2008 <input checked="" type="checkbox"/> Ora Lea Stricland、Colleen Dilorio 著、井部俊子監修、中岡ひさ子訳：看護アウトカムの測定－患者満足とケアの質指標－、エルゼビアジャパン、2006 <input checked="" type="checkbox"/> Fitzpatric.R：Assessment and Evaluation of Health and Medical Care、Open University Press、1997 <input checked="" type="checkbox"/> 伊藤守：コーチングマネジメント－人と組織のハイパフォーマンスをつくる、ディスカヴァー・トゥエンティワン、2002 ＊その他、資料の資料配布および国内外の重要文献の紹介などを適宜行う。					
授業外学習 課題 (予習・復習)	:各講義内容に関する文献検討、及びプレゼンテーション資料作成。 :レポート(全講義終了後) :その他、必要に応じ提示する。					
オフィスアワー	適宜、学生と時間調整して対応する。					
備考						

科目名	在宅ケアシステム論		英訳科目名	Theories and Issues in Home Health Care Systems		
科目区分			単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200135	授業種別	履修年次	2~	開講期間	前期
授業方式			池		永国寺	
履修における注意点			資格・区分等	在宅看護専門看護師必修科目		
担当教員	2155096	川上 理子	所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP3,4,6 を修得するために重要な科目					
授業教員	川上,川上 ,中井,森下					
授業の概要	地域包括ケアシステム、在宅ケアシステムの概念、構成要素、発展のプロセスと評価について理解を深めるとともに、地域包括ケア、在宅ケアシステムの問題点及び課題について国内外の文献を通して分析し、ケアシステムの発展の方向性を探求する。さらに、社会のニーズの変化により多様化する在宅ケアシステムにおける訪問看護ステーション等の在宅ケア事業所の開設や事業所安定・発展に向け効果・効率的な運営管理および運営戦略について理解を深め、新たな運営管理方法、運営戦略の方策を探求する。					
達成目標(達成水準)	1. 在宅ケアシステム、地域包括ケアシステムの問題点及び課題について国内外の文献を通して分析し、ケアシステムの発展の方向性を探求する。さらに、社会のニーズの変化により多様化する在宅ケアシステムにおける訪問看護ステーション等の在宅ケア事業所の開設や事業所安定・発展に向け効果・効率的な運営管理および運営戦略について説明でき、新たな運営管理方法、運営戦略の方策を提案できる。 2. 在宅ケアシステム、地域包括ケアシステムの問題点及び課題について国内外の文献を通して分析し、ケアシステムの発展の方向性を探求する。さらに、社会のニーズの変化により多様化する在宅ケアシステムにおける訪問看護ステーション等の在宅ケア事業所の開設や事業所安定・発展に向け効果・効率的な運営管理および運営戦略について説明でき、新たな運営管理方法、運営戦略の方策を提案できる。 3. 社会のニーズの変化により多様化する在宅ケアシステムにおける訪問看護ステーション等の在宅ケア事業所の開設や事業所安定・発展に向け効果・効率的な運営管理および運営戦略について説明でき、新たな運営管理方法、運営戦略の方策を提案できる。					
授業計画	1:在宅ケアに関する保健医療政策とその変遷1：医療制度(川上) 2:在宅ケアに関する保健医療政策とその変遷2：介護保険制度、障害者総合支援法(川上) 3:地域包括ケアシステム、在宅ケアシステムの概念(川上) 4:地域包括ケアシステム・在宅ケアシステムの現状と課題：地域包括ケアシステム、在宅ケアシステムに関する現状と課題分析(中井) 5:地域包括ケアシステム・在宅ケアシステムの現状と課題：退院支援システムに関する現状と課題の分析(中井) 6:地域包括ケアシステム・在宅ケアシステムの発展に向けた方略：地域包括ケアシステム在宅ケアシステム発展に向けた方略の探求(中井) 7:地域包括ケアシステム・在宅ケアシステムの発展に向けた方略2：退院支援システム発展に向けた方略の探求(中井) 8:在宅ケアシステムと訪問看護ステーション(森下) 9:諸外国における在宅ケアシステムの現状と訪問看護ステーション(森下) 10:訪問看護ステーションの効果・効率的な運営管理(森下) 11:訪問看護ステーションにおける経営分析、マーケティング(森下) 12:訪問看護ステーションの効果・効率的な情報管理(森下) 13:在宅ケア事業所開設における経営戦略：理論や研究結果等の概観(中井) 14:在宅ケア事業所開設における経営戦略：モデル地域における経営戦略の考案(中井) 15:在宅ケアシステム改善に向けた専門看護師の役割機能(川上)					
成績評価(基準と方法)	クラス討議への参加(40%)、プレゼンテーション(30%)、事後課題・レポート(30%)					
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ☒ 太田貞司：地域ケアシステム、有斐閣アルマ、2003 ☒ 地域包括ケアシステムの深化：integrated care 理論を用いたチェンジマネジメント、中央法規出版、2019 ☒ 見藤隆子他：看護職者のための政策過程入門第2版一制度を変えると看護が変わる!、日本看護協会出版会、2017 ☒ 吉本照子他：地域高齢者のための看護システムマネジメント、医歯薬出版、2009 ☒ 松下正明監修：チームで行う退院支援、中央法規、2008 ☒ 日本訪問看護振興財団監修：新版訪問看護ステーション開設運営評価マニュアル第3版、日本看護協会出版会、2016 ☒ 本間清文：令和3年度改定がひと目でわかる!事業者のための介護保険制度対応ナビ、第一法規、2021 ☒ 社会保険研究所：障害者福祉ガイドー障害者総合支援法の解説-令和3年4月版、2021 ☒ 島崎謙治：日本の医療 増補改訂版：制度と政策、東京大学出版会、2020 ☒ 川淵孝一監修、尾形裕也著：日本の医療政策と地域医療システム-医療制度の基礎知識と最近の動向【第4版】、医療経営十初級テキスト(2)、日本医療企画、2018 ☒ 篠原則康他：スーパー図解・診療報酬のしくみと基本 2020 (令和2) 年度改訂対応版、メディカ出版、2020 ☒ Marilyn D.Harris：Handbook of Home Health Care Administration Sixth Edition、Jones & Bartlett Learning、2015 ☒ フォリッパ・コトラー：コトラーのマーケティング・マネジメント、基本編、東京ピアソン・エディケーション、2002 ☒ グロービス経営大学院：グロービスMBAマーケティング、ダイヤモンド社、2019 ☒ 尾形裕也：看護管理者のための医療経営学第2版、日本看護協会出版会、2015 ☒ 佐藤美香子：看護管理実践計画書標準テキスト 職場を改善する課題解決術、日経研出版、2016 ☒ 嶋田利広：SWOT分析 コーチング・メソッド、マネジメント社、2014 ☒ マイケルEポーター：医療戦略の本質一価値を向上させる競争、日経BP社、2009 ☒ 野田稔：組織論再入門、ダイヤモンド社、2016 ☒ PFドラッカー著、植田惇生訳：エッセンシャル版マネジメント、ダイヤモンド社、2001 ☒ 秋山智弥編集：看護サービスの質管理 2020年版、日本看護協会出版会、2020 ☒ 小池智子・松浦正子・中西睦子編集：看護サービス管理第5版、医学書院、2018 					
授業外学習(予習・復習)	:第1~15回(13回除く)：課題に対するプレゼンテーションの準備 :第8回終了後：CNSの役割についてレポート提出 :その他、必要に応じ提示する。					
オフィスアワー	適宜、学生と時間調整して対応する。					
備考	第13、14回：松澤亮氏(ゲストスピーカー)を迎えて展開する					

科目名	在宅看護展開論 I		英訳科目名	Nursing Assessments and Interventions in Home Care Nursing I		
科目区分			単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200136	授業種別	履修年次	1~	開講期間	後期
授業方式			池	永国寺		
履修における 注意点			資格・区分等	在宅看護専門看護師必修科目		
担当教員	2155096	川上 理子	所属	看護学科		
ディプロマ・ポ リシーとの関連 性	DP1,2,3 を修得するために重要な科目					
授業教員	川上 理子,森下 幸子,川上・森下					
授業の概要	自立促進へのケアが必要な利用者及びその家族へのケアを展開するにあたり、生活環境、生活機能の維持向上、セルフケア、予防、リハビリテーション、チームアプローチについて理解を深める。これらを基盤に、倫理的判断・臨床判断にもとづき包括的にアセスメントし、新たなケアプログラムを考案するなどエビデンスに基づいた高度な看護実践を展開し、ケアスタッフの教育や相談、多職種と連携調整する能力を高める。既存の研究成果や実践報告、個々の体験を活用しながら分析し、現状の課題と今後の展望について洞察する。					
達成目標 (達成水準)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自立促進へのケアが必要な利用者及びその家族へのケアを展開するにあたり、生活環境、生活機能の維持向上、セルフケア、予防、リハビリテーション、チームアプローチについて説明できる。 2. これらを基盤に、倫理的判断・臨床判断にもとづき包括的にアセスメントし、自立支援に向けた計画立案するなど、エビデンスに基づいた自立を促すためのケア方法や評価方法を提案できる。 3. 自立を促すためのケアスタッフの教育や相談、多職種と連携調整する方策を提案できる。 4. 既存の研究成果や実践報告、個々の体験を活用しながら分析でき、現状の課題と今後の展望について説明できる。 					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1:自立の概念について (川上 理子) 2:リハビリテーションと在宅における看護の役割 (川上 理子) 3:障害の理解と障害受容への支援について(森下 幸子) 4:生活機能に着目した自立支援について(森下 幸子) 5:心肺機能障害のある在宅療養者とその家族への自立促進へのケア1:アセスメント(川上 理子) 6:心肺機能障害のある在宅療養者とその家族への自立促進へのケア2:看護介入方法の立案(川上 理子) 7:運動機能障害のある在宅療養者とその家族への自立促進へのケア1:アセスメント(川上 理子) 8:運動機能障害のある在宅療養者とその家族への自立促進へのケア2:看護介入方法の立案(川上 理子) 9:摂食・嚥下障害のある在宅療養者とその家族への自立促進へのケア1:アセスメント(川上 理子) 10:摂食・嚥下障害のある在宅療養者とその家族への自立促進へのケア2:看護介入方法の立案(川上 理子) 11:呼吸機能障害のある在宅療養者とその家族への自立促進へのケア1:アセスメント(川上 理子) 12:呼吸機能障害のある在宅療養者とその家族への自立促進へのケア2:看護介入方法の立案(川上 理子) 13:糖尿病をもつ在宅療養者とその家族への重症化予防、セルフケア向上へのケア1:アセスメント(森下 幸子) 14:糖尿病をもつ在宅療養者とその家族への重症化予防、セルフケア向上へのケア2:看護介入方法の立案(森下 幸子) 15:在宅看護ケア提供者としての専門看護師の役割(川上・森下) 					
成績評価 (基準と方法)	クラス討議への参加(40%)、プレゼンテーション(30%)、事後課題・レポート(30%)					
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ☒一般社団法人日本健康教育学会 著：健康行動理論による研究と実践、医学書院、2019 ☒栢森良二：学生のためのリハビリテーション医学概論第3版、医歯薬出版株式会社、2020 ☒重森健太、横井賀津志編：地域リハビリテーション学第2版、三洋社、2019 ☒大田仁史：地域リハビリテーション原論 Ver.7、医歯薬出版、2020 ☒小島操子著：看護における危機理論・危機介入第4版、2018 ☒徳田良英、高野吉朗他：生活環境論入門第3版、DTP出版、2018 ☒大川弥生：介護保険サービスとリハビリテーション、中央法規、2004 ☒相澤純也、大路駿介編：運動機能障害の理学療法～運動連鎖に基づく評価・治療、羊土社、2021 ☒内山靖、若井信彦編：理学療法評価学第3版、医学書院、2019 ☒坂井建雄、天野修監訳：プロメテウス解剖学アトラス 口腔・頭頸部第2版、医学書院、2018 ☒日本耳鼻咽喉科学会、嚥下障害ガイドライン2018年版、金原出版、2018 ☒鎌倉やよい編集：訪問看護における摂食・嚥下リハビリテーション、医歯薬出版、2007 ☒日本呼吸ケア・リハビリテーション学会呼吸リハビリテーション委員会他編：呼吸リハビリテーションマニュアルー患者教育の考え方と実践、照林社、2007 ☒日本呼吸ケア・リハビリテーション学会呼吸リハビリテーション委員会他編：呼吸リハビリテーションマニュアルー運動療法、照林社、2007 ☒黒澤一・佐野裕子：呼吸リハビリテーションー基本概念と呼吸介助手技、学研、2006 ☒高橋仁美、塩谷隆信他：動画でわかる呼吸リハビリテーション第5版、中山書店、2020 ☒川口有美子、小長谷百絵編：在宅人工呼吸器ケア実践ガイド ALS生活支援のための技術・制度・倫理、医歯薬出版、2016 ☒日本糖尿病学会：糖尿病診療ガイドライン2019、南江堂、2019 ☒能登洋：最新糖尿病診療のエビデンス改訂版、日経 BP、2019 					
授業外学習 課題 (予習・復習)	:各講義内容に関する文献検討、及びプレゼンテーション資料作成。 :レポート(全講義終了後) :その他、必要に応じ提示する。					
オフィスアワー	適宜、学生と時間調整して対応する。					
備考	第5、6回：井澤和夫氏(ゲストスピーカー：理学療法士、神戸大学大学院)を迎えて展開する 第7、8回：下元佳子氏(ゲストスピーカー：理学療法士、ハートフルケアネットワーク)を迎えて展開する 第9、10回：安岡しずか氏(ゲストスピーカー：在宅看護 CNS、高知中央訪問看護ステーション管理者)を迎えて展開する					

科目名	在宅看護展開論Ⅱ		英訳科目名	Nursing Assessments and Interventions in Home Care Nursing II			
科目区分			単位数	2	必選区分		
時間割コード	62200137	授業種別		履修年次	1~	開講期間	後期
授業方式			池		永国寺		
履修における注意点			資格・区分等	在宅看護専門看護師必修科目			
担当教員	2155096	川上 理子	所属	看護学科			
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,2,3 を修得するために重要な科目						
授業教員	川上 理子, 森下 幸子, 川上・森下						
授業の概要	難病など在宅において高度な医療的ケア（褥瘡処置、瘻孔処置、人工呼吸器ケア等）が必要で複雑な問題を持つ療養者とその家族へのケアを展開するにあたり、生命維持、不確かさ、意思決定、長期的継続的なケアシステムの構築、家族教育、家族ストレスマネジメントなどについて理解を深める。さらに、倫理的判断・臨床判断にもとづき包括的にアセスメントし、新たなケアプログラムを考案するなどエビデンスに基づいた高度な看護実践を展開し、教育や相談、連携調整する能力を高める。また、既存の研究成果や実践報告、個々の体験を活用しながら分析し、現状の課題と今後の展望について洞察する。						
達成目標 (達成水準)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 難病など在宅において高度な医療的ケアが必要で複雑な問題を持つ療養者とその家族へのケアを展開するにあたり、生命維持、不確かさ、意思決定、長期的継続的なケアシステムの構築、家族教育、家族ストレスマネジメントなどについて説明できる。 2. 1を基盤に倫理的判断・臨床判断にもとづき包括的なアセスメントができ、エビデンスに基づいた新たなケアプログラムの開発の検討を含んだ計画立案や評価方法を提案できる。 3. ケアスタッフの教育や相談、多職種と連携調整のあり方について提案できる。 4. 既存の研究成果や実践報告、個々の体験を活用しながら分析し、現状の課題と今後の展望について説明できる。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1: 医療的ケアに必要な在宅療養者と家族を取り巻く状況 1: 生命維持(川上 理子) 2: 医療的ケアに必要な在宅療養者と家族を取り巻く状況 2: 不確かさ(川上 理子) 3: 医療的ケアに必要な在宅療養者と家族を取り巻く状況 3: 意思決定(川上 理子) 4: 医療的ケアに必要な在宅療養者と家族を支援するケアシステム(川上 理子) 5: 事例展開: 人工呼吸器を装着した ALS 患者とその家族へのケア 1: アセスメント(川上 理子) 6: 事例展開: 人工呼吸器を装着した ALS 患者とその家族へのケア 2: 看護介入方法の考案(川上 理子) 7: 事例展開: 在宅がん化学療法、がん末期疼痛管理が必要な在宅療養者とその家族へのケア 1: アセスメント(森下 幸子) 8: 事例展開: 在宅がん化学療法、がん末期疼痛管理が必要な在宅療養者とその家族へのケア 2: 看護介入方法の考案(森下 幸子) 9: 事例展開: 褥瘡処置が必要な在宅療養者とその家族へのケア 1: アセスメント(森下 幸子) 10: 事例展開: 褥瘡処置が必要な在宅療養者とその家族へのケア 2: アセスメント(森下 幸子) 11: 事例展開: 瘻孔処置が必要な在宅療養者とその家族へのケア 1: 看護介入方法の考案(森下 幸子) 12: 事例展開: 瘻孔処置が必要な在宅療養者とその家族へのケア 2: 看護介入方法の考案(森下 幸子) 13: 事例展開: 医療的ケアに必要な在宅療養者の在宅移行支援 2: アセスメント(川上・森下) 14: 事例展開: 医療的ケアに必要な在宅療養者の在宅移行支援 2: 看護介入方法等の考案(川上・森下) 15: 在宅看護ケア提供者としての専門看護師の役割(川上・森下) 						
成績評価 (基準と方法)	クラス討議への参加(40%)、プレゼンテーション(30%)、事後課題・レポート(30%)						
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ☒川村佐和子監修、川越博美他編集：在宅療養支援のための医療処置管理看護プロトコール第2版、日本看護協会出版会、2010 ☒河原仁志、中山優季編：快をささえる 難病ケア スターティングガイド、医学書院、2016 ☒坂野雄二監修：学校、職場、地域におけるストレスマネジメント実践マニュアル、北大路書房、2004 ☒Pauline E. Boss 著：Family Stress Management: A Contextual Approach、SAGE Publications、2016 ☒渡辺俊之：介護者と家族の心のケア—介護家族カウンセリングの理論と実践、金剛出版、2005 ☒スーザン・H・マクダニエル他著：メディカルファミリーセラピー—患者・家族・医療チームをつなぐ統合的ケア、金剛出版、2016 ☒Lee Guion：Respiratory Management of ALS、Jones & Bartlett Publishers、2009 ☒中島孝監：ALS マニュアル決定版<Part2>、日本プランニングセンター、2016 ☒日本 ALS 協会編：新 ALS ケアブック第二版—筋萎縮性側索硬化症療養の手引き、川島書店、2013 ☒日本緩和医療学会編：がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン 2020 年版、金原出版、2020 ☒日本緩和医療学会：苦痛緩和のための鎮静に関するガイドライン 2020 年版、金原出版、2020 ☒吉村知哲著：がん薬物療法副作用管理マニュアル、医学書院、2018 ☒恒藤暁著：緩和ケアエッセンシャルドラッグ第4版：症状アセスメント&マネジメント、医学書院、2019 ☒日本褥瘡学会著：褥瘡ガイドブック 第2版 褥瘡予防・管理ガイドライン(第4版)、照林社、2015 ☒日本褥瘡学会著：在宅褥瘡予防・治療ガイドブック 第3版 褥瘡予防・管理ガイドライン(第4版)準拠、照林社、2015 ☒永井秀雄監修：ドレーン&チューブ管理マニュアル改訂第2版、学研メディカル秀潤社、2019 ☒坂井建雄：プロメテウス解剖学コアアトラス 第3版、医学書院、2018 *その他、資料の資料配布および国内外の重要文献の紹介などを適宜行う。 						
授業外学習 課題 (予習・復習)	<p>第1~4,15回：事前課題のプレゼンテーションの準備を行う。</p> <p>第6,8,10,12,14回事例展開：講義終了後、修正した看護計画を提出する。</p> <p>その他、必要に応じ提示する。</p>						
オフィスアワー	適宜、学生と時間調整して対応する。						
備考	<p>第7、8回：安岡しずか氏（ゲストスピーカー：在宅看護 CNS・高知中央訪問看護ステーション管理者）を迎えて展開する</p> <p>第9~12回：片岡薫氏（ゲストスピーカー：皮膚・排泄ケア認定看護師・高知医療センター）を迎えて展開する</p> <p>第13、14回：山本詩帆氏（ゲストスピーカー：在宅看護 CNS・近森病院）を迎えて展開する</p>						

科目名	在宅療養診断治療学Ⅱ		英訳科目名	Diagnosis and Treatment in Home Medical Care II		
科目区分			単位数	1	必選区分	
時間割コード	62200139	授業種別	履修年次	1～	開講期間	前期
授業方式			池	永国寺		
履修における 注意点			資格・区分等	在宅看護専門看護師必修科目		
担当教員	2155096	川上 理子	所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性						
授業教員	宮本,未定,池田,川上・森下					
授業の概要	複雑な問題を持つ医療的ケアが必要な利用者へのケアとケアの中で、脳血管疾患と疾患から生じる運動機能障害、嚥下機能障害、高次脳機能障害や栄養障害、排泄機能障害や皮膚トラブルのケアとケアに焦点を当て、医師からの包括的指示、支援のもと展開する、診断治療（検査方法、処置、対症療法、薬物療法等を含む）・療養・生活過程を統合した専門的アセスメント能力とエビデンスに基づいた高度な実践能力を修得する。また、既存の研究成果や実践報告、個々の体験を活用しながら分析し、現状の課題を分析し、看護職のみならずケア提供者のケアの質向上に向け、チームケアを展開できる能力を培う。					
達成目標 (達成水準)	1. 診断治療（検査方法、処置、対症療法、薬物療法等を含む）・療養生活過程を統合した専門的アセスメントの視点が説明できる。 また、エビデンスに基づいた看護援助、評価方法が提案できる。 2. 現状のケアの質の課題を分析、説明できる。 3. ケアスタッフの教育や相談、多職種と連携調整のあり方について提案できるとともに、今後の展望について提案できる。					
授業計画	1:脳血管疾患と疾患から生じる運動機能障害、嚥下機能障害、高次脳機能障害等に関する診断と治療：診断について(宮本) 2:脳血管疾患と疾患から生じる運動機能障害、嚥下機能障害、高次脳機能障害等に関する診断と治療：治療について(宮本) 3:嚥下機能障害に伴う、栄養障害に関する診断と治療1：診断について(宮本) 4:嚥下機能障害に伴う、栄養障害に関する診断と治療2：治療について(宮本) 5:排泄機能障害に関する診断と治療1：診断について(未定) 6:排泄機能障害に関する診断と治療2：治療について(未定) 7:皮膚トラブルに関する診断治療(池田) 8:在宅療養者の診断治療過程における看護援助方法の探求：プロトコルの作成(川上・森下)					
成績評価 (基準と方法)	クラス討議への参加、貢献度、プレゼンテーション、レポート等により総合的に評価する。					
教科書	<input checked="" type="checkbox"/> 山口修平編集：脳血管障害ケーススタディ、新興医学出版社、2011 <input checked="" type="checkbox"/> 渡辺決編：排尿障害にすべて―病態と治療、医薬ジャーナル社、1998 <input checked="" type="checkbox"/> 西村かおる：アセスメントに基づく排便ケア、中央法規、2008 <input checked="" type="checkbox"/> 加藤久美子：尿失禁&女性泌尿器科疾患のケア、メディカ出版、2008 <input checked="" type="checkbox"/> 岡田正監修：最新栄養アセスメント・治療マニュアル、医学芸術社、2002 <input checked="" type="checkbox"/> 井上善文、足立香代子編集：経腸栄養剤の種類と選択改訂版、フジメディカル出版、2009 *その他、資料の資料配布および国内外の重要文献の紹介などを適宜行う。					
授業外学習 課題 (予習・復習)	随時、課題を提示する。					
オフィスアワー	適宜、学生と時間調整して対応する。					
備考	宮本 寛（南国中央病院） 池田 光徳（高知県立大学大学院看護学研究科教授）					

科目名	在宅リエゾン看護論		英訳科目名	Theory and Issues in Home Liaison nursing		
科目区分			単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200140	授業種別	履修年次	1~	開講期間	通年
授業方式			池	永国寺		
履修における 注意点			資格・区分等	在宅看護専攻教育課程 専攻分野専門科目		
担当教員	2156817	森下 幸子	所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1、DP2、DP3 を修得するために重要な科目					
授業教員	川上理子, 森下幸子					
授業の概要	様々な疾病や障害を持ちながら在宅へ移行する療養者とその家族を対象に臨床と在宅を繋ぐリエゾン看護の視点と概念（リエゾン、移行、システム分析、ネットワーク構築、チームケア）について理解を深める。これらを基盤に、各領域の対象を倫理的判断・臨床判断にもとづき包括的にアセスメントし、エビデンスに基づいた支援計画を立案するとともに、院内外の臨床と在宅を繋ぐケアシステムの変革、及びケアスタッフの教育や相談、多職種と連携調整する能力を高める。さらに、既存の研究成果や実践報告、個々の体験を活用しながら対象を分析し、現状の課題と今後の展望について洞察する。					
達成目標 (達成水準)	<ol style="list-style-type: none"> 1. リエゾン看護の視点と概念（リエゾン、移行、システム分析、ネットワーク構築、多職種協働）について説明できる。 2. これらを基盤に、倫理的判断・臨床判断にもとづき各領域における対象を包括的にアセスメントし、エビデンスに基づいた在宅移行支援計画を立案し、包括的なケアの協働体制を提案できる。 3. 院内外のケアシステムを分析し、課題を抽出し、変革案を提案できる。 4. 在宅移行支援の質向上ならびに在宅移行支援に関する院内外のネットワークやケアシステムの改善、強化に向けたケアスタッフの教育や相談、多職種と連携調整する方策を提案できる。 5. 既存の研究成果や実践報告、個々の体験を活用しながら対象を分析し、現状の課題と今後の展望について説明できる。 					
授業計画	<p>1:リエゾン看護が求められる社会的背景 様々な疾病や障害を持ちながら在宅へ移行する療養者とその家族を対象に臨床と在宅を繋ぐリエゾン看護が求められる社会的背景や重要性を理解する。(川上理子)</p> <p>2:リエゾン看護の視点と概念 ①リエゾン ②移行(森下幸子)</p> <p>3:リエゾン看護の視点と概念 ③システム分析(森下幸子)</p> <p>4:リエゾン看護の視点と概念 ④ネットワーク(森下幸子)</p> <p>5:リエゾン看護の視点と概念 ⑤多職種協働(森下幸子)</p> <p>6:在宅移行支援のプロセス ①包括的アセスメントと課題の検討 在宅移行支援のプロセスを理解し、支援が必要な対象者と家族を倫理的判断・臨床判断にもとづき包括的にアセスメントし、課題を検討する。(川上理子)</p> <p>7:在宅移行支援のプロセス ②支援計画の立案 在宅移行支援に必要な対象者と家族の包括的にアセスメント、エビデンスに基づいた支援計画を立案する。(川上理子)</p> <p>8:在宅移行支援の看護介入 ③意思決定支援 在宅リエゾン看護の実践における患者・家族の意思決定力のアセスメント、希望や価値観など対象の理解、個性、多様性を考慮した意思決定を支える支援方法を検討する。(川上理子)</p> <p>9:在宅移行支援の看護介入 ④患者・家族教育 在宅リエゾン看護の実践における患者・家族教育の目的や具体的な支援方法を理解し、在宅移行支援に必要な疾病管理、療養指導、社会資源の調整などを検討する。(森下幸子)</p> <p>10:在宅移行支援の看護介入 ⑤多職種連携調整とカンファレンス運営 在宅リエゾン看護の実践における多職種連携調整と多職種とのカンファレンス運営について理解し、在宅移行支援に必要な多職種とのケアチーム形成、ネットワーク構築の方法を検討する。(川上理子)</p> <p>11:在宅移行支援の看護介入 ⑥スタッフへの相談・教育 在宅移行支援プロセスを通じて必要になるスタッフへの相談、教育の内容と方法を検討する。(森下幸子)</p> <p>12:各専門領域の在宅移行支援の実践① ※特性の理解 各専門領域の在宅移行支援における包括的アセスメント、課題の検討、支援計画の立案、チーム形成とネットワーク構築の特徴について、在宅移行支援の実践事例を用いて検討する。(森下幸子)</p> <p>13:各専門領域の在宅移行支援の実践② 各専門領域の在宅移行支援における包括的アセスメント、課題の検討、支援計画の立案、チーム形成とネットワーク構築の特徴について、在宅移行支援の実践事例を用いて検討する。(森下幸子)</p> <p>14:各専門領域の在宅移行支援の実践③ ※システム 各専門領域の在宅移行支援における医療機関等のシステム、地域のケアシステムの特徴について、在宅移行支援の実践事例を用いて検討し、課題の抽出、変革案を提案する。(森下幸子)</p> <p>15:各専門領域における在宅リエゾン看護の課題と看護の役割 各領域の実践事例の展開を振り返り、今後の在宅リエゾン看護の課題、質の向上のために期待される看護の役割について検討する。(森下幸子)</p>					
成績評価 (基準と方法)	クラス討議への参加(40%)、プレゼンテーション(30%)、事後課題・レポート(30%)から総合的に評価する。					
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・野中猛：図説ケアチーム、中央法規出版株式会社、2007 ・野中猛、野中ケアマネジメント研究会：多職種連携の技術、中央法規出版、2014 ・野中猛、上原久：ケア会議で学ぶケアマネジメントの本質、中央法規出版、2013 ・細田満和子「チーム医療」とは何か - 医療とケアに生かす社会学からのアプローチ、日本看護協会出版会、2012 ・佐々木利廣、大阪NPOセンター：地域協働のマネジメント、中央経済社、2018 ・篠田道子：多職種連携を高めるチームマネジメントの知識とスキル、医学書院、2018 ・田村由美：新しいチーム医療改訂版 - 看護とインタープロフェッショナル・ワーク入門、看護の科学社、2018 ・永田弘子：生活と医療を統合する継続看護マネジメント 第2版、医歯薬出版、2018 ・長江智子、田口敦子：外来から始める在宅療養支援、日本看護協会出版会、2021 ・宇都宮宏子：入退院支援パーフェクトガイド看護がつながる「在宅ケア移行支援」の実践、メディカ出版、2019 					

授業外学習 課題 (予習・復習)	第2～14回課題に対するプレゼンテーション準備 第15回終了後:各領域(がん看護、小児看護、精神看護、看護管理、災害看護等)におけるリエゾン看護の役割についてレポートを提出する。
オフィスアワー	適宜、学生と時間調整して対応する。
備考	

高知県立大学

科目名	在宅リエゾン看護演習		英訳科目名	Advanced Seminar in Home Liaison nursing		
科目区分			単位数	1	必選区分	
時間割コード	62200141	授業種別	履修年次	1～	開講期間	通年
授業方式			池		永国寺	
履修における 注意点			資格・区分等	在宅看護専攻教育課程 専攻分野専門科目		
担当教員	2156817	森下 幸子	所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1、DP2、DP3を修得するために重要な科目					
授業教員	森下幸子・川上理子					
授業の概要	各専門領域の退院支援や調整において、病院から在宅、また在宅から病院に移行する患者と家族を取り上げて、必要な院内外の入退院システムの分析を行う。その結果に基づき、入退院システムの改善、ケアチーム構築、チームアプローチの促進に向けた看護実践、教育、相談、多職種多組織の連携・調整方法を考案し、試行する。これらを通して、総合的視点を持って、在宅看護と各専門領域の看護を融合して、在宅医療の専門分化に対応する高度な看護実践能力の開発を行う。					
達成目標 (達成水準)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各専門領域において複雑で多様な問題を持ち在宅移行支援が必要な入院患者をその家族を対象に専門的かつ包括的なアセスメントを行い、それに基づいて在宅移行支援計画を立案し、評価することができる。 2. 各専門領域において複雑な問題を持つ入院患者とその家族の対象特性やニーズに応じ、在宅移行期に継続して必要なケアが円滑に提供されるよう、保健医療福祉に携わる人々とのケアチームのあり方やコーディネーションについて説明できる。 3. 地域ネットワークを構築するとともに院内の入退院システムや在宅ケアシステムの課題を分析し、社会資源を開発するとともに院内の入退院システムや在宅ケアシステムの改善発展に向けたアプローチについて提案することができる。 					
授業計画	<p>達成目標 1～3 到達のために、以下を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各専門領域における、複雑で多様な問題を持ち在宅移行支援が必要な入院患者と家族を対象とした包括的なアセスメント、在宅移行支援計画、評価方法を考案する。 ・入退院支援に関わる病棟、関係部署やスタッフ、在宅の保健医療福祉に携わる人々との連携システムを分析する。 ・連携協働におけるチームのあり方や具体的なコーディネーションの方略を立案する。 ・病院(森下幸子・川上理子) 					
成績評価 (基準と方法)	プレゼンテーション (30%)、グループ討議 (30%) 提出物(40%)から総合的に評価する。					
教科書	適宜、紹介する。					
授業外学習 課題 (予習・復習)	各回、事前に必要なプレゼン資料を作成の上、演習に参加すること。					
オフィスアワー	適宜、学生と時間調整して対応する。					
備考						

科目名	在宅看護学実践演習 I			英訳科目名	Advanced Practicum in Home Care Nursing I		
科目区分				単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200142	授業種別		履修年次	1～	開講期間	後期
授業方式				池		永国寺	
履修における注意点				資格・区分等	在宅看護専門看護師必修科目		
担当教員	2155096	川上 理子		所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,2,3 を修得するために重要な科目						
授業教員							
授業の概要	在宅看護専門職に必要な高度な実践能力とケア開発能力、倫理的判断能力、多職種多組織との連携・調整に関する能力を高めることを目指して、在宅看護学領域の専任教員のスーパービジョンをうけながら、実践演習を行う。この実践演習では、退院支援、退院調整部門において、在宅移行支援が必要で、また複雑で多様な問題を持つ入院患者とその家族を受け持ち、包括的なアセスメントに基づき退院支計画の立案、実施評価の一連のプロセスについて、高度な看護実践を行う。また、在宅に移行する患者と家族に必要な院内外のシステム・ケアチーム構築、チームアプローチの促進にむけた、ケアスタッフに対する教育、相談、多職種多組織の連携・調整を行なうことを中心としながら、倫理的問題の調整、解決の試みに関わり、在宅看護専門看護師としての基礎的実践能力の開発を行う。						
達成目標(達成水準)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 複雑で多様な問題を持つ在宅移行支援が必要な入院患者とその家族の包括的なアセスメントを行い、それに基づいて退院支援計画を立案し、評価することができる。 2. 複雑な問題を持つ入院患者とその家族の対象特性やニーズに応じ、在宅移行期に継続して必要なケアが円滑に提供されるよう、保健医療福祉に携わる人々とのケアチームのあり方やコーディネーションについて説明できる。(連携調整) また、地域ネットワークを構築するとともに在宅ケアシステムの課題を分析し、社会資源を開発するとともに在宅ケアシステムを改善発展にむけたアプローチについて提案することができる。(連携調整) 3. 在宅移行期において生じる倫理的問題について把握し、倫理的問題の解決方法について提案できる。(倫理的問題の調整) 						
授業計画	在宅看護学実践演習II 要項参照						
成績評価(基準と方法)	実践演習の内容、カンファレンス、提出物、実習施設における指導者からの評価、学生の自己評価から総合的に行う。						
教科書	実践演習の中で、適宜紹介する。						
授業外学習課題(予習・復習)	実践演習要項に示す						
オフィスアワー	適宜、学生と時間調整して対応する。						
備考	指導教員：川上理子・森下幸子(高知県立大学大学院看護学研究所) 実習施設:高知赤十字病院、近森病院						

科目名	在宅看護学実践演習 II		英訳科目名	Advanced Practicum in Home Care Nursing II		
科目区分			単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200143	授業種別	履修年次	1~	開講期間	後期
授業方式			池		永国寺	
履修における 注意点			資格・区分等	在宅看護専門看護師必修科目		
担当教員	2155096	川上 理子	所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,2,3 を修得するために重要な科目					
授業教員						
授業の概要	在宅看護専門職に必要な高度な実践能力とケア開発能力、倫理的判断能力、多職種多組織との連携・調整に関する能力を高めることを目指して、在宅看護学領域の専任教員のスーパービジョンをうけながら、実践演習を行う。この実践演習では、退院支援、退院調整部門において、在宅移行支援が必要で、また複雑で多様な問題を持つ入院患者とその家族を受け持ち、包括的なアセスメントに基づき退院支計画の立案、実施評価の一連のプロセスについて、高度な看護実践を行う。また、在宅に移行する患者と家族に必要な院内外のシステム・ケアチーム構築、チームアプローチの促進にむけた、ケアスタッフに対する教育、相談、多職種多組織の連携・調整を行なうことを中心としながら、倫理的問題の調整、解決の試みに関わり、在宅看護専門看護師としての基礎的実践能力の開発を行う。					
達成目標 (達成水準)	1. 複雑で多様な問題を持つ在宅移行支援が必要な入院患者とその家族の包括的なアセスメントを行い、それに基づいて退院支援計画を立案し、評価することができる。 2. 複雑な問題を持つ入院患者とその家族の対象特性やニーズに応じ、在宅移行期に継続して必要なケアが円滑に提供されるよう、保健医療福祉に携わる人々とのケアチームのあり方やコーディネーションについて説明できる。(連携調整) また、地域ネットワークを構築するとともに在宅ケアシステムの課題を分析し、社会資源を開発するとともに在宅ケアシステムを改善発展にむけたアプローチについて提案することができる。(連携調整) 3. 在宅移行期において生じる倫理的問題について把握し、倫理的問題の解決方法について提案できる。(倫理的問題の調整)					
授業計画	:在宅看護学実践演習II 要項参照					
成績評価 (基準と方法)	実践演習の内容、カンファレンス、提出物、実習施設における指導者からの評価、学生の自己評価から総合的に行う。					
教科書	実践演習の中で、適宜紹介する。					
授業外学習 課題 (予習・復習)	:実践演習要項に示す					
オフィスアワー	適宜、学生と時間調整して対応する。					
備考	指導教員：川上理子・森下幸子・中井 (高知県立大学大学院看護学研究科)(高知県立大学大学院看護学研究科) 実習施設:高知赤十字病院、近森病院					

科目名	在宅看護学実践演習Ⅲ			英訳科目名	Advanced Practicum in Home Care Nursing III		
科目区分				単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200144	授業種別		履修年次	2～	開講期間	前期
授業方式				池		永国寺	
履修における 注意点				資格・区分等	在宅看護専門看護師必修科目		
担当教員	2155096	川上 理子		所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,4 を修得するために重要な科目						
授業教員							
授業の概要	在宅看護専門看護師に相当する、訪問看護ステーション看護師として卓越した実践経験や、訪問看護ステーション所長として看護管理に関する実践経験のある看護師の指導のもとに、在宅看護専門看護師としての役割（卓越した実践、ケアスタッフの教育、相談、連携調整、倫理的問題の調整）を学ぶ。また、訪問看護ステーションにおけるケアの運営や質の管理の現状と課題について分析し、効果・効率的な経営管理、ケアの質改善方法について理解を深める。						
達成目標 (達成水準)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅移行期、在宅継続期にある療養者やその家族の健康問題や生活問題を包括的にアセスメントできる。(卓越した実践) 2. 在宅看護学領域において、看護職者や他領域のケア提供者に対してケアを向上させるための教育的活動を実施できる。(教育) 3. 在宅看護学領域において、看護職者を含むケア提供者に対してのコンサルテーション技術について説明できる。(相談) 4. 在宅看護学領域において、必要なケアが円滑に提供されるために、保健医療福祉に携わる人々間の調整方法、及び技術について説明できる。(連携調整) 5. 在宅ケア特有の倫理的問題の解決方法について提案できる (倫理的問題の調整) 						
授業計画	在宅看護学実践演習Ⅲ 要項参照						
成績評価 (基準と方法)	実践演習の内容、カンファレンス、提出物、実習施設における指導者からの評価、学生の自己評価から総合的に行う。						
教科書	実践演習の中で、適宜紹介する。						
授業外学習 課題 (予習・復習)	実践演習要項に示す						
オフィスアワー	適宜、学生と時間調整して対応する。						
備考	指導教員：川上理子(高知県立大学大学院看護学研究科) 実習施設：高知中央訪問看護ステーション、神戸訪問看護ステーション						

科目名	在宅看護学実践演習Ⅳ			英訳科目名	Advanced Practicum in Home Care Nursing IV		
科目区分				単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200145	授業種別		履修年次	2～	開講期間	前期
授業方式				池		永国寺	
履修における注意点				資格・区分等	在宅看護専門看護師必修科目		
担当教員	2155096	川上 理子		所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1 を修得するために重要な科目						
授業教員							
授業の概要	在宅診療医師、在宅看護専門看護師に相当する訪問看護ステーション看護師として卓越した実戦経験のある看護師の指導の下に、在宅療養者へのアドバンストな身体状態の査定、疾患の診断や治療過程について理解し、ケア（Care）とキュア（Cure）を融合させた高度な知識と技術を用いて在宅療養者の治療・療養過程を管理しながら、実践できる能力を習得する。						
達成目標（達成水準）	<ol style="list-style-type: none"> 生活課題や治療によって生じた課題に対し、医師の包括的指示のもと、専門的ケアを提供するために必要な、薬物療法、栄養療法、処置などを含む治療過程を説明できる。 看護の視点から在宅療養者の身体管理と治療遂行支援に必要な医療処置を在宅診療医師の包括的指示に基づき実践できる。 在宅療養者に対し、問診とフィジカルイグザミネーションによる身体評価から、包括的指示のもと、必要な検査の選択と正確な身体状態の把握、必要な医療処置・薬剤の投与の実施、実施後のモニタリングを行うという一連の過程を、実践できる。 身体管理と治療遂行支援に有用なプロトコルの開発を行うことができる。 ケア(care)とキュア (cure) を融合させた高度な実践を行う在宅看護専門看護師としての役割を説明できる。 						
授業計画	:在宅看護学実践演習Ⅳ要項参照						
成績評価（基準と方法）	実践演習の内容、カンファレンス、提出物、実習施設における指導者からの評価、学生の自己評価から総合的に行う。						
教科書	実践演習の中で、適宜紹介する。						
授業外学習課題（予習・復習）	:実践演習要項に示す						
オフィスアワー	適宜、学生と時間調整して対応する。						
備考	指導教員：川上理子(高知県立大学大学院看護学研究科)・森下幸子(高知県立大学大学院看護学研究科) 実習施設：あおぞら診療所高知潮江、かもだの診療所、こうち看護協会訪問看護ステーション、高知中央訪問看護ステーション						

科目名	在宅看護学実践演習 V		英訳科目名	Advanced Practicum in Home Care Nursing V		
科目区分			単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200146	授業種別	履修年次	2~	開講期間	後期
授業方式			池		永国寺	
履修における 注意点			資格・区分等	在宅看護専門看護師必修科目		
担当教員	2155096	川上 理子	所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,3,4 を修得するために重要な科目					
授業教員						
授業の概要	<p>難病など高度な医療的ケアが必要な療養者を受け持ち、アドバンストな身体状態の査定、疾患の診断や治療について修得するとともに、医療機関の医師や薬剤師、介護職等と連携・協働して、ケア（Care）とキュア（Cure）を融合させた高度な知識と技術を用いて在宅療養者の治療・療養過程全般を管理し、実践できる能力を習得する。また、訪問看護ステーション等の事業の管理・運営及び、ケアの改善方法について訪問看護ステーションにおけるケアの運営や質の管理の現状と課題について分析し、効果的・効率的な経営管理、ケアの質改善方法について理解を深める。さらに、ケアの質向上に向け、在宅ケアスタッフへの教育、相談関わり、在宅看護専門看護師としての基礎的実践能力の開発を行う。高度な医療的対応および処置が必要な療養者とその家族を対象とした在宅看護専門職に必要な高度な実践能力とケア開発能力、倫理的判断能力、教育、相談、多職種多組織との連携・調整に関する能力を高めることを目指して、在宅看護学領域の専任教員のスーパービジョンをうけながら、実践演習を行う。</p>					
達成目標 (達成水準)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療的対応及び処置が必要な療養者とその家族を対象として、包括的なアセスメントを行い、それに基づいてケア計画を立案、実施し、評価できる。(卓越した実践) 2. 訪問看護ステーションの管理運営、ケアの質改善に向けた課題を明らかにできる。(卓越した実践) 3. 看護職者を含むケア提供者に対して医療的対応及び処置が必要な利用者とその家族への看護ケアを向上させるための教育的課題を把握し、教育活動を実施できる。(教育) 4. 看護職者を含むケア提供者が抱えている課題を把握し、コンサルテーションを実施できる。(相談) 5. 必要なケアが円滑に提供されるよう、保健医療福祉に携わる人々とのコーディネーションを行うことができる。(連携調整) 6. 地域ネットワークについて分析し、ネットワークを形成発展させるための方策、社会資源の開発について提案できる。(連携調整) 7. 専門知識・技術の向上や開発を図るために実践の場における研究活動を支援できる(研究)。 8. 在宅看護学領域において、倫理的問題・葛藤が生じた場合に関係者間での倫理的調整を実施できる。(倫理的問題の調整) 					
授業計画	:在宅看護学実践演習V要項 参照					
成績評価 (基準と方法)	実践演習の内容、カンファレンス、提出物、実習施設における指導者からの評価、学生の自己評価から総合的に行う。					
教科書	実践演習の中で、適宜紹介する。					
授業外学習 課題 (予習・復習)	:実践演習要項に示す					
オフィスアワー	適宜、学生と時間調整して対応する。					
備考	指導教員：川上理子(高知県立大学大学院看護学研究科)・森下幸子(高知県立大学大学院看護学研究科) 実習施設：高知中央訪問看護ステーション、こうち看護協会訪問看護ステーション					

科目名	災害看護論		英訳科目名	Theories and Issues in Disaster Nursing		
科目区分			単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200152	授業種別	履修年次	1～	開講期間	前期
授業方式			池		永国寺	
履修における 注意点			資格・区分等			
担当教員	2195010	木下 真里	所属	看護学科		
ディプロマ・ポ リシーとの関連 性	DP1,2,5 を修得するために重要な科目					
授業教員						
授業の概要	災害看護を理解するための基盤となる知識を学習する。災害時の健康課題の理解に活用できるセルフケア理論、マネジメント理論、健康危機管理に関する理論などの諸理論を学ぶとともに、被災者の理解や看護介入など、それらの理論の現場での適用について学ぶ。また、既存の研究結果や文献、個々の体験に基づいて、災害看護の現状の課題を分析し、今後の展望について洞察する。これらを踏まえて、実践・教育・政策の場をよりよい方向に変革していく高度な実践看護師としての役割を開拓していく能力を修得する。					
達成目標 (達成水準)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 災害がもたらす健康被害・看護ニーズをリスク・時間軸などに沿って説明できる。 2. 災害に直面する人々に対するケアを考える際の理論や概念を理解することができる。 3. 災害と健康と看護の関係を俯瞰し、災害看護のあり方を提案することができる。 					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1:災害総論 2:災害看護学の変遷 3:災害リスクの考え方 (1) 4:災害リスクの考え方 (2) 5:災害サイクルの考え方(1) 6:災害サイクルの考え方 (2) 7:災害と自助・セルフケアに関する理論 (1) 8:災害と自助・セルフケアに関する理論 (2) 9:災害と自助・セルフケアに関する理論 (3) 10:災害における互助・共助・地域ケア・マネジメントに関する理論 11:回災害看護における公助・健康危機管理に関する理論 (1) 12:回災害看護における公助・健康危機管理に関する理論 (2) 13:災害対策法制度 14:演習 1 15:演習 2 					
成績評価 (基準と方法)	授業コミットメントとレポートにて総合的に評価する					
教科書	資料を配布する					
授業外学習 課題 (予習・復習)	1-15:事前課題については、別途、説明する。					
オフィスアワー	Appointment by email or walk-in.					
備考						

科目名	グローバル社会看護論		英訳科目名	Theories and Issues in Global Nursing		
科目区分			単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200153	授業種別	履修年次	1～	開講期間	後期
授業方式			池		永国寺	
履修における 注意点			資格・区分等			
担当教員	2195010	木下 真里	所属	看護学科		
ディプロマ・ポ リシーとの関連 性	DP1,2,6 を修得するために重要な科目					
授業教員						
授業の概要	社会のグローバル化に伴い、国内で活動する看護職であっても国際的な背景をもつ対象者と接する機会が増えてきた。本科目では、貧困理論や行動経済学理論のほか、国連が提唱する人間の安全保障、持続可能な開発目標(SDGs)などを背景枠組みとして、グローバルな社会的課題に対する看護職のかかわりを学習する。貧困や環境問題、難民問題、人身売買、外国人、性的マイノリティ、差別などのグローバル・イシューをテーマとして取り扱い、国内外の事例や当事者の話を参考に、学生自らの考え方を構築していく。					
達成目標 (達成水準)	<ol style="list-style-type: none"> 1. グローバル化のもたらす人々の健康への影響をロジカルに説明できる。 2. 健康課題の解決にかかわる関係者とその役割を説明できる。 3. グローバル化のもたらす健康影響に対する看護職の役割を説明できる。 					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1: グローバル社会とは 2: 人間の安全保障 (1) 3: 人間の安全保障 (2) 4: グローバルアジェンダの変遷 5: 持続可能な開発目標 (1) 6: 持続可能な開発目標 (2) 7: 持続可能な開発目標 (3) 8: グローバル社会の健康課題 9: グローバル社会の健康課題 (身近な事例) 10: グローバルヘルス課題を説明する理論や概念 11: グローバル社会の健康課題の分析・構造化 (1) 12: グローバル社会の健康課題の分析・構造化 (2) 13: ディスカッション 1 14: ディスカッション 2 15: まとめ 					
成績評価 (基準と方法)	出席状況とレポートにて総合的に評価する					
教科書	資料を配布する					
授業外学習 課題 (予習・復習)	1-15:事前課題については、別途、説明する。					
オフィスアワー	appointment by email					
備考						

科目名	災害・国際看護方法論		英訳科目名	Theories and Interventions in Disaster and International Nursing		
科目区分			単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200154	授業種別	履修年次	1～	開講期間	後期
授業方式			池	永国寺		
履修における 注意点			資格・区分等			
担当教員	2195010	木下 真里	所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,5 を修得するために重要な科目					
授業教員						
授業の概要	被災者の様々な状況を理解し、援助をする上で基本となる理論や基本概念を学び、看護援助方法を探求する。また被災者がおかれている状況を研究的・教育的・倫理的な視点から分析し、災害が人間の生活に及ぼす影響を包括的に理解する。これらを通して被災者のもつ力をアセスメントし、柔軟にケアを展開していきける高度な実践能力を修得する。また、コンサルテーションや他職種との連携をはかり、被災者に提供されるケアをコーディネートできる能力や既存の研究結果及び諸理論を活用し、倫理的判断のもと、実践の場をよりよい方向に変革できる高度な実践看護師としての能力を修得する。また、それらは、過去に実施された医療や看護の介入はどのような効果があったか、どのような根拠に基づいていたか、説明責任の必要性も含めて論じる。					
達成目標 (達成水準)	1. 国内外・災害において、看護ケアを必要とする人、地域、場の特殊性を理解する。 2. 国内外・災害において、看護ケアを必要とする人、地域、場を取り巻くアクターや支援組織を知る。 3. 多様な場におけるデータ・情報の利活用や、倫理的課題を考える。					
授業計画	1:国際化社会における看護対象論 2:災害における看護対象論 3:国際・災害看護活動の場 (1) 4:国際・災害看護活動の場 (2) 5:国際・災害看護活動の支援組織 (1) 6:国際・災害看護活動の支援組織 (2) 7:国際・災害看護活動の変遷 8:国際・災害看護活動の今日的課題 9:国際・災害看護活動とデータ・情報 10:国際・災害看護活動と倫理 11:課題に基づく学習 (1) 12:課題に基づく学習 (2) 13:課題に基づく学習 (3) 14:まとめ1 15:まとめ2					
成績評価 (基準と方法)	出席状況とレポートにより総合的に評価する					
教科書	資料を配布する					
授業外学習 課題 (予習・復習)	1-15:事前課題等については、別途、説明する。					
オフィスアワー	appointment by email					
備考						

科目名	感染症看護セミナー		英訳科目名	Infection Control Nursing Seminal		
科目区分			単位数	1	必選区分	
時間割コード	62200155	授業種別	履修年次	1～	開講期間	後期
授業方式			池		永国寺	
履修における 注意点			資格・区分等			
担当教員	2195010	木下 真里	所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP2 を修得するために重要な科目					
授業教員						
授業の概要	三大感染症(エイズ、結核、マラリア)、COVID-19 を含む新興・再興感染症などに対して、最新の診断・治療・予防法および疫学、現状をもたらす社会的文化的な背景、影響、課題について学習した上で、国内外の医療機関、地域、災害現場などにおける看護職の役割を論じる。感染症専門家や当事者の意見を聞く機会を持つ。					
達成目標 (達成水準)	1. 感染症に対する最新の知識を獲得する。 2. 感染症キャリアの生活、心理、社会的課題について理解を深める。 3. 感染症キャリアに対する看護の役割を理解する。					
授業計画	1:オリエンテーション 2:COVID-19 レビューとアップデート 3:HIV/AIDS・結核・マラリア 4:新興・再興感染症 5:感染症専門家・当事者の話を聞く 6:災害と感染症 7:社会のグローバル化と感染症 8:まとめ【グローバル化と感染症対策、看護の役割】					
成績評価 (基準と方法)	授業参加・貢献 Commitment(25%)、発表・発言 Presentation(50%)、課題レポート(25%)					
教科書	資料は適宜配布する					
授業外学習 課題 (予習・復習)	1-8:事前課題については、別途、説明する。					
オフィスアワー	Appointment by email or walk-in.					
備考						

科目名	人道支援看護セミナー		英訳科目名	Humanitarian Nursing Seminal		
科目区分			単位数	1	必選区分	
時間割コード	62200158	授業種別	履修年次	2～	開講期間	前期
授業方式			池		永国寺	
履修における 注意点			資格・区分等			
担当教員	2195010	木下 真里	所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP3,6 を修得するために重要な科目					
授業教員						
授業の概要	世界各地で頻発する紛争や暴力、貧困や飢餓などの社会的課題に目を向け、国際社会及び日本による難民、避難民、移民の受け入れ、人道支援活動の現状および課題について学習する。さらに国連の提唱する「人間の安全保障」「持続可能な開発目標(SDGs)」の考え方を参考に、人道支援のための看護の役割を議論する。文献や資料は言語のまま使用し、ディスカッションは内容に応じて英語で行う。					
達成目標 (達成水準)	1. さまざまな人道問題に興味を持ち、自ら調べて現状と課題を理解できる。 2. 人道問題の現状と課題について自ら調べた結果を他者にわかるように説明できる。 3. 人道問題に対する看護の役割について自らの考えをディスカッションおよびレポートに述べる。					
授業計画	1:オリエンテーション、人間の安全保障、参考事例の提示 2:ディスカッション①貧困問題に対する看護 3:ディスカッション②マイノリティに対する看護 4:ディスカッション③健康格差と看護 5:ディスカッション④人の移動(難民、避難民、移民)と看護 6:事例発表とディスカッション① 7:事例発表とディスカッション② 8:まとめ					
成績評価 (基準と方法)	授業参加・貢献 Commitment(25%)、発表・発言 Presentation(50%)、課題レポート(25%)					
教科書	適宜資料を配布する					
授業外学習 課題 (予習・復習)	1-8:事前課題については、別途、説明する。					
オフィスアワー	appointment by email or walk-in.					
備考						

科目名	災害看護管理セミナー			英訳科目名	Disaster Nursing Management Seminal		
科目区分				単位数	1	必選区分	
時間割コード	62200159	授業種別		履修年次	2～	開講期間	前期
授業方式				池		永国寺	
履修における 注意点				資格・区分等			
担当教員	2155047	山田 覚		所属	看護学研究科		
ディプロマ・ポ リシーとの関連 性	DP3,4 を修得するために重要な科目						
授業教員							
授業の概要	災害における看護活動を展開するうえで、ヒト、モノ、カネ、情報等の経営資源を如何に活用し、掲げた目標を如何に達成して行くか、計画、実行、評価、改善 (PDCA) の管理サイクルを踏まえ、災害における看護組織の効果・効率的な活動に貢献するための理論や技法を修得する。						
達成目標 (達成水準)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 災害に関する管理業務における、ヒト、モノ、カネ、情報等の経営資源の活用を説明することができる。 2. 災害の各サイクルにおける多職種連携を説明することができる。 3. 災害サイクルにおいて、災害看護管理のあり方を提案することができる。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1:災害看護活動のアウトカムと看護管理 2:災害看護管理活動をシステムで捉える 3:災害におけるモノとカネの管理 4:災害看護のマネジメントと戦略 5:オペレーションズ・リサーチ(医療物品の需要と供給) 6:災害における事業継続計画(BCP) 7:リーダーシップ、人的資源管理 8:グループとチーム、チームビルディング 						
成績評価 (基準と方法)	最終レポート(100%)で評価する。						
教科書	資料を配布する						
授業外学習 課題 (予習・復習)	<ol style="list-style-type: none"> 1:災害における管理とはなにかを考える 2:災害におけるシステムを整理する 3:災害に必要なモノとは何か考える 4:災害におけるマネジメントの課題を整理する 5:災害におけるシミュレーションの例を考える 6:一般企業の BCP と災害医療の BCP の差異を考える 7:災害におけるリーダーシップのあり方を整理する 8:災害におけるチームビルディングを考える 						
オフィスアワー	いつでもメールを受け付けます						
備考							

科目名	災害看護活動論（準備期）			英訳科目名	Theories and Interventions in Disaster and International Nursing ; Disaster Preparation		
科目区分				単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200160	授業種別		履修年次	1～	開講期間	通年
授業方式				池		永国寺	
履修における 注意点				資格・区分等			
担当教員	2195010	木下 真里		所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,4 を修得するために重要な科目						
授業教員	木下,山田,神原						
授業の概要	災害サイクルの静穏期における備えに関し、地域の災害対策システム、および地域、各種施設、行政等との連携も踏まえながら、発災を想定した事前の準備活動を整理し、平時から災害看護活動体制を構築していく方法を学ぶ。						
達成目標 (達成水準)	災害対策システムを理解するとともに、静穏期の準備活動を整理することができる。地域、各種施設、行政との連携体制を整理し、理解することができる。発災を想定し、どのような準備活動をすべきか、災害看護活動体制の構築を検討できる。						
授業計画	1-2:オリエンテーション、概論(木下) 3-7 (5回):災害対策システムおよび地域、各種施設、行政等との連携の現状と課題 静穏期における公助、共助の取り組み(山田) 8-12 (5回):災害時の地域、個人の健康課題 防災・減災活動の現状と課題 静穏期における防災・減災活動 共助・自助の取り組み(神原) 13-15 (3回:まとめ(木下)						
成績評価 (基準と方法)	最終レポート(80%)、授業へのコミットメント (20%)で評価する。						
教科書	資料を配布する						
授業外学習 課題 (予習・復習)	1-2:開講前後ウェブアンケートへの回答 3-7:担当講師より別途指示があります。 8-12:担当講師より別途指示があります。 13-15:最終課題については、別途指示があります。						
オフィスアワー	メールで対応						
備考							

科目名	環境防災学			英訳科目名	Environmental Disaster Prevention		
科目区分				単位数	1	必選区分	
時間割コード	62200161	授業種別		履修年次	1～	開講期間	後期
授業方式				池		永国寺	
履修における 注意点	災害映像資料の使用について配慮が必要な受講生は事前に必ず申し出ること。 使用言語：日本語（授業、資料とも） 受講生数：5人程度以下 授業は遠隔（Zoom）で行う。			資格・区分等			
担当教員	2155930	大村 誠		所属	文化学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP2,4 を修得するために重要な科目。						
授業教員							
授業の概要	地球科学に関する幅広い知識を利用して、地域における開発・保全・防災・環境問題に取り組むための学術的基礎素養と、自助・共助など、多様な場における問題解決に応用できる基礎的能力を身につける。災害の事例を学ぶために、視聴覚教材や報道資料を多用する。						
達成目標 (達成水準)	災害発生と自然・都市環境との関連を理解する（50%） 災害対応の流れ「備える」「生き抜く」「立ち直る」を意識した実践について提案できる（50%）						
授業計画	第1回:受講生それぞれの興味・関心・目標について意見交換、 素因と誘因（日本を例に） 第2回:活断層と地震 第3回:南海トラフ地震と関連する現象（火山災害を含む） 第4回:地震の概要・首都直下地震 第5回:長周期地震動・地盤液状化 第6回:地盤災害・土砂災害・津波 第7回:気象災害 第8回:気象災害など補足、まとめ :あらたな災害の発生、受講生の興味・関心・理解度に応じて、内容・順番を大幅に変更する。						
成績評価 (基準と方法)	授業への積極的参加（30%）、小レポート（20%）、最終レポート（50%）						
教科書	PDF ファイルの資料を提供する。 参考書、参考WEB サイトは、授業の中で紹介する。						
授業外学習 課題 (予習・復習)	第1回～第8回:必須の事後確認課題（小レポート）を回答する。 :必須の最終レポートを回答する。						
オフィスアワー	メールで調整する。						
備考	使用言語：日本語（授業、資料とも） 受講生数：5人程度以下 授業は遠隔（Zoom）で行う。						

科目名	看護管理論			英訳科目名	Research and Issues in Nursing Management		
科目区分				単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200162	授業種別		履修年次	1～	開講期間	前期
授業方式				池	永国寺		
履修における 注意点	研究コース			資格・区分等			
担当教員	2159041	久保田 聡美		所属	看護学科		
ディプロマ・ポ リシーとの関連 性	DP3,4 を修得するために重要な科目						
授業教員							
授業の概要	高度・複雑化する保健医療システムの中で、量的にも質的にも効率的かつ有効な看護サービスを提供するために必要な看護システムの構築と運営についての理論を学ぶ。						
達成目標 (達成水準)	1.効果的・効率的な看護サービスの提供のために必要な理論について説明できる。 2.組織の生産性の向上を図るためのワークシステムの分析と構築についての諸理論と技法を用いて説明できる。 3.現状の保健医療システムをシステム思考を用いて俯瞰し、管理的な課題と改善の方策について自分の見解を述べることができる。						
授業計画	1:イントロダクション：【本講義の位置づけの説明】看護管理とは 2:管理とは サービス、マネジメントとは 3:組織デザインと看護管理システム（組織分析） 4:リーダーシップとチームワーク 5:コンフリクトマネジメント、協調的交渉 6:組織変革 7:経営理念と戦略 8:自組織の振り返り～プレゼンとディスカッション～ 9:キャリア キャリアパス、キャリア開発 10:品質管理と TQM：質と品質とは、品質管理とは 11:システム思考 アウトカム志向のパス 12:リスクマネジメントシステム 13:専門職連携（IPW） 14:専門職連携、多職種協働におけるコーディネート機能 15:まとめ 組織の質と医療の質						
成績評価 (基準と方法)	授業への参加度/貢献度（40%）、レポート等の提出物（60%）						
教科書	・「看護サービス管理 第5版」小池 智子他著、医学書院、2018 ・その他プリント等を配布する						
授業外学習 課題 (予習・復習)	1:看護を管理するとはどういうことか考察する 2～:看護サービス管理論で学習した内容をより概念的に学習する 8:組織の成り立ちと文化を踏まえ、専門職組織のありべき姿を考察する 9-15:看護サービスを管理するための要件を考察する						
オフィスアワー	適宜対応します。出来るだけ事前にメール等でアポイントメント取って下さい。						
備考							

科目名	システム経営管理論			英訳科目名	Theories and Research on System Management and Administration		
科目区分				単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200163	授業種別		履修年次	1～	開講期間	前期
授業方式				池	永国寺		
履修における 注意点				資格・区分等			
担当教員	2159041	久保田 聡美		所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性							
授業教員	久保田						
授業の概要	経営管理を特定のミッション達成にむけての計画・実施・統制 (PDCA) のサイクルとして捉え、ヒト・モノ・カネ・情報などの経営資源を効果的に活用して、組織の生産性向上に貢献していくための理論や技法を習得する。						
達成目標 (達成水準)	1.日本の社会保障システムを俯瞰し、看護組織をヘルスケアシステム全体の視点から捉えることができる。 2.医療・保健サービスを生産するシステムを可視化し、個々のシステムのアウトカムと組織として社会（地域）のアウトカムとのつながりを分析することができる。個々のシステムの成果を組織の成果とのつながりを分析することができる。 3.システム分析を通して、既存のシステムを改善・改良・設計し、看護の質改善や新たな価値創造に繋げる能力を修得する。						
授業計画	1:経営管理とシステム思考 2:システム思考で、看護システムを分析する意味 3:ミクロとマクロ 社会保障制度 診療報酬 【総論】 4:ミクロとマクロ 社会保障制度 診療報酬 【各論1 適正人員配置と法的位置づけ】 5:クリニカルパス アウトカム志向 6:ロジカルシンキング 問題の捉え方 7:看護業務改善活動(QC, TQM, QA, QI)1 8:身近なシステムを分析する1 学生の興味のあるテーマのプレゼン1 9:看護業務改善活動(QC, TQM, QA, QI)2 10-11:ミクロとマクロ 社会保障制度 診療報酬 各論2 退院支援システム ⇒退院支援事業管理者研修(久保田) 12:システム思考とワークデザイン1 講義(実習準備) 13:システム思考とワークデザイン2 プレゼン(実習準備) ワークデザインを用いて身近なシステムを分析する 14:学生の選んだトピックス/プレゼン 実習指導後の学びを通して 15:まとめ						
成績評価 (基準と方法)	授業への参加度/貢献度(30%)、レポート等の提出物(70%)で評価する						
教科書	適宜：プリント等を配布する *参考図書として ・久保田聡美他著：うまくいくマネジメントの教科書、照林社、2022 ・小池智子他著：看護サービス管理 第5版、医学書院、2018						
授業外学習 課題 (予習・復習)	1:システム思考で、看護システムを分析する意味を探求する 後半：看護管理実習のTAでの学びや包括連携事業でのQC活動の支援との相乗効果を引き出す						
オフィスアワー	講義後研究室で待機しています。						
備考	システム思考をより深く学習する						

科目名	看護管理展開論		英訳科目名	Theories and Interventions in Nursing Management		
科目区分			単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200164	授業種別	履修年次	1~	開講期間	後期
授業方式			池	永国寺		
履修における 注意点	研究コース		資格・区分等			
担当教員	2159041	久保田 聡美	所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,3,4 を修得するために重要な科目					
授業教員						
授業の概要	看護職が主体性と自律生を持ち、その専門性を発揮できる環境を整え、併せて限られた資源をいかに効果的に活用し、質の高い人材の育成を図っていくための看護管理の方策について学ぶ。また、今日の看護管理の課題を理解し、調和的で問題解決的なリーダーシップの発揮する能力、保健医療システムを俯瞰し、取るべき役割を認識する能力、変化を予測し物事に対処する能力、費用対効果を考え資源を有効に活用する能力、そして組織の進むべき方向を意思決定する能力を育成する。					
達成目標 (達成水準)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護における管理の意義・意味について説明することができる 2. 看護における専門性及び看護専門職の機能と役割の観点から、看護管理の在り方を記述することができる 3. 看護実践の経験や事例を通して分析し、看護管理の観点から、果たすべき看護管理者としての役割、対応方法を記述することができる 4. 組織現象や組織発展、組織の解釈について学び、管理機能と組織の関係を理解し、有効な看護管理の実践の在り方について記述することができる 5. 看護管理の実践における効果的な人的資源管理の理論や方法を学び、対応方法を計画することができる 6. 看護管理実践者として、看護管理の課題を明確化し、看護管理者としての視点から適切な解決方法を選択することができる 					
授業計画	<p>第1回:I. 看護管理と看護専門職：看護専門職、看護職の自律性、看護職のアイデンティティ</p> <p>第2回:II. 集団と組織：集団、組織集団の発達</p> <p>第3回: 集団の特徴：規範、組織文化</p> <p>第4回: 意思決定、集団思考</p> <p>第5回:III. 人的資源管理方法論（1）：コンフリクト・マネジメント</p> <p>第6回: アサーション、ネゴシエーション</p> <p>第7回:IV. 人的資源管理方法論（2）：集団と組織、リーダーシップ論</p> <p>第8回: ボスマネジメント、影響勢力</p> <p>第9回: モチベーション、公正感、ワークモチベーション</p> <p>第10回: 集団凝集性、組織コミットメント</p> <p>第11回: エンパワメント</p> <p>第12回:V. 組織変革：組織分析</p> <p>第13回: 変革理論</p> <p>第14回:VI. 看護管理と質：看護ケアの質</p> <p>第15回:VII. 多職種連携、協働実践、チームワーク、看護の専門性とは、看護の責務と役割拡大</p> <p>*学生の経験を踏まえ、授業を進める。授業では、講義・討議及びプレゼンテーション等組み合わせで行う。</p>					
成績評価 (基準と方法)	授業でのプレゼンテーション、ディスカッションへの参加度・貢献度への参加度（40%）、レポート等の提出物（60%）で評価する。					
教科書	<ol style="list-style-type: none"> ①小池 智子他著；看護サービス管理 第5版、医学書院、2018 ②井部俊子 中西睦子監修；看護管理学習テキスト 第2版、日本看護協会出版会、2011 ③本間道子著、集団行動の心理学 ダイナミックな社会関係のなかで、サイエンス社、2011 ④山口裕幸、高橋潔、芳賀繁、竹村和久著、産業・組織心理学、有意閣アルマ、2006 ⑤八代京子監修、鈴木有香著、交渉とメディアエーション、三修社、2004 ⑥ケネス・J・カーゲン著、東村知子訳、あなたへの社会構成主義、ナカニシヤ出版、2004 ⑦ジョン・P・コッター；ジョン・コッターの企業変革ノート、日経 BHP 社、2003 					
授業外学習 課題 (予習・復習)	<p>第7~8回:集団の特性を考慮したリーダーシップの在り方について、実践に基づいた分析、考察を行う。</p> <p>第12回:各自が所属している組織の組織分析を行い、組織の課題と展望について考察する。</p> <p>第15回:専門職性の発達と分化、異なる専門用語・概念を用いる中で、どのように協働実践していくのかを考え、多職種連携が進む中で、看護職者の役割と機能について考察する。</p>					
オフィスアワー	随時対応します。できるだけ、事前にメールまたは電話でアポイントメントをとってください。					
備考	担当者については、講義開始時に提示する。					

科目名	看護管理の動向と展望		英訳科目名	Current Issues and Trends in Nursing Management			
科目区分			単位数	2	必選区分		
時間割コード	62200165	授業種別		履修年次	1～	開講期間	後期
授業方式				池		永国寺	
履修における注意点				資格・区分等			
担当教員	2159041	久保田 聡美		所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP5 を修得するために重要な科目。						
授業教員							
授業の概要	看護管理領域に関する国内外のトピックスについて、看護管理領域の実践、学問的基盤、倫理的課題、研究などの課題について討議し理解を深める。課題に対する解決方法や取り組みについて検討し、看護管理のあり方や役割について考察する。						
達成目標 (達成水準)	<ol style="list-style-type: none"> 1.看護管理領域に関連する興味あるトピックスについて情報収集ができる。 2.トピックスに関連する情報収集からテーマを選ぶことができる。 3.選択したテーマについて、文献検討ができる。 4.テーマを通して明確になった看護管理領域における課題と対策について説明できる。 5.上記を通して看護管理のあり方や役割について討議できる。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1:看護管理領域に関連する医療・看護・保健・福祉・社会の動向（国内）を概観し、関心のあるテーマを見出す。 2:看護管理領域に関連する医療・看護・保健・福祉・社会の動向（国内）から、関心のあるテーマについて、議論する。 3:看護管理領域に関連する医療・看護・保健・福祉・社会の動向（国外）を概観し、関心のあるテーマを見出す。 4:看護管理領域に関連する医療・看護・保健・福祉・社会の動向（国外）から、関心のあるテーマについて、議論する。 5:看護管理領域における実践の課題：看護ケアを支える看護管理、看護学教育の視点から、関心のあるテーマを見出す。 6:看護管理領域における実践の課題：看護ケアを支える看護管理、看護学教育の視点から、関心のあるテーマについて議論する。 7:看護管理領域における倫理的課題：意思決定における倫理的なリーダーシップ 8:看護管理領域における倫理的課題への対応 9:看護管理領域の研究における課題 質の高い保健医療サービスの提供に必要な要素-1 10:看護管理領域の研究における課題 質の高い保健医療サービスの提供に必要な要素-2 11:看護管理領域の研究における課題 質の高い保健医療サービスの提供に必要な要素-3 12:看護管理領域の研究における課題 質の高い保健医療サービスの提供に必要な要素-4 13:看護管理実践者からの学びの整理 14:看護管理実践者からの学びのまとめ・発表 15:授業のまとめ 						
成績評価 (基準と方法)	<p>討議への参加度やプレゼンテーションへの取り組み (30%) (目標 4、目標 5)</p> <p>発表用スライドや課題レポートなどの提出物 (70%) (目標 1～目標 3)</p>						
教科書	講義中に提示します。						
授業外学習 課題 (予習・復習)	<ol style="list-style-type: none"> 2:看護管理領域に関連する医療・看護・保健・福祉・社会の動向（国内）の関心のあるテーマについて、テキスト、文献、論文等を使用して、概要を調べる（レポート） 3:看護管理領域に関連する医療・看護・保健・福祉・社会の動向（国外）の関心のあるテーマについて、テキスト、文献、論文等を使用して、概要を調べる（レポート） 4:看護管理領域に関連する医療・看護・保健・福祉・社会の動向について、関心のあるテーマの国内外の比較検討ができる。 6:看護管理領域における実践の課題について、最低3つの資料を用いて、その概要をまとめる（レポート） 7:看護管理領域における倫理的課題：意思決定における倫理的なリーダーシップについて、最低2つの資料を用いて、その概要をまとめる（レポート） 8:看護管理領域における倫理的課題への具体的な対応についての課題文献を読み、自分の考えをまとめる。 9-10:「質の高い保健医療サービスの提供に関連する研究」について、1つの文献を探し、目的、方法、何が分かったかについてまとめる（レポート） 11-12:「看護管理の研究」について、1つの文献を探し、目的、方法、何が分かったかについてまとめる（レポート） 13-14:看護管理実践者からの学びをまとめる（レポート） 						
オフィスアワー	随時対応します。できるだけメールで連絡をしてアポイントメントを取ってください。						
備考	実務経験のある教員による授業科目 担当教員は講義の最初にお伝えします。						

科目名	看護管理学実践演習 I			英訳科目名	Advanced Practicum in Nursing Management I		
科目区分				単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200166	授業種別		履修年次	1～	開講期間	後期
授業方式				池		永国寺	
履修における 注意点	※2023 年度は受講者なし			資格・区分等			
担当教員	2159041	久保田 聡美		所属	看護学科		
ディプロマ・ポ リシーとの関連 性	DP1,3,4 を修得するために重要な科目						
授業教員							
授業の概要	看護管理者として基本的な責務を遂行するために必要な知識、技術、態度を修得する。						
達成目標 (達成水準)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 組織の理念と看護部門の理念の整合性を図りながら、対象部門の目標を設定することができる。 2. 当該部署の目標達成と個人の目標との折り合いをつけながら看護管理過程を展開できる。 3. 保健・医療・福祉サービスの提供システムを品質管理の視点に立って運営することができる。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 回:組織の理念と看護部門の理念 2 回:部門の目標と個人の目標 3 回:目標管理面接の運営方法 4 回:フィールドワーク等 1 5 回:フィールドワーク等 2 6 回:フィールドワーク等 3 7 回:フィールドワーク等 4 8 回:事業計画のまとめ、ディスカッションする/事後の課題として、まとめのレポートを提出する <p>:* 探究する課題の設定、そのための方法論の検討について、教員と適宜ディスカッションしながら進めていく。 :* 4～7 回の展開方法については、フィールドワークや課題に関連する専門職等へのインタビューなど、学生が自ら計画を立て、実施する。</p>						
成績評価 (基準と方法)	全過程における課題への取り組み (30%)、課題レポート等の提出物 (70%) で評価する。						
教科書	文献の紹介、必要資料の配布は、適宜行う						
授業外学習 課題 (予習・復習)	<p>:事前学習課題は、講義進行に合わせ、講義中に適宜提示する :事後の課題として、まとめのレポートを提出する</p>						
オフィスアワー	随時。できるだけ事前にメールでアポイントメントを取ってください。						
備考							

科目名	看護管理学実践演習 II			英訳科目名	Advanced Practicum in Nursing Management II		
科目区分				単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200167	授業種別		履修年次	2～	開講期間	前期
授業方式				池		永国寺	
履修における 注意点	※2023 年度は受講者なし			資格・区分等			
担当教員	2159041	久保田 聡美		所属	看護学科		
ディプロマ・ポ リシーとの関連 性	DP1,3,4 を修得するために重要な科目						
授業教員							
授業の概要	看護管理者として基本的な責務を遂行するために必要な知識、技術、態度を修得する。						
達成目標 (達成水準)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 組織の理念と看護部門の理念の整合性を図りながら、対象部門の目標を設定することができる。 2. 当該部署の目標達成と個人の目標との折り合いをつけながら看護管理過程を展開できる。 3. 保健・医療・福祉サービスの提供システムを品質管理の視点に立って運営することができる。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 回:組織の理念と看護部門の理念 2 回:部門の目標と個人の目標 3 回:目標管理面接の運営方法 4 回:フィールドワーク等 1 5 回:フィールドワーク等 2 6 回:フィールドワーク等 3 7 回:フィールドワーク等 4 8 回:事業計画のまとめ、ディスカッションする/事後の課題として、まとめのレポートを提出する <p>:* 探究する課題の設定、そのための方法論の検討について、教員と適宜ディスカッションしながら進めていく。 :* 4～7 回の展開方法については、フィールドワークや課題に関連する専門職等へのインタビューなど、学生が自ら計画を立て、実施する。</p>						
成績評価 (基準と方法)	全過程における課題への取り組み (30%)、課題レポート等の提出物 (70%) で評価する。						
教科書	文献の紹介、必要資料の配布は、適宜行う						
授業外学習 課題 (予習・復習)	<p>:事前学習課題は、講義進行に合わせ、講義中に適宜提示する :事後の課題として、まとめのレポートを提出する</p>						
オフィスアワー	随時。できるだけ事前にメールでアポイントメントを取ってください。						
備考							

科目名	看護管理学実践演習Ⅲ			英訳科目名	Advanced Practicum in Nursing Management III		
科目区分				単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200168	授業種別		履修年次	2～	開講期間	後期
授業方式				池	永国寺		
履修における 注意点	※2022年度は受講者なし			資格・区分等			
担当教員	2159041	久保田 聡美		所属	看護学科		
ディプロマ・ポ リシーとの関連 性	DP1,3,4 を修得するために重要な科目						
授業教員							
授業の概要	多様なヘルスケアニーズを持つ個人、家族及び地域住民に対して、質の高い組織的看護サービスを提供するために必要な看護管理実践能力を修得する。						
達成目標 (達成水準)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保険医療福祉の政策動向を理解し、対象地域・組織の外部環境が看護管理に与える影響を分析できる。 2. 社会が求めるヘルスケアサービスを提供するために看護システムの現状を分析し、可視化できる。 3. 経営管理の視点に立った事業計画が立案できる。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1回:保健医療福祉の政策動向が組織に与える影響 SWOT 分析 2回:外部環境の変化が看護部門に与える影響 3回:看護システムの現状分析と課題抽出 優先順位の検討 4回:ヘルスケアサービスのマーケティング 組織内起業と看護起業 5回:組織デザインと組織運営 6回:組織戦略とポジションパワーの活用 7回:賃金制度、人事考課 人材フローのマネジメント 費用対効果の検討 <p>8回:事業計画のまとめ、ディスカッションする 事後の課題として、まとめのレポートを提出する</p> <p>:* 探究する課題の設定、そのための方法論の検討について、教員と適宜ディスカッションしながら進めていく。 :* 4～7回の展開方法については、フィールドワークや課題に関連する専門職等へのインタビューなど、学生が自ら計画を立て、実施する。</p>						
成績評価 (基準と方法)	全過程における課題への取り組みプレゼンテーション (30%)、課題レポート等の提出物 (70%) で評価する。						
教科書	文献の紹介、必要資料の配布は、適宜行う						
授業外学習 課題 (予習・復習)	:事前学習課題は、講義進行に合わせ、講義中に適宜提示する :事後の課題として、まとめのレポートを提出する						
オフィスアワー	随時。できるだけ事前にメールでアポイントメントを取ってください。						
備考							

科目名	精神看護ケア研究			英訳科目名	Research on Psychiatric Mental Health Nursing Care		
科目区分				単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200169	授業種別		履修年次	1～	開講期間	後期
授業方式				池	永国寺		
履修における 注意点				資格・区分等			
担当教員	2195008	藤代 知美		所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,5 を修得するために重要な科目						
授業教員							
授業の概要	精神看護ケアにかかわる現象を探求している理論や概念を概観する。また、学生の関心のある精神看護領域を選択し、事例や文献を通して、精神看護の介入方法、精神看護ケア研究のあり方を検討する。						
達成目標 (達成水準)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神看護ケアに関わる現象を探求している理論や概念を理解する 2. 精神看護ケアの研究に関して分析し評価する。 3. 精神看護領域の事例や文献を通して、看護介入の方法を検討する。 						
授業計画	<p>:オリエンテーション 学生が精神看護領域に関心をもっていることについての討議</p> <p>精神看護に影響を与えた理論や概念の理解とその活用</p> <p>①精神力動の理論の理解と活用</p> <p>精神看護に影響を与えた理論や概念の理解とその活用</p> <p>②自我発達理論の理解と活用</p> <p>精神看護に影響を与えた理論や概念の理解とその活用</p> <p>③ストレス・対処理論の理解と活用</p> <p>精神看護に影響を与えた理論や概念の理解とその活用</p> <p>④危機理論と危機の予防</p> <p>精神看護に影響を与えた理論や概念の理解とその活用</p> <p>⑤脳科学の理解と活用</p> <p>精神看護に影響を与えた理論や概念の理解とその活用</p> <p>⑥セルフケア理論の理解と活用</p> <p>精神看護に影響を与えた理論や概念の理解とその活用</p> <p>⑦行動療法、認知行動療法</p> <p>精神看護に影響を与えた理論や概念の理解とその活用</p> <p>⑧精神疾患をもつ人の家族への看護</p> <p>精神看護領域における倫理的課題の分析</p> <p>倫理的課題の分析と、課題解決に向けた方法を検討する</p> <p>精神看護ケアの研究の動向と課題</p> <p>文献から精神看護の動向を分析し、課題を明らかにする</p>						
成績評価 (基準と方法)	ディスカッションへの参加 (目標 1, 2, 3) : 60% 演習・プレゼンテーションの内容 (目標 3) : 40%						
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・バトリシア・R・アンダーウッド著：南裕子監修、看護理論の臨床への活用、日本看護協会出版、2003 ・リチャード・S・ラザルス著、本明寛他監訳、ストレスの心理学、実務教育出版、1991 ・池谷裕二：大人のための図鑑 脳と心のしくみ (初版)、新星出版社、2017。 ・小椋力：予防精神医学－脆弱要因の軽減とレジリエンスの増強 (初版)、星和書店、2016。 ・池淵恵美：こころの回復を支える 精神障害リハビリテーション (第1版)、医学書院、2019。 ・宮坂道夫：医療倫理学の方法 原則・手順・ナラティブ (第2版)、医学書院、2011。 						
授業外学習 課題 (予習・復習)	毎回:学習した理論や概念などを実際の援助場面で活用する。						
オフィスアワー	講義日の18時まで						
備考							

科目名	老人看護ケア研究		英訳科目名	Research on Gerontological Nursing Care		
科目区分			単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200170	授業種別	履修年次	1～	開講期間	後期
授業方式			池		永国寺	
履修における 注意点			資格・区分等			
担当教員	2155187	竹崎 久美子	所属	看護学科		
ディプロマ・ポ リシーとの関連 性	DP1,2,3 を修得するために重要な科目					
授業教員						
授業の概要	老人看護に関わる理論や概念に対する理解を深め、社会の動向を踏まえて、高齢者とその家族を対象とした看護ケアを向上させるための方略を探究する。 高齢社会の現状や課題、高齢者のケアに関わる既存研究の動向を分析し、倫理的課題分析を踏まえて、看護学における老人看護学領域の意義や研究課題を明らかにする。					
達成目標 (達成水準)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢社会の現状や課題、高齢者のケアにかかわる既存研究の動向を分析し、看護学における老人看護学領域の意義や研究課題を明らかにする。 2. 老人に関わる理論や概念に関する基本的理解を深め、高齢社会において看護の果たすべき役割や他職種との連携・協働について探求する。 3. 基礎的な老人の健康と健康障害（認知症を含む）に関する特徴についての知識を深め、様々な観点から老人の健康生活を捉える理論と、実際の方法論について学ぶ。 4. 高齢社会における倫理的課題分析を踏まえて、高齢者とその家族を対象とした看護ケアを向上させるための方略を探求する。 					
授業計画	<p>第1回:高齢社会の現状と課題(1)：Introduction, 高齢社会に至る過程と、我が国の現状について学び、現状と課題を分析する。</p> <p>第2回:高齢社会の現状と課題(2)：高齢社会において老人ケアにまつわる社会制度の変遷について分析する。</p> <p>第3回:高齢者ケアの現状と課題(1)：高齢者のケアに係わる既存研究の動向を分析し、看護学における老人看護学領域の意義や課題を明らかにする。</p> <p>第4回:高齢者ケアの現状と課題(2)：高齢者ケアに係わる様々な専門職について学び、看護職の役割について分析する。</p> <p>第5回:加齢に関する理論：加齢に関する理論についての理解を深め、それぞれの理論を基にして、人間にとっての「老い」を探求する。</p> <p>第6-7回:老人の生活と健康：老人の生活を生涯発達の側面から理解し、老人の健康について、健康生成過程のダイナミックスと生態学的視点から理解を深める。</p> <p>第8-9回:老人と健康のリスク：老人に共通する生活上の困難な体験と加齢との関係について理解する。日常生活活動や身体的機能、心理・社会的活動や環境の評価を通して、老人の健康と支援的環境について検討する。</p> <p>第10-11回:認知症老人を取り巻く課題：認知症老人について理解を深め、それを取り巻く課題について、個人、家族、地域、社会、文化、倫理等の視点から分析し、看護の役割について討議する。</p> <p>第12-13回:高齢社会における倫理的課題：高齢者社会における倫理的課題について分析し、老人看護学の意義や役割について探求する。</p> <p>第14-15回:まとめ：各自が関心を持った課題について、現状と課題を探求し、まとめて発表する。</p>					
成績評価 (基準と方法)	クラス討議への参加度および貢献度(40%)、プレゼンテーション(30%)、レポート(30%)などによって総合的に評価する。					
教科書	金川克子・野口美和子：疾病・障害をもつ高齢者の看護（最新高齢者看護プラクティス、中央法規、2005、他、適宜、提示する。					
授業外学習 課題 (予習・復習)	:各回事前に、担当箇所について文献検討した内容とディスカッションポイントについてまとめ、レポートは事前に、パスワードをかけて教員・受講生全員に配信すること。 :講義後は、自身のもつ老年観・老人観、あるいは実践にふりかえって、新たに学んだこと、課題などについてまとめておくこと。					
オフィスアワー	講義前後に、適宜学生と時間調整する。					
備考						

科目名	がん看護ケア研究			英訳科目名	Research on Cancer Nursing Care		
科目区分				単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200171	授業種別		履修年次	1～	開講期間	後期
授業方式				池		永国寺	
履修における 注意点				資格・区分等	選択科目		
担当教員	2155175	藤田 佐和		所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,DP5 を修得するために重要な科目						
授業教員	未定						
授業の概要	がん患者とその家族、さらには死別後の遺族の特性や、人々を取り巻く環境との相互作用を理解するために活用できる概念や理論について学ぶ。さらにはがん患者と家族への看護ケアに関する既存の文献を用いて、がん看護ケアの現状と課題、がん看護ケアにおける倫理的課題を分析し、がん患者や家族に対する看護介入方法について探究する。						
達成目標 (達成水準)	<ol style="list-style-type: none"> 1. がん患者・家族のケアを行っていく上で、有用な考え方や理論について説明できる。 2. がん患者・家族のケアを行っていく上で、有用な考え方や理論の実践への活用方法が説明できる。 3. がん看護実践における現状の課題を分析し、課題解決のために実現可能な介入方法を考案できる。 						
授業計画	第1回:授業オリエンテーション(未定) 第2回:がん看護領域における課題Ⅰ(未定) 第3回:がん看護領域における課題Ⅱ(未定) 第4回:ストレス状況にあるがん患者・家族の理解(未定) 第5回:危機状況にあるがん患者・家族の理解(未定) 第6～7回:がん患者・家族の持つ力の理解(未定) 第8回:がん患者・家族を取り巻く環境の理解(未定) 第9～10回:がん看護領域の実践・研究における倫理的課題Ⅰ、Ⅱ(未定) 第11～12回:がん看護領域における今後の展望Ⅰ、Ⅱ(未定) 第13～14回:関心領域の看護ケアの現状と課題を整理し、今後取り組む必要のあるケア研究のテーマや看護ケアの質向上のために必要な看護介入方法の探索(未定) 第15回:まとめ(未定)						
成績評価 (基準と方法)	目標1、目標2、目標3について プレゼンテーション(60%)、レポート(30%)、クラス討議への参加度および貢献度(10%)によって総合的に評価する。						
教科書	参考書 ・小島操子、佐藤禮子(監訳)、日本がん看護学会教育研究活動委員会コアカリキュラムグループ委員(訳):がん看護コアカリキュラム、医学書院、2007 ・資料の配布および国内外の重要文献の紹介などを適宜行う。						
授業外学習 課題 (予習・復習)	:各回のテーマについて事前学習した上で授業に出席すること						
オフィスアワー	随時対応します。メール等で連絡をしてアポイントメントを取ってください。						
備考	令和4年度は、未開講です。						

科目名	小児看護ケア研究		英訳科目名	Research on Child Health Nursing Care		
科目区分			単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200172	授業種別	履修年次	1～	開講期間	後期
授業方式			池	永国寺		
履修における 注意点			資格・区分等			
担当教員	2155837	佐東 美緒	所属	看護学科		
ディプロマ・ポ リシーとの関連 性	DP1,3,5 を修得するために重要な科目					
授業教員	佐東,高谷,有田					
授業の概要	この科目は、様々な健康レベルにある子どもとその家族を理解するために活用できる理論や概念について理解することを目的とする。さらに、学生が感心を持っている小児看護現象に焦点を当て、既存の研究を概観し、小児看護ケアの質の向上のために、今後必要な研究を明らかにするとともに研究方法について理解する。					
達成目標 (達成水準)	①子どもや家族を理解する上で活用できる理論や概念について説明することができる ②小児看護領域における研究を概観し論述することができる ③小児看護領域における研究方法を説明することができる ④小児看護や小児医療の現状を分析し、小児看護の課題を調べることができる ⑤既存の研究成果や諸理論を活用し、小児看護の課題にどのように取り組むべきかを討議することができる					
授業計画	第1・2回:オリエンテーション/子どもの権利と小児看護(佐東) 第3回 :小児看護領域において活用できる理論や概念 (1) 小児看護領域に活用できる理論を概観し、理論を用いて事例分析をする。(高谷) 第4回 :小児看護領域において活用できる理論や概念 (2) 小児看護領域に活用できる概念を概観し、概念を用いて事例分析をする。(有田) 第5回 :小児看護における看護研究 (1) 子どもや家族を対象として看護研究方法について学ぶ(高谷) 第6回 :小児看護における看護研究 (2) 子どもや家族を対象として看護研究手法について学ぶ(有田) 第7・8回:小児看護における看護研究 (3) 子どもが研究対象となつて時の、研究倫理について検討する(有田) 第9・10回 :小児看護や小児保健や小児医療の動向と課題 (1) 既存の研究より小児保健や小児医療についての動向を分析し、課題を明らかにする(佐東) 第11・12回:小児看護や小児保健や小児医療の動向と課題 (2) 既存の研究より小児看護の動向を分析し、課題を明らかにする(高谷) 第13・14回:小児看護や小児保健や小児医療の動向と課題 (3) 既存の研究より世界の小児看護の動向を分析し、課題を明らかにする(佐東) 第15回:まとめ 学生が興味関心のある事柄について、既存の研究を用いて課題を明確化し、看護ケアのあり方を検討する。(佐東)					
成績評価 (基準と方法)	授業中の活動 (ディスカッション・プレゼンテーション) への取り組み (目標1、3、5) 80% 課題レポート (字数制限なし) 2回 (目標2、4) 20%					
教科書	①南裕子 (2008) :看護における研究, 日本看護協会出版会 ②キャロル L,マグニー/小山真理子 (2008) :実践に生かす看護研究-量的・質的研究デザインと統計手法を理解する, 中山書店 ③鯨岡俊 (2005) :エピソード記述入門-実践と質的研究のために, 東京大学出版会 ④佐藤郁哉 (2002) :フィールドノートの技法, 新躍堂 その他、資料の配布および国内外の重要文献の紹介などを適宜行う。					
授業外学習 課題 (予習・復習)	第1・2回:各クラスの事前課題については、別途、説明する。 第3回 :各クラスの事前課題については、別途、説明する。 第4回:各クラスの事前課題については、別途、説明する。 第5回:各クラスの事前課題については、別途、説明する。 第6回:各クラスの事前課題については、別途、説明する。 第7・8回:各クラスの事前課題については、別途、説明する。 第9・10回:各クラスの事前課題については、別途、説明する。 第11・12回:各クラスの事前課題については、別途、説明する。 第13・14回:各クラスの事前課題については、別途、説明する。 第15回:各クラスの事前課題については、別途、説明する。					
オフィスアワー	学生が社人であるため、学生と時間調整して対応する。基本的にはメールでやり取りを行うが、適宜、土曜、日曜に、C206研究室で行う。					
備考	夏季休暇中に、講義の課題を連絡する。					

科目名	慢性看護ケア研究		英訳科目名	Research on Chronic Illness Patients Care		
科目区分			単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200173	授業種別	履修年次	1～	開講期間	後期
授業方式			池	永国寺		
履修における 注意点			資格・区分等			
担当教員	2155722	内田 雅子	所属	看護学科		
ディプロマ・ポ リシーとの関連 性	DP1,2,5 を修得するために重要な科目。					
授業教員	内田					
授業の概要	慢性病とともに生きる人々を取り巻く複雑な現象を理解するため、慢性看護ケアに有用な理論・概念を学び看護実践への応用を探究する。また、慢性看護ケアに関する既存の研究論文について、研究者の視点、研究方法、研究結果を批判的に分析する。さらに、慢性病患者と家族の QOL を維持・向上させるための看護支援方法について探究する。					
達成目標 (達成水準)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 慢性病患者とその家族を看護支援するために有用な理論・概念について説明できる。 2. 自らの専門領域に適用可能な中範囲理論を選択し、看護実践へ理論を適用できる。 3. 慢性看護ケアに関する研究論文の成果を評価できる。 4. 慢性看護ケアにおける現状と課題を明らかにし、理論に基づく看護支援方法を考案できる。 					
授業計画	<p>第1回:オリエンテーション(内田)</p> <p>第2回:慢性看護領域における看護支援方法の現状と課題：世界と日本における慢性期医療の現状と課題の比較検討(内田)</p> <p>第3回:慢性看護ケアに有用な理論・概念の理解Ⅰ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病みの軌跡理論・病みの軌跡看護モデル、危機的人生移行理論など(内田) <p>第4回:慢性看護ケアに有用な理論・概念の理解Ⅱ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケアリング、成人学習理論、エンパワメントモデル、症状マネジメントモデル、意思決定支援など ・ケアリング、成人学習理論、エンパワメントモデル、症状マネジメントモデル、意思決定支援など ・コンプライアンス、アドヒアランス、コンコーダンス、セルフモニタリング、セルフマネジメントなど(内田) <p>第5回:慢性看護ケアに有用な理論・概念の理解Ⅲ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己効力理論、行動変容理論、健康信念モデルなど ・生きがい連結法、Step by Step 法、ピアラーニング、サポートグループ、セルフヘルプグループなど(内田) <p>第6回:慢性看護領域における看護支援方法の現状と課題：慢性看護ケアにおける倫理的課題(内田)</p> <p>第7回:慢性看護ケアに関する研究論文の批判的分析：文献レビュー論文①(内田)</p> <p>第8回:慢性看護ケアに有用な理論・概念の理解と看護実践への適用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の関心領域におけるケーススタディ(内田) 					
成績評価 (基準と方法)	達成目標に沿って、クラス参加状況 (40%)、プレゼンテーション (30%)、レポート (30%) で総合的に評価する。					
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・ Chinn, P. L., & Kramer, M. K. / 川原由佳里監訳：看護学の総合的な知の構築に向けて。エルゼビア・ジャパン。2007。 ・ 黒田裕子監修：看護診断のためのよくわかる中範囲理論。学研。2009。 ・ 野川道子編著：看護実践に活かす中範囲理論。メヂカルフレンド社。2010。 ・ Strauss, A. L., et al. / 南裕子監訳：慢性疾患を生きるケアとクオリティライフの接点。医学書院。1987。 ・ Woog, P.(Ed). / 黒江ゆり子他訳：慢性疾患の病みの軌跡。医学書院。1995。 					
授業外学習 課題 (予習・復習)	第2～5・8回:講義予定内容について参考文献や配布資料を読んでおくこと。事後の学習課題は、講義中に適宜、提示する。 第7回:学生の関心領域の研究論文を検索、批判的分析、及び理論との比較検討を行い、課題を整理する。					
オフィスアワー	随時、対応しますが、事前にアポイントメントをとって下さい。					
備考						

科目名	クリティカルケア研究		英訳科目名	Research on Critical Care Nursing		
科目区分			単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200174	授業種別	履修年次	1～	開講期間	後期
授業方式			池	永国寺		
履修における 注意点			資格・区分等			
担当教員	2155060	大川 宣容	所属	看護学科		
ディプロマ・ポ リシーとの関連 性	DP1,5 を修得するために重要な科目					
授業教員	大川					
授業の概要	クリティカルな状況にある患者・家族や看護ケアに関わる現象を探究している理論や概念を概観する。また、クリティカルケア看護の研究に関して、そのテーマ、研究方法、研究結果等を批判的に分析し、クリティカルな状況にある患者・家族に対する看護介入方法について探究する。					
達成目標 (達成水準)	1. クリティカルな状況にある患者・家族へのケアを行う上で、有用な理論や概念について理解し、説明できる。 2. クリティカルケア看護領域における研究を批判的に分析し、説明できる。 3. クリティカルな状況にある患者・家族に対する看護実践に関する研究成果や理論・概念を活用した看護介入方法を考案できる。					
授業計画	第1回: Introduction: クリティカルケアにおける現状と課題(大川) 第2回: クリティカルケア看護学領域で活用できる理論や概念の概観(大川) 第3回: 危機理論の理解と実践への活用(大川) 第4回: ストレス・コーピング理論の理解と実践への活用 (大川) 第5回: 意思決定理論の理解と実践への活用(大川) 第6回: クリニカルジャジメントの理解と実践への活用(大川) 第7回: コンフォート理論、コンフォートケアの理解と実践への活用(大川) 第8-9回: クリティカルケア看護領域における倫理的課題 (大川) 第10回: クリティカルケア看護領域における研究の動向と課題: 文献からクリティカルケア看護の動向を分析し、課題を明らかにする(大川) 第11-12回: クリティカルケア看護の研究論文のクリティーク (量的研究) (大川) 第13-14回: クリティカルケア看護の研究論文のクリティーク (質的研究) (大川) 第15回: クリティカルケア看護学領域における課題と看護の展望(大川)					
成績評価 (基準と方法)	クラス討議への貢献度 (20%)、プレゼンテーション (40%)、レポート (40%) などにより、達成目標 1～3 について、総合的に評価する。					
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・寺町優子, 井上智子他編: クリティカルケア看護 理論と臨床への応用, 日本看護協会出版会, 2007 ・山勢博彰: 救急・重症患者と家族のための心のケア, MC メディカ出版, 2011 ・リチャード.S.ラザルス, スーザン.フォルクマン (本明寛他訳): ストレスの心理学, 実務教育出版, 1991 ・ドナ・C・アギュララ (小松源助他訳): 危機介入の理論と実際, 川島書店, 1977 ・キャサリン・コルカバ (太田喜久子監訳): コルカバ コンフォート理論, 医学書院, 2008 ・その他、文献の紹介、資料の配布は適宜行う。 					
授業外学習 課題 (予習・復習)	第2回～9回: 授業内容について提示した資料や参考図書を用いて、事前学習を行う。テーマとなっている理論や概念を用いて現象を整理し、説明できるようにする。 第10回～14回: 題材にしたい研究論文を検索し、論文を精読し、規準に沿って概要を整理し、説明できるようにする。					
オフィスアワー	講義終了後対応します。できるだけメールでアポイントメントを取ってください。					
備考						

科目名	臨床看護管理研究		英訳科目名	Research on Nursing Management		
科目区分			単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200175	授業種別	履修年次	1～	開講期間	後期
授業方式			池		永国寺	
履修における 注意点	実践リーダーコースの学生向けのコースです		資格・区分等			
担当教員	2155497	内川 洋子	所属	看護学科		
ディプロマ・ポ リシーとの関連 性	DP4.5 を修得するために重要な科目					
授業教員						
授業の概要	看護管理を取り巻く社会・経済情勢を多角的な視点より分析し、看護管理の課題を明らかにしそれぞれについて看護の経営戦略のあり方について学び、看護管理者としてのビジョンと介入方法を探求する。また看護管理実践の質的向上を目指すために必要な理論や概念を学び既存の研究の中より看護管理に関連する研究テーマ、研究方法、研究成果等を批判的に分析し、看護管理研究のあり方を検討する。					
達成目標 (達成水準)	1. 看護管理領域に関する国内外の研究・教育・実践の動向を多角的に分析し、研究課題を見出すことができる。 2. 研究課題として見出した看護管理の現象について、理論や概念を用いて批判的に分析することができる。 3. これらを通して、看護管理研究のあり方について批判的に意見を述べるることができる。					
授業計画	1 :看護管理の課題 2 :看護管理の概念・構成要素について 3 :看護管理の機能・役割 4 :看護管理と組織論 5 :看護管理に関する研究の動向 6 :看護管理に関する研究 7 :変革理論 8 :理論と実践と研究 9 :看護管理者と継続教育 10 :看護管理者と研究 :					
成績評価 (基準と方法)	課題レポート、プレゼンテーション、ディスカッションへの参加度(目標1～3) 100%					
教科書	①中西睦子編集;看護サービス管理 第5版、医学書院、2018 ②井部俊子 中西睦子監修;看護管理学習テキスト 第3版、日本看護協会出版会、2022 ③本間道子著、集団行動の心理学 ダイナミックな社会関係のなかで、サイエンス社、2011 ④山口裕幸、高橋潔、芳賀繁、竹村和久著、産業・組織心理学、有意閣アルマ、2006 ⑤八代京子監修、鈴木有香著、交渉とメディアーション、三修社、2004 ⑥ケネス・J・カーゲン著、東村知子訳、あなたへの社会構成主義、ナカニシヤ出版、2004 ⑦ジョン・P・コッター;ジョン・コッターの企業変革ノート、日経 BHP 社、2003					
授業外学習 課題 (予習・復習)	2～10回:看護管理における主要な概念のうち興味のある現象に関連する概念を選択し、研究の動向、概念の定義、尺度、成果について調べる 2～10回:実践現場において課題となる現象を選択し、現象を説明する理論、概念を探るとともに、研究の動向について調べる					
オフィスアワー	随時対応します。できるだけ、事前にメールまたは電話でアポイントメントをとってください。					
備考	*授業では、講義・討議及びプレゼンテーション等組み合わせて行う。					

科目名	臨床看護教育研究			英訳科目名	Research on Nursing Education		
科目区分				単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200176	授業種別		履修年次	1～	開講期間	後期
授業方式				池	永国寺		
履修における 注意点				資格・区分等			
担当教員	2155473	長戸 和子		所属	看護学科		
ディプロマ・ポ リシーとの関連 性	DP1,5 を修得するために重要な科目						
授業教員	長戸、内田、内田雅子、内川洋子、長戸和子、内田、内川						
授業の概要	看護教育に関する理論や研究方法について理解を深める。また、看護教育の動向や課題について考察し、看護教育を向上させる方策を探求する。さらに、看護教育における研究課題・研究方法を探求する。						
達成目標 (達成水準)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護教育を行っていく上で有用な理論・概念について理解できる。 2. 看護教育に関する理論・概念を活用して、看護教育の方策を説明できる。 3. 看護教育に関する動向や課題について考察できる。 4. 看護教育を向上させるために研究を活用できる。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1:オリエンテーション：本科目の目的、到達目標、授業の概要等について(長戸、内田) 2:成人学習としての看護教育、学びの主体者としての自己調整学習理論(内田雅子) 3:経験学習、Pedagogical moment (教育的瞬間)における支援、フィードバック(内川洋子) 4:メタ認知理論、ディープ・アクティブラーニング(内川洋子) 5:看護教育の方法：教育プログラムの計画、教育計画の立案(内川洋子) 6:看護教育に関する文献のクリティーク(内田雅子) 7:看護教育における課題：看護教育実践上の「問い」の明確化、先行研究の知見の拡張(内田雅子) 8:看護教育における動向と課題(長戸和子) 9:看護教育の展開：教育プログラム・教育計画の立案(内川洋子) 10:まとめ(内田、内川) 						
成績評価 (基準と方法)	討議(40%)、プレゼンテーション(30%)、提出物(30%)により総合的に評価する						
教科書	<教科書> グレック美鈴、池西悦子編(2018)看護教育学 看護を学ぶ自分と向き合う 第2版、南江堂 <参考書> L・B・ニルソン著、美馬のゆり、伊藤宗達監訳 (2017) 学生を自己調整学習者に育てるアクティブラーニングのその先へ、北大路書房 ノールズ：堀薫夫他監訳(2002)成人教育の現代的実践ーペタゴジーからアンドラゴジーへ、16、鳳書房 三宮真知子編著 (2008) メタ認知 学習力を支える高次認知機能、北大路書房 深谷達史著 (2016) メタ認知の促進と育成 概念的理解のメカニズムと支援、北大路書房 その他、講義中に提示する						
授業外学習 課題 (予習・復習)	<ol style="list-style-type: none"> 6: (事前課題) 看護教育実践上の「問い」に対する先行研究のクリティーク 9:教育プログラム、教育計画の立案 						
オフィスアワー	内容によって、メールで対応します。 面談が必要な場合は、事前にメール等でアポイントメントをとってください。						
備考							

科目名	母性・助産看護ケア研究		英訳科目名	Research on Maternity Health and Midwifery Nursing Care		
科目区分			単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200177	授業種別	履修年次	1～	開講期間	後期
授業方式			池	永国寺		
履修における 注意点			資格・区分等			
担当教員	2175009	渡邊 聡子	所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1・5を修得するために重要な科目					
授業教員						
授業の概要	周産期の母子の健康や看護ケアにかかわる現象を探求している理論や概念を概観する。また、母性・助産看護領域の研究に関して、テーマ、研究方法、研究結果などを批判的に分析し、母性・助産看護ケア研究のあり方を検討する。さらに、学生の関心のある母性・助産看護領域を選択し、事例を用いながら、母性・助産看護の介入方法を発展させていく。					
達成目標 (達成水準)	<ol style="list-style-type: none"> 母性・助産ケアにかかわる現象を探求している理論や概念を理解する。 母性・助産ケアの研究に関して分析し評価する。 母性・助産領域の事例や文献を通して、看護介入の方法を検討する。 					
授業計画	<p>第1回:「親になること」の探求 ①母性とは 第2回:「親になること」の探求 ②自己像と身体像について 第3回:「親になること」の探求 ③女性らしさの発達 第4回:「親になること」の探求 ④母性らしさ 第5回:「親になること」の探求 ⑤母性課題 第6回:「親になること」の探求 ⑥妊娠・出産における身体像 第7回:「親になること」の探求 ⑦妊娠・出産における時間と空間 第8回:「親になること」の探求 ⑧母-子の下位システム 第9回:「親になること」の探求 ⑨産褥期における身体像と子どものイメージ 第10回:「親になること」の探求 ⑩子どもの確認 第11回:母性・助産関心領域の看護研究のクリティーク (量的研究①) 第12回:母性・助産関心領域の看護研究のクリティーク (量的研究②) 第13回:母性・助産関心領域の看護研究のクリティーク (質的研究①) 第14回:母性・助産関心領域の看護研究のクリティーク (質的研究②) 第15回:母性・助産関心領域の看護領域における倫理的課題</p>					
成績評価 (基準と方法)	課題レポート 50% プレゼンテーション 30% 授業への参加度 20%					
教科書	Reva Rubin 著:新藤幸恵他訳 母性論 母性の主観的体験,医学書院, 1997 必要に応じて、資料の配布および国内外の文献の紹介を行う					
授業外学習 課題 (予習・復習)	:各クラスの事前課題は、別途説明する。 第11-15回:関心のある研究論文を検索し、論文を精読し、概要を整理し、説明できるよう準備して授業に臨むこと。					
オフィスアワー	開講期間中は随時可能。原則として要予約。					
備考						

科目名	学校保健研究		英訳科目名	Research on School Health Nursing Care		
科目区分			単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200179	授業種別	履修年次	1～	開講期間	後期
授業方式			池	永国寺		
履修における 注意点			資格・区分等			
担当教員	2155140	池添 志乃	所属	看護学科		
ディプロマ・ポ リシーとの関連 性	DP1,5 を修得するために重要な科目					
授業教員						
授業の概要	<p>学校保健領域で開発されているエビデンスに基づく支援方法を分析・考察する。研究の動向、実践の動向について分析し、新たな支援方法を開発する可能性を考察する。また、発達段階に沿って児童生徒やその家族がより健康に生活していくための新たな支援方法を開発する能力を修得する。</p> <p>さまざまな状況にある児童生徒やその家族を取りあげ、既存の研究成果や理論に基づき、健康課題の特性や発達段階をふまえてより健康に生活していくための新たな支援方法を開発する能力を修得する。</p>					
達成目標 (達成水準)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校保健学領域におけるエビデンスに基づく看護介入方法を多角的に分析し、説明できる。 2. 既存の研究成果や理論に基づき、新たな看護介入方法を説明できる 					
授業計画	<p>第1回:学校保健学の関心領域の実践・研究の動向に関する分析 第2回:学校保健学の関心領域の実践・研究の動向に関する分析 第3回:学校保健学領域における諸概念・理論・モデルの多角的分析(1) 第4回:学校保健学領域における諸概念・理論・モデルの多角的分析(2) 第5回:学校保健学領域における諸概念・理論・モデルの多角的分析・考察(1) 第6回:学校保健学領域における諸概念・理論・モデルの多角的分析・考察(2) 第7回:学校保健学領域における看護介入方法のエビデンス検索(1) 第8回:学校保健学領域における看護介入方法のエビデンス検索(2) 第9回:学校保健学領域における看護介入方法のエビデンス構築(1) 第10回:学校保健学領域における看護介入方法のエビデンス構築(2) 第11回:学校保健学領域における看護介入方法の検討(1) 第12回:学校保健学領域における看護介入方法の検討(2) 第13回:学校保健学領域における看護介入方法の検討(2)① 第14回:学校保健学領域における看護介入方法の検討(2)② 第15回:関心領域の看護介入方法の開発</p>					
成績評価 (基準と方法)	課題レポートとプレゼンテーション(80%)、授業中の活動(ディスカッション)への取り組み(20%)により総合的に評価する。					
教科書	適宜、資料を配布する。					
授業外学習 課題 (予習・復習)	<p>学校保健学の関心領域の実践・研究の動向に関する文献検討・分析 学校保健学領域における諸概念・理論・モデルに関する文献検討・分析 学校保健学領域における看護介入方法に関する文献検討・エビデンスの分析 学校保健学領域における看護介入方法に関する検討 関心領域の看護介入方法の開発</p>					
オフィスアワー	適宜、日程調整を行う					
備考						

科目名	家族ケア研究		英訳科目名	Research on Family Health Care		
科目区分			単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200180	授業種別	履修年次	1～	開講期間	後期
授業方式			池	永国寺		
履修における 注意点			資格・区分等			
担当教員	2155473	長戸 和子	所属	看護学科		
ディプロマ・ポ リシーとの関連 性	DP1,5 を修得するために重要な科目					
授業教員						
授業の概要	家族の健康や看護ケアにかかわる現象を探求している理論や概念を概観する。また家族ケアの研究に関して、そのテーマ、研究方法、研究結果等を批判的に分析し、家族ケア研究のあり方を検討する。また、学生の関心のある領域を選択し、事例を用いながら、家族を対象とする看護ケア方法を発展させていく。					
達成目標 (達成水準)	<ol style="list-style-type: none"> 1) 家族看護学の基盤となる理論や概念について説明できる。 2) 家族看護ケアにかかわる現象を理論や概念を用いて分析することができる。 3) 家族看護に関する研究を批判的に分析し、新たな研究課題や研究方法を検討することができる。 4) 事例の理解や家族看護研究の分析的な理解を通して、家族看護介入方法を検討する。 					
授業計画	<p>第1回 :家族看護学の考え方 第2回 :家族看護ケアにかかわる理論：理論の概要、家族看護への活用における有用性と限界①家族システム理論 第3回 :家族看護ケアにかかわる理論：理論の概要、家族看護への活用における有用性と限界②家族発達理論 第4回 :家族看護ケアにかかわる理論：理論の概要、家族看護への活用における有用性と限界③家族役割理論 第5回 :家族看護ケアにかかわる理論：理論の概要、家族看護への活用における有用性と限界④家族ストレス対処理論 第6回 :家族看護ケアにかかわる理論：理論の概要、家族看護への活用における有用性と限界⑤家族セルフケア理論</p> <p>第7回:家族看護エンパワーメントモデルの概要 第8回 :家族ケアにおける EBP の重要性 第9回:家族を対象とした研究の動向 第10回:家族を対象とした研究方法 第11回:量的記述的研究デザインを用いた家族看護研究①学生の関心領域における文献を用いた検討 第12回:量的記述的研究デザインを用いた家族看護研究②量的記述的研究デザインを用いた研究の特徴と今後の課題 第13回:質的研究デザインを用いた家族看護研究①学生の関心領域における文献を用いた検討 第14回:質的研究デザインを用いた家族看護研究②質的研究デザインを用いた研究の特徴と今後の課題 第15回:家族看護エンパワーメントモデルを用いた事例の展開</p>					
成績評価 (基準と方法)	クラス討議への参加 (40%)、プレゼンテーション (30%)、課題レポート (30%) から総合的に評価する。					
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・ M. M. Friedman, V. R. Bowden, E. G. Jones; Family Nursing Research, Theory, and Practice, 5th ed., Pearson Education, 2003. ・ 野嶋佐由美 監修; 家族エンパワーメントをもたらす看護実践, へるず出版, 2005. ・ 中野綾美・瓜生浩子編著; 家族看護学 家族のエンパワーメントを支えるケア, メディカ出版, 2020. その他必要に応じて提示する					
授業外学習 課題 (予習・復習)	第11-14回:家族ケアに関する文献をひとつ選び、クリティークを行う。その内容について、クラスの中でプレゼンテーションし、ディスカッションを行う。 第15回 :これまでに出会った家族の事例について、モデルあるいは理論を用いてアセスメントし、家族像の形成、援助目標の明確化、看護ケア計画を立案する。					
オフィスアワー	随時					
備考						

科目名	在宅ケア研究		英訳科目名	Research on Home Health Care		
科目区分			単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200181	授業種別	履修年次	1～	開講期間	後期
授業方式			池	永国寺		
履修における 注意点			資格・区分等			
担当教員	2155096	川上 理子	所属	看護学科		
ディプロマ・ポ リシーとの関連 性	DP1,2 を修得するために重要な科目					
授業教員	川上理子,中井,川上・中井					
授業の概要	在宅への移行期ならびに在宅療養継続中の療養者とその家族へのケアに関わる研究や社会の動向を分析し、在宅看護学領域における研究課題を明らかにする。 在宅看護に関わる理論や概念に対する理解を深め、既存の研究経過を活用し、倫理的な判断をふまえて、在宅療養者とその家族を対象とした看護ケアを向上させるための方略を探求する。					
達成目標 (達成水準)	1. 在宅看護学の基盤となる理論や概念を理解し、説明できる 2. 在宅への移行期ならびに在宅療養継続中の療養者とその家族へのケアに関わる社会の動向を研究等を分析し、在宅看護学領域における研究課題を説明できる。 3. 在宅療養者とその家族を対象とした看護ケアを向上させるための方略を提案できる。					
授業計画	1:在宅ケアに関する理論や概念の概要 1 : 在宅 (川上理子) 2:在宅ケアに関する理論や概念の概要 2 : 生活 (川上理子) 3:在宅ケアに関する理論や概念の概要 3 : 在宅移行 (川上理子) 4:在宅ケアに関する理論や概念の概要 4 : 連携協働 (川上理子) 5:在宅ケアに関する理論や概念の概要 5 : ICF (中井) 6:在宅ケアに関する理論や概念の概要 6 : ICF を用いた事例分析 (中井) 7:在宅ケア領域における倫理的課題 1 (川上理子) 8:在宅ケア領域における倫理的課題 2 (川上理子) 9:在宅ケアに関する研究のクリティーク 1 (中井) 10:在宅ケアに関する研究のクリティーク 2 (中井) 11:在宅ケアに関する研究のクリティーク 3 (川上理子) 12:在宅ケアに関する研究のクリティーク 4 (川上理子) 13:在宅ケアにおけるケアの現状・課題と今後の展望 1 (川上・中井) 14:在宅ケアにおけるケアの現状・課題と今後の展望 2 (川上・中井) 15:まとめ (川上理子)					
成績評価 (基準と方法)	クラス討議への参加および貢献度 (40%)、プレゼンテーション (30%)、レポート (30%) によって評価する。					
教科書	・ロビン・ライス編著他：在宅看護論、医学書院 MYW、1997 ☒ドロセア E オレム著、小野寺杜紀訳：オレム看護論 看護実践における基本概念 第 4 版、医学書院、2005 ・松下正明監修：チームで行う退院支援、中央法規、2008 ・島内節編集他：在宅ケアアウトカム評価と質改善の方法、医学書院、2002 ☒野中猛著：図説ケアチーム、中央法規出版株式会社、2007 *その他、資料の配布および国内外の重要文献の紹介などを適宜行う。					
授業外学習 課題 (予習・復習)	概念に基づいた事例分析課題、研究のクリティーク課題あり。					
オフィスアワー	原則として授業のある土曜・日曜の放課後、事前に予約すること。					
備考						

科目名	災害・国際看護ケア研究			英訳科目名	Research on Disaster and International Nursing		
科目区分				単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200183	授業種別		履修年次	1～	開講期間	後期
授業方式				池	永国寺		
履修における 注意点				資格・区分等			
担当教員	2195010	木下 真里		所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,2 を修得するために重要な科目						
授業教員							
授業の概要	災害や環境などのグローバルな社会課題から人々の健康を守るために、どのような看護ケアが必要かを明らかにする能力を習得する。グローバル社会課題による健康影響と、国内外の先駆的取り組みについて学んだ後、受講生自身が選んだテーマについて先行研究を調べ、既に実施されている取り組みの効果と倫理的配慮、有害事象の有無についてエビデンスに基づいて検証した上で授業の中で提示し、講師や他の受講生と共にその研究の意義と今後必要な研究を討議する。						
達成目標 (達成水準)	1.災害がもたらす健康被害・看護ニーズを災害サイクルに沿って考える事ができる。 2.グローバル社会の中で人々に対するケアを行う際に根拠となる理論や概念を理解することができる。 3.グローバル社会の中で健康危機管理について具体的な対策を考えることができる。						
授業計画	1:オリエンテーション 2:グローバルヘルスアジェンダ (1) SDGs に至る経緯と現状 3:グローバルヘルスアジェンダ (2) 貧困 4:グローバルヘルスアジェンダ (3) 格差 5:グローバルヘルスアジェンダ (4) 身近な健康課題 6:災害概論・災害対策概論 7:災害時の健康課題・健康危機 8:災害時のセルフケア (自助) 9:災害時のプライマリケア (共助) 10:災害時のヘルスケア (公助) 健康危機管理 11:ディスカッション (1) 12:ディスカッション (2) 13:ディスカッション (3) 14:ディスカッション (4) 15:まとめ						
成績評価 (基準と方法)	授業へのコミットメントとレポートにて総合的に評価する						
教科書	資料を配布する						
授業外学習 課題 (予習・復習)	1-15:事前課題については、別途、説明する。						
オフィスアワー	事前にメールでアポイントメントを取ってください。						
備考							

科目名	看護課題研究		英訳科目名			
科目区分			単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200184	授業種別	履修年次	2～	開講期間	通年
授業方式			池	永国寺		
履修における 注意点			資格・区分等	高度実践看護師コース必修科目		
担当教員			所属			
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP4,DP5,DP6 を修得するために重要な科目					
授業教員						
授業の概要	臨床看護実践（既習の講義・演習・実践演習における学びを基盤とし）において見出した特定の課題に関して、研究のプロセス（種々の研究方法のみならず、科学的根拠に基づいた知見や技術の開発などを含む）にそって研究を行い、臨床看護実践に寄与することのできる知見や技術を探求し、論文としてまとめる。課題研究を通して、高度実践看護師として必要な研究能力を修得する。					
達成目標 (達成水準)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生の関心領域における臨床実践に根ざした研究課題を見出すことができる。 2. 研究のプロセスにそって論文をまとめることができる。 3. 研究成果を臨床実践に活用する上での可能性と限界について説明することができる。 					
授業計画	第1回:オリエンテーション 第2回:データ収集方法 第3回:データ分析方法Ⅰ 第4～6回:データ分析方法Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（データ分析のステップを3回に分けて行う） 第7回:結果のまとめⅠ 各自の Research Question にそって分析結果の整理を試みる 第8回:結果のまとめⅡ 分析結果を継続して洗練化する方法を学ぶ 第9回:結果のまとめⅢ データを示して分析結果を論理的に示す方法を学ぶ 第10回:最新の研究動向を探索する 第11～12回:考察Ⅰ・Ⅱ（考察について2コマ行う） 第13回:論文としてのまとめⅠ 新たな知見や技術に焦点を当て、一貫性のある論文としてまとめる方法を学ぶ 第14回:論文としてのまとめⅡ 新たな知見や技術に焦点を当て、研究成果を公表する方法について学ぶ 第15回:臨床適応の検討 EBP の重要性を学ぶ 研究を通して得られた新たな知見を実践に活用する可能性と限界について学ぶ					
成績評価 (基準と方法)	目標1,目標2, 目標3について、クラス討議・プレゼンテーション (30%)、提出物 (70%) によって総合的に評価する。					
教科書	・D. F. ポーリット&C. Tベック著、近藤潤子監訳：看護研究 原理と方法 第2版医学書院 ・ナンシー・バーンズ、スーザン・K・グローブ著、黒田裕子ほか監訳：バーンズ&グローブ看護研究入門―実施・評価・活用、エルゼビア・ジャパン、東京、2015。 ・Nicholas H.Steneck 著、山崎茂明訳：ORI 研究倫理入門―責任ある科学者になるために、丸善、2005 ・適宜、資料の配布および国内外の重要文献の紹介などを適宜行う。					
授業外学習 課題 (予習・復習)	:各回の講義内容について、事前事後の自己学習をすること					
オフィスアワー	随時対応します。メール等で連絡をしてアポイントメントを取ってください。					
備考	*高度実践看護師コースの学生は、専門領域の科目責任者の看護課題研究を受講すること。					

科目名	看護学研究方法 I		英訳科目名			
科目区分			単位数	2	必選区分	
時間割コード	62200185	授業種別	履修年次	1～	開講期間	通年
授業方式			池	永国寺		
履修における 注意点	*事前に指定した文献・資料を予習したうえで、授業に参加してください。		資格・区分等	研究コース必修科目		
担当教員			所属			
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP5,6 を修得するために重要な科目					
授業教員						
授業の概要	特定の分野の看護学の研究の動向、教育の動向を概観し、看護学をさらに発展させていくために必要な研究課題、教育課題について学び、学生自らの研究課題を採求する。また、講義やプレゼンテーションを通して、教育・実践・研究の連関へ学究的に参与する研究能力、教育能力を育成する。					
達成目標 (達成水準)	特定の分野の看護学の研究の動向を概観し、その課題を分析する。 特定の看護学領域の教育の動向を概観し、その課題を分析する。 研究テーマを設定し、研究計画書を作成する。					
授業計画	第1回:コースオリエンテーション 第2回:我が国の看護研究の動向 第3回:諸外国の看護研究の動向 第4回:看護研究の課題 第5回:看護学教育の動向と課題 (1) 看護基礎教育 第6回:看護学教育の動向と課題 (2) 大学院教育 第7回:看護学教育の動向と課題 (3) 臨床における教育 第8回:看護学領域における研究倫理の現状と課題 第9回:研究テーマに関する研究の動向 (1) 我が国における研究の動向 第10回:研究テーマに関する研究の動向 (2) 諸外国における研究の動向 第11回:研究テーマに関する研究の動向 (3) 研究テーマの抽出 第12回:研究計画書の作成 (1) 研究の背景、研究の意義 第13回:研究計画書の作成 (2) 研究テーマに関する文献検討、研究の枠組みの作成 第14回:研究計画書の作成 (3) 研究方法論の明確化 第15回:まとめ					
成績評価 (基準と方法)	クラスへの参加度、プレゼンテーション、課題レポート等によって総合的に評価する。					
教科書	講義の中で、資料の配布および重要な文献の紹介を適宜行う。					
授業外学習 課題 (予習・復習)	別途、資料を配布し、説明します。					
オフィスアワー	随時、対応しますが、事前にアポイントメントをとって下さい。					
備考	*履修に当たっては、シラバスに記載されている科目責任者の教員と協議し、担当教員を決定し、履修登録したうえで研究指導を受ける。					

科目名	看護学研究方法Ⅱ		英訳科目名				
科目区分			単位数	6	必選区分		
時間割コード	62200186	授業種別		履修年次	2～	開講期間	通年
授業方式			池		永国寺		
履修における 注意点			資格・区分等	研究コース必修科目			
担当教員			所属				
ディプロマ・ポ リシーとの関連 性	DP1,5 を修得するために重要な科目						
授業教員							
授業の概要	特定の分野の看護学の専門性を発展させていく教育方法、研究方法を修得し、学生自らの教育・研究能力を発展させていく。また、講義や演習、研究課程を通して、教育・実践・研究の連関へ学術的に参与する教育遂行能力、研究遂行能力を育成する。						
達成目標 (達成水準)	特定の分野の看護学の教育計画（シラバス、授業計画など）を作成する。 効果的な演習方法、実習方法を組み立てて、展開する。 研究計画書に基づき研究課題を探究し、研究プロセスに沿って進め、研究論文を作成する。 一連の研究課程を通して、特定の分野の看護学の学問体系を発展させていくために必要な研究方法を修得する。						
授業計画	第1回:コースオリエンテーション 第2回:看護学教育の展開（1）専門領域のシラバスの作成 第3～4回:看護学教育の展開（2）授業計画の作成/看護学教育の展開、（3）シラバスの作成 第5～6回:看護学教育の展開（4）効果的な講義の展開/看護学教育の展開（5）授業計画の作成 第7～8回:看護学教育の展開（6）効果的な演習方法の検討/看護学教育の展開（7）効果的な演習の展開 第9～10回:看護学教育の展開（8）効果的な実習方法を組み立て/看護学教育の展開（9）効果的な実習方法の展開 第11～12回:看護学教育の展開（10）看護実践能力の評価方法/倫理審査申請の準備 第13～14回:倫理審査結果への回答/研究の信頼性と妥当性、信憑性を保証する方法 第15～16回:データ収集方法/データ収集方法の実際 第17～18回:データ分析方法 第19～20回:データ分析の実際（1） 第21～22回:データ分析の実際（2） 第23～24回:データ分析の洗練化/データ分析の文章化 第25～26回:研究論文における結果の検討/研究論文における考察の検討 第28～28回:研究論文における結果、及び考察の洗練化/研究方法と結果の一般化、適用可能性の保証 第29～30回:オーサーシップと研究成果の伝達：多様な対象者と伝達方法：学会発表とアウトリーチ活動の検討、まとめ						
成績評価 (基準と方法)	クラス討議への参加度（15%）、プレゼンテーション（15%）、課題レポート（70%）						
教科書	講義の中で、資料の配布および重要な文献の紹介を適宜行う。						
授業外学習 課題 (予習・復習)	別途、資料を配布し、説明する。						
オフィスアワー	適宜、学生と時間調整して対応する。						
備考	*履修に当たっては、シラバスに記載されている科目責任者の教員と協議し、担当教員を決定し、履修登録したうえで研究指導を受ける。						

科目名	看護教育学専門演習		英訳科目名	Advanced Seminar on Nursing Education		
科目区分			単位数	3	必選区分	
時間割コード	62200187	授業種別	履修年次	1～	開講期間	後期
授業方式			池	永国寺		
履修における 注意点			資格・区分等			
担当教員	2155473	長戸 和子	所属	看護学科		
ディプロマ・ポ リシーとの関連 性	DP1,3,4 を修得するために重要な科目					
授業教員						
授業の概要	看護教育学、学校保健における研究の動向、教育、実践の動向を概観し、看護教育学、学校保健を発展させていくために必要な研究課題や教育課題、実践課題について学び、探求する。また、理論・実践・研究の関連性を分析し、看護教育学、学校保健の質向上に向けて教育、研究を遂行するための基礎的能力を修得する。					
達成目標 (達成水準)	1.看護教育学領域、学校保健領域の研究、教育の動向を概観し、その課題を分析することができる。 2.看護教育学、学校保健の教育計画（シラバス、授業計画など）を作成することができる。 3.研究を計画および立案する方法を理解し、研究計画書を作成することができる。					
授業計画	第1回:オリエンテーション：本科目の目的、到達目標、授業の概要について 第2回・第3回:看護教育学、学校保健領域におけるわが国および諸外国の研究の動向 第4回・第5回:看護教育、学校保健における動向 (1) (2)：わが国および諸外国における初等・中等教育、基礎教育、継続教育の動向 第6回:看護教育、学校保健における動向 (3)：看護教育学、学校保健における実践的課題と今後の教育内容・教育方法 第7回:看護教育、学校保健の実践的課題を解決するための方策 第8回・第9回:看護教育、学校保健の展開 (1)：シラバス、授業計画の検討、作成 看護教育、学校保健の展開 (2)：保健教育、各看護専門領域における効果的な講義、教授方法の検討、展開 第10回・第11回:看護教育、学校保健の展開 (3)：保健教育、各看護専門領域における効果的な演習・実習方法の検討、展開 看護教育、学校保健の展開 (4)：評価方法 第12回・第13回:看護教育学、学校保健の動向と研究課題の明確化および各専門領域の研究の動向の概観 第14回:看護教育学、学校保健において関心のある健康現象、教育現象の焦点化 第15回・第16回:取り上げた現象に関する国内外の文献の収集 収集した情報のクリティーク 第17回:研究成果、研究方法の分析 第18回:収集した情報・文献の分析結果をもとに、取り上げた現象を研究課題として取り扱うことの意義の明確化、研究テーマの決定 第19回・第20回:研究の枠組みの検討 研究の枠組みの作成 第21回・第22回:研究デザイン、データ収集方法の検討 データ分析方法の検討 第23回:研究計画全体の論理性、一貫性の検討、確認 第24回:研究計画の全体像を構築					
成績評価 (基準と方法)	討議(30%)、プレゼンテーション (30%)、提出物 (40%) により、総合的に評価する					
教科書	Suzan K. Grove (著), Nancy Burns (著)他、黒田裕子 (翻訳)。看護研究入門原著第7版—評価・統合・エビデンスの生成、エルゼビア・ジャパン、2015 その他、選択する研究デザインにより、別途紹介、配布する					
授業外学習 課題 (予習・復習)	:各回、事前に必要な準備を行い、プレゼンテーション資料を作成の上、授業に臨むこと					
オフィスアワー	随時					
備考						

科目名	看護教育学研究方法 I		英訳科目名	Research Seminar on Nursing Education I		
科目区分			単位数	3	必選区分	
時間割コード	62200188	授業種別	履修年次	2~	開講期間	前期
授業方式			池	永国寺		
履修における 注意点			資格・区分等			
担当教員	2155473	長戸 和子	所属	看護学科		
ディプロマ・ポ リシーとの関連 性	DP5,6 を修得するために重要な科目					
授業教員						
授業の概要	看護教育活動/学校保健活動における健康現象・教育現象をとりあげ、その現象に関連する国内外の文献を概観し、理論-実践-研究の関連性を分析し、看護教育実践、学校保健の専門性を発展させていく教育遂行能力、研究遂行能力を修得する。					
達成目標 (達成水準)	1.研究計画書に基づき研究課題を探求し、研究テーマ、目的、研究デザインを決定することができる。 2.研究デザインに適したデータ収集方法を決定し、データ収集を行うことができる。 2.研究倫理に基づき、研究を実施するために必要な倫理的配慮を行うことができる。					
授業計画	第1回:オリエンテーション:本科目の目的、到達目標、授業の概要等について 第2回:看護教育学、学校保健における健康現象・教育現象に焦点をあてた研究の動向、研究方法 第3回・第4回:看護教育学/学校保健における量的研究のプロセス 看護教育学/学校保健における質的研究のプロセス 第5回・第6回:看護教育学/学校保健における研究倫理の現状と課題 量的研究・質的研究における倫理的課題と倫理的配慮 第7回・第8回:看護教育学/学校保健における現象に焦点をあてた研究課題の明確化 研究課題に関する文献検討 第9回:研究の枠組みの検討 第10回:研究デザインに応じたデータ収集方法の検討 第11・12回:データ収集方法(1)(2):調査のための質問紙の作成および洗練化、半構成的インタビューガイドの作成および洗練化とインタビュー方法の検討 第13回:対象者の選定、対象者へのアクセス方法の再検討 第14回:研究の信頼性と妥当性、信憑性を保証する方法 第15・16回:倫理審査申請の準備 倫理審査結果への回答、倫理的配慮の検討 第17・18回:データ分析方法:データの取り扱いに関する基礎知識 データ入力のための準備(データの確認と編集)、データの逐語記録についての方法論的見当 第19・20回:データの入力、データの読み込み 記述統計分析の実施と読み取り(度数分布)、逐語記録のコード化 第21・22回:記述統計分析の実施と読み取り(代表値、変数間の関係の分析等)、逐語記録のサブカテゴリー化・カテゴリー化 第23回:データ分析の洗練化、信頼性と妥当性、信憑性の検討 第24回:データ分析の文章化					
成績評価 (基準と方法)	討議、プレゼンテーション、提出物により総合的に評価する					
教科書	・Suzan K. Grove(著), Nancy Burns(著)他、黒田裕子(翻訳)、看護研究入門原著第7版-評価・統合・エビデンスの生成、エルゼビア・ジャパン、2015 その他、選択する研究デザインにより、別途紹介、配布する					
授業外学習 課題 (予習・復習)	講義進行に合わせ、適宜提示する。					
オフィスアワー	随時					
備考						

科目名	看護教育学研究方法Ⅱ		英訳科目名	Research Seminar on Nursing Education II		
科目区分			単位数	3	必選区分	
時間割コード	62200189	授業種別	履修年次	2～	開講期間	後期
授業方式			池	永国寺		
履修における 注意点			資格・区分等			
担当教員	2155473	長戸 和子	所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP5,6 を修得するために重要な科目					
授業教員						
授業の概要	看護教育／学校保健活動をさらに発展させていく研究方法を修得する。研究のプロセスに沿って研究を遂行し、看護教育／学校保健活動に寄与する知見や技術を探求し、論文としてまとめることを通して研究遂行能力を修得し、発展させていく。					
達成目標 (達成水準)	1.データ分析を行い、分析結果を結果として記述することができる。 2.結果を既存の研究成果を活用して考察し、記述することができる。 3.研究論文を臨床実践に活用する可能性と限界について説明することができる。					
授業計画	<p>第1・2回:看護教育学／学校保健における現象の探求：データ分析方法 (1) (2) 推定統計分析の実施と読み取り①x2 検定② t 検定、サブカテゴリ・カテゴリの検討と明確化</p> <p>第3・4回:看護教育学／学校保健における現象の探求：データ分析方法 (3) (4) 推定統計分析の実施と読み取り③F 検定④分散分析、全ケースの分析の再検討、全ケースの統合、分析の観点の検討</p> <p>第5・6回:看護教育学／学校保健における現象の探求：データ分析方法 (5) (6) 多変量解析の方法と実施 (重回帰分析)、全体分析およびその洗練化、サブカテゴリの検討と明確化</p> <p>第7回:看護教育学／学校保健における現象の探求：データ分析方法 (7) (8) 多変量解析の読み取り (重回帰分析)、全体分析の洗練化、カテゴリの検討と明確化</p> <p>第8・9回:看護教育学／学校保健における現象の探求：データ分析方法 (8) (9) 多変量解析の方法と実施 (因子分析)、カテゴリ間の関係性および構造の分析</p> <p>第10回:看護教育学／学校保健における現象の探求：データ分析方法 (10) 多変量解析の読み取り (因子分析)、カテゴリの全体像の検討</p> <p>第11・12回:結果のまとめ (1) データの提示、結果の図式化、結果の全体像、カテゴリの定義の提示、(2) 結果の表へのまとめ、データを示しながらの分析結果の論述</p> <p>第13・14回:結果のまとめ (3) データを示しながらの分析結果の論理的記述、(4) テーマに関連した研究の動向、新たな知見の発見</p> <p>第15・16回:考察 (1) 考察の組み立ての検討、(2) 新たな知見に焦点をあて、既存の研究成果を活用した考察の論述</p> <p>第17・18回:考察 (3) 新たな知見に焦点をあて、既存の研究成果を活用しながら、考察の論理的記述、(4) 新たな知見に焦点をあて、既存の研究成果を活用した考察の洗練化</p> <p>第19回:考察 (5) 看護教育、学校保健への貢献についての検討</p> <p>第20回:研究を通して得られた新たな知見を実践に活用する可能性と限界の検討</p> <p>第21回:看護教育／学校保健における EBP の重要性の検討</p> <p>第22回:論文のまとめ (1) 研究の背景、研究の意義の文章化</p> <p>第23回:論文のまとめ (2) 研究方法、結果の文章化</p> <p>第24回:論文のまとめ (3) 考察、結論の文章化</p>					
成績評価 (基準と方法)	論文作成のプロセスにおける討議(30%)、プレゼンテーション (30%)、作成された論文 (40%) により評価する。					
教科書	・D.F.ポーリット&C.T.ベック著 近藤潤子監訳：看護研究 原理と方法 第2版 医学書院 その他、選択する研究デザインにより、別途紹介、配布する					
授業外学習 課題 (予習・復習)	課題は、授業の進行に合わせ、適宜提示する					
オフィスアワー	随時					
備考						

科目名	臨床看護学専門演習			英訳科目名	Advanced Seminar on Clinical Nursing Research		
科目区分				単位数	3	必選区分	
時間割コード	62200190	授業種別		履修年次	1～	開講期間	後期
授業方式				池		永国寺	
履修における 注意点	※実践リーダーコースの研究計画書作成のためのクラス			資格・区分等			
担当教員	2159041	久保田 聡美		所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP1,5 を修得するために重要な科目						
授業教員							
授業の概要	専門領域の臨床における看護現象を取り上げ、その現象に関連する国内外の文献を概観し、理論・実践・研究の関連性を分析し、専門領域の看護ケアの向上に向けての研究を遂行するための計画を立案する基本的能力を修得する。						
達成目標 (達成水準)	1. 課題と思われる臨床看護学領域に関する現象を明らかにする。 2. 臨床看護学および看護学の最新の動向を概観する。 3. 研究を計画および遂行する方法を学ぶ。						
授業計画	第1/2回 :オリエンテーション、研究テーマの設定/臨床看護学領域の研究、研究計画作成のプロセスについて学ぶ 第3/4回:研究課題の見つけ方/関心のある現象の記述 第5/6回:取り上げた現象に関する文献の検討①我が国における研究の動向/取り上げた現象に関連する我が国の社会的な動向 第7/8回:取り上げた現象に関する文献の検討②海外における研究の概観/取り上げた現象に関連する海外の社会的な動向 第9/10回:国内外の文献検討のまとめ/国内外の社会的な動向と取り上げた現象との関連についてのまとめ 第11/12回:取り上げた現象を研究課題として焦点化することの意義の明確化/研究課題として洗練化を行う 第13/14回:さらに文献検討を行い、研究目的を明確にする/取り上げた現象に関する概念を検討し、枠組みを検討する 第15/16回:研究の枠組みを決定する/研究の枠組みをベースに、目的に対応した研究課題を明らかにする 第17/18回:研究課題を明らかにするための方法論を検討する/データ収集方法を決定する 第19/20回:データ分析方法を決定する/研究の実施にあたり必要な倫理的配慮を検討する 第21/22回:研究計画書の作成①既存の文献等を用いながら、研究の背景、研究目的、研究の意義を論理的に記述する方法を学ぶ②既存の文献等を用いながら、論理的に研究課題と研究の枠組みについて記述する方法を学ぶ 第23/24回:研究計画書の作成③研究課題に即した研究方法について適切に記述する方法を学ぶ④研究の実施に際して必要な倫理的配慮を理解し、適切に記述する方法を学ぶ						
成績評価 (基準と方法)	研究計画書作成のプロセスの取り組み (30%)、研究計画書 (70%) により評価する						
教科書	文献の紹介、必要資料の配布は、適宜行う						
授業外学習 課題 (予習・復習)	事前学習課題、事後学習課題は、講義進行に合わせて、講義中に適宜提示する。						
オフィスアワー	随時						
備考	担当教員：藤田佐和、中野綾美、山田寛、内田雅子、竹崎久美子、田井雅子、大川宜容、久保田聡美						

科目名	臨床看護学研究方法 I			英訳科目名	Research Seminar on Clinical Nursing I		
科目区分				単位数	3	必選区分	
時間割コード	62200191	授業種別		履修年次	2～	開講期間	前期
授業方式				池	永国寺		
履修における 注意点				資格・区分等			
担当教員	2159041	久保田 聡美		所属	看護学科		
ディプロマ・ポ リシーとの関連 性	DP5,6 を修得するために重要な科目						
授業教員							
授業の概要	臨床看護学をさらに発展させていく研究方法について学ぶ。臨床看護学演習での学習をふまえて臨床看護学領域における課題を研究のプロセスに沿って進め、研究論文を作成する						
達成目標 (達成水準)	1. 研究デザインに適したデータ収集方法により、臨床看護学領域の看護職や療養者や家族を対象にデータ収集を行う方法を学ぶ。 2. 臨床看護学の研究方法における倫理的課題、および倫理的配慮について学ぶ。 3. データ分析の方法を学ぶ。						
授業計画	:履修する回数は24回である。学生がどのようなデザインを選択するかによって、15回以降は、2通りの授業計画を記載している。 1/2/3:オリエンテーション /臨床看護学の研究方法について /量的研究のプロセス 4/5/6:質的研究のプロセス /研究における倫理 /量的調査研究における倫理的課題と倫理的配慮 7/8/9:質的調査研究における倫理的課題と倫理的配慮 /研究課題の明確化 /研究方法の選定 10/11/12:研究課題に関する文献的検討 /研究枠組みの検討 /研究計画書の作成 13/14:倫理審査申請の準備 /倫理審査結果への回答 :<量的研究> 15/16/17:データ収集方法1:調査のための質問紙の作成 /データ収集方法2:質問紙の洗練化 /データ収集方法3:対象者へのアクセス方法の再検討 18/19/20:データ分析方法1:データの取り扱いに関する基礎知識 /データ分析方法2:データ入力のための準備(データの確認と編集) /データ分析方法3:データの入力 21/22/23:データ分析方法4:データの加工 /データ分析方法5:記述統計分析の実施と読み取り①度数分布 /データ分析方法6:記述統計分析の実施と読み取り②代表値 24:データ分析方法7:記述統計分析の実施と読み取り③変数間の関係の分析(相関) :<質的研究> 15/16/17:データ収集方法1:半構成的インタビューガイドの作成 /データ収集方法2:インタビュー方法の検討 /データ収集方法3:半構成的インタビューガイドの洗練化とインタビュー方法の再検討 18/19/20:データ分析方法1:データの逐語記録についての方法的検討 /データ分析方法2:データの読み込み /データ分析方法3:ケース像の作成 21/22/23:データ分析方法4:一次コーディング /データ分析方法5:二次コーディング /データ分析方法6:信頼性・妥当性の検討 24:データ分析方法7:各ケースの全体像の検討						
成績評価 (基準と方法)	研究計画書作成のプロセスの取り組み(30%) 研究計画書(70%)により評価する。						
教科書	文献の紹介、必要資料の配布は適宜行う						
授業外学習 課題 (予習・復習)	:事前課題、事後課題は、授業の進行に合わせ、適宜提示する。						
オフィスアワー	随時						
備考	担当教員:藤田佐和、中野綾美、久保田聡美、内田雅子、竹崎久美子、田井雅子、大川宜容						

科目名	臨床看護学研究方法Ⅱ		英訳科目名	Research Seminar on Clinical Nursing II		
科目区分			単位数	3	必選区分	
時間割コード	62200192	授業種別	履修年次	2～	開講期間	後期
授業方式			池		永国寺	
履修における 注意点			資格・区分等			
担当教員	2159041	久保田 聡美	所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP5,6 を修得するために重要な科目					
授業教員						
授業の概要	臨床看護学をさらに発展させていく研究方法について学ぶ。臨床看護学演習での学習をふまえて臨床看護学領域における課題を研究のプロセスに沿って進め、研究論文を作成する					
達成目標 (達成水準)	<ol style="list-style-type: none"> 1. データ分析の方法を学ぶ。 2. 分析結果を整理し、まとめる方法を学ぶ。 3. 結果を既存の研究成果を活用して考察する方法を学ぶ。 4. 論文としてまとめる。 					
授業計画	<p>履修する回数は24回である。学生がどのようなデザインを選択するかによって、2通りの授業計画を記載している。</p> <p>1/2/3;<量的研究> データ分析方法：推定統計分析の実施と読み取り①χ^2検定/：推定統計分析の実施と読み取り②t検定/：推定統計分析の実施と読み取り③F検定 4/ー/8;/：推定統計分析の実施と読み取り④分散分析/：多変量解析の方法を学ぶ（重回帰分析）/：多変量解析の実施（重回帰分析）/：多変量解析の読み取り（重回帰分析）/：多変量解析の方法を学ぶ（因子分析） 9/ー/12;/：多変量解析の実施（因子分析）/：多変量解析の読み取り（因子分析） /結果のまとめ：データを示しながら、図を用いて整理する/：データを示しながら、表を用いて整理する 13/14/15;/結果のまとめ：データを示しながら分析結果を論理的に示す/研究の動向：テーマに関連した研究の動向、新たな知見を理解する/考察：新たな知見に焦点をあて、既存の研究成果を活用して考察する：考察の組み立ての検討 16/17;/考察：新たな知見に焦点をあて、既存の研究成果を活用して考察する：組み立てに沿った論の展開を検討する/考察：新たな知見に焦点をあて、既存の研究成果を活用して文章化する 18/ー/21;/考察：新たな知見に焦点をあて、既存の研究成果を活用して洗練化する/考察：看護への貢献について検討する/研究を通して得られた新たな知見を実践に活用する可能性と限界の検討/EBP：看護におけるEBPの重要性の検討 22/23/24;/論文をまとめる1：研究の背景、研究の意義の文章化/論文をまとめる2：研究方法、結果の文章化/論文をまとめる3：考察、結論の文章化</p> <p>1/2/3;<質的研究> データ分析方法：各ケースの分析を洗練化する、サブカテゴリー、カテゴリーを検討する/：各ケースの分析を洗練化する、カテゴリーを明確化する/：全ケースを含めた分析について検討する 4/ー/7;/：全ケースを統合して分析する観点を検討する/：全体分析を進める/：全体分析を洗練化する、サブカテゴリー、カテゴリーを検討する/：全体分析を洗練化する、カテゴリーを明確化する 8/ー/12;/：カテゴリー間の関係性について分析する/：カテゴリー間の構造について分析する/：カテゴリーの全体像を検討する /結果のまとめ：結果の全体像、カテゴリーの定義を示す/：データを示しながら、分析結果を説明する 13/14/15;/：データを示しながら分析結果を論理的に示す/研究の動向：テーマに関連した研究の動向、新たな知見を理解する/考察：新たな知見に焦点をあて、既存の研究成果を活用して考察する：考察の組み立ての検討 16/17;/考察：新たな知見に焦点をあて、既存の研究成果を活用して考察する：組み立てに沿った論の展開を検討する/考察：新たな知見に焦点をあて、既存の研究成果を活用して、文章化する 18/ー/21;/考察：新たな知見に焦点をあて、既存の研究成果を活用して、洗練化する/考察：看護への貢献について検討する/研究を通して得られた新たな知見を実践に活用する可能性と限界の検討/EBP：看護におけるEBPの重要性の検討 22/23/24;/論文をまとめる1：研究の背景、研究の意義の文章化/論文をまとめる2：研究方法、結果の文章化/論文をまとめる3：考察、結論の文章化</p>					
成績評価 (基準と方法)	論文作成のプロセスの取り組み (30%)、論文 (70%) により評価する					
教科書	文献の紹介、必要資料の配布は適宜行う					
授業外学習 課題 (予習・復習)	事前課題、事後課題は、授業の進行に合わせ、適宜提示する。					
オフィスアワー	随時					
備考	担当教員：藤田佐和、中野綾美、久保田聡美、内田雅子、竹崎久美子、田井雅子、大川宣容					

科目名	地域保健学専門演習		英訳科目名	Advanced Seminar on Community Health Nursing Research		
科目区分			単位数	3	必選区分	
時間割コード	62200193	授業種別	履修年次	1～	開講期間	後期
授業方式			池	永国寺		
履修における注意点			資格・区分等			
担当教員	2155140	池添 志乃	所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP5 を修得するために重要な科目					
授業教員						
授業の概要	地域保健活動、学校保健活動、産業保健活動における健康現象・看護現象をとりあげ、その現象に関連する国内外の文献を概観し、理論-実践-研究の関連性を分析し、地域ケアの向上に向けて研究を遂行するための計画を立案する基礎的能力を修得する。					
達成目標 (達成水準)	1.研究デザインに適したデータ収集方法により、看護職や療養者や家族を対象にデータ収集を行う方法について理解できる。 2.倫理的課題および倫理的配慮について説明することができる。 3.データ分析の方法を理解できる。					
授業計画	<p>履修する回数は24回である。学生がどのようなデザインを選択するかによって、15回以降は、2通りの授業計画を記載している。</p> <p>1/2/3:オリエンテーション /臨床看護学の研究方法について /量的研究のプロセス 4/5/6:質的研究のプロセス /研究における倫理 /量的調査研究における倫理的課題と倫理的配慮 7/8/9:質的調査研究における倫理的課題と倫理的配慮 /研究課題の明確化 /研究方法の選定 10/11/12:研究課題に関する文献的検討 /研究枠組みの検討 /研究計画書の作成 13/14:倫理審査申請の準備 /倫理審査結果への回答 :<量的研究> 15/16/17:データ収集方法1:調査のための質問紙の作成 /データ収集方法2:質問紙の洗練化 /データ収集方法3:対象者へのアクセス方法の再検討 18/19/20:データ分析方法1:データの取り扱いに関する基礎知識 /データ分析方法2:データ入力のための準備(データの確認と編集) /データ分析方法3:データの入力 21/22:データ分析方法4:データの加工 /データ分析方法5:記述統計分析の実施と読み取り①度数分布 23/24:データ分析方法6:記述統計分析の実施と読み取り②代表値 /データ分析方法7:記述統計分析の実施と読み取り③変数間の関係の分析(相関) :<質的研究> 15/16/17:データ収集方法1:半構成的インタビューガイドの作成 /データ収集方法2:インタビュー方法の検討 /データ収集方法3:半構成的インタビューガイドの洗練化とインタビュー方法の再検討 18/19/20:データ分析方法1:データの逐語記録についての方法的検討 /データ分析方法2:データの読み込み /データ分析方法3:ケース像の作成 21/22:データ分析方法4:一次コーディング /データ分析方法5:二次コーディング 23/24:データ分析方法6:信頼性・妥当性の検討 /データ分析方法7:各ケースの全体像の検討</p>					
成績評価 (基準と方法)	研究計画書作成のプロセスへの取り組み(30%)と作成された研究計画書(70%)により評価する。					
教科書	文献の紹介、必要資料の配布は適宜行う。					
授業外学習 課題 (予習・復習)	:その他、各クラスの事前課題については、別途、説明する。					
オフィスアワー	適宜、学生と時間調整して対応する。					
備考	長戸 和子、池添 志乃					

科目名	地域保健学研究方法 I		英訳科目名	Research Seminar on Community Health Nursing I		
科目区分			単位数	3	必選区分	
時間割コード	62200194	授業種別	履修年次	2~	開講期間	前期
授業方式			池		永国寺	
履修における 注意点			資格・区分等			
担当教員	2155140	池添 志乃	所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP5,6 を修得するために重要な科目					
授業教員						
授業の概要	地域保健学をさらに発展させていく研究方法について学ぶ。地域保健学研究演習での学習をふまえて、各自の研究課題を研究のプロセスに沿って推進し、研究論文を作成する。					
達成目標 (達成水準)	<ol style="list-style-type: none"> 1. データ分析の方法を理解できる。 2. 分析結果を整理し、まとめる方法を理解できる。 3. 結果を既存の研究成果を活用して考察する方法を理解できる。 4. 論文としてまとめることができる。 					
授業計画	<p>履修する回数は 24 回である。学生がどのようなデザインを選択するかによって、2 通りの授業計画を記載している。</p> <p>1/2/3/<量的研究> データ分析方法：推定統計分析の実施と読み取り①χ^2 検定/：推定統計分析の実施と読み取り②t 検定/：推定統計分析の実施と読み取り③F 検定 4/ー/8/：推定統計分析の実施と読み取り④分散分析/：多変量解析の方法を学ぶ（重回帰分析）/：多変量解析の実施（重回帰分析）/：多変量解析の読み取り（重回帰分析）/：多変量解析の方法を学ぶ（因子分析） 9/ー/12/：多変量解析の実施（因子分析）/：多変量解析の読み取り（因子分析） /結果のまとめ：データを示しながら、図を用いて整理する/：データを示しながら、表を用いて整理する 13/14/15/結果のまとめ：データを示しながら分析結果を論理的に示す/研究の動向：テーマに関連した研究の動向、新たな知見を理解する/考察：新たな知見に焦点をあて、既存の研究成果を活用して考察する：考察の組み立ての検討 16/17/考察：新たな知見に焦点をあて、既存の研究成果を活用して考察する：組み立てに沿った論の展開を検討する/考察：新たな知見に焦点をあて、既存の研究成果を活用して文章化する 18/ー/21/考察：新たな知見に焦点をあて、既存の研究成果を活用して洗練化する/考察：看護への貢献について検討する/研究を通して得られた新たな知見を実践に活用する可能性と限界の検討/EBP：看護における EBP の重要性の検討 22/23/24/論文をまとめる 1：研究の背景、研究の意義の文章化/論文をまとめる 2：研究方法、結果の文章化/論文をまとめる 3：考察、結論の文章化</p> <p>1/2/3/<質的研究> データ分析方法：各ケースの分析を洗練化する、サブカテゴリー、カテゴリーを検討する/：各ケースの分析を洗練化する、カテゴリーを明確化する/：全ケースを含めた分析について検討する 4/ー/7/：全ケースを統合して分析する観点を検討する/：全体分析を進める/：全体分析を洗練化する、サブカテゴリー、カテゴリーを検討する/：全体分析を洗練化する、カテゴリーを明確化する 8/ー/12/：カテゴリー間の関係性について分析する/：カテゴリー間の構造について分析する/：カテゴリーの全体像を検討する /結果のまとめ：結果の全体像、カテゴリーの定義を示す/：データを示しながら、分析結果を説明する 13/14/15/：データを示しながら分析結果を論理的に示す/研究の動向：テーマに関連した研究の動向、新たな知見を理解する/考察：新たな知見に焦点をあて、既存の研究成果を活用して考察する：考察の組み立ての検討 16/17/考察：新たな知見に焦点をあて、既存の研究成果を活用して考察する：組み立てに沿った論の展開を検討する/考察：新たな知見に焦点をあて、既存の研究成果を活用して、文章化する 18/ー/21/考察：新たな知見に焦点をあて、既存の研究成果を活用して、洗練化する/考察：看護への貢献について検討する/研究を通して得られた新たな知見を実践に活用する可能性と限界の検討/EBP：看護における EBP の重要性の検討 22/23/24/論文をまとめる 1：研究の背景、研究の意義の文章化/論文をまとめる 2：研究方法、結果の文章化/論文をまとめる 3：考察、結論の文章化</p>					
成績評価 (基準と方法)	論文作成のプロセスへの取り組み (30%) と作成された論文 (70%) により評価する。					
教科書	文献の紹介、必要資料の配布は適宜行う。					
授業外学習 課題 (予習・復習)	:その他、各クラスの事前課題については、別途、説明する。					
オフィスアワー	適宜、学生と時間調整して対応する。					
備考	長戸 和子、池添 志乃					

科目名	地域保健学研究方法Ⅱ		英訳科目名	Research Seminar on Community Health Nursing II			
科目区分			単位数	3	必選区分		
時間割コード	62200195	授業種別		履修年次	2～	開講期間	後期
授業方式				池		永国寺	
履修における注意点				資格・区分等			
担当教員	2155140	池添 志乃		所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP6 を修得するために特に重要な科目。DP2,4 を修得するために重要な科目。						
授業教員							
授業の概要	<p>学校保健学領域で活用されている理論や既存の研究成果、実践の動向を分析し、学校保健学領域における現在の課題を明らかにする。また、さまざまな発達段階にある児童生徒等と家族、健康課題をもつ児童生徒等と家族に対して、健康生活を構築するための看護介入方法を開発する能力を修得する。</p> <p>学校保健学領域の教育の動向と課題を分析・考察し、学校保健学をさらに発展させていくための新たな教育内容や方法を考案する。</p>						
達成目標 (達成水準)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校保健学領域における看護介入方法に関する研究や看護実践の動向を多角的に分析、考察できる。 2. 既存の研究成果や理論に基づき、新たな看護介入方法を考察できる。 3. 学校保健学領域における教育の動向と課題を多角的に分析・考察できる。 4. 学校保健学領域の教育の質を向上させる方策を考案できる。 						
授業計画	<p>第1回:学校保健学の関心領域の実践の動向に関する分析 第2回:学校保健学の関心領域の研究の動向に関する分析 第3回:学校保健学領域における諸概念、理論、モデルの多角的分析と考察1：海外における概念、理論、モデルの発展過程とそれらを実践・研究に活用する上での有用性と限界 第4回:学校保健学領域における諸概念、理論、モデルの多角的分析と考察2：我が国における概念、理論、モデルの発展過程とそれらを実践・研究に活用する上での有用性と限界 第5回:学校保健学領域における看護介入方法のエビデンスの検索1：海外の研究の動向の分析 第6回:学校保健学領域における看護介入方法のエビデンスの検索2：我が国の研究の動向の分析 第7回:学校保健学領域における看護介入方法の検討1：関心のある現象を取り上げ、我が国の既存の文献等を用いて実践の動向を分析する 第8回:学校保健学領域における看護介入方法の検討2：関心のある現象を取り上げ、海外の既存の文献等を用いて実践の動向を分析する 第9回:学校保健学領域における看護介入方法の開発1 第10回:学校保健学領域における看護介入方法の開発2 第11回:学校保健学領域における教育の動向と課題の多角的分析・考察1：海外の動向 第12回:家族看護学領域における教育の動向と課題の多角的分析・考察2：我が国の動向 第13回:学校保健学領域に関する看護教育内容・方法の検討1 第14回:学校保健学領域に関する看護教育内容・方法の検討2 第15回:学校保健学領域に関する看護教育内容・方法の開発</p>						
成績評価 (基準と方法)	課題、プレゼンテーションの内容（70%）、クラスへの参加度・貢献度（70%）を評価する。						
教科書	適宜、資料を配布する。						
授業外学習 課題 (予習・復習)	事前学習課題、事後学習課題は、講義進行に合わせ、講義中に適宜提示する						
オフィスアワー	適宜、日程調整を行う						
備考							